稅支出額ヲ以テセハ、神奈川外二十縣ノ上ニ出ツ。是ニ由テ之ヲ觀レハ、優ニ八郡ヲ以テ一府縣ヲ組成スルニ足ルヤ明ラカナリ。故ニ本案ハ現在ノ八郡ヲ以テ東京府ト爲スノ精神ナリ。

又從來市郡聯帶支辨ニ係ル警察費、警察廳舍建築修繕費、土木費、教育費、勸業費、救育費、衞生及病院費、監獄費、監獄建築修繕費等ハ、郡部ノ經濟ヲ慮リ、急劇ノ變革ヲ避クル爲メ、第百二十九條及第百三十條ヲ以テ市府ノ聯帶支辨ト爲シタリ。

以上ハ、別冊東京市制案ヲ提出スル理由ノ梗概ナリトス。

而シテ**高橋庄之助君**ハ、委員ヲ代表シテ、委員會ノ經過ヲ左ノ如ク說明セリ。

我東京市ハ輦轂ノ下ニ在リ、社會ノ樞柚、國家政令ノ發スル地タルノミナラズ、其智力、富資亦タ皆全國ニ冠タリ。殊ニ人口百四十萬ヲ有ス、此人口ヲ以テ全國各市ノ平均人口ニ比スレバ其十七倍、各府縣ノ人口ニ比スレバ其二倍タリ。更ニ經費ヲ以テスレバ、本市一歲ノ支出總額ハ實ニ貳百萬圓以上ニ達ス。之ヲ全國各市ノ平均支出額ニ對シ其二十三倍、各府縣ノ平均地方稅額ニ對シ第二倍タリ。況ンヤ水道改良ノ如キ、市區改正ノ如キ、實ニ空前ノ大事業ヲ起シ、今復將ニ東京灣ノ築港、市內交通機關ノ設備、延長數百里ニ涉レル道路、溝渠等ノ改造ヲ計ラントス。其規模ノ宏大ニシテ經營ノ多端ナルハ、府縣ト對比スルモ決シテ遜色ナカルベシ。斯ル大都府ガ地方官ノ監督下ニ在リテハ、到底其驥足ハ伸ベラルベキモノニアラズ、故ニ吾々委員ハ、本市ヲシテ內務大臣直轄ノ下ニ立タシムルモノト爲セリ。而シテ本市ヲシテ府知事ノ監督ヨリ脫シテ國ノ直轄ニ屬セシムルト共ニ、玆ニ深ク講究ヲ要スルハ郡部ノ處分ナリ、吾々委員ハ本案ヲ起草スルニ當リ、個人トシテ德義上郡部會正副議長、及常置委員諸君ニ交涉スル所アリシガ、其挨拶ノ要旨ハ、我々モ東京市ヲシテ今日ノ如ク普通市制ノ下ニ立タシムルノ不可ナルコトヲ認ムト雖モ、今俄ニ市郡分離スルニ於テハ、我ガ郡部ノ經濟上ニ一大變動ヲ來シ、八郡ノ力ヲ以テ一府ヲ支持スルコトハ頗ル困難ナリ、故ニ市郡ノ分離ハ兩三年見合セラレタシト言フニ在リ、然レドモ法律案理由書ニ記載セル如ク、郡部ハ戶數ノ上ヨリ觀ルモ、人口ノ上ヨリ察スルモ、將タ地方稅額ヲ以テスルモ、山梨、靑森、其他諸縣ノ上ニ出デ、優ニ八郡ヲ以テ一府縣ヲ組成スルニ足ルベシト信ズ。加之從來市郡聯帶支辨ニ係ル經費ニ就テハ、郡部ノ經濟ヲ慮リ第百二十九條及第百三十條ヲ以テ、從前ノ如ク市府ノ聯帶支辨ト爲シタルニ依リ、吾々委員ハ目下ノ狀勢ニ照シ、郡部諸士ノ意見ヲ容レ本市ノ獨立ヲ他年ニ讓ル如キハ到底爲ス能ハザルモノト認メ、今日此際請願スル方得策ナリト議決シタリ。而シテ委員會ニ於テ起草シタル法律案ハ、現行市制トハ相違ノ點尠ナカラズト雖モ、一々之ヲ說明スル事ハ諸君ニ於テモ迷惑ナルベキヲ以テ、其著シク異ル條項ノミヲ列擧スベシ

一、現行法ニ於テハ、市ヲ郡ノ區域ヨリ脫セシメタリト雖モ、府ノ區域ニ屬スルコトハ、從來ノ通リトス。然ルニ本法ハ第二條ニ於テ「市ハ東京府ノ區域ニ屬セス、別ニ行政區劃トス」ト明記シ、以テ全ク本市ヲ府縣ト對立セシムルコトト爲シタリ、是レ本法ノ骨子トス。

一、現行法第七條ニ「獨立ト稱スルハ、滿二十五年以上ニシテ」トアルヲ、本法ニ於テハ、第八條ニ「成年以上ノ男子」ト爲セリ、是レ則チ民法第十三條ニ滿二十歲ヲ以テ成年トストアルニ由レリ。

一、現行法第九條ニ、議員ハ公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪、輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ自ラ解職スト規定シアルヲ、本法第十一條ニ於テハ、假令公判ニ付セラルヽモ、其裁判確定迄ハ尙議員タルノ資格ヲ失ハザルモノト爲セリ。

一、本法第十六條ニ於テハ、現行法第十五條第二項第一號ヲ削除シ、而シテ其二號ニ「判事」ヲ挿入セリ。

一、現行法第十八條ニハ、選擧ノ都度選擧原簿ヲ調製スルノ規定ナルモ、斯クテハ非常ノ手數ナルヲ以テ、本法第十九條ハ之ヲ改メ、選擧原簿ハ正副二本ヲ調製シ、且ツ其原簿ニハ毎年九月一日現在ノ選擧人資格ヲ記載スルコトヽシ、確定原簿ハ次年ノ十一月三十日据置クコトヽ爲セリ。又選擧原簿ニ就テ關係者ガ縱覽期限内ニ異議ヲ申立テ、市會ノ裁決ニ不服ナルモノヽ出訴期限ハ第百二十條ニ規定セリ、而シテ訴訟ノ爲メニ處分ノ執行ガ停止セザルコトモ、亦同條ニ規定シ置キタリ。

一、本法第二十條ニ於テハ、合同選擧ナル規定ヲ設ケタリ、是ハ本郷區ノ如キ、下谷區ノ如キ、或級ノ選擧人頗ル少數ノ場合ニ適用スルモノトス。

一、本法第二十四條ニ、一人ノ氏名ヲ複記シタル場合ノ規定ヲ設ケタリ、是レ少シク理論ニ過グルノ嫌ナキニアラズト雖モ、一級、二級合同選擧ノ場合ニ於テ、一人ノ氏名ヲ複記シ其效力ニ議論ナシト云フベカラズ、故ニ此規定ヲ要スル所以ナリ。

一、本法第三十五條第一項ハ、市吏員選擧ノ類ヲ意味スルモノニシテ、又第二項ハ市町村會議員選擧罰則ヲ云フナリ。

一、現行法第四十九條ニ助役三名トアルヲ、本法第五十條ハ、副市長一名、市參事員二名ト爲セリ。

一、現行法第五十八條ニ收入役トアルヲ、本法第五十七條ハ、之ヲ出納司ト更メタリ。

一、本法第七十一條ニ於テ、市長ハ市行政警察事務ヲ管掌スルコトヽセリ。

一、現行法第百六條ニ、市公債償還ノ初期ハ起債ノ時ヨリ三年以内トアルヲ、本法第九十六條ニハ、之ヲ五年以内ト爲シタリ。

一、本法第百二十九條ハ、現行法律命令ニ由リ市部會、市部常置委員會、及府知事、警視總監ノ管掌事務中、本法ノ爲メ市ニ移ルベキモノハ、市ノ機關ヲシテ取扱ハシムルコトヲ規定セシモノトス、是レ則チ府ノ區域ヲ脫スルノ結果トス。

一、先刻說明シタル如ク、本法施行後ト雖モ從來市郡聯帶支辨ニ屬セル師範學校、中學校、癲狂院、警察、監獄等ノ費用ハ、矢張リ市府聯帶ノ支辨トス。但警察、監獄等ハ警視總監ニ、土木ハ府知事、學校、病院ハ市長ニ扱ハシムル等、其所屬管理ノ方法ハ、勅令ヲ以テ定ムルモノトス。

如上ハ唯其概要ノミ、更ニ進ンデ之ガ詳細ヲ陳述セント欲セバ、勢ヒ長時間ニ涉ラザルヲ得ザルヲ以テ、他ハ質問ヲ待ツテ答辯スベシト。次イデ**城數馬君**ハ、委員ガ短日月ノ間ニ能ク此浩瀚ナル法律案ヲ編製シ、又直接、間接ニ之ヲ助力シタル人々ノ勞ハ深ク感謝ス。想フニ委員ガ急速本法ヲ起草シタルノ精神ハ、今期議會ニ請願シテ其目的ヲ貫徹センガ爲メナルベシ。帝國議會ハ會期剩ス所最早二旬ニ過ギザルニ依リ、此法律案ヲシテ斯ル短時日ノ間ニ貴衆兩院ヲ通過セシムルハ、蓋シ難事タラン。故ニ先決問題トシテ、調査委員ノ起草ニ係ル東京市制竝ニ請願書等ハ、全體ヲ一括シテ議題ニ供シ、讀會省略ヲ以テ直ニ是認センコトヲ望ムトノ動議ヲ提出シ。**町田朝太郎君**ハ、本問題ニ關シテハ少數委員ニ意見アリ、之ヲ如何ニスルヤト質シ。**小川義春君**ハ、少數委員ヨリ本會ニ提出サレタル意見ヲ少數委員ニ於テ撤回サルヽナラバ格別、然ラズンバ本案ハ逐條審議スベシト論ジタルモ、議長ハ先決問題ニ就イテ採決シタルニ、贊成者多數ニテ、城君ノ意見通リ、請願書及東京市制案ハ共ニ委員會ノ報告通可決セリ。

附記　本案ニ對スル少數委員ノ意見ハ、左ノ如シ。

東京市制設定ニ關スル委員會少數意見報告

東京市制案第十五條第五項ニ、左ノ但書ヲ追加ス

「但議員ノ數三分スルコトヲ得スシテ一人ヲ剩ストキハ、三級ニ於テ選擧シ、二人ヲ剩ストキハ二級、及ヒ三級ニ於テ各一人ヲ選擧スヘシ。」

理由

現行市制ハ本文ノ規定ナキヲ以テ、各級同數ニ分割シ、之レヲ各選擧區ニ割合ヒ、其選擧區中各級ニ平分シタル餘剩ノ數ハ、別ニ標準ヲ定メスシテ全市各級同數ニ充ツヘキ範圍ニ於テ適宜ニ之ヲ分割セリ。故ニ下谷區ノ如キハ、四人ヲ選出スルニ一級ニ一人、二級ニ一人、三級ニ二人アリ。之レニ反シ麹町區ノ如キハ、同シク四人ヲ選出スルニ一級ニ二人、二級ニ一人、三級ニ一人ナリトス。斯ク同數ノ議員ヲ選出スルニ、麹町區ノ一級選擧人ハ二人ヲ選ミ、下谷區ノ一級選擧人ハ一人ヲ選ムニ過キス。之レニ反シテ下谷區ノ三級選擧人ハ二人ヲ選ミ、麹町區ノ三級選擧人ハ一人ヲ選ムニ過キス。是レ法律不備ノ結果ナルヲ以テ、本案規定ノ必要アル所以ナリ。

本案ノ場合、即チ每級ニ平分シ餘剩ノアリシトキ、先ツ三級ニ於テ選擧セシムルハ、選擧ノ原理ト社會進歩ノ程度ヲ參酌シ、理論ト事實トヲ折衷シテ規定シタル極テ良法ナリト思料ス。單ニ理論ニ偏スルトキハ、現行法及本法案ノ如ク財產ヲ以テ階級ヲ區別スルノ不可ナル事敢テ論ナキ所ナリ。然モ現時社會ノ趨勢ニ於テ、單ニ公民ノ頭數ヲ以テ、參政權ノ基礎ト爲スハ、是亦輿論ノ容サヽル所ナリ。是ニ於テ財產ノ多寡ヲ標準ト爲シ階級ヲ別ツノ必要アルモ、本案ノ如キ場合ニ於テ、何レノ級ニ屬スル者ニ選擧權ヲ實行セシムヘキカ、既ニ階級制度ニ於テ財產家ハ一般公民ヨリ多ク參政權ヲ實行シ、一般公民ハ之ニ反シテ、頭數割以下ノ權利ヲ實行スルニ過キサルナリ。是レ社會趨勢ノ狀態ニ於テ止ムヲ得サルノ規定ナルモ、本文ノ如キ場合ハ之カ幾部ヲ救濟シ、以テ其均衡ヲ保タント欲スルナリ。是レ本案ノ場合ニ於テ、頭數最モ多キ下級選擧人ニ先ツ其權利ヲ實行セシムルコトニ規定シタル所以ナリトス。

右及報告候也

明治三十二年二月八日

提出者

高橋庄之助　關幸太郎
中鉢美明　秋虎太郎
橋本好正

東京市會議長須藤時一郎殿

東京市制設定ニ關スル少數委員意見報告

東京市制案第百三十條第二項ヲ左ノ如ク修正ス

前項ノ事件ヲ議決スル爲メ市府聯合會ヲ設ク其議員ノ選擧及組織權限其他總テ府會ノ例ニ據ル

現任ノ府會議員ハ此法律施行後ト雖モ其任期間在職スルモノトス

右及報告候也

明治三十二年二月八日

委員

秋虎太郎　橋本好正

東京市會議長須藤時一郎殿

▽東京市ニ關スル法律案提出、東京市制設定請願書撤回　東京市制設定ニ關スル主査委員中ノ**秋虎太郎君**ハ、二月十八日ノ會議ニ於テ委員會ヲ代表シテ左ノ如ク報告セリ。

去ル十日ノ市會ニ於テ決議ヲ經タル東京市制設定請願書ハ、既ニ監督官廳及貴衆兩院ヘ差出シタルモ、該法律案ハ本市選出代議士ヨリ帝國議會ヘ建議トシテ提出スルノ手續ヲ爲サヾルベカラズ、依テ吾々委員ハ屢〻代議士諸君ト會合シ、既ニ其手續ヲ盡シツヽアル折柄、郡部ニ於テハ公然反對ノ意志ヲ表示セリ。委員會ニ於テ編製シタル東京市制案ハ百三十四個條ニ渉ル大法律案ニシテ、之ヲ建議トシテ帝國議會ニ提出スルニハ、代議士諸君ニ於テモ充分調査セザルベカラザルニ、一方郡部ガ極力反對運動ヲ試ムルガ如キコトアラバ、該法案ノ成否大ニ憂慮スベキモノアルヲ以テ、委員ハ代議士諸君トモ種々協議ノ結果、單ニ東京市ノ監督ヲ內務大臣ニ直轄セシムル丈ケノ方針ニテ、左ノ如キ單行法律案ヲ、本市選出ノ衆議院議員ヨリ帝國議會ヘ提出スルコトニ決シタリ。

東京市ニ關スル法律案

第一條　東京市ノ公共事務ニ付テハ特ニ內務大臣直接之ヲ監督シ市制中府知事又ハ府參事會ノ職權ニ屬スヘキモノハ內務大臣ニ專屬ス

第二條　前條ノ事務ニ關シ市制中府知事又ハ府參事會ヲ經由シ行政裁判所ニ出訴スヘキモノハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三條　市制中府參事會ニ於テ市會又ハ市參事會ニ代リ處分スヘキ場合ハ市長內務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ處分シ次ノ市會ニ報告スヘシ

第四條　本法規定ノ外ハ總テ市制ヲ適用ス

附則

第五條　此法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

理由

東京市ハ輦轂ノ下ニシテ、帝國ノ首府ニ位シ、人口百四拾萬ヲ有ス。此人口ヲ以テ、全國各市ノ平均人口ニ比スレハ其十七倍、各府縣ノ人口ニ比スレハ其二倍タリ。加之數千萬ノ經費ヲ投シテ、市區改正及水道改良ニ着手シ、前途尙ホ東京灣築港ノ一大事業ヲ起シ、更ニ又市內交通機關ノ完備ヲ計ラントス、其規模ノ廣大ニシテ、經營ノ多端ナルヲ想見スヘシ。然ルニ此都府ヲ支配スルニ他ノ小都市ト一律ノ市制ヲ以テス、容易ニ其治績ヲ擧クル能ハサルヤ、論ヲ待タス、是レ本案ヲ提出スル所以ナリ。

右單行法律案ハ、吾々ノ滿足スル所ニアラスト雖モ、今日ノ狀勢ニ於テハ寔ニ已ムヲ得サルモノアリ、故ニ吾々委員ハ之ヲ諸君ニ報告スルト共ニ、此單行法律案ノ貴衆兩院ヲ通過スルコトニ力ヲ盡サント欲ス。

右ノ報告ニ對シ、市會ハ滿場一致ヲ以テ承認ヲ與ヘタリ。右承認ニ決スルヤ、**關幸太郎君**ハ、秋君ヨリノ報告ニシテ承認サレタル上ハ、曩ニ本會ノ決議ヲ經テ貴衆兩院ヘ提出シ置キタル東京市制設定請願書ハ、一旦撤回スル方單行法律案ノ通過ノ上ニモ良策ナラントテ、撤回ノ意見ヲ提出シタルニ。**綱井榮三郎君**ハ、請願書ハ其儘差置クモ支障ナカラント述ベ。贊否ノ兩說アリシガ、**石垣元七君**ヨリ、請願書ヲ撤回スルハ郡部ト交渉ノ結果ナリヤトノ質問アリタルニ對シ。**秋虎太郎君**答ヘテ曰ク、吾々委員ハ郡部ノ人々ト交渉スルノ權能ナキモ、一個人トシテ屢〻交渉シタルガ、郡部ノ有志諸君ハ勿論、其代議士諸君ニ於テモ、此單行法律案ニハ異議ナキノミナラズ、進ンデ其成立ニ助力スベシ

ト云ヘリ。斯ク交渉纏リタル以上ハ、郡部ノ感情ヲ害セズ、運動上好果ヲ得タシトノ考ヨリ前請願書ヲ撤回シ、專ラ此單行法律案ノ通過ニ盡力セント欲スルナリト。斯テ採決ノ結果、多數ヲ以テ前請願書ハ撤回スルコトニ決定セリ。越エテ三月十三日ノ會議ニ於テ、**秋虎太郎君**ハ委員會ヲ代表シテ、東京市ニ關スル法律案ニ就キ其後ノ經過ヲ左ノ如ク報告セリ。

東京市ニ關スル法律案ハ、二月二十五日衆議院ヲ通過シテ貴族院ニ送附セラレタルガ、貴族院ニ於テ無殘ニモ否決セラレタリ。其成行ハ新聞紙等ノ報道ニ依リ、諸君ノ熟知サルヽ所ナルヲ以テ敢テ贅セズ、唯不幸ニシテ目的ヲ達スル能ハザリシハ遺憾ニ堪ヘズ。

右報告後、議長ハ事件終了ト共ニ委員ノ任務モ解カレタルモノナル旨宣セリ。

▽東京市制設定ニ關スル請願委員設置ノ建議　十一月二十二日ノ會議ニ於テ、高橋庄之助君ヨリ左ノ建議提出アリタリ。

東京市制設定ニ關スル請願委員設置ノ建議

本市ハ內務大臣ニ直接隷屬スヘキ方針ヲ以テ、現行市制ノ改正ヲ政府及帝國議會ヘ請願スルモノトシ、議長指名ヲ以テ委員七名ヲ置キ、之ニ機宜ノ處置ヲ委託セントス。

明治三十二年十一月二十二日

東京市會議長須藤時一郎殿　　提出者　高橋庄之助

横山富次郎君先ヅ問ウテ曰ク、此委員ニハ昨年ノ如ク法律案ヲ起草セシムルモノナリヤト。**高橋庄之助君**之ニ答ヘテ曰ク、昨年本會ニ於テ設置サレタル委員ハ、參考トシテ議長室ニ備附アル高級市制案ヲ本トシ、數十日ヲ費シテ百三十餘箇條ニ渉ル浩瀚ナル東京市制案ヲ編製シテ其筋ヘ提出シタルガ、郡部ノ反對ニ遭ヒ、圓滿ナル熟議ヲ得ル能ハズ、殊ニ本市選出ノ衆議院議員諸君ヨリ注意ノ次第モアリテ、更ニ單行法律案ヲ提出スル等種々ナル歷史ヲ有スルニ依リ、今年モ亦法律案ヲ起草スベキヤ否ヤ等ノ事ハ、總テ委員ニ一任セント欲スト。次ニ**星亨君**、建議ハ要スルニ本市ノ地位ヲ高メ、直接內務大臣監督ノ下ニ立タシメタシト云フニ在リヤト質シ。**高橋君**ハ、其然ル旨答フル所アリ、質問以外異議ナク本建議ヲ可決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク指名セリ。

城數馬　高橋庄之助　稻田政吉　田中新兵衛　今井兼輔
宮川鐵次郎　丸山名政

委員ハ**今井兼輔君**ヲ委員長ニ推シテ、種々協議スル所アリタルガ、十二月五日ノ會議ニ於テ、**高橋君**ハ委員會ヲ代表シテ請求シテ曰ク、七名ノ委員ニテハ少數ニテ運動上差支アルニ依リ、更ニ八名ヲ增シテ總員ヲ十五名トシ、尙前例ニ從ヒ議長竝ニ議長代理者ヲモ加フ事トシタシト。此請求ニ對シ異議ナク八名ヲ增員スルコトニ決シ、議長ハ增員ヲ左ノ如ク選定セリ。

秋虎太郎　渡瀨寅次郎　小川義春　鹽島仁吉　今井喜八
中鉢美明　福岡健吉　後藤亮之助

委員ハ各區ノ有志ト提携シ、且ツ本市選出ノ衆議院議員諸君トモ協議ノ末、曩ニ帝國議會ヘ提出シタル單行法ト稱スル五箇條ノ東京市ニ關スル法律案ヲ、再ビ本市選出衆議院議員ヨリ建議トシテ帝國議會ヘ提出スル事ニ決シ、尙ホ委員ハ部署ヲ定メ、主務省竝ニ貴衆兩院ニ對シ、目的貫徹ノ爲メ奔走盡力セリ。

附記　其結果ニ就イテハ委員ヨリ公式ノ報告ハナカリシガ、再度ノ單行法モ亦第一回同樣、衆議院ハ無事通過シタルモ、貴族院ニ於テ否決セラレタリ。

第拾四節　橋梁及下水事業

▽兩國橋架換竝小石川區下富坂町ヨリ水道橋外ニ至ル暗渠下水新設

第十號

東京市（自明治三十二年度至明治三十六年度）繼續歳出總計豫算　（右肩ノ○印ハ委員會修正　左側ノ—印ハ原案削除）

歳出臨時費　參拾壹萬四千參百六拾四圓九拾九錢
金貳拾九萬四千四百九拾參圓拾八錢五厘

內譯

明治三十二年度支出額	金七萬六百五拾四圓六拾九錢五厘 金七萬千貳百拾八圓七拾九錢參厘
明治三十三年度支出額	金七萬六百五拾四圓六拾九錢五厘 金七萬千貳百拾八圓七拾九錢貳厘
明治三十四年度支出額	金五萬七千六百八拾五圓貳拾錢 金五萬六百八拾五圓貳拾錢
明治三十五年度支出額	金五萬七千六百八拾五圓貳拾錢 金五萬六百八拾五圓貳拾錢
明治三十六年度支出額	金五萬七千六百八拾五圓貳拾錢 金五萬六百八拾五圓貳拾錢

歳出內譯表

第一款　土木費　三一四、三六四・九九〇円
二九四、四九三・一八五

第一項　橋梁費（日本橋區新柳町ヨリ本所區藤代町ニ架スル兩國橋木橋ヲ長サ九十間幅十間ノ鐵橋ニ架換費）　二八八、四二六・〇〇〇
二五三、四二六・〇〇〇

第二項　溝渠費（小石川區下富坂町ヨリ水道橋外ニ至ル暗渠下水新設費）　二五、九三八・九九〇
四一、〇六七・一八五

右ハ三月四日ノ第一讀會ニ於テ、**內山平三郎君**ノ動議ニ依リ、明治三十二年度普通會計ニ屬スル豫算調査委員ト同一委員（第拾五節參照）ニ調査ヲ附託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月三十日ノ會議ニ於テ、前表ノ如ク修正スルニ決シタル旨報告シ、且ツ**大貫委員長**ハ兩國橋架換ヘニ就キ說明シテ曰ク、委員ハ兩國橋ノ架換ヲ必要ト認メ、且ツ步車道共原案ハ板張トアルモ、之ヲ全部「アスファルト」ト爲ス事トシ、金額ヲ參萬五千圓增加シテ、各年度ノ支出額ニ七千圓ツヽ加フルコトニ決議シタリト。是レニ對シ**町田朝太郎君**ハ、其增加ハ製作費ナリヤ、將タ裝飾費ナリヤト質シ。**大貫委員長**答ヘテ曰ク、鐵材代價ニ貳萬五千貳百四拾圓、同製作費ニ九千七百六拾圓ヲ增加シタルモノニテ、裝飾費ニ少シモ關係ナシト。次イデ石垣元七、久德猶行、今井喜八、今井兼輔、稻田政吉ノ諸君ヨリ、「アスファルト」ニ就キ種々ノ質問アリ、大貫委員長、及佐藤助役ヨリ答辯アリシガ。**太田直次君**ヨリ、責任アル技師ノ說明ヲ望ムトノ希

望アリ、贊成者多數ニテ、主任技師ノ說明ヲ求ムル事トシ、**今井兼輔君**、「アスファルト」ハ夏季ニ伸ビ、冬季ニ縮マルモノナルガ、一寸五分位ノ厚サナラバ、寒中ト雖モ差支ナキヤト質シ。**小田切技手**、未ダ多クノ經驗ヲ有セザルモ、淺草橋ノ實例ニ據テ見レバ、一寸五分ニテ可ナリト考フト答ヒ。**今井君**更ニ、淺草橋ノ如キ短キモノハ格別、兩國橋ノ如ク長キモノニ「アスファルト」ヲ使用スルハ如何アラン乎懸念ナキ能ハズ、此點如何ト質シ。**小田切技手**ハ、動搖ハ橋總體ニ及ボスモノニシテ、決シテ一小局部ノミ動搖スルコトナシ、故ニ委員ノ修正ニテ差支ナシト思惟スト答ヘ。**今井君**、理事者ニ於テ保證セバ異存ナシト述ベ。**藤田藤一郎君**ハ、「アスファルト」一坪ノ代價ニ就キ。**細井榮三郎君**ハ、「アスファルト」ト土橋トノ比重。**久德猛行君**ハ、委員ノ修正ニテ重量增加セリ、是レニ對シテ橋臺ヲ如何ニスルヤトノ諸質問ニ對シ。**小田切技手**ハ、「アスファルト」一坪ノ代價ハ拾八圓ニシテ、是レガ一尺立方ノ重量ハ十二貫目、土橋ハ拾四貫目以上ナリ。又橋臺、橋脚ハ、最初ヨリ充分ノ設計ヲ爲シアルヲ以テ、上部ヲ「アスファルト」ニ變更スルモ差支ナシト答ヘ。**太田君**ハ、重量ニ就テハ學術上自ラ定論アルベシ、夫等ハ技師長ノ說明ヲ煩ハシタシ。仍テ技師長ノ出席說明アルマデ議事ノ延期ヲ望ムトノ動議ヲ提出スルヤ。**浦田助役**ハ、諸君ノ懸念ハ要スルニ厚サ一寸五分位ノ「アスファルト」ニテハ、寒中龜裂ヲ生ズベク、又原案ハ板張ノ設計ナルニ之ヲ「アスファルト」ニ變更シナガラ、橋脚及橋臺ヲ原案設計ノ儘ニ据置クハ危險ナラント云フニ在ルモノヽ如シ、依テ此點ニ付原技師ニ確メタル所ニ據レバ、委員ノ意見通リ「アスファルト」ニ修正スルモ、橋脚竝橋臺等ハ原案通リニテ聊モ差支ナク、又其厚サ一寸五分ノ「アスファルト」ナラバ、充分堪ヘ得ベキ見込ノ由ナリ、思フニ是以上ノコトハ、技師長ト雖モ恐ラク說明スル能ハザルベシト辯明シタルガ。**城數馬君**ハ、浦田助役ノ說明ハ技術ニ關スルモノナルガ故ニ、責任アル技師ヨリノ說明ヲ望ムト希望シタルニ對シ。**小田切技手**ハ、動搖ノ爲メニハ多少龜裂ヲ生ズルコトナシト云フ能ハザルモ、唯寒氣ニ遭フノミニテハ毫モ憂フルコトナシト考フト答ヘ。尙ホ城君、細井君、石垣元七君等ヨリ、「アスファルト」ニ代フルニ花崗石ヲ以テシタル場合ノ比重、及ビ「アスファルト」ノ龜裂豫防竝ニ其厚サヲ三寸トシテハ如何等ノ質問アリ、是等ノ質問ニ對シ、**小田切技手**ハ、花崗石ヲ使用セバ、重量一尺立方二十貫目位トナリ、動搖ハ萬之ナキ見込ナルモ、非常ノ重量アル貨物ノ通行ニハ動搖ヲ生ジ、寒中或ハ龜裂ヲ生ズルヤモ知ルベカラズ。「アスファルト」ハ一寸四方ニ製シタルモノヲ繼合ハシテ敷詰ムルモノナルヲ以テ、一寸五分ナラバ差支ナカルベシ、勿論厚クセバ尙ホ可ナリト答ヘ。**今井君**ハ更メテ、委員會ノ修正通リニテ差支ナキヤ否ヤ、技師ニ確ムル爲メ議決ヲ明晩ニ延期サレタシトノ動議ヲ提出シタルガ、採決ノ結果、今井君ノ動議ハ少數ニテ成立セズ、委員會ノ報告ニ就キ採決シタルニ、多數ニテ之ヲ可決セリ。次ニ第二項即チ小石川區下富坂町ヨリ水道橋外ニ至ル暗渠下水新設費ニ移リ、**大貫委員長**ハ委員會ノ經過ヲ說明シテ曰ク、委員ハ實地ヲ視察、審案覆査ノ末、同處ニハ暗渠下水新設ノ必要ヲ認メタリ、左リナガラ原案設計ノ如ク煉瓦卷立ニ及バズト思惟シ、其仕樣ヲ更メ、元名石ヲ以テ卷立ツルモノトシ、金額ヲ貳萬五千九百參拾八圓九拾九錢ニ減ジ、各年度支出額ヲ壹萬貳千九百六拾九圓四拾九錢五厘ト修正スルコトニ決議シタリト。**今井喜八君**ハ理事者ニ對シ、本案暗渠ノ長サ、及ビ一間當ノ單價等ニ就イテ質シタルニ。**佐藤助役**、暗渠ノ長サハ、四百十一間七分三厘ニシテ、工費ハ一間當九拾九圓七拾四錢壹厘ナリト答ヘタリ。此時石垣元七、曲木如長、高山權次郎諸君ヨリ、主任技師ニ質問シタシト望ミ、贊成者多數ニテ、技師ノ出席說明ヲ求ムル事ニ決シタルヲ以テ、杉山技手理事席ニ著スルヤ、**峰尾勝春君**先ヅ問ウテ曰ク、暗渠ハ地中ニ埋設スルモノナルヲ以テ、房州石ニテモ可ナランガ、上覆石ハ何尺トスル見込ミナリヤト。**杉山技手**是ニ答ヘテ曰ク、深キ所ニ於テ十三尺ナルガ、委員ノ修正セル房州元名石ト煉瓦石トヲ比較セバ、永遠ノ保存上煉瓦ノ方宜シキニ相違ナキモ、元名石トテ二十箇年位ハ保ツベシト。次イデ**細井榮三**

郎君ヨリ、暗渠ノ必要ナル理由ニ就イテ質問アリタルニ對シ。**佐藤助役**ハ、下富坂町附近ハ舊幕時代ヨリ浸水被害甚大ニシテ、是レガ豫防ニ困惑セシ所ナリ。今其實況ノ概略ヲ述ベンニ、柳町ヲ流ルヽ下水ハ、練馬及大塚邊ヨリ來ルモノト、更ニ傾城ヶ窪邊ヨリ流レ來ルモノガ、舊水戸邸赤門ノ所ニ到テ合流シ、砲兵工廠ヲ過ギテ神田川ニ落ツルモノナリ。自分ハ小石川區長就職當時、降雨ノ際長靴ヲ穿チ、現場ニ臨ミテ親シク取調ベタルガ、一秒時間ノ流量實ニ千九立方尺ニ及ベリ。然ルニ此ノ流末タル砲兵工廠内ノ疏水頗ル惡シク、爲ニ汚水附近ニ汎濫シ、被害尠カラザルモノアリシニ因リ、余ハ同廠ト交渉シテ屢〻浚渫シタリシモ、尚好結果ヲ得ル能ハザリキ。其後幅員取擴ノ調査ヲ原技師ニ依託セシニ、工廠内ノ建物ハ多ク煉瓦造ナルヲ以テ、幅員ノ取擴ゲハ意ノ如クナラザル旨報告ニ接セリ、依テ已ムヲ得ズ傾城ヶ窪ヨリ流レ來レルモノヲ分流セシメント欲シ、本案ヲ提出セル所以ナリ。下水汎濫ノ爲メ、柳町其他ニ於テ災害ヲ被ムル戸數ハ、調査ノ結果、床上浸水百十八戸、床下浸水五百五十九戸ニ及ベリト答ヘ。**五味卯三郎君**ハ、原案贊成説ヲ述ベ。**石井義正君**ハ、本員モ小石川區居住者ニシテ、浸水被害ノ實狀ヲ知悉セリ。仍テ暗渠新設ノ必要ハ之ヲ認ムルモ、石材ニ就テハ、四十年前房州石ニテ横濱市辨天町通リヘ暗渠ヲ新設シタルガ、今日尚何等異狀ヲ來タサズ、仍テ毫モ懸念ニ及バズトテ委員ノ修正ニ贊成シ。**高山權次郎君**ハ、兩國橋架換費ハ、保存上「アスファルト」ヲ得策トシテ金額ヲ增加セルニ、暗渠ノ新設ハ、反對ニ煉瓦ヲ房州石ニ變更シテ金額ヲ減ズルトハ何事ゾヤ。元來本員ハ市參事會ニ於テ、此新設ニハ不贊成ノ意ヲ表シタルモノナルモ、之ヲ實施スル以上ハ、堅牢ニシテ永久ニ堪フル施設ヲ爲スニ如カズトテ、原案贊成説ヲ唱ヘ。**峰尾勝春君**ハ、本所、深川ハ、一朝豪雨ニ際セバ河水ノ汎濫甚シク、舟ナクンバ出入スル能ハズ、其被害ハ本案トハ同日ノ論ニアラズ。由來本案ノ場所附近ハ田圃ノ埋立地ニシテ、建築ノ際盛土ヲ爲サヾリシ結果事茲ニ至レルモノナレバ、浸水ノ害ヲ被ルハ自業自得トモ云フベキナリ。然ルニ本所、深川ヲ措キテ斯ル場所ヲ先キニスルハ施工ノ順序ヲ過ルモノナリ。殊ニ今年ノ如キ經費多端ノ場合ニ在テハ、發案ヲ爲スベキ時機ニアラズトテ、第二項ノ削除説ヲ主張シ。**秋虎太郎君**ハ、反對論者ハ柳町附近ニ於ケル浸水ノ害ヲ以テ、低地ニ建築シタルモノヽ自業自得ナリト云フモ、家屋建築當時ハ左迄ノ事モナカリシニ、近來殊ニ甚シクナレルモノナリ。事茲ニ至レルニハ勿論原因アルナランガ、兎ニ角水害アルハ事實ニシテ、之ヲ目擊シナガラ此儘抛任スベシト云ヘルハ、如何ニモ殘酷極レリ。斯ク申セバ本所、深川ハ如何トノ反駁アルナランガ、彼ハ地勢上之ヲ防グニ途ナク、本案ノ場所ハ暗渠ヲ設クレバ直ニ水害ヲ除去シ得ルナリ。而シテ此暗渠ハ道路ノ中央ヲ避ケ、砲兵工廠ノ土塀ニ沿ウテ設クル見込ナレバ、餘リ重量ノモノヲ運搬スル如キコトナカルベキニ依リ、房州石ニテモ差支ナカルベシトテ、委員ノ修正意見ニ贊成シ。**村上耕一郎君**ハ、煉瓦ト房州石トハ僅々壹萬五千圓ノ差ニテ、保存上ニ永遠ト二十年トノ懸隔アル由ナレバ、損失ハ論ゼズシテ自ラ明瞭ナリトテ、原案復活ヲ力説シ。**黑田綱彦君**ハ、委員會ハ過般市長ニ出席ヲ求メ、此暗渠ト將來ニ於ケル改良下水トノ關係ニ就イテ質問シタルニ、一般下水ニ就テハ未ダ改良力針立チ居ラズトノ答辯ナリキ。サレバ一般下水改良ノ際ハ不用ニ屬スルヤモ知ルベカラズト雖モ、現場ノ模樣ハ先刻來石井義正君及ビ佐藤助役ヨリ陳述アル如ク、浸水戸數殆ンド七百戸ニ及ビ、其慘狀見ルニ忍ビザルモノアリ、且ツ此ガ爲メ一朝傳染病發生セン乎、其害小石川一區ニ止マラズ、延テ十五區全體ニ波及ノ虞アルヲ以テ、一ハ水害ヲ除キ、一ハ公衆衞生ヲ重ズル點ヨリ意見報告書ノ如ク修正シタルモノナリト、委員長ノ説明ヲ補足スル所アリ、採決ノ結果峯尾君ノ削除説ハ少數ニテ否決サレ、委員會ノ修正通可決セリ。

▽**京橋架換**　十一月二十二日ノ會議ニ於テ、左ノ議案ヲ上程セリ。

第九十五號

東京市自明治三十二年度至明治三十三年度繼續歲出總計豫算

歲出　金六萬五千七百七拾圓

內譯

金參萬貳千八百八拾五圓　明治三十二年度支出高

金參萬貳千八百八拾五圓　明治三十三年度支出高

說明　京橋ハ近來橋上ノ中央漸次低下シ來リ頗ル危險ノ狀態アルヲ以テ、二箇年繼續事業トシテ改築セントス。而シテ上部構造工費ノ內金八百五拾圓ハ、馬車鐵道株式會社ヲシテ負擔セシムルモノトス。依テ本案ヲ提出ス。

劈頭**江崎禮二君**ハ、議長指名五名ノ委員ニ調査ヲ附託スベシトノ動議ヲ提出シタルニ。**稻田政吉君**ハ、京橋ノ大破ハ一日モ捨置キ難キ現狀ナリ。石橋ノ破損程危險ナルハナク、警視廳ニ於テモ警戒ヲ加ヘ、現ニ重量アル物品ヲ積載セル荷車ノ通行ヲ禁止セル有樣ナリトテ、即決ヲ希望シ。**佐藤助役**モ、即決ヲ望ミ。**江崎君**ハ、如何ニ危險ナリトテ本橋ハ石造ナルヲ以テ、三四日位ハ延期シ得ザルノ理ナシ。兎ニ角六萬餘圓ノ事業ナレバ實地調査ノ價値アリトテ、委員說ヲ固守シ。**橫山富次郎君**ノ贊成アリ、他ニ異議ナク、江崎君ノ動議ヲ可決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

藤田藤一郎　杉原榮三郎　中澤彥吉　加藤佐兵衞　町田朝太郎

委員ハ**中澤彥吉君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、原案ヲ可決シタル旨十二月五日ノ會議ニ報告シタル後、**加藤佐兵衞君**ハ、委員會ヲ代表シテ、其經過ヲ左ノ如ク說明シ、市會ハ滿場異議ナク、委員會ノ報告通可決セリ。

委員ハ主任者ヲ伴ヒテ現狀ヲ檢査シタルガ、近來橋上ニ甚シキ凸凹ヲ生ゼシノミナラズ、其中央漸次沈下シ來リ、頗ル危險ナリトス。又橋下ハ舟ニテ親シク實見シタルニ、左右共其中央孕出シ、爲メニ持石ノ間罅裂シタリ。尤モ今日直チニ墜落スルガ如キコトナカルベキモ、載荷力ハ大イニ減少シタルヲ以テ、重量ノ貨物ヲ積載セル牛馬車ノ通行ヲ差止メザルベカラザルノ危險ニ迫レリ。本案架換ノ構造ハ、先般落成シタル新橋ト粗〻同一ニシテ、車馬道ハ花崗石、人道ハ厚サ一寸五分ノ「アスフアルト」ヲ以テ敷詰メ、現橋ノ高欄ハ之ヲ磨キ直シテ再用シ、其ノ他取崩シタル石材ハ橋臺下部ニ使用スル由ニテ、設計、豫算、共ニ相當ト認メ原案ヲ可決シタルナリ。

第拾五節　東京市明治三十二年度歲入出總豫算

▽**普通會計ニ屬スル豫算**

東京市明治三十二年度歲入出總計豫算

歲入出	原案額	委員會修正額	市會決定額
歲入	一、二六一、三四八・三九四円	一、二三八、六八二・一三〇円	委員會報告通
歲出 經常費	一、〇三四、七三三・四五五	一、〇一六、二六七・九九六	一、〇一四、九六九・三六五円
歲出 臨時費	二二六、六一四・九三九	二二二、四一四・一三四	二二三、七一二・七六五
歲出 合計	一、二六一、三四八・三九四	一、二三八、六八二・一三〇	委員會報告通

二月二十日ノ第一讀會ニ於テ、調査委員設置ニ關シテ、委員數十五名說、七名說、九名說等アリタルガ採決ノ結果、**大貫實君**ノ議長指名九名說ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

西澤善七　大貫實　關幸太郎　柿沼長豐　後藤亮之助

黒田綱彦　加藤佐兵衛　田中新兵衛　江崎禮二

委員ハ**大貫實君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、歳出經常費中第一款市役所費、第二款區役所費、第三款會議費、第四款市參事會員費、第五款市學務委員費、第六款土木費、第七款衛生費及ビ歳出臨時費中ニ於テモ修正ヲ加ヘ、歳入出總額ヲ前表記載ノ如ク修正シタル旨三月三十日ノ會議ニ報告シタルガ、第三款會議費中、市會議員ノ實費辨償額ニ關シ、**五味卯三郎君**ハ、原案復活説ヲ主張シテ曰ク、過日本會ニ於テ養育院常設委員ノ車馬賃ヲ壹圓ト決議シ、既ニ之ヲ告示セリ。然ルニ市會議員、市區改正委員ノ車馬賃ノミ減額スルハ、金額ノ多少ハ兎モ角、彼此權衡ヲ得ザル決議ニシテ、面白カラズト。**城數馬君**ハ、原案ノ如ク壹圓トスルモ、亦委員會ノ修正ノ如ク七拾五錢トスルモ、何レモ從來ニ比シ增額スルモノナリ。物價ノ高低ヨリセバ、昨年ニ比シ今日ハ下落シ居ルヤモ知ルベカラズ、且ツ實費辨償ハ報酬ニアラザルヲ以テ、此ハ前年決議額通リ五拾錢ニ据置クヲ可トストテ、修正意見ヲ提出シ。**町田朝太郎君**ハ、本年度ハ經費膨脹シテ殆ド三倍トナリ居レルヲ以テ、成ルベク節約ヲ可トス、此意味ニ於テ城君ノ意見ニ賛成スト述べ。採決ノ結果、城君ノ修正説、委員ノ修正意見、五味君ノ原案復活説、共ニ何レモ賛成者少數ニテ、會議費中ノ實費辨償額ハ自然消滅ニ歸シ、第四款市參事會員費、第五款市學務委員費、第七款市衛生常設委員會費ノ實費辨償額ニ就キテモ委員ノ修正意見ニ對シ、城君ヨリ前年度決議額ニ据置クベシトノ修正説出デ、採決ノ結果、是レ亦何レモ少數ニテ、實費辨償額ハ全部自然消滅ニ歸セリ。尚ホ土木費中委員ガ削除シタル炭谷橋(京橋區)、東仲橋(日本橋區)、巽橋(深川區)、辨天橋(牛込區)、石橋(淺草區東町)ノ架換費ヲ原案ニ復活シ、溝渠費中ニモ、委員ガ削除若クハ減額ヲ加ヘタルモノヽ中原案ニ復活セルモノアリ、歳出臨時費中麹町區役所建築費(貳萬五千九百七拾貳圓六拾貳錢七厘)ニ就イテモ委員ガ五分減ノ修正ヲ加ヘタルニ對シ、**高山權次郎君**ハ、參事會ニ於テ既ニ一割ヲ減ジタル上ニ、更ニ五分ヲ減ズルハ苛酷ナリトテ、原案復活説ヲ提出シ。**大貫委員長**ハ一坪百參拾圓説サヘアリテ五分減トシタルモノナレバ、此修正タル一坪當百參拾壹圓八拾五錢九厘餘ハ決シテ苛酷ナラザルベシト辯明シタルモ、結局委員ノ修正意見ハ少數ニテ否決サレ、原案ノ一坪當百參拾八圓七拾九錢九厘餘ニ復活セリ。歳入ハ委員會ノ修正通、家屋税附加ノ一個當五錢ヲ四錢八厘トスル事ニ決セリ。

附記　市會議員其他ノ名譽職員ノ實費辨償額ガ自然消滅ニ歸シタル事ハ、既記ノ如シ。仍テ市理事者ハ是レガ豫算ヲ決定シ置ク必要アリトテ、四月十九日ノ會議ニ左ノ議案ヲ提出シタルニ、滿場異議ナク原案通可決セリ。

第二十九號

豫備費支出ノ件

一金七千九百八圓五拾錢

但別紙内譯表ノ通リ

右明治三十二年度豫備費ヨリ支出スルモノトス

（別紙）

内譯表

第三款	會議費（議員實費辨償額）	三、二七〇・〇〇〇円
第四款	市參事會費（名譽職市參事會員實費辨償額）	二、五七〇・〇〇〇
第五款	市學務委員費（市學務委員實費辨償額）	一、六一八・五〇〇
第七款	衛生費（市衛生常設委員實費辨償額）	四五〇・〇〇〇

▽特別會計ニ屬スル豫算

水道歳入出總計豫算

	原案額	委員會修正額
歳入出		
歳入	五二、二一三・九一八円	二三、五一六・五四一円
歳出經常費	二三、八二八・七八一	二三、八一六・五四一
歳入出差引殘金	二八、三八五・一三七	二八、六九七・三七七

本案ハ二月八日ノ第一讀會ニ於テ、**後藤亮之助君**ノ動議ニ依リ、議長指名五名ノ委員ニ調査ヲ附託スル事ニ決シ、議長ハ左ノ如ク指名セリ。

西澤善七　石井義正　木村莊平　河原伊平　鳥海清左衛門

委員ハ**木村莊平君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、二月二十日ノ會議ニ於テ、歳出水源水路費中護岸其他ノ小破修繕費ニ削減ヲ爲シ、歳出ヲ前表ノ如ク修正シタル旨報告シタルニ、市會ハ異議ナク委員會ノ修正通可決セリ。

公園歳入出總計豫算

	原案額	委員會修正費	市會決定額
歳入出			
歳入	八二、二三〇・三四九円	八二、三二九・五九四円	委員會報告通
歳出經常費	三五、八六一・〇八七	三五、八二九、七四四	委員會報告通
歳入出差引殘金	四六、三六九・二六二	四六、四九九、八五〇	委員會報告通

二月二十日ノ第一讀會ニ於テ、**曲木如長君**ノ動議ニ依リ、議長指名五名ノ委員ニ調査ヲ附記スルニ決シ、議長ハ左ノ如ク指名セリ。

末吉忠晴　石井義正　金田傳兵衛　小笠原壽長　伴親光

▽**淺草公園内煉瓦建仲店取拂問題**　委員ハ**金田傳兵衛君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、三月十八日ノ會議ニ於テ、**金田委員長**ハ委員會ノ經過ニ就キ説明シテ曰ク、淺草公園歳出經常費中、營繕費參百拾六圓ヲ參百六拾六圓ニ增額修正シタルハ、同公園内ニ在ル番外煉瓦仲店家屋三棟中、東側ノ一棟ハ五戸、西側ノ二棟ハ六戸ト二戸、都合拾三戸ノ全部ヲ取拂フ原案ノ豫定ナルモ、委員ハ實地踏査ノ末、傳法院前ノ一棟ト不動堂前一棟ノ一部トハ取拂フニ及バズト認メ、之ヲ存置スル事トシタルナリト。次イデ**石井義正君**、委員ガ存置ニ決シタル二棟ノ家屋ハ、火災ニ對スル憂ヒナク、且ツ風致ニモ關係アルノミナラズ、來ル六月取拂ノ約束アルガ爲メナリト委員長ノ報告ヲ補足スル所アリ。**城數馬君**ハ理事者ニ對シテ、仲店家屋建設許可ノ年月日竝ニ建設ニ關スル條件等ニ就キテ質シタルニ。**浦田助役**是ニ答ヘテ曰ク、建設許可ハ明治二十二年二月ナリ。當時ハ自治制施行前ナリシヲ以テ、東京府知事之ヲ許可セシモノナルガ、其指令ニハ、建築シタル煉瓦家屋ハ直ニ之ヲ本市ヘ寄附セシムル事トシ、其代償トシテ十箇年間ハ使用料ヲ半額ニテ貸渡シ、其後ハ之ヲ取拂フベシトノ條件アリ、其期限滿了ハ即チ本年六月ナリ、因テ之ヲ取拂ハント欲スルモノナリト。**關幸太郎君**ハ、十箇年ノ期限ハ特別貸與、即チ使用料半減ノ期間ナリヤ、將タ建物存置ノ期間ナリヤト質シ。**浦田助役**、建築許可ノ當時、既ニ公園ノ風致及ビ堂塔伽藍ニ對スル火災ノ憂ヒ等ニ就キ議論アリシ爲メ、十箇年後ハ取毀ツベシトノ意ニテ期限ヲ附シタルモノナルコトハ、當時ノ書面ニ據テ推知シ得ルヲ以テ、其ノ趣旨ニ基キテ本案ヲ提出シタルモノナルガ、之ヲ存置スルト否トハ、本會ノ決議ニ由リ何レニモ決シ得ベシト答ヘ。**太田直次君**ハ、關係書類ノ提示ヲ求メ。**後藤亮之助君**ハ、十箇年ノ期限ハ最初ノ家屋建築人ニ對スルモノナリヤ、又ハ今日ノ借家人ニ對スルモノナリヤト質シ。**浦田助役**ハ、借家人ハ轉々シ、最初ノ建築主ハ今日居ラザルモ、夫等ノ點ニ關係ナク指令ノ

條件ハ繼續シ居リ、且ツ昨年五月書換ヘタル貸借書中ニ「期限滿了ノトキハ取拂云々」トノ明文アルニ據テ見ルモ明カナリト答ヘ。小笠原壽長君ハ調査委員ノ一人トシテ說明シテ曰ク、問題ハ小ナルモ、其關係スル所大ナルヲ以テ、委員ハ當局者ノ說明ハ勿論、特ニ公園改良取調委員ノ出席ヲモ求メ、且ツ實地踏査ヲ遂ゲタル上決議シタルモノナルガ、火災ノ憂ニ就イテハ、此煉瓦建ノ店舗ヨリモ、仁王門ニ接近セル木造ノ建物ノ方却テ危險ナリ、只此番外仲店ハ普通ノ仲店ト異ナリ、店舗內ニ借家人ガ常ニ宿泊セルヲ以テ、屋後ニハ便所ノ設ケアリ、且ツ物干場ニハ襁褓ヲ乾ス等、公園地トシテハ頗ル不體裁ナルヲ以テ、不動堂前ノ一棟中四戸ヲ取拂ヒ、其殘リ二戸ト傳法院前ノ一棟トハ、之ヲ存置スル方風致上却テ佳ナリト思惟シタルナリト。此時議長須藤時一郎君ハ、書記ヲシテ太田君ノ請求ニ係ル建築當時ノ願書竝指令書ヲ朗讀セシメタリ。仍テ左ノ如シ。

公園煉瓦屋建築献納願

淺草區公園第二區
西側壹號
一　地　坪　　貳拾七坪三合三勺三才
同　貳號
一　地　坪　八　坪
東側三號

淺草區淺草馬道町二丁目九番地
松岡佐太郎

一　地　坪　　貳拾六坪貳合五勺
合地坪六拾壹坪五合八勺三才

右申上候淺草公園第二區仲店通リハ、煉瓦家屋御建築以來園內第一ノ美觀ヲ備候ハ申迄モ無之、然ルニ該家屋ノ儀、東ハ辨天山通リニ至リ、西ハ傳法院脇道ヲ限リ、兩行ノ對照齊一ナラス、體面モ不宜樣ニ見受候ハ、是實ニ遺憾ニ御座候間、今般私儀自費ヲ以テ仲店煉瓦家ニ倣ヒ二階造煉瓦屋建築致シ、之ヲ献納仕度、左スレハ東西ノ權衡ニモ相適、一層美觀ヲ助クルニ至リ可申義ト思慮仕候間、願意御聞屆被成下度、就テハ右建築費モ隨分多額ヲ要シ可申義ニ付、其費用ヲ補フ爲ニ向拾箇年間ヲ限リ、私一手ニ借家被仰付度、最献納仕候上ハ、右年限中トテモ無代價ニテ拜借仕候義ニハ無之、仲店煉瓦家一ケ月一戸當坪數ニ應シ、其借家料ノ半額ヲ相納候樣可仕候間、特別ノ御詮議ヲ以テ御允許被成下候樣仕度、依之地圖及構造圖六葉、建築仕樣書相添、此段奉願候也。
追テ本願御許可ノ上ハ、建築地內ニ有之榎木ハ圖面朱點ノ場所ヘ自費ヲ以テ移植仕度、併テ奉願候也。

右
松岡佐太郎
淺草區淺草馬道町一丁目二十八番地
保證人　松本秀造
淺草公園世話掛
福地源一郎

東京府知事男爵高崎五六殿

指令

書面願ノ趣聞屆候條、左ノ廉々豫テ心得置クヘシ。

一、借家期限、則十箇年間ノ小破修繕ハ、總テ借家人ニ於テ負擔スヘシ。

一、工事中時々吏員ヲ派出シ、工事上ニ付指揮スルコトアルヘシ。

一、仕樣方法ニ違背シタル時ハ、改築ヲ命スルコトアルヘシ。

一、改築ノ命令ニ應セサルトキハ、許可ノ指令ヲ取消スコトアルヘシ。

但本文ノ場合ニ於テハ、工事諸材等取毀タシメ、地盤元形ニ復サシムヘシ。

右朗讀終ハルヤ、**江崎禮二君**、普通煉瓦仲店ノ建築ハ明治十九年來ノ計畫ニシテ、西側ハ傳法院南横町ニテ止メ、東側ハ辨天山ノ眺望ヲ妨ゲザル樣建築スル設計ナリシニ、右設計外ノ場所ヘ番外煉瓦仲店ノ建築ヲ見ルニ至レリ。而シテ願主ハ唯今書記朗讀ノ願書ニ據レバ、松岡某トアレドモ、其實ハ松本某ニシテ、寄附ト云ハヾ頗ル立派ニ聞ユレド、是レ素ヨリ表面ノ名目ノミ。其裏面ヲ窺ヘバ、矢張リ營利的ノ策略ナルコト論ヲ待タザルナリ。元來淺草寺ハ有名ナル寺院ニテ、仁王門ノ如キハ實ニ稀有ノ大建築タリ。然ルニ斯ル營利的ノ建物ヲ其附近ニ建設スル事ハ、火災ノ點ヨリスルモ、風致ノ上ヨリスルモ、甚ダ好マシカラザルナリ。故ニ寺院ハ勿論、吾々檀家講中等モ、此建物ノ許可ヲ非トシ、當時府知事ニ對シテ許可ノ取消ヲ申請シタルガ、既ニ許可シタル後ナルヲ以テ今更取消モ出來難シ、併シナガラ十箇年後ニハ必ズ取拂フベキガ故ニ、左樣承知アリタシトノ事ニテ、已ムヲ得ズ其儘ト爲シ、滿期ニ至ルヲ待チ居タルナリ。此煉瓦建ノ家屋アル爲メ、彼ノ有名ナル濡佛ノ如キ少シモ人目ニ觸レザル狀態ナルヲ以テ、此ノ佛像寄附者ハ大ニ苦情ヲ唱ヘ、昨今取戻シ方ニ就キ考究中ナルヤノ噂アルニ至レル程ナレバ、此番外仲店ノ取拂ハ洵ニ當然ノ處置ト信ズ。殊ニ前述ノ如ク寄附トハ表面ヲ衒フ手段ニシテ、其實營利ヲ目的トスルモノナル事固ヨリ論ナシ。何トナレバ寄附ヲ口實トシテ、特別低廉ノ賃料ヲ以テ其使用權ヲ得、而シテ更ニ非常ノ轉貸料ヲ貪リ居レルヲ以テナリ。而モ其構造普通仲店ト異リ、差掛ケヲ爲シテ住居シ得ル樣建築シアリ、轉借人此處ニ居住セルヲ以テ、其屋後ハ襤褸、腰卷等ノ類高ク吊サレアリテ、公園ノ風致ヲ傷フ事尠少ナラズ。仍テ本員ハ原案ノ通過ヲ望ムモノナルモ、一歩ヲ讓リ委員ノ意見ニ同意ヲ表スト述ベ。**久德猶行君**ハ、本員ハ公園取調委員ノ一人ナルモ、余一個ノ意見トシテハ、個人ガ公園內ニ家屋ヲ建設シ、之ヲ他人ニ貸與シテ利ヲ貪ルガ如キハ公園ノ目的ニ反ス。故ニ出來得ベクンバ仲店其他ノ民家ヲ悉皆取拂ヒタキモ、經濟ノ許サヾル所ナルヲ以テ、已ムヲ得ズ期限ノ到來スルモノノミニ止メ置カント欲ストテ、原案ニ贊成シ。**城數馬君**ハ、指令書中ノ十箇年ノ期限經過シタリトテ、必ズシモ建物ヲ取毀タザルベカラザル理由ナシ。理事者ノ說明ヲ聽クニ、建物取毀ノ理由ハ、公園ノ風致ヲ存有スルト仁王門ノ火災ヲ豫防スルトノ二點ニ過ギザルガ如シ。然レドモ木造ニシテ而モ仁王門ニ密接セル不動堂ヲ存スル以上、煉瓦造ニシテ多少ノ距離アル仲店ヲ以テ火災ノ虞アリトハ認メ難シ。斯ク詮ジ來レバ、取毀ノ理由ハ單ニ風致ヲ保有スルノ一點ニ歸セン。果シテ然ラバ東側ノ一棟ヲ取拂ヘバ則チ可ナリトテ、坪數ヲ二十六坪二合五勺、金額ヲ百貳拾圓七拾五錢ニ減ジ、雜收入ノ親高ヲ五百貳拾圓九拾錢トスベシトノ修正說ヲ提出シ。**關幸太郎君**ハ、發案ノ理由ハ其根柢ニ於テ過テルモノアルガ如シ。理事者ガ說明セル建物取毀ノ理由中、風致ヲ保チ火災ヲ防グ事モ素ヨリ重要ナリトスルモ、更ニ其主ナルハ期限到來ト云ヘルニアルベシ。蓋シ指令書ノ十箇年ナル期限ハ、使用料減額ノ期間ニ外ナラズ、假ニ一歩ヲ讓リ、最初ハ其滿期ニ至リ取拂ノ意ヲモ包含シ居タリトスルモ、其後建物ノ所有權ガ本市ニ移リタル以上ハ、之ヲ保存スルト取毀ツトハ、一ニ本市ノ權能タリ。然ルヲ尙前契約ノ繼續セルガ如ク思惟シ、理事者ガ本案ヲ提出シタルハ誤解ニ基ク提案

ナリ。次ニ風致ノ點ニ就テ見ルニ、仲店ノ如キハ餘リ感心シタルモノニアラザルモ、淺草公園ハ幽邃ヲ以テ名アルニアラズシテ、觀音アリ、仲店アリ、諸興行等アリ、殷賑ヲ以テ有名ナルモノナリ、然ルニ此ノ公園ヨリ此建物ヲ取拂ヒ、樹木ヲ栽培スルニ於テハ、却テ淺草公園ノ特色ヲ失ヒテ、繁盛ヲ減ズルニ至ラン。又火災ノ點ヨリ見レバ、此煉瓦建家屋ヲ存置スル方木造家屋ノ防火線トコソナレ、決シテ仁王門ニ危險ヲ及ボス虞ナシ。如上孰レノ點ヨリスルモ全部保存ノ適當ナルヲ認ムトテ、番外煉瓦仲店家屋賣却代ノ削除說ヲ提出シ。**横山富次郎君**是ニ贊成シ、且ツ曰ク、今後ハ特別貸與ヲ廢止シ、普通仲店同樣使用料ヲ徵收センコトヲ望ム、是レ淺草公園ノ施設ニ對シ、出來得ル限リ收入ヲ增加シ、以テ公園改良準備金ノ增加ヲ計ランガ爲メナリト、斯テ採決ニ入リ、關君ノ削除說、城君ノ修正說何レモ少數ニテ消滅シ、多數ヲ以テ調査委員ノ意見通可決セリ。尙使用料ニ關シテハ、右取拂ヲ見合セタル部分ハ、公入札ニ附シテ貸與スルコトニ決シタリ。

▽**公園地使用料增額問題**　次ニ**今井喜八君**ハ、理事者ニ對シテ、昨年芝公園ノ使用料ヲ增加シ、本年又復淺草、下谷兩公園ノミ增額スル理由如何ト質シタルニ。**浦田助役**答ヘテ曰ク、其ハ深キ理由アルニアラズ、今年ハ先ヅ二ケ所ニ止メ、他ハ漸次改正スル見込ナリト。仍テ**今井君**ハ、修正說ヲ提出シテ曰ク、昨年決議セル芝公園地ノ使用料增額ハ未ダ其筋ノ認可ナキ由、然ラバ其認可ヲ俟ツテ、他公園ノ使用料モ同時モ相當ノ改正ヲ行フ事トシ、淺草公園地使用料ハ暫ク前年度ノ決議通リ据置クベシト。今井君ノ修正說ニ對シテ贊成者アリシモ、採決ノ結果、修正說ハ倒レ、原案通決定セリ。芝公園使用料ニ就テモ、增額ニ關スル質問アリタルガ、**城數馬君**ハ、本會ノ決議ヲ重ズル點ヨリスルモ、亦委員ヲ設ケテ認可ヲ迫リタル點ヨリスルモ、全會一致原案通可決ヲ望ム、然ラザレバ本會自ラ不認可ヲ認ムル道理トナル憂ヒアリト述べ。**藤田藤一郎君**ハ、本會ガ昨年決議シタル改正額中ニハ急劇ナリト思ハルヽモノアルニ由リ、其決議額ニシテ現在使用料ニ比シ二倍以上ニ當ルモノハ、悉ク二倍迄ニ減ズル事トシタシトノ修正意見ヲ提出シタルニ、贊否兩說アリタルガ、採決ノ結果、藤田君ノ修正說ハ少數ニテ消滅シ、原案通可決セリ。下谷公園地使用料ニ對シテモ、**今井喜八君**ヨリ、芝公園同樣前年度通リ据置クベシトノ修正意見ノ提出アリタルモ、是レ亦少數ニテ消滅シ、第二讀會ヲ終ヘ、第三讀會ニ入リ、**峰尾勝春君**ヨリ延期說出デ、贊成者アリタルモ少數ニテ消滅シ、歲入出全部委員會ノ報告通可決セリ。

墓地歲入出總計豫算

歲入	一一、二〇三・一三六円
歲出經常費	四、五三二・九〇二
歲入出差引殘金	六、六七〇・二三四

二月八日ノ第一讀會ニ於テ、**後藤亮之助君**ノ動議ニ依リ、水道豫算調査委員ト同一委員ニ調査ヲ附託スル事ニ決シ、委員ハ審査ノ末、二月二十日ノ會議ニ原案ヲ相當ト認ムル旨報告シタルニ、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

養育院歲入出總計豫算

歲入	二八、七二一・八九五円
歲出經常費	二七、四〇二・七八三
歲入出差引殘額	一、三一九・一一二

二月八日ノ第一讀會ニ於テ、**後藤亮之助君**ノ動議ニ依リ、議長指名五名ノ委員ニ調査ヲ附託スルニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選出セリ。

曲木如長　名子新七　末吉忠晴　千澤專助　伊東勅典

委員ハ曲木如長君ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、二月二十日ノ會議ニ於テ、原案ヲ相當ト認メタル旨報告シタルニ、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

基本財産河岸地歳入出總計豫算

歳入	一四八、六七二・六八一円
歳出經常費	二六、九七三・九三八
歳入出差引殘金	一二一、六九八・七四三

三月四日ノ第一讀會ニ於テ、太田直次君ノ動議ニ依リ、議長指名五名ノ委員ニ調査ヲ附託スルニ決シ、議長ハ左ノ如ク指名セリ。

中鉢美明　城數馬　峰尾勝春　山本新平　松崎權四郎

委員ハ峰尾勝春君ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、三月十三日ノ會議ニ於テ、原案通可決シタル旨報告シタルニ、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

市區改正歳入出總計豫算

	原案額	委員會修正額	市會決定額
歳入	四七五、〇六九・〇二八円	四七五、五一五・五八一円	委員會報告通
歳出	四七五、〇六九、〇二八	四七五、五一五・五八一	委員會報告通

三月十三日ノ第一讀會ニ於テ、大貫實君ノ動議ニ依リ、議長指名五名ノ委員ニ調査ヲ附託スルニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

鈴木善四郎　細井榮三郎　中島行孝　城數馬　秋虎太郎

委員ハ城數馬君ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、三月十八日ノ會議ニ於テ、前表記載ノ如ク修正シタル旨報告シ、城委員長ハ、委員會ノ修正顚末ヲ左ノ如ク說明セリ。

委員ハ能フ限リ市區改正實施ノ方針ヲ採リタルガ、如何セン五拾萬圓ノ制限アルヲ以テ、其範圍ヲ超過セザルヲ限度トシテ、取捨シタル結果、報告書ノ如ク歳入出共親高ヲ金四拾七萬五千五百拾五圓五拾八錢壹厘ト修正スルニ至レリ。其內譯ハ、道路改正費中下谷坂本町一、二丁目道路取擴費ヲ五萬五千參百貳拾貳圓貳拾貳錢六厘ト修正シタルハ、原案ノ見積額ヲ過當ト認メ、道路敷買上代ヲ一坪貳拾七圓、木造平家ノ移轉料ヲ一坪拾六圓ニ減ジタル爲メナリ。淺草左衞門町ノ道路取擴費ヲ全部削除セルハ、原案ノ計畫姑息ニシテ、屈曲ヲ增ス不都合アル爲メナルガ、併シナガラ其取擴ハ必要ナルニ依リ、別ニ議員一個ノ資格ニテ建議ヲ提出シ置キタリ。溝渠費中、日本橋區浪花町ヨリ住吉町ニ至ル下水假設費ヲモ削除シタルガ、此ハ最初ヨリ本下水ト爲スヲ得策ト認メ、更メテ理事者ニ發案ヲ求ムルコトニ爲シタリ。本郷眞砂町下水新設費ヲ全部削除シタルハ、今日其必要ヲ認メザルニ依ル。修正ノ結果支出ニ減額ヲ生ジタルモ、淺草左衞門町道路取擴ノ如キモノアルニ依リ、減額シタル分ハ之ヲ豫備費ニ加ヘ、歳入ハ、家屋稅賦課標準（一個當七厘ヲ地方稅十分ノ四）ニ更メタル外ハ、渾テ原案ニ據置キタリ。

右委員會ノ經過報告ヲ終リテ後、城君ハ自身一個ノ意見ナリトテ、理事者ニ對シ注意シテ曰ク、第一ハ、議案編製上地租增徵額ニ對シ市町村稅ヲ附加スベカラズトハ法律ノ規定スル所ナルニ、理事者ハ此規定ニ背キテ本案ヲ提出シ、

自ラ其不都合ヲ認メテ「地租同額」ト訂正セラレタルニ依リ、今更之ヲ深ク咎メザルモ、市ノ體面ニ關スル問題ナルヲ以テ、將來ハ注意スベシ。第二、特別税ノ課目ニ就キ課税ノ公平上、法律ノ許ス限リ、本會ニ於テ何レニモ附加シ得ラル、樣發案サレタク希望スト。斯テ第一讀會ヲ終ヘ、第二讀會ニ移リテ、種目其他計數上ニ二三修正アリタルモ、總額ニハ異動ナク、委員會ノ修正通可決セリ。

附記　本案ノ調査委員ガ單ニ議員ノ資格ニテ提出シタル淺草區左衞門町道路取擴ニ關スル建議ハ左ノ如クニシテ、本案ヲ議了シタル三月十八日ノ會議ニ上程セラレ、滿場異議ナク直チニ可決セラレタリ。

道路改正ヲ望ムノ建議

今回第十七號議案トシテ提出セラレタル明治三十二年度市區改正豫算ハ、本員等其調査委員ニ當選シ、實地ニ臨テ親シク踏査ヲ遂ケシニ、淺草區左衞門町道路取擴ハ甚タ姑息ニシテ、更ニ其功ナキヲ認メリ。抑モ左衞門町河岸通ハ、神田川筋一帶ヨリ淺草茅町ニ達スル要路ニシテ、往來頗フル頻繁ナルニ拘ハラス、現在道路ハ其幅員漸ク四間ニ過キス、殊ニ屈曲甚シキ爲メ交通利便ナラサルハ勿論、危險ノ虞亦タ尠シトセス。若シ夫レ十七號議案ノ如ク、僅ニ一小部分ノ改正ニ止メンカ、道路ハ尙ホ屈曲ヲ增シテ更ニ幾層ノ不便ヲ感ジ、寧ロ改正セサルノ優レルニ至ラン。之ニ反シテ左衞門町全部ニ改正ヲ加ヘンカ、獨リ往來ノ利便ナルノミナラス、神田川沿ノ舊道路敷等ハ、之ヲ河岸地トシテ若干ノ收入ヲ得ヘキナリ。依テ本道路ハ別紙圖面ノ如ク左衞門町全部ヲ改正スルモノトシ、市參事會ニ向テ之カ發案ヲ求メンコトヲ望ム。

右及建議候也

明治三十二年三月十五日

提出者　鈴木善四郎　細井榮三郎　中島行孝
城數馬　秋虎太郎

東京市會議長須藤時一郎殿

（圖面略ス）

養育院感化部歳入出總計豫算

歳入

歳出臨時費	二四、二二六・七二三円
歳入出差引殘金	一、四九二・七五〇
內金壹萬貳千參百四拾八圓九拾四錢參厘	二二、七三三・九七三
金壹萬參百八拾五圓參錢	感化部基金ニ編入
	感化部設置費翌年度ニ繰越

三月十三日ノ第一讀會ニ於テ、**曲木如長君**ノ動議ニ依リ、議長指名五名ノ委員ニ調査ヲ附託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ

千澤專助　木村莊平　峰尾勝春　伊東勅典　松崎權四郎

委員ハ**峰尾勝春君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、三月十八日ノ會議ニ於テ原案ヲ相當ナリト認メタル旨報告シタルニ、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第拾六節　小學校增設問題

明治三十一年十一月二十一日ノ會議ニ於テ調査ヲ附託セラレタル第九十一號議案調査委員（第壹章明治三十一年第六節參照）ハ審査ノ末、三月十三日ノ會議ニ於テ、調査ノ結果ヲ左ノ如ク報告セリ。

第九十一號議案調査委員意見報告

委員ハ屢々集會審査ノ末、別紙ノ通リ決議セリ。其詳細ハ口頭ヲ以テ陳述スヘシ。

右及報告候也

明治三十二年三月十日

調査委員

久徳猶行　五味卯三郎
藤田藤一郎　關幸太郎
中澤彦吉　峰尾勝春
元田肇　伊藤勅典
磯部武者五郎　松崎權四郎
杉田武　村上耕一郎
河原伊平　石川顯一郎

東京市會議長須藤時一郎殿　町田朝太郎

（別紙）

第九十一號議案調査委員意見報告

本市小學校增設ノ必要アルコトハ固ヨリ認ムル所ナレドモ、市費多端ノ今日俄カニ多額ノ支出ヲ許サヽルヲ以テ、本市ニ於テ刻下新設ノ不可已場所ハ之ヲ新設シ、其他ハ代用、及ヒ私立小學校中特ニ精密ノ調査ヲ爲シ幾分ノ補助ヲ以テ代用ノ實效ヲ擧ケ得ヘキモノハ、當分之ヲ補助シ、且細民ノ子弟ヲシテ可成入學シ得ヘキ方案ヲ具ヘ、更ニ答申案ノ提出アランコトヲ望ム。

理由

一、本市ニ於ケル小學校增設ノ必要アルコトハ固ヨリ認識スル所ナリト雖トモ、其方法施設ノ如何ニ依リテハ、市費多端ノ今日俄カニ之レカ設立ヲ許サス、而シテ今當局者ノ算定セル學齡兒童、及ヒ就學兒童ノ調査ノ如キ往々事實ヲ誤レルモノアリ、依テ本市ノ現狀ニ照シ、尤モ機宜ニ適シタルモノト認ムヘキ方法ハ、私立小學校中其設備佳良ニシテ、國民教育ヲ託スルニ足ルヘシト認ムルモノヲ精撰シ代用トナシ、之ト既設ノ學校トニ收容シ得ヘキ學齡兒童數ヲ控附シ、其殘餘ニ對シ之ヲ收容スルニ足ルヘキ校數、即事實新設ノ必要ニ迫レルモノヲ算出シ、以テ其緩急ノ度ヲ斟酌シ、順次建設ニ着手シ、徐ロニ其完成ヲ期スルニアル事。

一、各區ノ必要ニ應シ、其新設學校數中ノ一校、若クハ數校ハ、授業料減免、若クハ其他ノ方法ニ依リ。何人ノ子弟モ入學スルコトヲ得ヘキ性質ノモノタラシムヘキ事。

一、本市立尋常小學校ノ設備等ヲ猶豫スルノ機關タル代用小學校ニ對シテハ、適當ノ補助ヲ與ヘ、其施設ヲ完全

ナラシムル事。

一、前顯ノ主旨ニ基キ補給スヘキ方法ハ、大要左ノ如クナルヘキ事。

(イ) 教員俸給ノ幾分ヲ直接其教員ニ向テ給與スル事。

(ロ) 教員中精勵ニシテ功勞アルモノニ對シテ、年功加俸ヲ給與スル事。

一、代用小學校ニ對シテハ市立小學校ト同一ノ監督ヲナシ、且每年豫算、決算等ヲ表示セシメ、又當局者ニ於テ監督上必要ト認ムル事項ヲ定メ、每月末設立者ヨリ提出セシムル事。

而シテ委員長**町田朝太郎君**ハ、委員會ノ經過ヲ左ノ如ク說明セリ。

本案ハ教育上及經濟上、本市ニ及ボス關係頗ル大ナルモノアルヲ以テ、出來得ル限リ精密ニ調査シタル爲メ、意外ノ日子ヲ費シ、從テ報告ノ遷延シタルヲ謝ス。府知事ノ諮問ハ、市立小學校ニ入學セルモノヽミヲ就學兒童トシ、代用及ビ私立小學校等ニ入學セルモノハ、總テ之ヲ不就學兒童ト看做シタルニヨリ、諮問案添附ノ參考表ニハ、就學兒童二萬九千四十六人、不就學兒童五萬四千二百八十一人トナリ居レリ。而シテ小學校增設ノ理由トスル所ヲ聞クニ、日本全國ニ於ケル就學兒童ノ平均ハ、學齡兒童數ニ對シ四分五厘ナルヲ以テ、此比例ニ依リ明治二十八年以後三箇年間ノ本市學齡兒童平均數十八萬五千百七十五人ノ內、八萬三千三百二十七人ハ就學スルモノトシテ計算シ、此內ヨリ現在市立小學校ニ收容セル二萬九千四十六人ヲ控除シ、其殘數五萬四千二百八十一人ヲ市立小學校ニ對スル不就學兒童ト看做シ、之ヲ收容スルニハ一校六百人ヲ定員トシテ、九十校ノ增設ヲ要スト云フニ在ルナリ。然レドモ代用小學校生徒ト云ヒ、其他ノ私立小學校生徒ト云フモ、皆是レ教育ヲ受ケ居レルモノニシテ、縱ヒ多少不完全ノ點アリトスルモ、其生徒ヲ不就學兒童トハ認メ難シ。故ニ吾々ハ之ヲ就學兒童ト看做シ、警察署及區役所等ニ就キ、更ニ實際ノ調査ヲ遂ゲタリ。今其結果ヲ示セバ左ノ如シ。

一、學齡兒童總數　十四萬二千四百八十五人

內譯

就學兒童數	八萬八千八百二十四人
不就學兒童數	五萬三千六百六十一人

此員數固ヨリ一人ノ相違ナシトハ保證シ難キモ、東京府知事ノ取調ニ比スレバ、遙ニ正確ナルヲ信ジテ疑ハザルナリ。然ルニ當局者ハ、何故カ代用小學校其他ノ私立小學校生徒ヲ以テ、就學兒童ト看做サヽル爲メ、不就學兒童數ハ非常ニ多キ割合トナレリ。左レバ當局者ガ本市ノ教育事業ヲ以テ、京都、大阪、名古屋等ニ比シ、頗ル遜色アルモノヽ如ク云ハルヽモ、實際ハ大ニ相違セリ。成程單ニ市立小學校ノミニ就テ之ヲ比較セバ、蓋シ大阪市等ニ劣ル所アルベシ。然レドモ本市ニハ代用小學校百七十八校、非代用私立小學校百九校アリ、之ヲ眼中ニ置カズシテ、京都、大阪ノ如キ代用小學校ナキモノト同一ニ論ズルハ、東京市ノ現狀ヲ知ラザルモノト云フモ敢テ過言ニアラザルベシ。併シナガラ吾々ト雖モ現在ノ代用其他ノ私立小學校ヲ以テ、完全ナル國民教育機關ト認メ、之ヲ永遠ニ保存スルノ精神ニアラズ。唯府知事ノ如ク全ク之ヲ無視シ、其生徒ヲ悉ク不就學兒童中ニ算入シ。更ニ教育ヲ受ケザルモノト看做スノ甚ダ失當ナルヲ信ズルノミ。又不就學兒童ノ十中八九迄ハ、貧民ノ子弟ナルヲ以テ、是等ノモノハ如何ニ校數ヲ增加スルモ、其小學校ニシテ現在通ノモノタラシムレバ、是レニ入學セシムル事ナカルベク、從テ九十校ヲ增設スルモ、其結果ハ、代用其他ノ私立小學生徒ヲシテ、市立小學ニ轉ゼシムルニ過ギザルベシ。斯クテハ切角ノ趣旨ニ背戾スルガ故ニ、成ルベク細民ノ子弟ヲモ入校セシメ得ル方法ヲ講ゼザルベ

カラズ。

要スルニ委員會ハ小學校增設ノ必要ヲ認メザルニアラズト雖モ、市費多端ノ今日、俄ニ多額ノ支出ヲ許サヾルノミナラズ、前陳ノ如キ理由アルニ依リ、刻下新設ノ已ムベカラザルモノニ限リ之ヲ新設シ、其他ハ特ニ精密ノ調査ヲ遂ゲ、私立小學校中設備良好ニシテ國民教育ヲ託スルニ足ルベキモノヲ精選シ、之ニ當分ノ內相當ノ補助ヲ與ヘテ、市立小學ノ代用校ト爲シ、細民ノ子弟ヲシテ入學セシメ得ベキ方案ヲ具シ、更ニ答申案ノ提出ヲ望ムコトニ決議シタリ。其方法ハ、理由書ニ詳記シアルヲ以テ玆ニ贅セズ。

次イデ少數委員ヨリ、左ノ意見報告アリ、

第九十一號議案調査委員少數意見報告

本市比年人口戶數ノ繁殖ニ伴ヒ學齡兒童亦益增加シ、現在ノ小學校數ニテハ、既ニ缺クル所アルヲ免レサルハ爭フヘカラサルノ事實ナルノミナラス、我々ノ調査シタル所ニ因レハ、各區皆ナ之レカ增設ヲ必要トスルヲ以テ、東京府知事ノ諮問ニ係ル小學校增設ノコトハ、固ヨリ必要已ムヘカラサルモノト認ム。而シテ其增設校數ニ關シテハ、主トシテ本市學齡兒童數ノ割合等ニ基キ打算シタルモノナリトス。然ルニ統計方法ノ完全ナラサル今日ニ在テハ、固ヨリ實際ト多少相違スル所アルヘキハ明ナリト雖モ、今俄ニ確實ノ統計ヲ見ルヲ得サルヲ以テ、暫ク此校數ニ對シテハ異議ナキモノトセサルヘカラス。然レトモ本件增設ノ方案トシテハ、以上ノ事實ト本市經濟上ノ實況トヲ審査シ、先ツ左記ノ如ク企畫經營スルヲ以テ尤モ時宜ニ適シタルモノト認定ス。

一、增設スヘキ尋常小學校ハ、從前ノ例ニ因リ區ニ於テ其設立維持ヲ負擔スルモノトス。

一、市ニ於テハ、明治三十二年度以降每年度豫算中ニ新タニ小學校建設資金ナル費目ヲ設ケ、小學校增設事業第一期トシテ、五箇年間每年五萬圓ヲ支出シ、各區尋常小學校建設費ヲ補助スルモノトス。

一、建設資金ハ增設小學校一校每ニ、區ニ於テ定メタル建築費豫算總額ノ三分一ノ割合ヲ以テ交付スルモノトス。

但各年度中支出殘餘アルトキハ、順次翌年度ニ繰越シ、之ヲ積立置キ、小學校建設費外ニ流用スルヲ得サルモノトス。

一、小學校建設事業第一期五箇年ヲ經過シタル後チ、其實蹟ヲ調査シ、更ニ第二期建設事業ヲ企畫經營スルモノトス。

明治三十二年三月十日

提出者　關幸太郎　河原伊平　磯部武者五郎

東京市會議長須藤時一郎殿

關幸太郎君、少數委員ヲ代表シテ、多數委員ノ意見ニ反對ノ理由ヲ左ノ如ク述ベタリ。

抑〻國民教育ハ法律上市ノ義務ニ屬シ、而シテ本市目下ノ狀況ニ照シ、小學校增設ノ已ムベカラザルコトハ何人モ認ムル所ナリ。多數委員モ、此點ニ對シテハ毫モ異議ナキ所トス。然ルニ校數增加ノ必要ヲ認メ、殊ニ議案修正ノ權利ヲ有スルニモ拘ハラス、自ラ其權能ヲ拋棄シ、市參事會ヲシテ更ニ發案セシムルコトヲ決議シタル多數委員ノ不見識ハ、實ニ驚クノ外ナシ。本員ハ町田君ノ報告ヲ以テ、體好キ一種ノ否決論ナリト評スルヲ憚ラズ。

元來府知事ハ其職權ニ由リテ諮問シタルノミナラズ、市會ハ官廳ノ諮問ニ對シ、意見ヲ陳述スベキ義務ヲ有スルコトハ、市制第三十四條ニ明文アルヲ以テ、多數委員ノ意見ハ、道理上ヨリ考フルモ、法律上ヨリ見ルモ、自己ノ責任ヲ盡サヾルモノト云ハザルベカラズ。是レ吾々ガ少數意見トシテ修正報告ヲ爲シタル所以ナリ。

修正案提出ノ理由ハ上來陳述スルガ如シ、而シテ兒童數ハ町田君ヨリ報告アリタル如ク、區役所及ビ警察署ニ就キテ取調ベタル結果、粗〻其數ヲ知得シタレドモ、未ダ確實トハ認メ難シ。依テ他ノ方面ヨリ各區ニ必要ノ校數ヲ承知セント欲シ、委員會ニ於テ各委員ニ對シ、一々拙者ヨリ質問ヲ試ミタルニ、速答セラレタルモノアリ、又何故カ答辯ヲ拒マレタルモアリキ。故ニ此點モ亦確乎タル取調ヲ遂グル能ハザリシモ、增設ヲ要スルハ明白ナル事實ニシテ、多數委員モ亦之ヲ認メ居レリ。依テ彼此斟酌シ、本市ノ負擔ニ耐ヘ得ベキ限度ニ於テ立案シタリ。即チ市參事會ノ提案ハ、年々七萬圓ヲ支出スルニ在ルモ、經費多端ノ今日年々七萬圓ノ支出ハ過重ノ負擔ナルベシト思惟シ、毎年度ノ支出額ヲ五萬圓ニ修正シ、校舍ノ設立ハ從前通リ區ノ負擔トシ、而シテ市ハ其建築費總額ノ三分ノ一ヲ補助スルモノトス。但此校舍增設事業ハ五ケ年ヲ以テ一期ト爲シ、其實績ヲ見テ更ニ第二期事業ヲ企畫スルノ意見ナリ。

小川義春君ハ、少數委員ノ意見ニ贊成シテ曰ク、多數委員ノ報告ハ府知事ノ諮問ニ對スル答申ニ非ズシテ、市參事會ニ改メテ發案ヲ望ムモノナリ。諸君ハ何故議會固有ノ權能ニ因リ、相當ノ修正ヲ加ヘザルヤ。又私立小學校中其設備佳良ニシテ國民教育ヲ託スルニ足ルベシト認ムルモノヲ精選シ、之ヲ代用小學校ト爲サバ、教育上差支ナキカ如ク報告書ニ記載シアルモ、其之ヲ精選スル標準ヲ示サザルヲ以テ、果シテ幾校位ヲ得ラルベキ乎、之ヲ豫定スル能ハズ、市參事會モ亦之ガ取調ニ苦ムベシ。併シナガラ本員ガ取調ベタル所ニ依テ推察ヲ下セバ、其代用小學校ト爲シ得ル資格アルモノハ實ニ僅少ナルガ如シ。故ニ本員ハ寧ロ少數委員意見ノ如ク、增設校數ハ府知事諮問ノ通リ九拾校ヲ可トシ、而シテ先ヅ第一期建設事業トシテ五箇年間五萬圓ヅヽ補助スルニ如カズト信ズ。次ニ本案參考書ノ兒童數ハ、正確トハ云ヒ難キモ、多數委員ノ云ヘル所ト大差ナカルベシト思惟ス。元來戸口ノ增加ニ伴ヒ、學齡兒童亦增加スルハ明瞭ナル事實ナレバ、五箇年間ニ二十五校位建設スルモ、決シテ多キニ失スルコトナキノミナラズ、現ニ私立小學校ニ就學セル兒童數ヲ控除スルモ、尙全ク就學セザル者一萬四千人餘アル由、是等兒童ヲシテ就學セシムルノ途ハ、是非此際ニ於テ之ヲ講ジ置カザルベカラズ。年額五萬圓位ノ支出ニ躊躇シ、當分增設ヲ見合ストセン乎、數年ノ後ニハ一時ニ多數ノ建設ヲ要スルニ至リ、却テ經濟上ニ一大影響ヲ與フベキニ因リ、寧ロ今ヨリ除々ニ建設スルヲ得策ト認ム。況ンヤ斯クスルモ尙代用小學校ヲ自滅セシムルガ如キコトナキニ於テヲヤ、是レ本員ガ少數委員ノ意見ニ同意ヲ表スル所以ナリト。小川君ノ此ノ意見ニ對シテ、**峰尾勝春君**ハ、委員ノ調査ヲ以テ如何ニモ粗漏ナルガ如ク論ゼラレシモ、小川君ノ議論ハ大ニ過レリト評セザルヲ得ズト駁シ。**城數馬君**ハ、本員ハ原案竝ニ多數少數兩委員ノ意見ニモ全然反對ナリ。元來府知事諮問ノ要旨ハ、小學校令第二十六條ニ從ヒ、本市ニ增設スベキ尋常小學校ノ校數竝ニ其位置ニ關スル意見ヲ聽カント欲スルニ外ナラズ、然ルニ理事者提出ノ原案竝ニ多數少數兩委員ノ意見ハ、諮問以外ノ事項ニ涉リ、或ハ設立維持ノ負擔者ヲ定メ、或ハ建築補助費ヲ豫定シ、又ハ其補助方法ヲ定メ、若クハ補給ノ期間ヲ限定セント欲スルニヨリ、種々ノ議論ヲ生ズルニ至レリ、仍テ單ニ增設ノ校數竝ニ其諮問ノ通異議ナキ旨ヲ答申スル事ニ原案ヲ修正セント欲スト論ジ。多數委員ノ意見ト、少數委員ノ意見トニ就キ、贊否ノ兩論容易ニ決セズ、**黑田綱彥君**ハ、城君ノ說ニ贊成シ、而シテ是ガ成立セザル時ハ、原案ニ、原案ノ成立セザルトキハ、少數委員ノ意見ニ贊成スルヲ順序ト認ムト述ベ。**町田朝太郎君**ハ、原案ノ統計ハ誤謬アリテ標準ト爲シ難キヲ以テ、更ニ計算ヲ立テ、發案

ヲ望ムモノナリト、多數委員ノ意見維持ニ努メタルガ、採決ノ結果、多數委員ノ意見、及ビ城君ノ說ハ、何レモ少數ニテ消滅シ、結局少數委員ノ意見通可決セリ。

附記　小學校增設ニ關スル東京府知事ノ諮問ニ對シ、市參事會ハ前記少數委員ノ意見通リ答申シタルニ據リ、府知事ハ三十二年三月府令第十五號ヲ以テ、增設スベキ尋常小學校ノ校數竝ニ位置ヲ左ノ通定メタリ。

校數	位置
四	麹町區內
八	神田區內
五	日本橋區內
十	京橋區內
八	芝區內
三	麻布區內
二	赤坂區內
三	四谷區內
七	牛込區內
三	小石川區內
四	本郷區內
七	下谷區內
十七	淺草區內
四	本所區內
五	深川區內
計　九拾校	

右小學校ノ設立維持負擔ノ件ハ、明治三十二年六月府令第三十九號ヲ以テ公示セラレ、次デ市參事會ハ市訓令甲第二十四號ヲ以テ、增設小學校建設費補給方法ヲ定メタルガ、是ヨリ先各區增設小學校建設費補助ニ充ツル爲メ、教育資金ナル特別經濟ヲ設定シ、五月九日ノ會議ニ於テ、是ニ編入スベキ費用ノ支出、即チ明治三十二年度ヨリ明治三十六年度ノ五箇年ニ亘リ、每年五萬圓宛、合計貳拾五萬圓ヲ支出スベキ繼續歲出豫算ノ提出アリ、市會ハ即日滿場異議ナク之ヲ可決シ、尙三十二年度ニ屬スル五萬圓ノ歲入出豫算モ同日議決セリ。斯テ小學校增設事業ハ、玆ニ其緖ニ就クヲ得タリ。而シテ同教育資金ニ依ツテ、三十二年中ニ補給ノ議決ヲ爲シタルモノ左ノ如シ。

議決年月日	區名	位置	校數	建設費豫算	補給金
十二月二十一日	神田	橋本町一丁目	一	九、四一四・〇〇〇円	三、一三八・〇〇〇円
同	四谷	左門町	一	二〇、二六四・七二四	六、七五四・九〇八
同	淺草	馬道七丁目	一	一九、〇一四・一〇五	六、三三八・〇三五
計			三	四八、六九二・八二九	一六、二三〇・九四三

第十七節　道路改築事業

第二十二號

歳出臨時費　東京市自明治三十二年度至明治三十六年度繼續歳出總計豫算　金百萬九千八百五拾六圓

内譯

金拾萬圓	明治三十二年度支出額
金貳拾貳萬七千圓	明治三十三年度支出額
金貳拾貳萬七千圓	明治三十四年度支出額
金貳拾貳萬七千圓	明治三十五年度支出額
金貳拾貳萬八千八百五拾六圓	明治三十六年度支出額

説明　本市道路ハ被覆薄弱ナル砂利道ニシテ、常々修理ヲ怠ラサルモ終ニ路面ノ整備ヲ期シ難ク、殊ニ近時商工業ノ發達ニ伴ヒ、車輛交通益頻繁ヲ加ヘ、道路破壞力ノ劇甚復タ昔日ノ比ニ非ス、其改良ノ忽諸ニ付スヘカラサルハ論ナキノミ。然レトモ今邇ニ歐米各國ニ行ハル、最良ノ方式ヲ採用スルハ、策ノ得タルモノニ非ス。其故如何トナレハ、本市營造物ノ中、水道鐵管ノ布設稍其全部ヲ竣成セシノミニテ、下水改良工事ノ如キ目下緊要ノ問題ニ屬シ、他日之ヲ實行スルトキハ、復ヒ路盤ヲ掘鑿シ全形ヲ失フニ至ルヘケレハナリ。故ニ此等ノ方法ヲ採用スルハ尚數年ノ後ヲ待タサルヘカラス。依テ先ツ姑ク舊樣ニ比シテ稍堅牢ナル割栗道ヲ築造スルモノトシ、市内道路中交通繁劇ナル路線ヲ撰擇シ、之ヲ五ケ年繼續事業トシテ、初年度ニ於テ拾萬圓ヲ支出シ、明治三十二年度ヨリ實施セントス。

（參照）改築豫定路線延長面積左ノ如シ

	延長	面積	平均金額
改築道路第一着	六、四四一・四間	二九、五七七・一坪弱	一〇〇、〇〇〇・〇円
改築道路第二着	一四、七八四・五	六七、一三九・九	二二七、〇〇〇・〇〇〇
改築道路第三着	一九、四二六・八	六七、一三九・九	二二七、〇〇〇・〇〇〇
改築道路第四着	一四、六五〇・七	六七、一三九・九	二二七、〇〇〇・〇〇〇
改築道路第五着	一二、二四七・二	六七、六八八・八	二二八、八五六・〇〇〇
合計	六三、五五〇・六	二九八、六八五・六	一、〇〇九、八五六・〇〇〇

三月二十七日ノ第一讀會ニ於テ、市長**松田秀雄**君ハ、提案ノ理由ヲ左ノ如ク説明セリ。

今ヤ市ノ經營スベキ事業甚ダ多ク、急施ヲ要スルモノモ亦夥シト雖モ、就中急務中ノ急務トスルハ、土木事業中ノ道路ニシテ、其改築ハ最モ急施ヲ要スルモノト認メ、第一着ニ之ガ實施ヲナスノ考ヘナリ。元來道路ニ付テハ年々少ナカラザル費額ヲ支出シ、常ニ修繕ヲ怠ラザルモ、如何セン時勢ノ變遷ニ伴ヒ、諸物價騰貴シ、從前ノ支出額ニテハ到底堪ヘ難ク、結局路面ノ整備ヲ期シ得ベクモアラザルニ因リ、既ニ普通市制實施前、即チ明治三十年八月ヲ以テ土木部ヲ設置シ、當事者ハ黽勉其整備施工ニ努力シ來レルモ、社會ノ進歩ト共ニ車馬ノ往來繁劇ヲ加ヘ、殊ニ重量アル車輛ノ爲メ道路ノ破壞一屬劇甚ナルモノアルハ、實ニ驚クニ堪ヘタリ。故ニ特別市制廢止後參

事會ハ最モ道路ニ注意シ居ルモ、何分市經濟ハ道路ノミニ巨額ノ經費ヲ投ズルヲ許サズ、然リトテ現在ノ路盤ニテハ何程修繕ヲ加フルモ、到底其甲斐ナキヲ以テ、茲ニ改築ノ已ム可ラザルヲ感ジタリ。而シテ其改良方法ニ就イテハ種々アリト雖モ、歐米各國ニ行ハル、木道、石道、若クハ土瀝青路ノ如キ最良ノ方式ハ、少クモ一坪貳拾五圓若クハ參拾圓ノ多額ヲ要シ、今日ノ市經濟ニテハ到底之ガ支出ヲ許サズ、假令一歩ヲ進メテ、彼ノ最良方式ヲ採用セントスルモ、本市ノ利害如何ト言ハヾ、未ダ他ノ事業ノ是ニ伴ハザルモノアリ。市營造物中、水道鐵管ノ布設ハ稍〻其全部ヲ竣成シタリト雖モ、下水改良工事ノ如キ、保健衞生上緊要ノ問題ニ屬シ、是ガ實施ニ著手スルトキハ、再ビ路盤ヲ掘鑿シ、刻若築造シタル路盤ノ全形ヲ失ハシムルニ至ルベシ。故ニ斯ル大改築ハ未ダ其時期ニ非ズ、然レバトテ現在ノ被覆薄弱ナル砂利道ニテハ、行通上不便多キノミナラズ、容易ニ破壞サルル虞アルヲ以テ、先ヅ姑ク舊樣式ニ比シテ稍〻堅牢ナルモノ、即チ前年四谷通リニ施工セシ割栗道路ヲ築造スルノ考ニテ、茲ニ本案ヲ提出シタル次第ナリ。

割栗道路ハ、木道、石道等ニ比シ、工費頗ル少額ニシテ、事業モ亦左程困難ナラズ、然レドモ之ヲ市全體ノ道路ニ施行スルコトハ、財政上許サヾルガ故ニ、餘儀ナク本市道路總面積百九十四五萬坪中、凡ソ六分ノ一、即チ二十七八萬坪ヲ改修スルノ見込ヲ立テタリ。而シテ其着手法ニ就テハ、緩急ヲ圖ルコト勿論ナルガ、要スルニ市内ノ道路中、其最モ交通繁劇ナル路線ヲ選ビ、五箇年繼續事業トスルノ見込ニシテ、其個所ハ已ニ豫定線路モ調査シアルヲ以テ、此調査ニ基キ順次施行スル方針ナリトス。改築道路ハ右ノ次第ナルガ、普通道路ハ如何ト云フニ、是亦現在ノ儘ニ爲シ置ク能ハズ。故ニ從來ハ道路總面積五分ノ一、若クハ四分ノ一ノ豫定ニテ修繕ヲ爲シ來リシモ、今年度ヨリハ三分ノ一トシタリ。斯ク一方ニ於テハ道路ヲ築造シ、他方ニ於テハ修繕面積ヲ增加シテ其施工ニ努メタランニハ、首府ノ道路トシテ誇負スルニ足ラザルマデモ、世間ノ非難ハ免ルヽヲ得ベシ。地中工事タル水道ノ如キモ遠カラズ竣工スベク、又警視廳令ニ從ヒ車輪ノ制限ヲ勵行セバ、道路ニ對スル本市ノ不面目ハ一洗シ得ベシト思惟ス。要スルニ本市ノ道路ハ漸次改良ノ方針ヲ採リ、充分施工シタキ考ナリ。

町田朝太郎君先ヅ問ウテ曰ク、道路改築ニ從事スル吏員ノ增員ヲ求ムルヤ如何。尙序ニ豫定線路取調書ノ配付ヲ望ムト。**松田市長**是ニ答ヘテ曰ク、本案ハ多分委員附託トナランガ、其場合ニハ、改築路線モ理事者ノ取調ベタルモノ以外、區ニ對シテ最モ頻繁ナル場所ノ取調ヲ煩ス考ナレバ、夫等ヲ取纏メテ配付スルコトヽスベシ。又吏員ヲ增加スルヤ否ヤハ、至極尤ノ御質問ナルガ、此道路改築工事ニ付テハ特ニ吏員ノ增加ヲ要スベシト考フルモ、能フ限リ現在ノ吏員ヲ以テ差繰從事セシムル考ニテ、今ヤ主務省ト協議取調中ナリ。併シ斯ク申セバトテ、決シテ現時ノ吏員ニ餘リアルニアラズ、畢竟スルニ道路ノコトハ、水道其他ノ事務ヲ纏メテ取扱フ見込ナルガ故ニ、殊更增員ヲ求メザルナリト。斯テ**後藤亮之助君**ノ動議ニ基キ、議長指名九名ノ委員ニ調査ヲ附託スルニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

横山富次郎　今泉勝平　細井榮三郎　中澤彥吉　太田直次
秋虎太郎　利光鶴松　今井喜八　町田朝太郎

委員ハ**今井喜八君**ヲ委員長ニ推シ、審査ニ著手シタルガ、三月三十日ノ會議ニ於テ、**今井委員長**ヨリ、道路ノ改築ハ廣ク十五區ニ涉リ居レルヲ以テ、調査上種々都合アルニ由リ、一區一名ノ割合ヲ以テ總員ヲ十五名ト爲シ、議長指名ニテ六名ヲ增加セラレタシトノ請求アリ、市會ハ滿場異議ナク委員長ノ請求ヲ容レタルヲ以テ、議長ハ增員ヲ左ノ如ク選定セリ。

末吉忠晴　柿沼長豐　黒田綱彦　山本新平　磯部武者五郎
村上耕一郎

委員ハ審査ノ末、五月三日附ヲ以テ、左ノ意見報告書ヲ提出セリ。

第二十二號議案調査委員意見報告

委員ハ屢々集會審査ノ末、道路改築ノ必要ヲ認メ、總金額竝各年度ノ支出額共原案ニ據置キシモ、其第一着手路線ニ對シテハ、別紙朱書ノ如ク修正ヲ加ヘ、第二着手以下ノ路線ハ、年々決定スルヲ便利ナリト決議シ、委員ハ意見ヲ附セザルコトヽ爲セリ。

右及報告候也

明治三十二年五月三日

議長宛

調査委員連名

（別紙）

改築道路第一着

（右肩ノ○印ハ委員會ニテ加入　左側ノ｜印ハ委員會ニテ削除）

區名	個所	延長	道路全幅	改築幅員	面積	平均金額
麹町	麹町一丁目十七番地先ヨリ同五丁目十四番地先ニ至ル	二九〇・〇間	六・〇	四・〇	一、一六〇・〇坪	三、九二一・九六〇円
神田	地藏橋ヨリ柳町（舊柳原通）ニ至ル	五〇〇・〇	四・〇	三・〇	一、五〇〇・〇	五、〇七一・五〇〇
	湯島壹丁目本郷區堺ヨリ松住町河岸通ニ至ル	六〇・〇	四・〇	二四〇・〇	八一一・四四〇	
日本橋	地藏橋ヨリ江戸橋ニ至ル	四〇〇・〇	五・四	一、六〇〇・〇	五、四〇九・六〇〇	
京橋	南金六町五番地先ヨリ炭谷橋ニ至ル	六四九・〇	三・八	二、二七一・五	七、六七九・九四二	
芝	○櫻田本郷町九番地ヨリ新橋ニ至ル	六〇七・六	五・〇	四・五	二、七三四・三	九、二四四・六六八
	○新幸橋ヨリ櫻田本郷町九番地先ニ至ル	三八・六	一・二・〇	一〇・〇	三八五・七	一、三〇四・〇五二
	飯倉四辻八幡町ヨリ琴平町八番地先ニ至ル	五二〇・〇	一〇・〇	六・〇	三、一二〇・〇	一〇、五四八・七二〇
麻布	飯倉町二丁目ヨリ六本木町四十九番地先ニ至ル	五八一・七	八・〇	六・〇弱	三、四九〇・二弱	一一、八〇〇・一九〇
赤坂	○表町二丁目一番地先ヨリ警察署前ニ至ル	二四九・〇	一〇・〇	七・三余		
	青山北町五丁目一番地先ヨリ同六丁目郡境ニ至ル	四五五・〇	五・〇	四・〇	一、八二〇・〇	六、一五三・四二〇
四谷	鹽町三丁目ヨリ永住町ニ至ル	一三五・〇	一二・〇	七・〇	九四五・〇	三、一九五・〇四五
牛込	神樂坂下ヨリ船河原橋ニ至ル	一七五・〇	九・〇	六・〇	一、〇五〇・〇	三、五五〇・〇五〇
小石川	船河原橋ヨリ砲兵工廠前通リ水道橋ニ至ル	五二三・〇	八・五	六・〇	三、一三八・〇	一〇、六〇九・五七八
本郷	湯島一丁目一番地先ヨリ同四丁目七番地先ニ至ル	二三八・〇	一〇・〇	七・〇	一、六六六・〇	五、六三二・七四六
下谷	金杉下町四十二番地先ヨリ三輪町三十六番地先ニ至ル	四〇〇・〇	三・五	三・五	一、四〇〇・〇	四、七三三・四〇〇

淺草	聖天町七十番地先ヨリ山谷町ヲ經テ淺草町郡境ニ至ル	八二九・七	四・二	三・五	二、九〇三・九
本所	番場町四番地先ヨリ藥師河岸通リ枕橋ニ至ル	五二五・〇	五・五	四・五	
	緑町一丁目十八番地先ヨリ入江町地先江東橋ニ至ル	四七二・五	六・〇	五・〇	二、三六二・五
深川	永代橋際ヨリ福島橋ニ至ル	一四〇・〇	七・五	六・五	九一〇・〇
計		六、三四一・六六三六八九			二九、五七五・一二

九、八一八・〇八六

七、九八七・六一三

三、〇七六・七一〇

二〇〇、〇〇〇・〇〇〇

本案ハ五月九日ノ會議ニ上程、高山權次郎、石垣元七君等ト委員トノ間ニ左ノ應答アリタリ。

高山權次郎君　委員會ニ於テハ改築路線ニ修正ヲ加ヘタルガ、濕地ノ場所ニ割栗道路ヲ築造スルノ適否等ニ付テハ、充分調査ヲ遂ゲラレシヤ如何。

町田朝太郎君　芝區ノ部分ニ對シ、櫻田本郷町ヨリ新橋ニ至ル路線外一線ヲ加ヘタルハ、運輸交通極メテ頻繁ナルノミナラズ、往々御通輦アラセラル、路線ナルガ爲メナリ。之ニ反シ飯倉四辻ハ、下水改良ノ急施ヲ要スルモ、道路ノ改築ハ左程急ヲ要セズト認メ、之ヲ削除セリ。而シテ割栗道ノ堅牢ナル事ハ、四谷通リノ改築ニ於テ既ニ經驗アルガ故ニ、委員ハ大體本案ヲ是認シタルナリ。

石垣元七君　委員ニ問フ、電話地下線及ビ水道枝管敷設工事ヲ終ヘザルモ、本案道路ノ改築ヲ實行シテ差支ナキヤ。

黒田綱彦君　參事會員、即チ原案提出者ヨリ唯今ノ如キ質問アルハ頗ル奇異ノ感アリ。强ヒテ說明ヲ要ストナラバ、宜シク理事者ニ質問スベシ。

細井榮三郎君　委員會ニ於テモ石垣君ト同樣ノ懸念ヲ抱キ、理事者ニ對シテ質問シタルガ、電話局ニ於テ地下線工事等ノ爲メ道路ヲ掘鑿シタル場合ハ、其修繕ニ要スル實費ヲ同局ニ請求スル考ナリトノ答辯ヲ得タルヲ以テ、本案ヲ通過シタル次第ナリ。

峰尾勝春君ハ委員ノ修正ニ反對シテ曰ク、本市ノ道路ニ關シ、松田市長ハ衆議院ニ於テ大ニ攻擊ヲ受ケタリト聞ク、然レドモ本市ノ道路ヲシテ今日ノ如ク甚シキ破壞ヲ見ルニ至ラシメタルモノハ、抑ゝ何人ゾヤ。蓋シ政府ノ措置其宜シキヲ得ザリシガ大原因ヲ爲シタルモノニアラズヤ。何トナレバ東京市民ガ特別市制廢止ヲ冀望スルコト切ナリシニ拘ハラズ、政府ハ十箇年ノ久シキ之ヲ不問ニ附シ、而シテ其間僅少ノ府廳吏員ヲシテ市政ヲ執ラシメタルニヨリ、道路修理ノ如キ勢ヒ不行屆勝トナリタル結果、遂ニ今日ノ如キ大破壞ヲ見ルニ至リシナリ。遮莫、今ヤ特別市制廢止セラレ、普通市制ノ支配ヲ受クルコトヽナリタル以上ハ、最早吾々ノ責任ナルニ依リ、原案通リ速ニ道路ヲ改築シ、運輸交通ノ便ヲ計ルベシト。**五味卯三郎君**ハ、水道枝管、若クハ電話地下線敷設ノ如キ掘鑿事業ノ多キ今日ニ於テ、巨額ノ市費ヲ投ジテ道路ヲ改築スルハ、經濟上大ニ不得策ナルヲ以テ、當分ノ內從前通リ砂利道ト爲シ置クヲ可トスト論ジ。**高山權次郎君**ハ、第一著工事ノ「芝區櫻田本郷町九番地先ヨリ新橋ニ至ル」一線ヲ削リ、第二著工事ニ屬スル「麴町區九段下ヨリ飯田橋ニ至ル飯田町通リ」及ビ「九段坂下ヨリ俎橋ニ至ル」二線路ヲ第一著ノ部ニ組入ルベシトノ修正意見ヲ提出シタルモ、贊成者少數ニテ成立セズ、採決ノ結果、多數ヲ以テ委員會ノ修正通可決セリ。

第拾八節　馬車鐵道問題

▽馬車鐵道乘車賃値上認可取消問題　前年十二月二十日ノ會議ニ於テ設置サレタル東京馬車鐵道乘車賃錢復舊實行委員（第壹章明治三十一年第七節參照）ハ、其後數回東京府知事及ビ警視總監ヲ訪問スル所アリタルガ、三月七日委員長長谷川深造君ハ、市參事會ニ對シ左記事項取調方議長ニ請求シタルヲ以テ、議長須藤時一郎君ハ、即日之ヲ市參事會市長宛ニテ照會セリ。

第一　馬車鐵道賃錢値上ノ件ニ付テハ、市參事會ハ如何ナル行動ヲ採ラレシヤ。

第二　本市會ノ意見書ハ、府知事ニ提出セラレタルヤ。

第三　府知事ト交渉シタルコトアリヤ、若シアラハ其顚末如何。

第四　府知事ノ意見ハ如何。

第五　賃錢値上ノ際嚴重ナル道路改修等ノ命令條件ヲ付スヘキ豫定ナルコトハ、阪本書記官ノ明言スル所ナリ。然ルニ爾後數閲月ナルモ、未タ其所謂命令條件ナルモノヲ發セラレタルコトヲ聞カス。又本市會ニ諮問セラレタルコトナシ、右ハ如何ナル理由ナリヤ。

第六　警視廳カ賃錢値上ヲ許可セラレタル理由トシテ、風俗、衞生上ヨリ定員ヲ減少セシムルノ條件アリ、故ニ値上ト同時ニ該規定ハ同廳ニ於テ勵行セラレツヽアリ、然ルニ東京府カ軌道改修等所謂增額認可ニ付テノ條件ナルモノハ、爾後全ク行政ノ方針ヲ變セラレ、之ヲ廢止セシメタルモノナルカ。

第七　本市會及市參事會ハ、增額認可ヲ以テ不當ト議決セリ。東京府知事及警視總監ハ、之ヲ以テ相當ナリトセリ。是職責ヲ有スル行政廳ノ意見ニシテ相異ナルモ、又止ヲ得サル次第ナリ。唯行政上ノ事項ハ、政治上ノ事項ト異リ、特ニ曖昧秘密ニ付スルノ必要アラサルヘシ。馬車賃錢値上ノ如キモ、一行政上ノ所爲ナリ。故ニ職責ヲ帶ヒ之ヲ承引セラレタル東京府廳ハ、之カ値上ヲ許可セラレタル上、該會社業務上改良ヲ勵行セシメントノ意見アラハ、明瞭ニ之ヲ解示シ、以テ世人ノ疑惑ヲ氷解セラルヽヲ相當トス。然ルニ東京府廳當局者ノ意見ハ、頗ル明瞭ヲ欠キ、常ニ要領ヲ得ス。是本委員會ノ頗ル遺憾トスル所ナリ。依テ市參事會ハ、此點ヲ明瞭ナラシメンコトヲ希望ス。

右ニ對シ、松田市長ハ同月二十七日附ヲ以テ左ノ如ク回答セリ。

第一　昨年十一月府知事ニ對シ、本件値上ハ市民交通上一大障礙ヲ起生スルモノナルコト、竝ニ本件ノ如キ本市ニ直接利害ノ關係アル事項ハ、處分前本市ノ意見ヲ諮問セラレ度事ヲ具申シ、併セテ賃錢値上認許ニ付テハ、會社ニ向ヒ營業上改良ノ條件ヲ付セラレタルヤ否ヲ質問セシモ、其回答ヲ得ス、依テ爾後再三督促シタルニ、府知事ハ該會社ニ軌道改修ノ事ヲ命スヘキ筈ニシテ、其改修方法ニ關シテハ、市參事會ニ諮問ノ手續ヲ爲スヘキ旨ノ談アリタリ。

第二　直ニ提出セリ。

第三　府知事ニハ市長ヨリ直接交渉シタルコト數回ニ及ヘリ。而シテ府知事ノ答ハ、毎ニ警視廳ト交渉中ナリトノ事ナリキ。

第四　府知事ハ、事情ノ許ス限リハ可成市會ノ意見ヲ貫徹セシメ度意見ナリト云フ。

第五　道路改修ノ事ニ關シ諮問ノ延引セシハ、賃錢ノ事ニ關シ警視廳トノ交渉、及ヒ會社ニ對シ說諭中ナリシニ依ルト云フ。

第六　行政ノ方針ヲ變更シ、條件ヲ廢止セシニアラスシテ、第五ノ如キ次第ナリシト云フ。

第七　府知事ハ、先ツ第四ノ意見ヲ以テ警視廳ニ交渉セシモ、遂ニ協定ヲ得ス。又一方ニハ會社ニ向ヒ賃錢値下ノ說諭ヲ爲セシニ、到底値下ヲ爲シ難シトノ申出アリ、而シテ會社ハ每年金五千圓宛ヲ參箇年間、市ノ道路修繕費ニ寄付セントスルノ見込アル旨ヲ申添ヘタリトノ談アリ。但市參事會ハ、頃日府知事ヨリ會社ノ軌道改修ニ關スル諮問ニ接セラルヽトノ事。

斯テ委員ハ、馬車鐵道乘車賃値下ニ關シ種々盡力スル所アリ、三月二十七日ノ會議ニ於テ、其結果ヲ左ノ如ク報告セリ。

馬車鐵道賃錢値下ケ勵行ニ關スル委員報告

一、委員ハ賃錢値上ケ取消ヲ請求スル爲メ、東京府知事ト數回面接ノ末、尙警視總監ヲ訪問シ、左ノ如キ確答ヲ得タリ。

東京府知事意見

馬車鐵道會社賃錢變更ノコトニ付テハ、警視廳ヘ照會セシニ、同廳ハ之レニ應セス、當廳モ亦該會社ヘ與ヘシ認可ハ之レヲ取消スコトヲ得ス、然レトモ賃錢値下ケノ事ニ付テハ、該社ノ社長ヲ招キ說諭ヲ試ミタルニ、同人ハ一個人ノ會社ニアラス、故ニ即答ハ爲シ難シ、而カシ重役等ト協議ノ上、何分ノ挨拶ヲ爲ス可キ旨ヲ答ヘタリ。

其後該會社ハ、重役中野武營ヲ以テ曾テ御談示ノ賃錢値下ケノ儀ハ御說諭ニ應シ難キモ、東京市道路修繕費ノ內ヘ本年ヨリ三箇年間、一箇年五千圓宛寄附スルコトニ致シタシ、且在來ノ軌道ニ付テハ、夫々修繕ニ着手中ナリト申出タリ。

委員ノ問ヒニ對シ、知事ハ會社ヘ命令ス可キ軌道改修ノコトハ、現今取調中ナリ。其調査濟ノ上ハ、市參事會ノ意見ヲモ聞キ、實行セシムル心得ナリト陳ヘラレタリ。

警視總監意見

馬車鐵道會社ヘ對シ乘車賃錢値上ノ認可ヲ與ヘシハ、乘載制限ヲ命シタル結果トシテ、會社ノ出願ニ基キ東京府ニ於テ先ツ認可ヲ與ヘシ故、之レニ同意ヲ表セシナリ。故ニ現時値上ケノ件ニ付テハ、敢テ其不當ヲ認メス。然シ道路改修ハ刻下ノ急務ナレハ、之レカ修繕ハ最モ希望スル所ナリ、況ンヤ內地雜居モ目睫ノ間ニ迫リタル今日ニ於テヲヤ。故ニ知事ヨリ値上ケ認可取消ノ同意如何ニ就キ意見ヲ徵シ來リタルモ、直チニ不同意ノ旨ヲ回答シタリ。併シ値下ケヲ爲スモ道路改修ヲ充分ナラシムルニ於テハ、其値下ケノ點ニ付敢テ異議アルニアラス。

前揭府知事及總監ノ意見ニ依ルトキハ、更ニ再協議ノ必要ヲ認メタルニ付、知事ニ對シ、尙ホ總監ニ面談協議ヲ遂ケ其席ニハ委員モ參列シ度キコトヲ要請シタリ。然ルニ知事ニ於テハ、此上再議ノ必要ヲ認メスト答ヘラレタリ。

右及報告候也

但詳細ノ理由ハ口頭ヲ以テ陳述スヘシ

明治三十二年三月二十三日

委員　長谷川深造　稲田政吉

高橋庄之助
峰尾勝春
太田直次

東京市會議長須藤時一郎殿

而シテ委員長**長谷川深造君**ハ、委員會ノ經過ニ就キ左ノ如ク說明セリ。

吾々委員ハ當選以來孜々トシテ調査ニ從事シ、其結果ヲ疾クニ報告スベキ筈ナリシモ、府知事竝ニ警視總監等ハ、往訪ノ都度「照會中ナリ」トカ「取調中ナリ」トノミ稱シ居リテ、要領ヲ得ズ、數回訪問ノ末、漸ク本月ニ至リ報告書記載ノ如キ確答ヲ得タル次第ニシテ、決シテ委員等ノ怠慢ニ由レルニアラズ。委員等ト府知事トノ最終ノ會見ニ於ケル府知事ノ談話ハ、要スルニ會社ニ於テハ到底値下ノ說諭ニ應ジ難シ、然シナガラ本市道路改修費中ヘ、本年ヨリ三箇年間、一箇年五千圓宛寄附シタキ旨申出デタリト云フニアリキ。道路ノ整備ハ全市民ノ熱望シツヽアル所ナルモ、本件委員ノ任務ハ、値下勵行ニ關スル權限ニ止マルヲ以テ、他事ニ立入ルコトヲ避ケタリ。委員會ノ結果ハ上來述ブルガ如クニシテ、遺憾ナガラ其效ヲ奏セザリキ。依テ玆ニ其顚末ヲ報道シ、併セテ目的ノ貫徹セザリシヲ謝ス。

次イデ**久德鈞行君**ハ委員ニ注意シテ曰ク、委員ノ勞ハ多謝スルモ、報告書中「市道路修繕費ノ內ヘ五千圓宛寄附云々」ノ記載アルハ、本市ガ金錢ヲ貪ルモノヽ如ク見ユルヲ以テ、此點削除スルヲ可ナリト思惟スト。**黑田綱彥君**ハ、苟モ百四十萬市民ノ代表機關タル當市會ニ於テ、馬車鐵道乘車賃增額ノ不當ヲ鳴シ、既ニ其値下勵行ノ議決ヲナシタル以上ハ、假令會社ガ減額ノ說諭ニ應ズルコト能ハズト云フモ、此儘ニ打捨テ置クベキニアラズシテ、飽迄モ其意ヲ貫徹セシメザル可ラズ、會社ガ五千圓ノ寄附ヲ申出デタルハ、市會及ビ市參事會ヲ蔑視シタルモノニアラズシテ何ゾヤ、本員ハ市會ノ體面上、善後策ヲ講ズル爲メ、更ニ五名ノ委員ヲ設置セラレンコトヲ望ムトノ動議ヲ提出スルヤ。**峰尾勝春君**、委員ノ一人トシテ黑田君ノ說ヲ駁シテ曰ク、此報告書ハ、府知事ヨリ聞キタル儘ヲ揭ゲタルニ過ギス。寄附金ノ點ニ付テハ追テ參事會ヨリ發案アリシ時ニ於テ議スベク、今日殊更呶々スルヲ要セザルナリ。元來本問題ニ關スル委員ノ設置ハ本員ノ提議ニ依ルモノニシテ、其當時若シ好結果ヲ見ルコト能ハザル時ハ、進ンデ府知事ノ不信任迄モ決行スルノ素志ナリシガ、爾來博覽會、高級市制、選擧法等ノ重大問題ニ付、市會ヨリ提出セル請願ニ對シ、千家知事ハ貴族院ニ於テ大ニ盡瘁セラレタリ。本市ニ對スル此ノ府知事ノ好意ハ、充分感謝スベキナリ。故ニ本件ニ付テモ好意アル斡旋ノ勞ヲ取ラレタルモノト信ズ、寄附金壹萬五千圓ハ吾々ノ勸誘ニアラズシテ、會社自ラ府知事ニ申出デタルモノトス、仍テ之ヲ報告書ニ揭ゲテ何ノ不可思議カアル、要スルニ委員ハ、調査ノ一段落トシテ、其結果ヲ揭ゲテ報道シタル迄ナリト。**秋虎太郎君**ハ、本會ノ趣旨ニシテ首尾一貫セザルモ、會社ニ於テ値下ノ說諭ニ應ゼズ、府知事警視總監又本會ノ意見ヲ容レザル以上ハ、更ニ委員ヲ設クルモ詮ナカルヘシト論ジ。**伴親光君**ハ、市會ガ曩ニ議決シタル芝公園地料値上、高級市制々定、博覽會開設地問題等、一トシテ本市ノ意志ヲ貫徹スル能ハザリシニアラズヤ、斯テハ市ノ面目ニ關スル問題ナリトテ、黑田君ノ委員設置ノ動議ニ贊成シ、黑田君ノ動議ニ對シテ贊否ノ兩論容易ニ決セザリシモ、善後策ニ關スル委員設置說ハ、少數ニテ否決サレ、委員會ノ報告書ハ、單ニ報告ヲ受ケ置クニ止ムルコトヽシテ、本問題ハ一段落ヲ告ゲタリ。

▽馬車鐵道軌道延長竝ニ連絡線敷設ノ件

東京馬車鐵道株式會社ガ芝區汐留町二丁目ヨリ同區濱松町二丁目ヘ移轉シタルニ付、軌道延長竝ニ發車連絡ノ爲メ、約八百間ノ復線ト約七十間ノ單線敷設方同會社ヨリ主務官廳ニ對シテ出願アリタルヲ以テ、東京府知事ハ市會ニ對シテ、左ノ諮問ヲ爲セリ。

諮問第四號

東京馬車鐵道株式會社々長牟田口元學ヨリ、軌道延長竝ニ連絡軌道布設之件、別紙寫之通リ出願候ニ付、左記ノ意見ヲ具シ内務大臣ニ進達セントス。

右其會ノ意見ヲ問フ

明治三十二年七月　日

東京府知事　男爵　千家尊福

東京市會

（一號）

一、軌道延長ハ復線ニシテ、芝區汐留町二丁目一番地先ヨリ、同區芝濱松町二丁目二十三番地先迄トス

一、軌道ハ凹字形ノモノヲ用ヒ、鐵軌内及其左右二尺通リハ、埋石道（市會ハ三十三年ニ至リ堅石道ト修正議決セリ）ト爲サシムル事。

一、路面竝軌道内ハ、雨水ノ滯留セサル樣充分排除ノ方法ヲ設ケシメ、又軌道内及其左右二尺通リノ修繕、撒水除雪ヲ負擔セシムル事。

一、許可年限ハ、既設馬車鐵道許可年限、即チ明治四十六年五月迄トス。

一、道路橋梁水道及市區改正、其他公共ノ工事ヲ起ストキハ、工事中其支障トナル箇所ニ限リ、一時鐵軌及敷石等ノ撤去ヲ要シ、又ハ軌道ノ變更ヲ要スルトキハ、總テ無償ニテ之カ取拂ヲ爲サシムル事。

一、前各項ノ外ハ、既設線ニ對スル命令ヲ準用スルモノトス。

（二號）

一、連絡軌道敷設ハ單線ニシテ、芝區柴井町一番地先既設線路ヨリ、同區汐留町二丁目一番地東京馬車鐵道株式會社構内前通リヲ同裏門口迄トス。

一、軌道ハ凹字形ノモノヲ用ヒ、鐵軌内及其左右二尺通リハ、埋石道（市會ハ三十三年ニ至リ堅石道ト修正議決セリ）ト爲サシムル事。

一、許可期限ハ、芝區汐留ヨリ同區濱松町ニ至ル間軌道延長敷設ノ許可ヲ得、東京馬車鐵道株式會社ヲ移轉スル迄トス。

一、前各號ノ外ハ、既設線ニ對スル命令ヲ準用スルモノトス。

本案ハ八月一日ノ會議ニ上程、**久德豁行、峰尾勝春兩君**ノ動議ニ依リ、議長指名七名ノ委員ニ調査ヲ附託スルニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

黑田綱彦　田中新兵衛　石垣元七　鹽島仁吉　宮島新七
山本新平　西澤善七

委員ハ**黑田綱彦君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、十月二十日ノ會議ニ於テ、**黑田委員長**ハ委員會ノ調査顚末ヲ左ノ如ク報告セリ。

委員ハ實地ヲ踏査シ、府知事ノ意見ニ修正ヲ加ヘ、且ツ延長軌道中汐留町二丁目一番地先ヨリ、同町ト新錢座町トノ境堺道路マデハ、現軌道ニ倣ヒ東側ニ敷設セシムル樣答申スルコトニ決定シ、許可條件ニ就イテモ、第一號第二項ニ「鐵軌内及」トアルヲ「鐵軌内ハ「アスフアルト」トシ、又「埋石道ト爲サシムル事」トアルヲ「敷石道ト爲

サシメ、開業ノ日迄ニ竣工セシムル事」ト修正シ、第一號第六項トシテ新タニ「新錢座橋ハ左右下水一抔ニ架設セシムル事」ノ一項ト、同第七項トシテ「延長ニ係ル軌道ハ會社營業年限滿期ニ至リ布設費ヲ以テ東京市ニ買上クルヲ得ル事」ト云ヘル一項ヲ新設セリ。而シテ第八項（註、原案ノ第六項ナリ）ノ中「既設線ニ對スル」ノ次ヘ「明治二十九年六月一日附」ノ十一字ヲ挿入シタルハ、既設線ニ對スル命令書ニ、六月十日東京府知事ヨリ發シタルモノト、六月一日內務大臣ヨリ發シタルモノトノ二者アルヲ以テ、明瞭ヲ缺クガ故ナリ。第二號第二項及ビ第四項ノ修正ハ、第一號第二項及ビ第八項ノ修正ト同樣ナリ。以上ハ諮問案ニ對スル委員會ノ修正顚末ナルガ、尙一言シ置キタキハ、監督ノ一事ナリ。委員ノ取調ベタル所ニ依レバ、監督充分ニ行屆カザルモノアルガ如シ。此ノ點ニ就イテハ別ニ馬車鐵道線路撒水除雪ニ關スル建議ヲ提出シ置キタルヲ以テ、同建議ガ議題ニ上程サレタル際、詳細說明スベシ。又明治十五年命令書第八條、及ビ第二十九年命令書第十八條ニ、「會社ニ於テ修繕及掃除ヲ怠リ、東京府知事若クハ警視總監ヨリ其執行ヲ命セラレタル日ヨリ起算シ、三日以內ニ着手セサルトキハ云々」トノ明文アルニ拘ラズ、會社ハ常ニ其期日內ニ着手セズ、而シテ監督廳ヨリ是ガ着手ヲ促セバ、會社ハ砂利ヲ用意シタルヲ以テ、既ニ着手シタルモノナリト主張スルガ如キ、如何ニモ氣隨我儘ノ擧動多シト云フ。是等モ畢竟監督ノ不行屆ト、命令書ノ不完全トニ職由スルモノナレバ、併セテ玆ニ報告ス。

右報告後、左ノ質疑應答アリタリ。

星亨君　此延長路線ハ曩ニ市ガ敷設權ノ許可ヲ出願シタル部分、及ビ昨十九日本會ニ於テ議決シタル民設鐵道路線ト撞着スル事ナキヤ。

黑田綱彥君　路線ノ敷設箇所全ク異リ、決シテ撞着スルコトナシ。

今井喜八君　理事者ニ問フ。馬車鐵道會社ハ動力ヲ變更セント欲シ、昨十九日議決シタル三派出願ノ市街鐵道（第二十二節參照）ト同一條件ヲ以テ、市參事會ニ願書ヲ提出セリト聞ク。果シテ事實ナリヤ。

松田市長　馬車鐵道會社ヨリ左樣ノ願書ニ接シタルコトナシ。

星君　從來馬車鐵道會社ハ命令條件ヲ遵守セザル爲メ、監督官廳ハ常ニ困惑シ居レリト聞ク。委員ハ本案聯絡延長軌道ニ對シ、從來ノ命令條件ヨリモ一層嚴重ナル個條ヲ加ヘタリヤ。

黑田君　委員ハ特ニ嚴重ナル條件ヲ附スベキ意ニテ修正ヲ加ヘタルニアラズ、要スルニ道路ノ保存、交通ノ利便、竝ニ命令條件ノ不分明ナル個條ヲ明確ナラシメント欲シタルニ在リテ、先ヅ是等ヲ以テ嚴重ト云フモ可ナランカ。

江崎禮二君　前夜決議シタル市街鐵道民設ニ對スル條件ハ、最モ當ヲ得タルモノナレバ、本案條件モ亦之レト等シカラシムベキモノニシテ、同一ノ市內交通機關ニ對シ、二樣ノ議決ヲ爲スハ宜シカラズ。

太田直次君　馬車鐵道乘車賃增額問題ニ關シ、本會ガ委員ヲ設ケテ警視總監及ビ東京府知事ニ屢〻交涉シタル當時、府知事ハ賃錢增額ハ要スルニ軌道內ノ修築ト交換問題ナルガ如クニ述ベラレシコトアリ、本案ノ委員ハ府知事ニ對シテ是等ノ點ヲモ協議シタル事アリヤ否ヤ。

黑田君　從來軌道內ノ撒水除雪ニ關シ、口頭若クハ書面ヲ以テ市長ヨリ府知事ニ稟申シタルコト一再ナラザリシモ、府知事ハ何等ノ處分ヲモ爲サヾリシトノコトナレバ、委員ガ府知事ニ交涉シタリトテ其甲斐ナカルベシト考ヘ、今回ハ府廳トハ何等ノ打合モ爲サヾリキ。元來這般ノ延長竝ニ連絡軌道布設ノ件ハ、馬車會社ガ鐵道局ヨリ立退ヲ命ゼラレタルニ基因シ、餘儀ナク移轉ノ結果延長ヲ要スルモノナルガ故ニ、多少ノ斟酌ヲ加ヘ、先ヅ此位

ノ修正ヲ相當ト認メタルナリ。

次イデ**杉原榮三郎君**ハ、延期ノ動議ヲ提出シテ曰ク、調査委員ノ報告ハ昨夜議決シタル市街鐵道民設ニ對スル條件ト對比熟考ノ必要アルヲ以テ、次會迄延期ヲ望ムト。**黑田君**ハ是ニ反對シテ曰ク、昨夜議決ノ市街鐵道民設ニ對スル條件ハ、市ノ承諾ヲ經テ其筋ヘ進達スルモノナルモ、本案ハ全然其性質ヲ異ニシ、府知事ノ諮問ニ過ギザルガ故ニ、今日之ヲ議決スルモ毫モ差支ナシト考フ。若シ夫レ議決ヲ延期センカ、其間如何ナル弊害ヲ生ズルヤモ計リ難シト。**星君**ハ、委員ノ報告ヲ聞クニ、馬車鐵道會社ハ兎角撒水除雪ヲ怠ル爲メ、砂塵ノ飛揚スルハ勿論、道路ノ破損又甚シク、往來者ノ困難云フベカラザルノミナラズ、其他專横ノ事柄頗ル多キニ拘ハラズ、警視總監、東京府知事等ノ監督充分行ハレザルモノヽ如シ。是レ蓋シ明治十五年、及ビ二十九年ノ命令書ニ缺點多キ爲メナラン、故ニ假令府知事ノ諮問ナリト雖モ、本案ノ如キ新ニ軌道ヲ敷設スルモノニ對シテハ、充分調査ヲ遂ゲ、市ノ利益ヲ損セザルヤウ注意セザルベカラズトテ、延期說ニ贊成シ。**峰尾勝春君**モ、市街鐵道民設ノ出願ニハ公納金ニ關スル條件ヲ議決セルガ、諮問案ハ勿論、委員ノ意見報告書ニモ、公納金ノ徵收ニ就イテハ何等ノ記載ナシ。均シク市內交通機關ニシテ、彼ニ公納金ヲ課シ此ニ之ヲ免ズルハ、公平ヲ失スルノ甚シキモノニアラズヤ。延期ヲ主張スルハ、是等ノ點ニ就キ充分調査センガ爲ニシテ、何等弊害ノ生ズベキ理由ヲ發見スル能ハズトテ、是亦延期說ニ贊成シ、採決ノ結果、多數ニテ延期ニ決シ、其後十二月五日ノ會議ニ於テ、**村上耕一郎君**ハ、次會迄延期ヲ望ミ。**星君**ハ、別ニ期限ヲ附セズ、單ニ延期スルコトヽシタシト提議シタルニ、贊成者多數ニテ、星君ノ意見通ニ決セリ。

越エテ翌明治三十三年五月二十五日ノ會議ニ上程、**西澤善七君**ハ、黑田委員長ニ代リテ委員會ノ意見ヲ報告シテ曰ク、委員會ノ修正要旨ハ報告書記載（兼ニ黑田委員長ガ口頭ニテ報告シタルモノト同一）ノ通リナルガ、唯一言附加シタキハ、新錢座橋ハ筋違ヒニ架設シアリテ、馬車鐵道ヲ敷設スルニハ頗ル不便ナルヲ以テ、委員ハ左右ノ下水一抔ニ之ヲ架設セシムルコトト爲シタル一事ナリト。**星君**ハ、左ノ理由ニテ委員ノ意見ニ反對セリ。

委員會ノ修正ハ全體ヲ通ジテ面白カラズ、殊ニ軌道外左右兩側ヲ敷石トシ、其中央即チ軌道內ヲ「アスフアルト」ト修正シタルハ、如何ナル理由ニ基ケルモノナリヤ。本員ハ曾ニ其不便ナルヲ認ムルノミナラズ、「アスフアルト」工事ハ、我國ノ現狀ニテハ思ハシカラザルガ故ニ、軌道ノ內外ヲ問ハズ、全體ヲ敷石ト爲ス方可ナリ。聞ク所ニ依レバ、市街鐵道線路モ總テ敷石ト爲サシムル見込ナリト。故ニ馬車鐵道線路モ是ト同一ナラシメザルベカラズ。加之營業滿期ニ至リ、東京市ガ之ヲ買上グル事ヲ規定條件中ニ加ヘタルハ、不要ノ修正ト云ハザルヲ得ズ。要スルニ本員ハ原案第一號中ノ第二項及ビ第二號中ノ第二項ニ「埋石道」トアルヲ「堅石道」ト修正スルノ外ハ、全部府知事ノ意見ニ同意ニシテ、委員ノ修正ニハ總テ反對ナリ。

西澤善七君ハ、星君ノ意見ニ對シテ辯明シテ曰ク、原案ニ「埋石道」トアルハ、方今市役所ニ於テ施工中ニ係ル割栗道ヲ指稱スルモノナルガ、委員ハ之ヲ以テ尙破損シ易シト認メ、敷石道ト修正シタルナリ。尤モ委員中ニハ、軌道內モ均シク敷石道タラシムベシト主張スル者アリシモ、爾カ爲ストキハ馬蹄ヲ損スルコト非常ナリトノ議論モアリテ、已ムヲ得ズ軌道內ニ限リ「アスフアルト」ト爲シタリ。又軌道買上ゲノ一事ハ、第九十三號議案（市街鐵道敷設條件ニ關スル件）ノ例ニ倣ヒタル迄ニシテ、別ニ深キ意味アルニアラズト。**星君**ハ之ヲ駁シテ曰ク、馬車鐵道會社ハ目下動力變更ニ就キ、其筋ヘ出願シ居レリ。若シ政府ニ於テ之ヲ許可セラルヽ場合ニハ、必ラズ新タナル條件ヲ定メラル可シト信ズ、故ニ本案ハ原案通リニ据置クヲ可トス。又軌道內ニ堅石ヲ敷クトキハ馬蹄ヲ損スルコト甚シト云フモ、現在ノ命令條件ハ堅石ヲ敷設スルニアリテ、既ニ本社新橋間、及ビ上野淺草間、竝ニ各十字街路ニハ花崗石ヲ敷キ詰メ

居ルニアラズヤ、委員諸君ハ餘リニ斟酌ヲ加ヘ過グルモノアリト。**堡島仁吉君**ハ、軌道内ニ堅石ヲ敷クトキハ、馬匹ハ蹄炎症ヲ起スト聞ク、既ニ蹄炎症ヲ誘起スト知リツヽ之ヲ强フルハ、誠ニ殘酷ノ次第ナラズヤト、委員説ノ維持ニ努メ。**野々山幸吉君**ハ、本社新橋間、及ビ上野淺草間ニ於テ現在堅石ヲ敷設シ居レルニアラズヤ、委員ノ意見ハ餘リニ斟酌ニ過グトテ、星君ノ意見ニ賛成セリ。斯テ採決ノ結果、多數ニテ星君ノ意見通可決セリ。即チ諮問ニ係ル府知事ノ意見ニ對シ、埋石道ヲ堅石道ト修正シタルノミニテ、他ハ諮問案通リナリ。

▽馬車鐵道線路撒水除雪ニ關スル建議　前項記載ノ諮問第四號馬車鐵道軌道延長及聯絡線敷設ニ關スル調査委員ハ、該調査ノ際、既設線路ニ對スル命令條項中第十八條ノ撒水除雪ヲ怠リタル場合、市長ノ處置如何。軌道内及ビ其左右一尺五寸通ノ掃除トアルハ、撒水除雪モ包含スル乎、若シ包含セザルトキハ、市參事會ハ會社ニ對シ、如何ナル處置ヲ爲シタルヤ。又東京市參事會ハ、監督官廳ニ對シ如何ナル請求ヲ爲シタルヤトノ三項ヲ擧ゲ、議長ヲ經テ市參事會ニ照會シタルニ、市參事會市長ヨリ左ノ回答アリタリ。

第一、會社ガ修繕及掃除ヲ怠リタルト認メタル場合ハ、直チニ社員ヲ招喚シ、修繕及掃除ヲ爲スヘキ旨示達シ、意思ノ徹スル迄督責ヲ爲シ履行セシメ居レリ。然レトモ尚充分ナラサル點有之候ニ付、別紙第一號ノ通修繕ニ關スル命令ヲ發シタリ。

第二、命令第十八條ノ掃除中ニハ、撒水ハ包含シ居ラサルモノト認ム。乍去道路保存上ヨリシテ會社自ラ執行シ、又ハ當局者ニ於テ注意ヲ加ヘ居レリ。又除雪ノ實行ニ至テハ嚴重ナル督責ヲ加フルモ、車體ヲ運轉ナスニ差支ナキ迄ニ止マレリ。之畢竟命令書ノ明文明カナラサルニ起因ス。

第三、第二項ノ狀況ナルヲ以テ、東京府知事ヘ對シ別紙第二號ノ如ク稟請シタリ。

（別紙第一號及ビ第二號略ス）

仍テ調査委員ハ協議ノ末、一個ノ議員トシテ左ノ建議案ヲ提出セリ。

馬車鐵道線路撒水除雪ニ關スル建議

東京馬車鐵道株式會社布設ニ係ル軌道内外ノ掃除ニ就テハ、會社ニ對シ其筋ヨリ命令アルニ拘ハラス、撒水、除雪ハ之ヲ促スモ、會社ハ車體ノ運轉ニ差支ナキ迄ノ除雪ヲ爲スニ止マルト聞ク。是レ畢竟命令書ハ單ニ「掃除」トノミアリテ、其文面明カナラサルニ基因スルモノナラン。之ヲ默過スルトキハ、衞生上並道路保存上ニ被フル所ノ損害尠カラサルヲ以テ、明治十五年六月付東京府知事命令書第二十二條、及明治二十九年六月一日付内務大臣命令書第二十五條ノ明文ニ基キ、本市ノ公益ヲ保維スル上ニ於テ、道路ト橋梁トヲ問ハス、軌道内、及其左右（會社ノ負擔ニ係ル幅員）ノ撒水、除雪ハ、嚴ニ勵行センコトヲ其筋ニ稟請ヲ望ム。

右及建議候也

明治三十二年十月十四日

提出者

宮島新七　鹽島仁吉
西澤善七　黑田綱彦
田中新兵衞　石垣元七
山本新平

東京市會議長須藤時一郎殿

本建議案ハ諮問案第四號案ト共ニ、延期トナリタルガ、十二月五日ノ會議ニ於テ、黒田綱彦君ヨリ、延期中ニ屬スル諮問第四號案ト本建議案トハ關係アルモ、各別ニ議決スルモ差支ナシトテ、本建議案ノ即決ヲ希望シ、滿場異議ナク直チニ之ヲ可決セリ。

第拾九節　公園改良問題

▽**坂本町公園**　四月十九日ノ會議ニ、左記第三十二號及ビ第三十三號議案提出アリ、市會ハ兩案ヲ一括議題ニ供シタルニ、滿場異議ナク原案通可決セリ。

第三十二號

公園明治三十二年度歳入出追加豫算

歳　出　金四千拾六圓五拾參錢參厘

内　譯

經常費（雜費）	九二・一七二円
臨時費（樹木培養、道路、溝渠、其他營繕諸費）	三、九二四・三六一

説明　坂本町公園ハ改良ヲ要スルニ付、別紙設計書ニ依リ起工スルモノトス。

（別紙）

坂本町公園改良設計

一、東北二方從來ノ鐵柵ヲ撤去シ、更ニ土手ヲ築造シテ、其上部及外側ニ枳殼ヲ植付クル事。
但西南二方ノ民有地境堺ハ、當分現在ノ儘ニ爲シ置クモノトス。
一、東北二方地先暗渠ハ、石造下水ニ改造スル事。
一、北方現在ノ入口ハ、閉塞スル事。
一、園内周圍奥行凡ソ四五間程ノ地ヲ植込地ト爲シテ、在來ノ樹木ヲ移植シ、尚ホ若干ノ樹木及草花ヲ植足シ、而シテ此植込地ハ遊歩者ノ出入ヲ禁スル爲メ、廣場トノ境堺ニ枳殼ノ生垣ヲ設クル事。
一、中央廣場ハ悉皆芝生地ト爲シ、其間ニ適當ノ小道ヲ設クル事。
一、廣場四阿附近在來ノ椎樹ハ、之ヲ保存シ、尚ホ植足シノ上小丘ト爲シ、其周圍ヲ生垣トシテ二三ノ出入口ヲ設クル事。
一、園内適當ノ場所ヘ瓦斯燈五基ヲ設クル事。
一、從來ノ使用人ハ契約ヲ解キ、其負擔ノ件々ハ公園費ヲ以テ施行スル事、尤モ盆栽及茶店等ハ、公園ニ適當ノモノナルヲ以テ、從來ノ使用人ニハ百坪以内ノ使用ヲ許可シ、又遊歩人ニ便益ヲ添フル爲メ、尚南端ノ地四十坪以内ヲ別人ニ特貸シ、茶店ヲ設ケシメ、孰レモ相當ノ使用料ヲ徴收スル事。
一、東側入口脇ニ建設スル從來ノ便所ハ、西北隅ニ移轉改造スル事。

以　上

第三十三號

坂本町公園地使用料ヲ定ムル件

坂本町公園地使用料ハ、一坪一ヶ月金拾錢トス。

明治三十二年四月十四日提出

設　明治坂本町公園改良ノ爲メ、從來ノ特別使用ヲ解約スルニ付、新ニ使用料ヲ定ムルノ要アルニ由ル。

▽公園改良調査委員第二回意見報告　明治三十一年三月七日ノ會議ニ於テ設置シタル公園改良調査委員ハ、審査ノ末、日比谷公園開設、坂本町公園改良ニ關スル意見ハ、同年十二月七日ノ會議ニ報告シタル事既記ノ如クナルガ（第一卷明治三十一年第五節參照）越エテ三十二年五月十八日ノ會議ニ於テ、第二回意見ヲ左ノ如ク報告セリ。

公園改良取調委員第二回意見報告

委員ハ實地ニ臨ミテ踏査ヲ遂ケ、尙ホ集會審議ノ末、淺草、芝、深川、待乳山ノ四公園ニ對シ、別紙ノ如ク決議シ、爰ニ審査終了ヲ告ケリ。他公園ニ對スル意見及貸地料等ハ口頭ヲ以テ陳述スヘシ。

右及報告候也

明治三十二年五月十七日

調査委員

久徳猶行　田中新兵衛
河原伊平　今井喜八
町田朝太郎

（別紙）

淺草公園改良意見

一、市區改正設計ニ依リ、公園區域内ニ在ル民有地ヲ買收スル事。

一、市區改正設計區域外ニ在ル公園舊附屬地ハ、賣却スル事。

一、第一區内ヘ噴水ヲ設ケ、其下流ヲ淡島池ヘ注キ、同所ヨリ舊池ニ至ル廣場及、樹間ニ、幅四五尺ノ流レヲ設ケ、其落口ヲ梅林四阿屋北方ヘ流シ、瀑布ヲ設置シ、舊池及大池ヲ清淨ナラシムル事。

一、第四區大池緣、水害豫防ノ爲メ丘形ニ盛土ヲ爲シ、芝ヲ植付ル事

一、北東仲町、及北田原町買收ノ後、公道ニ面スル場所ハ奥行凡十間ヲ目途トシテ、普通商店ヲ許可スル事。

一、第六區池前南北ニ通スル四間幅道路ヲ、廣小路迄開通スル事。

一、新畑町及北東仲町ハ漸次取拂ヒ、東西三間幅ノ道路ヲ新設シ、第六區同樣ノ營業者ニ貸與スル事。

一、馬道二丁目ハ、一丁目ト同樣縱横ニ新道ヲ設ケ同一ノ體裁ト爲ス事。

一、馬道三丁目及五丁目ハ、市區改正設計ノ通リ買收ノ上ハ悉皆取拂ヒ、植込地ト爲ス事。

一、第一區及第四區ハ、市役所ノ設計ニ係ルモノヽ外、建設物ヲ許可セサル事。

一、雷神門ヲ再築セシムル事。

一、第五區ハ、堂宇火災豫防ノ爲メ漸次其附近ノ家屋（花屋敷及公園適當ノ營業者ヲ除ク）ヲ取拂ヒ、植込地ト爲ス事。

一、第六區地續民有地千束村ヲ設計ノ通リ買收ノ上ハ、西ノ方凡ソ三千坪ヲ芝生地ト爲シ、周圍ニ樹木ヲ植付ケ、園遊會ニ適當ノ場所ト爲シテ一般市民ノ便利ヲ計リ、其他ハ縱横ニ道路ヲ設ケ、第六區ト同樣ノ體裁ト爲ス事。

一、第五區北方及第六區西方ハ、市區改正設計ノ通リ其境界ニ沿ヒ、千束町一丁目角ニ至ルマテ大下水ヲ新設シ、從來ノ花屋敷西裏ノ大下水ハ廢止スル事。

一、遊覽人ノ便利ヲ計リ、園内適當ノ場所ヘ車馬置場ヲ新設スル事。

一、第七區ノ內、市區改正ノ設計ニ依リ公園トナルヘキ區域內ニ改良實施前ト雖モ建物ヲ建設スル場合ハ、其都度許可ヲ受ケシムル事。

芝公園改良意見

一、愛宕下四丁目仙臺屋敷前通リ道路ヲ基點トシ、芝公園第五號地二番憲政黨本部使用地內ヲ經テ、里俗八軒寺町道路ヲ利用シ、同所ヨリ古川筋土手際迄一直線ニ幅六間ノ道路ヲ開設スル事。

一、右新設道路東側ハ、公園ニ適當ノ營業ヲ許可スル事。

一、同上西側山門前通ニ至ル地ハ、風致ヲ害セサル營業、若クハ適當ノ建造物ニ限リ許可スル事。

一、芝園橋ヨリ赤羽橋內ニ至ル地ハ、明定院ヲ除クノ外時期ヲ計リ悉皆取拂ヒ、中央ニ池ヲ設ケ、其他ハ芝生地ト爲シ、周圍ニ櫻樹ヲ植付ケ、運動場ト爲ス事。

一、第十八號地ハ、東京府官舍敷地ヲ公園ニ編入シ、寶珠院鑑連社ヲ除クノ外取拂ヒ、周圍ヲ植込地ト爲シ、其他ハ芝生地トシ、球戲場ト爲ス事。

一、第十九號崖地ヘ瀑布ヲ設ケ、下流ヲ辨天池ヘ導キ、尙丸山下ヲ經テ、十六、十七號取拂跡新設池ヘ注キ、古川ヘ流下セシムル事。

一、第二十一號ヨリ二十四號地ニ至ル寺院、其他建設物ハ悉皆取拂ヒ、廣場及植込地ト爲ス事。

一、第二十二號地、舊黑門跡道路ヨリ岳蓮社內及光寶寺裏ニ沿ヒ、紅葉館前通リニ至ル三間幅ノ道路開設ノ事。

一、銀杏坂上ヨリ岳蓮社前新道ニ通スル、三間幅ノ道路ヲ改設スル事。

一、第二十五號地ハ、家屋取拂ノ上廣場ト爲シ、楓樹ヲ植付ケ、同所ヨリ丘上ヘ山道ヲ新設スル事。

一、第四號一番水路部ヲ公園地ヘ編入シ、水族館、或ハ植物園、又ハ美術館ヲ設クル事。

一、園內墓地ハ、改葬スル事。

一、大門內左右寺院ハ、保存ノ事。

一、芝園橋ヨリ里俗山下谷通リ赤羽橋ニ通スル道路ハ、家屋取拂後車馬ノ通行ヲ禁スル事。

一、德川氏墓地ノ內、淸陽院墳墓前、其他靈屋敕額門外地所及物件ハ、本市ニ讓受ケ保存スル事。

一、右讓受後ハ、其境界地ハ本市ノ費用ヲ以テ柵ヲ設クル事。

一、第二十號地續、瑠璃光寺境內ヲ市區改正設計ノ通リ買收シ、公園地ニ編入スル事。

一、公園內適當ノ場所ヲ撰ミ、園遊會ヲ催スニ恰好ナル施設ヲ爲シ置キ、一般市民ノ便宜ニ應スル事。

一、在來ノ道路中屈曲セルモノ、若クハ幅員ノ狹少ナルモノ等ハ、漸次取擴ケ改修スル事。

一、第五號地ノ內、血淸藥院ハ市區改正ノ設計ニ依リ、公園ニ編入ヲ請求スル事。

一、遊覽人ノ便ヲ謀リ、園內適當ノ場所ヘ車馬置場ヲ新設スル事。

深川公園改良意見

一、西北ノ隅大弓場六十六號外二ケ所六十五號及ヒ同番外一ケ所ノ家屋ハ取拂ヒ、同所々在ノ丘ハ修築保存ノ事。

一、不動堂前通リ左右ニ建設セル茶店、及飲食店等ハ相當ノ期限ヲ定メ改造セシムル事。

一、永代寺北ノ方四十六號甲乙ヨリ六十六號ニ至ル三戶取拂、富岡神社西ノ方四十三、四號汁粉屋ハ適當ノ營業ニ付、家屋ノ一部ヲ改築セシメ存置シ、其他四十、四十一、四十二、四十五、四戶ハ取拂ノ事。

一、富岡社前家屋ノ內、四番ハ茶店ニシテ適當ノ營業ニ付、其儘存置シ其他五、六、七、八、九、十、十一、十一ノ二、十三、十四、十五、十六ノ家屋ハ

取拂ノ事。

一、第六十六番取拂フヘキ大弓場ハ公園適當ノ營業ナルモ、位置不適當ナルヲ以テ、第十一番取拂跡ヘ相當ノ地所ヲ特貸シ、家屋構造等ハ、風致ヲ損セサル樣建設セシムル事。

一、富岡神社東北ノ方二十九番社務所ヲ除クノ外、三十番ヨリ三十九番ニ至ル家屋ハ、悉皆取拂遊歩地ト爲ス事。

一、富岡丘下ノ地ハ狹少ナルヲ以テ、琴平社ノ方ヲ取擴ノ事。

一、永代寺地先護岸石垣上ヘ土手ヲ新設シ、同土手內ヘ椎樹植付ノ事。

但シ其工事ハ、渾テ永代寺ニ負擔セシムル事。

一、富岡神社北ノ方護岸ヨリ和倉町ヘ新橋架設ノ事。

一、園內適當ノ場所ヲ撰定シ、園遊會ヲ催フスニ恰好ナル施設ヲ爲シ置キ、一般市民ノ便宜ニ應スル事。

待乳山公園改良意見

一、待乳山公園ハ市區改正ノ設計ニ基キ、公園區域內ニ在ル民有地ヲ買收シテ、漸次公園ノ體裁ヲ具備セシムル事。

今井喜八君委員長ニ代リテ、委員會ノ意見ハ報告書記載ノ通リニシテ、日比谷、坂本町、淺草、芝、深川、待乳山ノ六公園ニ對スル改良意見ハ、玆ニ報告ヲ終レリ。下谷、綠町其他ノ公園ハ、渾テ當分現在ノ儘ト爲シ置ク見込ナリ。而シテ貸地料ハ營業ヲ許セル部分ヲ高メ、其以外ハ成ルベク低廉ナラシメント欲スト、委員會ノ經過ニ就イテ報告スル所アリ。**綱井榮三郎君**ヨリ、熟考ノ爲メ延期ノ動議提出アリテ、延期ニ決シ、爾來三十二年中ニハ遂ニ議題ニ上ラザリシガ、翌三十三年五月二十五日ノ會議ニ於テ議題ニ供セラレ、**横山富次郎君**ヨリ、委員會ノ此報告書ガ本會ヲ通過セバ、市參事會ヲシテ委員會ノ意見通リ遂行セシムル精神ナリヤ、將タ單ニ參考トシテ送付スルニ止ムル見込ナリトノ質問アリタルニ對シ。**久德鉴行君**ハ、委員ハ勿論報告書記載ノ如ク施行ヲ望ムモノナルモ、昨春第一回ノ報告書ハ本會ノ決議ニ依リ、單ニ參考トシテ市參事會ヘ送付シタルモノナリト答ヘ。**長谷川深造君**、報告書ノ末文ニ、他公園ニ對スル意見及貸地料等ハ口頭ヲ以テ陳述スベシトアルモ、未ダ其報告ナキハ如何ト質シタルニ。**久德鉴行君**ハ、是ニ答ヘテ曰ク、此報告ハ本會ノ意見ニテ延期トナリ、荏苒一年有餘ノ今日ニ至リシナリ。而シテ其間既ニ本會ノ決議ヲ以テ改良シタル個所モアリ、貸地料ノ如キモ追々增額セラレツヽアルヲ以テ、今更陳述ノ必要ナシト認メシナリ。只理事者ニ對シテ希望スベキ一事アリ、其ハ建物等ノ取拂ニ決定シタル場所ハ、速ニ之ヲ本人ニ通知シテ、一日モ多クノ立退期間ヲ與フルヤウセラレタシ、又タ將來移轉ヲ要スル場所ハ、能フ限リ建築增築等ヲ爲サシメザル樣希望スト。斯テ採決ノ結果、委員會ノ第二回意見報告モ、單ニ參考トシテ市參事會ヘ送付スルコトニ決セリ。

▽日比谷公園開設工事著手ノ件　六月十九日ノ會議ニ於テ、市參事會ヨリ左ノ議案提出アリタリ。

第四十七號

公園明治三十二年度歲出追加總計豫算

歲出　金八萬貳千六百參拾六圓七錢六厘

但本費ニ對スル歲入ハ公園改良準備金ノ內ヲ以テ之ニ充ツ

內譯

日比谷公園費　八二、六三六・〇七六円

道路費	三六、六二〇・九九六
溝渠費	四四、七八五・〇〇〇
營繕費、雜給及備品竝消耗品費	一、二三〇・〇八

說明　日比谷公園ハ別紙參考書ニ依リ、開設工事ニ著手スルモノトス。

（別紙）

日比谷公園開設工事參考書

一、地盤ハ別ニ足土ヲ爲サス、園内ノ高低ヲ敷均スニ止ムル事。

一、西方衆議院議長官舍前通リニ沿ヒ、阿多良志橋ヨリ一直線ニ北方堀端迄、幅十間ノ道路ヲ設クル事。

一、周圍地先ニハ下水ヲ設ケ、其幅員ハ西方幅一尺五寸、東南方ヲ三尺、北方ヲ一間ト爲ス事。

但北方大下水ハ、日比谷門外中山邸附近ノ下水ニ接續シ、數寄屋橋内巡査派出所横手ヲ過キ、外濠ヘ流下セシムル事。

一、公園周圍ニ高三尺ノ石垣ヲ設ケ、其上ニ高二尺五寸ノ小土手ヲ造リ、上部ニ生垣ヲ植付クル事。

本案ハ即日之ヲ議題ニ供シタルニ、後藤亮之助君先ヅ理事者ニ問ウテ曰ク、曩ニ本會ニ於テ設置シタル公園改良取調委員ガ、日比谷公園等ニ就キ緻密ノ設計ヲ爲シテ市參事會ニ送付シタルニモ拘ハラズ、本案ヲ見ルニ彼此全然異ルガ如シ。如何ナル理由ナリヤト。市長松田秀雄君是ニ答ヘテ曰ク、公園改良取調委員ノ設計案ハ素ヨリ承知セルモ、日比谷公園ハ宮城ノ直下ニアリテ、帝都ノ中央公園タリ。殊ニ在來社寺境内タリシヲ公園ト爲スモノトハ異ナリ、練兵場ヲ公園ト爲スモノニシテ、全然根柢ヨリ本市ノ經營スルモノナレバ、之ガ設計ヲ立ツルニ於テ最モ注意ヲ加ヘザルベカラズ。仍テ市參事會ハ知名ノ專門的技術者ニ調査ヲ囑託シ、既ニ其答申ヲ得タルモ、帝都ノ中央公園トシテハ之ヲ以テ未ダ充分ナラザルモノト認メ、曩ニ本會ヨリ送付ノ設計書ヲ參酌シ、目下審査中ニ屬セリ。地均及ビ道路ノ新設、竝周圍ノ石垣、土手、其他内外下水ノ築造等ハ、早晩必ズ起工ヲ要スルモノナルヲ以テ、先ヅ以テ本案ヲ提出シ、他ノ設計ハ尚充分調査ノ上本會ノ意見ヲ問フ考ナリト。町田朝太郎君ハ、本案ノ即決ヲ望ミ、且ツ曰ク、本員ハ曩ニ公園改良取調委員ノ末班ヲ汚シタル一人ナルガ、其調査ノ結果ニ成レル設計ハ、固ヨリ素人ナルヲ以テ完全ナラザルニ相違ナキモ、參事會ノ諮問ニ答申セル某技術者ノ設計トテモ頗ル拙劣ヲ極メ、兒戯ニ等シキモノナリシガ故ニ、素人ノ設計ニ對シ市參事會ガ不完全ナリトセシハ當然ナリ、世ニ園藝家ト稱スル斯道ノ專門家モ少ナカラザレバ、懸賞的ニ圖案ヲ募集シ、努メテ完全ノ施設ヲ望ムト。次ニ礒部武者五郎君ヨリ委員設置ノ動議提出アリタルモ、賛成者少數ニテ礒部君ノ動議ハ消滅シ、本案ハ原案通可決セリ。

然ルニ前記第四十七號議案ノ工事ハ、三十二年度中ニ竣工セザリシ爲メ、翌三十三年三月二十九日ノ會議ニ第二十五號議案ヲ以テ、第四十七號議案ノ工事繰越竝ニ雜給其他ノ費用增額ニ對スル追加豫算ノ提出アリ、越エテ明治三十四年二月二十二日附第百五十六號議案ヲ以テ、更ニ左ノ更正豫算ノ提出アリタリ。

第一項　日比谷公園費	
（一）　公園新設費	七二、五一五・五一六円
（二）　雜給	六五、〇七一・二九一
（三）　備品竝消耗品費	六八四・〇〇〇
（四）　豫備費	一七五・五〇〇
	六、五八四・七二五

說明

一、既定設計ノ内、東西南三方ニ地先下水ヲ新設スヘキヲ、西側一方ト爲スコト。

一、同上周圍ニ小土手ヲ新設シ、生垣ヲ設クルヲ、東西南三方ハ鐵柵ト爲シ、北方ハ鐵銷ト爲スコト。

一、霞ヶ關ヨリ流下スル下水ヲ疏通セシムル爲メ、新ニ衆議院議長官舍角ヨリ、貴族院角ニ暗渠ヲ新設スルコト。

本案ハ三月四日ノ第一讀會ニ於テ、**松長光吉君**ノ動議ニ依リ、議長指名五名ノ委員ニ調査ヲ附託スルニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

今泉勝平　田中新兵衛　斯波厚　山本新平　丸山名政

委員ハ**丸山名政君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、原案通可決シタル旨三月十八日ノ會議ニ報告シタルニ、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

▽日比谷公園設計常設委員設置ノ建議　十二月五日ノ會議ニ於テ渡瀨寅次郎君ヨリ左ノ建議提出アリ、

日比谷公園設計常設委員設置ニ關スル建議

市區改正ノ設計ニ於テ、本市公園地ニ指定セラレタル場所ハ其數勘カラスト雖モ、概ネ神社佛閣ノ境内等ニ過キスシテ、眞ニ公園ノ體ヲ備ヘ、民衆偕樂ノ地タルモノハ殆ト稀ナリ。抑モ歐米諸國ノ公園ハ、啻ニ美觀ヲ有シ、偕樂ノ便頗ル多キノミナラス、衞生上ノ注意亦殊ニ深シ。今ヤ東京市モ商工業大ニ發達シ、從テ家屋ノ建築、工場ノ造營、月ニ加ハリ、實ニ市民ノ健康ヲ保ツ上ニ於テ、歐米諸國ヲ模範トセル公園ノ施設ヲ必要トス、況ンヤ改正條約實施ノ結果、内地雜居トナリシ今日ニ於テヲヤ。幸ヒ日比谷公園敷地ハ、本市ノ中央ニ在リ、今ヤ其開設準備中ナルヲ以テ、之カ設計施設完全ヲ期シ、且ツ其竣功ヲ迅速ナラシムル爲メ、特ニ常設委員ヲ設クルノ得策ナルヲ認ム。依テ市參事會ハ至急調査ヲ遂ケ、其組織權限ニ關スル議案ノ提出ヲ望ム。

右及建議候也

明治三十二年十月十六日

提出者　渡瀨寅次郎
賛成者　鹽島仁吉　外十一名

市會議長須藤時一郎殿

渡瀨君ヨリ提案ノ理由ニ就キ簡單ナル說明アリタル後、**宮川鐵次郎君**ハ、僅々五萬坪位ノ面積ニ過ギザル公園ノ設計ニ常設委員ヲ設クルハ餘リニ業々シキヲ以テ、其委員ハ常設トセズ、臨時トナスベシト述べ。**高橋庄之助君**ハ、設計ヲ充分ナラシムルニハ、專門家ヲ加フル必要アルヲ以テ、常設委員ト爲スベシトテ、宮川君ノ說ニ反對シタルガ、採決ノ結果、本建議ハ賛成者少數ニテ消滅ニ歸セリ。

第貳拾節　東京灣築港設計調査

松田市長ガ一月二十四日ノ會議ニ於テ述ベタル市政ノ方針ニ關スル意見（第九節參照）中、東京灣ノ築港ハ市ニ一大變動ヲ與フル大事業ニシテ、愼重ニ調査ヲ遂グル必要アルヲ以テ、專門家ニ設計ヲ囑託セント欲ストテ、左ノ議案提出アリ、市會ハ五月十八日ノ會議ニ上程、滿場異議ナク原案通可決セリ。

第四十一號

豫備費支出ノ件

一金參千六百圓

右明治三十二年度市區改正豫備費ヨリ支出スルモノトス

東京灣築港設計費

第貳拾壹節　市内交通機關問題

▽市内交通機關ニ關スル意見書提出ノ建議　五月十八日ノ會議ニ於テ、藤田藤一郎君外二十九名ヨリ提出ノ左ノ建議ヲ上程セリ。

一　市内交通機關ニ關シ内務大臣ニ意見書提出ノ建議

右提出候也

明治三十二年五月十七日

提出者

藤田藤一郎　峰尾勝春
町田朝太郎　利光鶴・松
後藤亮之助　細井榮三郎
横山富次郎　曲木如長
今泉勝平　村上耕一郎
安川繁成　田中新兵衛
中鉢美明　木村莊平
小笠原壽長　伊東勅典
大貫實　杉原榮三郎
中澤彦吉　磯部武者五郎
石井義正　名子新七
久徳猶行　秋虎太郎
河原伊平　今井喜八
五味卯三郎　中島行孝
山本新平　西澤善七

東京市會議長須藤時一郎殿

市内交通機關ニ關スル意見書

本市ニ於ケル交通機關ハ一トシテ視ルヘキモノナキヲ以テ、曩ニ本市ハ自ラ進テ市街鐵道ノ布設權ヲ出願セリトヽ雖モ、未タ其許可ヲ得ス。今ヤ内地雜居ノ期目睫ノ間ニ迫リテ、本邦ノ首府タル本市ニ文明的交通機關ノ設備ヲ缺クハ市ノ面目ニ關スルヲ以テ、速ニ之カ採納アランコトヲ希望ス。又本市交通機關トシテ營業セル馬車鐵道ハ、其動力ヲ馬匹ニ假ルヲ以テ道路ヲ損壞スルコト甚タシク、加之糞尿ノ散亂等到底避ケ得ヘカラサルカ故ニ、啻ニ公衆衛生上害アルノミナラス、市ノ外觀上不體裁タルヲ免レス。況ヤ他ニ進歩セル交通機關ノアルアリテ、

馬車鐵道ノ如キハ全ク舊時代ノ物ニ屬セリ。依テ曩ニ許可セラレシ各馬車鐵道ニ對シテハ、速ニ適當ナル動力ニ變更ヲ命セラレンコトヲ希望ス。

右二項、本會一致ノ決議ヲ經、謹テ意見書ヲ提出候也

明治三十二年五月十九日

東京市會議長　須藤時一郎

内務大臣侯爵西郷從道殿

追テ馬車鐵道ニ對シ動力變更ヲ命セラレントスルトキハ、本會ニ諮問アランコトヲ望ム。

劈頭**高山權次郎君**ハ延期ノ動議ヲ提出シテ曰ク、議員半數改選ノ期目睫ノ間ニ迫レル今日、斯ル重大問題ヲ議決セントスルハ穩カナラズト。**横山富次郎君**ハ之ヲ駁シテ曰ク、此意見書ハ要スルニ曩日市會ノ議決ヲ經、目下政府ニ稟請中ナル壓搾空氣鐵道ノ認可ヲ促シ、併セテ道路ノ保全ヲ計リ、市ノ外觀ヲ美化シ、公衆衛生ヲ保護スル等ノ點ヨリ、現在馬車鐵道ノ動力變更ヲ望ムニ在リテ、皆是レ本市ノ利益ヲ計圖スル誠意ニ出ヅルモノトス、誰カ之ヲ不可ナリトセンヤト。斯テ延期說ト即決說トニ對シテ贊否ノ兩論アリタルガ、採決ノ結果、延期說ハ少數ニテ成立セズ。**城敎馬君**ハ、第一項ト第二項トハ事件ノ性質全然異ルモノナレバ、之ヲ分離サレタシト望ミ。**利光鶴松君**ハ、事件ノ性質ハ異ルニ相違ナキモ、彼此相關聯シテ離ルベカラザルモノナルニ依リ、之ヲ分割シテ議題ニ供スルハ不可ナリ、殊ニ本會ハ未ダ曾テ建議ヲ分割シテ議決シタルコトナク、將來ニ惡例ヲ貽スモノナリト反對シ。分割說ニ就テモ贊否ノ議論アリタルガ、採決ノ結果、分割說ハ少數ニテ成立セズ、全案ヲ一括シテ審議スル事ニ決セリ。茲ニ於テ**城君**ハ、然ラバ意見ヲ陳述スベシ、本建議提出者ノ眞意ハ蓋シ第一項ノ勢力ニ依リテ、第二項ヲ通過セシメント欲スルニ在ルナランモ、昨年七月川崎電氣鐵道敷設ニ關シ東京府知事ヨリ諮問アリタル際、本會ハ是ニ對シ、市内交通機關ハ本市自ラ敷設スル企望ヲ有シ即今之ガ調査中ナルニ因リ、今日ニ於テハ私設會社ニ許可セラレザルヤウ致シタシト答申シ、其後市内交通機關トシテハ空氣壓搾鐵道ヲ適當ト認メ、之ヲ採用スルコトニ決議シタルニアラズヤ、然ルニ本意見書第二項ニハ、「適當ナル動力」ナドト甚ダ曖昧ナル記載ヲ爲セルハ、何ノ故ゾヤ。本員ハ此ノ第二項ヲ以テ、府知事ニ對シテ爲シタル答申ト矛盾スルモノト斷言スルヲ憚カラズ。加之、馬車鐵道ニ向テ動力變更ヲ命ジナバ、會社ハ必ズ資本ノ增加、軌道ノ改造等ヲ理由トシ、營業年限ノ伸長ヲ出願スルニ相違ナシ、是レ會社ニ利益ヲ與フルモノニシテ、同時ニ本市自ラ經營セント欲スル交通機關ハ、到底全市ニ普及セシムル期ナキニ至ラントテ、第二項削除說ヲ主張シ。**石垣元七君**ハ、馬車鐵道ノ動力變更ヲ至當ナリトテ、建議ニ贊成シ。**加藤佐兵衛君**ハ、過般本會ニ馬車鐵道乘車賃減額ノ議アルヤ、會社ハ或ル意味ニ於テ某議員ニ或ル物ヲ贈リシモ、某議員ハ之ヲ返却シタリト聞ク、本建議ニ關シテハ萬々左樣ナル醜汚ノコトナシトハ信ズルモ、問題ハ同一ノ會社ナルノミナラズ、動力變更ハ會社ニ至大ノ利益ヲ與フルモノナルニ依リ、既往ノ事實ヲ一言シテ滿場ノ注意ヲ望ムト述ブルヤ。**五味卯三郎君**ハ、建議者中ニ一人ノ怪ムベキモノナキコトヲ斷言ス。思フニ加藤君ハ故ラ微妙ノ口吻ヲ以テ、名ヲ注意ニ藉リ、暗ニ反對サレシモノナラント駁シ。**關幸太郎君**ハ城君ノ說ニ贊成シテ、此ノ建議ニ對シテハ單ニ表面ノミニ着眼セズ、其裏面ヲ深察シ、以テ杜撰ノ決議ヲ爲ス勿レト論ジ。**小笠原壽長君**ハ、加藤君ノ言ハルヽガ如キ醜行爲アル議員ハ、當市會ニハ斷ジテ之ナキヲ明言スト述ブ。斯テ第二項削除說ヲ採決シタルニ、少數ニテ城君ノ削除說ハ否決セラレ、建議ハ原案通可決セリ。

▽市街鐵道布設條件ニ關スル件

十月十四日附ヲ以テ、市參事會ヨリ左ノ議案提出アリタリ。

第九十三號

市街鐵道布設條件ニ關スル件

東京市街鐵道布設出願人藤田重道外十四名ヨリ本市ニ對シ、別紙ノ通リ請願書ヲ提出セリ。依テ本市ハ左ノ特別條件ヲ付シ、申出ノ趣旨ヲ認許スルモノトス。

市街鐵道ニ關スル特別條件（右側ノ○印ハ市會ニテ修正　左側ノ｜印ハ市會ニテ削除）

第一　布設線路及軌道ノ件

一　布設線路ハ別冊ノ通リ延長二百哩トス

一　軌道布設ノ順序區域竝ニ着手竣工ノ期間ハ其時々東京市ノ承認ヲ受クヘシ

一　東京市ニ於テ必要ト認ムル場合ハ豫定線路又ハ布設順序ヲ變更シ若クハ設計外ト雖モ布設セシムルコトアルヘシ

一　鐵軌ノ形式重量等ハ東京市ノ承認ヲ受クヘシ

一　鐵軌ハ路面ト高低ナク之ヲ布設スヘシ

一　軌道内ニハ雨水等ノ滞溜セサル樣東京市ニ於テ相當ト認ムル設備ヲ爲スヘシ

一　東京市ニ於テ道路、橋梁、溝渠、水道及市區改正其他公共事業ノ爲メニ必要ナリト認ムルトキハ無償ヲ以テ軌道ノ變更又ハ鐵軌ノ撤去ヲ爲サシムルコトヲ得

一　單軌道及複軌道ヲ布設スヘキ場所ハ東京市ノ指示スル處ニ從フヘシ

第二　原動力ノ件

原動力ハ壓搾空氣式、蓄電池式、架空單線電氣式トス

前項何レノ方式ヲ使用スル場合ト雖モ東京市ノ承認ヲ受クヘシ

但シ架空單線電氣式ハ流電漏洩ノ豫防ノ設備充分ナル場合ニ限ル

第三　市ニ對スル公納金ノ件

會社ハ其拂込株金ニ對シ年七分ノ配當ヲ爲シ尙ホ剩餘ノ純益アルトキハ其剩餘純益ノ内ヨリ法定積立金準備金及後半季繰越金ヲ控除シタル殘額ノ三分ノ一ヲ道路使用料トシテ納附スヘシ

會社ハ六ヶ月間ヲ通算シ平均一日一哩四拾圓以上收入ノ場合ニ至リ左ノ割合ニ依リ市ニ納金ヲ爲スヘシ

一日一哩平均收入　營業總收入ニ對スル割合

一金四拾圓以上五拾圓未滿　壹百分壹

一金五拾圓以上七拾五圓未滿　壹百分貳

一金七拾五圓以上百圓未滿　壹百分參

一金百圓以上百貳拾五圓未滿　壹百分四

一金百貳拾五圓以上百五拾圓未滿　壹百分五

一金百五拾圓以上百七拾五圓未滿　壹百分六

一金百七拾五圓以上貳百圓未滿　壹百分七

一金貳百圓以上貳百貳拾五圓未滿　壹百分八

一金貳百貳拾五圓以上貳百五拾圓未滿　壹百分九

一金貳百五拾圓以上　壹百分拾

第四　布設道路幅員ノ件

道路ノ幅員ハ單軌道ノ場合ニ於テハ六間以上複軌道ノ場合ニ於テハ八間以上トシ專用軌道敷ハ單軌道十二尺複軌道二十尺以上トス

但甲乙線路連絡上止ムヲ得サル場合ニ於テハ短距離間當分ノ内本項ノ幅員ニ達セサルモ東京市ノ認許ヲ受ケ布設スルコトヲ得

前項ノ制限ニ充タサル道路ハ會社ニ於テ之ヲ擴築スルニアラサレハ軌道ヲ布設スルヲ得ス但東京市カ市區改正着手ノ線路ニ當ルモノハ此限リニアラス

第五　道路橋梁等ニ關スル義務ノ件

一　會社ハ東京市ニ於テ行フ軌道内及ヒ軌道外兩側壹尺五寸ツヽノ道路修繕ノ費用ヲ負擔シ及撒水除雪等ヲ行フヘシ

一　會社ハ前項ニ準據シ橋梁ノ撒水除雪掃除等ヲ爲シ及ヒ東京市ノ定ムル處ノ割合ニ從ヒ橋梁溝渠ノ修繕改築費ヲ負擔スヘシ

一　軌道ニ該ル橋梁溝渠脆弱又ハ狹隘ナリト認ムルトキハ會社ノ費用ヲ以テ東京市之カ改築修理ヲ行フモノトス但本項ノ橋梁溝渠等ハ東京市ノ公有ニ歸スルモノトス

第六　乘車賃錢ノ件

乘車賃錢ノ率ヲ定メ又ハ之レヲ變更スルトキハ東京市ノ承認ヲ受クヘシ

第七　發車度數及營業時間ノ件

發車度數及營業時間ハ東京市ノ承認ヲ受クヘシ

第八　營業期限ノ件

會社營業期限ハ營業開始ノ日ヨリ向フ參拾ケ年ト定ム

第九　工事着手及竣工期限ノ件

工事施行認可ノ後六ケ月内ニ起工シ向フ五ケ年間ニ竣工ヲ爲ス可シ但市區改正ノ都合ニ依リ延期ヲ與フル事アルヘシ

第十　年限後處分ノ件

營業期限滿了ノ後ハ時價相當價額ヲ以テ東京市之ヲ買上ルコトヲ得

第十一　資本額ニ關スル件

會社ニ於テ既定資本額ヲ增加シ若クハ社債ヲ起サントスルトキハ豫メ東京市ノ承認ヲ受クヘシ

第十二　市ノ監督ニ關スル件

一　東京市ハ何時ニテモ特定監督市吏員ヲ派シ會社營業ノ實況ヲ監査シ又會社ヘ對シ營業ノ實況ヲ報告セシムルコトヲ得

東京市ハ會社ヘ對シ營業收入ニ關スル帳簿書類等ヲ監査スルコトヲ得

一　本條件ノ外設計、工事、業務等ノ事項ニ付キ東京市カ新ニ設定スル條件及ヒ既定條件ノ變更等ハ凡テ之ヲ遵守スヘシ

一　本條件ヲ會社ニ於テ履行セサルトキハ會社ノ費用ヲ以テ東京市之ヲ行ヒ其他必要處分ヲ行フコトヲ得

（別紙）

請願書

私共本年八月十四日附ヲ以テ内務大臣へ出願仕候東京市内交通機關設備ノ件ハ、東京市ニ於ケル重要ノ事業ニ御座候。種々取調ノ上、東京市ト會社トノ關係別紙條件ノ如クセハ、双方ノ爲メ將來之便利ト存候ニ付キ、何卒別紙條件ニヨリ速ニ私共ヘ特許相成候樣主務大臣ヘ御上申被成下度、出願書類圖面等相添此段奉請願候也。

明治三十二年八月二十二日

東京市街鐵道敷設特許出願人連名

東京市參事會

東京市長松田秀雄殿

特許條件

第一　市ヘ對スル納金ノ件

會社ハ六ケ月間ヲ通算シテ、平均一日一哩五拾圓以上收入ノ場合ニ至リ、總收入金多少ノ割合ニヨリ總收入金ノ百分ノ貳以上、百分ノ八以内ノ納金ヲナス事、其割合左ノ如シ

一日一哩平均收入	營業總收入ニ對スル割合
一金五拾圓以上七拾五圓未滿	壹百分貳
一金七拾五圓以上百圓未滿	壹百分參
一金百圓以上百貳拾五圓未滿	壹百分四
一金百貳拾五圓以上百五拾圓未滿	壹百分五
一金百五拾圓以上百七拾五圓未滿	壹百分六
一金百七拾五圓以上貳百圓未滿	壹百分七
一金貳百圓以上	壹百分八

總收入及納金豫算概表（壹箇年貳百哩ニ對スル積算）

一日一哩平均收入	總收入金額	市納金率	市納金額
五拾圓以上ノトキ	三、六五〇、〇〇〇円	、〇二	七三、〇〇〇円
七拾五圓以上ノトキ	五、四七五、〇〇〇	、〇三	一六四、二五〇
百圓以上ノトキ	七、三〇〇、〇〇〇	、〇四	二九二、〇〇〇
百貳拾五圓以上ノトキ	九、一二五、〇〇〇	、〇五	四五六、二五〇
百五拾圓以上ノトキ	一〇、九五〇、〇〇〇	、〇六	六五七、〇〇〇
百七拾五圓以上ノトキ	一二、七七五、〇〇〇	、〇七	八九四、二五〇
貳百圓以上ノトキ	一四、六〇〇、〇〇〇	、〇八	一、一六八、〇〇〇

第二　道路修繕義務ノ件

會社ハ軌道内及軌道外兩側壹尺五寸ツヽノ道路ノ修繕及掃除ヲナス可シ

第三　市ノ監督權ノ方法

一　東京市ハ何時ニテモ特定監督市吏員ヲ派シ會社營業ノ實況ヲ監査スルコトヲ得又ハ會社ヘ對シテ營業ノ實況ヲ報告セシムル

コトヲ得

一　東京市ハ常ニ會社ヘ對シ乘車賃錢總收入ニ關スル帳簿書類ノ閲覽ヲ求メ且ツ總收入金ノ監督取調ヲナスコトヲ得

一　東京市ハ常ニ會社ヘ對シ道路修繕及掃除ノ監督ヲナスコトヲ得

第四　原動力ノ件

會社ハ架空單線電氣式ヲ以テ原動力トナス

但必要ナル場合ニ於テハ取調ノ上區劃ヲ定メ壓搾空氣式蓄電池式其他ノ原動力ヲ用ユルコトアル可シ

第五　乘車賃錢ノ件

乘車賃錢ハ市内ニ限リ距離ノ長短ニ拘ハラス金五錢ト定ム

第六　免許年限ノ件

會社營業年限ハ特許ノ日ヨリ向七十五年ト定ム

第七　特許線路ノ件

一　別冊願出附屬書類圖面ノ通リ第一期線路ヲ二百哩トス

一　線路ハ別冊ノ通リナリト雖尚市ニ於テ必要ト認ムル線路ハ市ノ命令ニ據リ設計外ニモ敷設スヘシ

一　本社第二期線ハ追テ設計ヲ定ムルコト

第八　布設道路幅員ノ件

道路幅員單線ハ四間以上トシ複線ハ六間以上トス

但新設軌道敷ハ單線十二尺複線二十尺以上トス

第九　工事著手及竣功期限ノ事

工事施行認可ノ後六箇月内ニ起工シ向フ五箇年間ニ竣功ヲナス

但市區改正ノ遲速ニヨリ竣功期限ヲ伸縮スル事アル可シ

第十　年限後處分ノ件

免許年限滿了ノ後ハ會社ニ於テ繼續スルヲ得ルモノトス若シ東京市ニ於テ必要ノ場合ニハ相當市價ヲ以テ市ニ買上クル事アルヘシ

（圖面略ス）

上申書

今回私共東京市街鐵道敷設特許出願致候ニ付テハ、右御許可相成候上ハ、明治二十六年十月十三日ヲ以テ出願致候東京電氣鐵道敷設特許願、明治二十八年六月十九日ヲ以テ出願致候東京電車鐵道敷設特許願、及ヒ明治二十九年三月二日ヲ以テ出願致候東京自動鐵道敷設特許願ハ、速ニ願下可致此段連署ヲ以テ上申致候也。

明治三十二年八月十四日

東京電氣鐵道敷設特許願出願人總代　藤岡市助

東京電車鐵道敷設特許願出願人總代　藤山雷太

東京自動鐵道敷設特許願出願人總代　野中萬助

内務大臣侯爵西郷從道殿

東京市街鐵道布設特許請願書

今般私共儀東京市街鐵道株式會社ヲ發企ノ上東京市内ニ電氣鐵道ヲ布設シ、一般交通運輸ノ便益ヲ謀リ度候間御認許被成下度、別冊工事設計豫算書並ニ線路圖面相添ヘ、此段奉請願候也。

明治三十二年八月十四日

東京市街鐵道布設發起人

雨宮敬次郎　藤岡市助
立川勇次郎　岩田作兵衛
小野金六　藤山雷太
佐分利一嗣　潮田傳五郎
岡本貞烋　手塚猛昌
野中萬助　吉田幸作
利光鶴松　青木正太郎
藤田重道

（以上十五名）

内務大臣侯爵西郷從道殿

（工事設計書、起業費豫算書及ビ圖面略ス）

上申書

今般私共儀東京市街鐵道敷設特許ヲ出願致候ニ付テハ左記三項ノ義務ヲ負擔可致候

一　東京市ニ對シ會社營業利益金中ヨリ相當ノ特別納金ヲ爲スコト

一　東京市ヨリ相當ノ監督ヲ受クルコト

一　軌道内及軌道外兩側一尺五寸ツヽ、道路ノ修繕及掃除ヲ會社ニ於テ負擔スルコト

右上申候也

明治三十二年八月十四日

東京市街鐵道敷設發起人

雨宮敬次郎　藤岡市助
立川勇次郎　岩田作兵衛
小野金六　藤山雷太
佐分利一嗣　潮田傳五郎
岡本貞烋　手塚猛昌
野中萬助　吉田幸作
利光鶴松　青木正太郎
藤田重道

内務大臣侯爵西郷從道殿

追申書

明治三十二年八月十四日附ヲ以テ出願仕候東京市街鐵道敷設特許ノ儀ニ付、八月二十二日附ヲ以テ東京市參事會ヘ別冊ノ通リ請願書差出候間、此儀追申致置候也。

明治三十二年八月二十二日

内務大臣侯爵西郷從道殿

東京市街鐵道敷設特許出願人
野中萬助
立川勇次郎
手塚猛昌

本案ハ十月十九日ノ會議ニ上程シタルガ、議事ニ入ルニ先チ**村上耕一郎君**ハ、列席議員中本案ニ直接關係ヲ有スル人アリ、仍テ其退席ヲ望ムト注意シタルニ對シ。**議長**(代理者中島又五郎君)ハ、唯今村上君ヨリ注意アリタル事件ニ關聯シテ、市參事會ヨリ通知アリタリトテ、書記ヲシテ左ノ通牒ヲ朗讀セシメタリ。

東京市街鐵道敷設特許出願人總代野中萬助外二名ヨリ、利光鶴松竝吉田幸作ノ該出願人タルコトヲ取消シ方屆出候條、此段及通知候也。

明治三十二年十月十九日

東京市參事會
東京市長　松田秀雄

東京市會議長須藤時一郎殿

是ニ於テ**長谷川深造君**ハ理事者ニ問ウテ曰ク、利光君等ノ出願人タルコトノ取消シハ、何人ヨリ何處ヘ屆出デタルモノナリヤト。市長**松田秀雄君**ハ、取消ノ屆出人ハ、出願人總代野中萬助、手塚猛昌、立川勇次郎ノ三名ニシテ、名宛ハ市參事會市長ナリト答辯セリ。是ヨリ先**横山富次郎君**ヨリ理事者ニ對シテ、提案ノ理由ニ就イテ説明アリタシトノ希望アリ。**太田直次君**ハ横山君ノ希望ニ贊成シ、且ツ曰ク、本件市街鐵道ニ關スル西郷内務大臣ノ意見ニ就キ、客月十八日ノ市會協議會ニ於テ松田市長ヨリ報告セラレタル所ト、其後市ノ有志者ガ同大臣ヨリ親シク聽取タル所トハ、大ニ相違ノ點アリト聞ク、其孰レガ果シテ眞ナルヤハ、本問題ヲ決スル上ニ重大ノ關係アリト信ズルヲ以テ、此點詳細ナル説明ヲ望ムト。次イデ**城數馬君**、**黒田綱彦君**等モ左ノ質問ヲ爲セリ。

城數馬君　本市ニ於ケル交通機關ハ市ノ營造物トシ、本市自ラ之ヲ敷設センコトヲ欲シ、一昨年市會ハ、市參事會ニ對シテ其方式及ビ經濟等ノ點ヲ調査ノ上、本會ニ報告アリタシトノ建議ヲ可決セリ。越エテ昨年ニ至リ、市參事會ハ右市會ノ決議ニ基キ、第四十四號議案ヲ以テ、本市自ラ市街鐵道ヲ敷設スルノ許可ヲ政府ニ請願スル事トシ、又第九十二號議案ヲ以テ、該鐵道ノ原動力ニハ壓搾空氣式ヲ採用シ、且ツ其資金ニハ公債ヲ募集シテ之ニ充テ、尚ホ創業費及ビ營業費等ハ若干ニシテ、收入ハ大凡ソ幾許ヲ得ト、詳細ナル計算表ヲ添ヘテ本會ニ提案アリ、本會ハ審議ノ末、滿場一致ヲ以テ此兩案ヲ可決セリ。交通機關市有計畫ノ沿革ハ以上ノ如シ。市會ノ議決ヲ執行スベキ責任ヲ有スル市參事會ハ、宜ク政府ニ對シテ許可方盡力斡旋セラルベキヲ相當トス。然ルニ本市ノ請願書ハ未ダ却下セラレシニアラズ、又市自ラ之ヲ撤回シタルニモアラズ、今尚内務當局者ノ案頭ニアリテ許否何レトモ決定セザル今日、奇怪ニモ藤田重道外十四名ヨリノ出願ヲ採用シ、神聖ナル市會ノ決議ヲ無視シテ、民設認許ノ議案ヲ提出サレシハ何事ゾヤ、市長ハ責任ヲ以テ明確ニ答辯アランコトヲ望ム。

黒田綱彦君　客月十八日ノ協議會ニ於テ、余ハ市街鐵道民設ノ可否ニ付テハ、行政部先ヅ其意見ヲ定メ、然ル後市會ニ提案スルガ當然ナリ。吾々新任議員ハ曩ニ市街鐵道ヲ市自ラ經營スルコトニ決シタル當時ノ事情ヲ承知セザルニ因リ、市參事會ハ市有ト民有トノ利害得失ヲ取調べ、其詳細ヲ議案ニ載センコトヲ望ミタリ。協議會ニ於ケ

ル余ノ此動議ハ幸ニ多數ノ贊成ヲ得テ可決シタリキ。然ルニ何ゾ圖ラン、本日議題ニ供セラレタル本案ヲ閲讀シ來レバ、全案民設ニ關スルコトノミヲ記載シ、一言ノ市有ニ及ベルモノナシ。茲ニ於テ本員ハ、市有、民有ノ利害ヲ研究スベキ材料ナク、大ニ當惑セリ。市參事會ハ、市自ラ交通機關ヲ設備スルノ本市ニ有害ナルヲ認メ、爲メニ其取調ヲ行ハザリシヤ、是レ質問ノ第一ナリ。次ハ城君モ論ゼラレシ如ク、市會ノ決議ハ市參事會是レガ執行ノ責任ヲ有スルモノトス、然ラバ第九十三號議案ヲ本會ニ提出セント欲セバ、事ノ順序トシテ先ヅ本市ガ曩ニ內務省ヘ提出シタル請願書ヲ撤回セザルベカラズ、市參事會ハ果シテ其手續ヲ盡シタリヤ否ヤ。若シ其手續ヲ爲サヾル以上ハ、市參事會ハ當然ノ職責トシテ、市設ノ許可ヲ得ルニ盡瘁セラルベキハ勿論、藤田重道等ノ民設出願ニ對シテハ、素ヨリ認許ヲ與ヘ得ベキニアラズト考フ。故ニ本案ヲ市會ヘ提出ノ際、過般市ヨリ內務省ヘ差出セル請願書ハ如何ニ處分セラレシヤ、是レ質問ノ第二ナリ。次ニ昨年市參事會ガ第四十四號議案（第壹卷明治三十一年第拾章第拾節參照）提出ノ際ハ、市自ラ市街鐵道ヲ敷設スルノ本市ニ利益ナルヲ認メタルニ由ル事明ナリ、然ルニ今ヤ全ク正反對ノ議案ヲ提出シ、民設ヲ認許セント欲スルハ、市設ヲ以テ本市ノ公益ヲ害スルモノト認メタルニ由ルモノナリヤ、將タ他ニ深キ事情ノ存スルコトナリヤ、是レ質問ノ第三ナリ。（此時傍聽人中無用ト叫ビ、或ハ咳嗽スルモノアリ、議場內頗ル騷擾シ、議長勵聲之ヲ制止セリ）次ハ本案特別條件第四項ニ、單軌道敷設ノ道路ハ幅員六間以上ナラザルベカラズトノ規定アリト雖モ、軌道ノ敷設ハ市區改正ニ伴ハザルヲ得ズ、然ラバ其敷設工事ニシテ、市區改正ノ設計ト矛盾スル場合ハ如何ニ處分セラルヽヤ、是レ質問ノ第四ナリ。

此時議長（代理者中島又五郎君）ハ黑田君ニ注意シテ曰ク、各項ニ就テノ質問ハ逐條審議ノ場合ニ讓リ、先ヅ市長ヨリ大體ノ說明ヲ聞カレテハ如何ト。黑田綱彥君之ヲ諾シ、然ラバ余ノ質問ハ一先ヅ以上ノ四點ニ止メ、他ハ市長ノ辯明ヲ聽キタル後ニ讓ルベシトテ、質問ヲ打切リ。繼デ松田市長ハ、提案ノ理由ヲ左ノ如ク說明セリ。

回顧スレバ一昨三十年十一月二十九日ノ市會ニ於テ、今日ハ既ニ故人トナラレタル佐久間貞一君ヨリ、市內交通機關ハ市ノ營造物トシテ本市自ラ敷設センコトヲ欲スルニ依リ、市參事會ハ其方式竝ニ經濟等ノ點ヲ調査シ、之ヲ市會ニ報告サレタシトノ建議提出アリ、市會ハ即日之ヲ可決シテ市參事會ニ通知セリ、之ヲ市街鐵道市設論ノ濫觴トス。當時特別市制施行中ニ屬シ、時ノ市長ハ岡部東京府知事ノ兼攝スル所ニシテ、執行機關タル市參事會ハ、此通知ニ接スルヤ夫々調査ニ着手シ、翌三十一年六月六日ヲ以テ第四十四號議案ヲ提出シタリ。該案ハ甚ダ簡單ナルモノニテ、方式及ビ經濟ニ關スル點ハ目下取調中ニ屬スルガ故ニ、其結了次第本會ノ決議ヲ求ムベキモ、差當リ敷設權ノ許可ヲ其筋ヘ請願スト云フニ在リキ。此ニ於テ市會ハ、特ニ調査委員ヲ設ケ、討究審議ノ末、八月二十四日ニ至テ原案ヲ可決シ、市參事會ハ直ニ之ヲ執行シテ、內務省ニ請願書ヲ差出シタリ。其後方式及ビ經濟等ノ調査既ニ結了ヲ告ゲ、且ツ內務省ヨリ申越ノ次第モアリ、旁〻以テ十一月十八日ニ至リ、更ニ第九十二號議案ヲ提出セリ。本案ノ要旨ハ、原動力ニ空氣壓搾式ヲ採用シ、起業費ニハ市公債ヲ募集シテ之ニ充ツベシト云フニ在リテ、尙ホ營業上ノ收支概算書等ヲ添附セリ。而シテ市會ハ同月二十一日之ヲ可決シタルヲ以テ、市參事會ハ是レ亦直ニ內務省ヘ提出セリ。

市街鐵道設備ニ關スル市會ノ方針ハ、上來陳述ノ如ク市ノ自營ト爲スニ在ルヲ以テ、爾來本職ハ、內務省ニ對シ再三再四許可ヲ迫リシガ、其間內閣ノ交迭アリ、或ハ當局者ニ異動アル等、種々ナル故障ノ爲メ、容易ニ許可ヲ得ル能ハザリキ。本職ガ千家府知事ニ特別ノ盡力ヲ請ヒ、且ツ直接內務省ニ赴キテ其許可ヲ督促シタルコト實ニ幾回ナルヲ知ラザルナリ。然ルニ本年八月二十六日附ヲ以テ、小松原內務次官ヨリ本職ニ對シ面談シタシトノ申

込アリタルニ因リ、翌々二十八日內務省ニ出頭シタルニ、次官ハ左ノ如ク語レリ。

東京市街鐵道ニ關シ、省議ハ市ノ請願ヲ許可セズト決定シタルニアラズ、然レドモ從來種々ノ調査モアリテ、容易ニ許可ノ運ニ至ラザルベシ。然レバトテ市ヲ差置キテ他ノ出願者ニ許可ヲ與フルコトモナリ難シ。故ニ市ハ他ノ出願人ト打合セヲ爲シ、條件ヲ定メ、其旨稟申アルニ於テハ、內務省ハ是ニ就テ許可ノ詮議ニ及ブベシ、仍テ能ク此意ヲ諒シ、市ノ意見ヲ內申セラレンコトヲ望ム。

本職ハ之ヲ聞キテ不審ニ堪ヘザリシヲ以テ、何故東京市ノ請願ニ許可ヲ與フル能ハザルヤト訊シタルニ、次官ハ左ノ如ク答ヘタリ。

樺山伯爵ガ內務大臣タリシトキ、東京府知事ニ示達セルコトアリ、其ハ省議ノ上粗ミ山ノ手七區ヲ電車鐵道出願人ニ許可シ、下町八區ヲ電氣鐵道出願人ニ認許スルコトヽナリ居レルニ依リ、其趣旨ニ從ヒテ更ニ出願セバ、詮議ニ及ブベシト云フニ在リキ。此ニ於テカ出願人ハ、夫々手續ニ着手シ、內務省モ亦殆ド將ニ許可ヲ與フルノ運ビニ至ラントスルノ際、內閣交迭等ノ爲メ、自然其儘ニ打過ギ來リシガ、今ヤ電氣鐵道、電車鐵道、及ビ自動鐵道ノ三派出願人相合同シテ、東京市街鐵道株式會社ヲ發企シ、以テ更ニ敷設出願ヲ爲シタリ。從來ノ調査上、東京市ノ出願ニ對シテハ容易ニ許可ノ運ニ至ラズ、又市ヲ差置キ三派合同者ノ出願ヲモ採用シ難シト云フ所以ノモノハ、即チ是レガ爲メナリ。

爾來幾回カ次官ヲ訪ヒタルモ、次官ハ單ニ、本職ガ曩ニ爲シタル質問ニ對シテ次官ガ答ヘラレタル趣旨ニ添フベキ市ノ意向ヲ內申アリタキ旨談ゼラルヽノミナリシヲ以テ、已ムヲ得ズ本職ハ客月十八日協議會ノ開催ヲ市會議長ニ請求シ、以テ諸君ヲ煩ハスコトヽナリシモノニテ、協議會ニ於テハ、御承知ノ如ク種々論議ノ末、兎ニ角市參事會ノ意見ヲ定メテ發案スベシト決定セラレタリシナリ。依テ市參事會ハ直チニ取調ニ着手シ、又一方其顚末ヲ內務次官ニ報告シ、且ツ本職ト貴官トノ交渉ハ、從來內議又ハ內申ニテ、其取扱總テ公然ナラザリシモ、今ヤ公ノ市會ニ向テ發案スル以上ハ、事情明白ナラザルヲ得ズ、故ニ貴官トノ應答竝ニ行掛ノ事情等ハ之ヲ公會ニ報告スルモ差支ナキヤト其決意ヲ問ヒタルニ、小松原次官ハ九月二十九日ニ至テ、報告スルモ差支ナキ旨明答セラレタルニ依リ、直ニ此趣ヲ市參事會ニ報告シタリ。

抑〻市內交通機關ノ設備ハ、本市ニ於テハ目下ノ急務ナリ。而シテ其施設ハ、本市請願ノ如クナランコトヲ切ニ希望スト雖モ、內務省ガ從來ノ行掛ヲ顧念シテ許可セラレズンバ、市民ノ不幸是レヨリ大ナルハナシ。故ニ已ムヲ得ズ、本市ハ公益ニ妨ナキ限リハ特別ノ條件ヲ附シ、三派合同者ノ請願書ニ因リ市內交通機關ノ速成ヲ期スルノ外ナシト認メ、市參事會ノ審議ヲ經テ、玆ニ本案ヲ提出スルニ至レルモノナリ。終ニ臨ミ一言セン、余ガ此事件ニ關シ數回內務次官ト交渉シタルハ素ヨリ市長タル職責ヲ帶ビテノコトニテ、小松原氏モ亦內務次官タル職責ヲ帶ビテ語ラレタルモノナルハ勿論ナリト信ズ。又余ガ小松原次官ヲ介シテ西鄕內務大臣ニ面會シタル際、同大臣ハ次官ト本職トノ交渉ハ承知ノ旨話サレタリ。

松田市長ノ說明終ハリテ、左ノ質疑應答アリタリ。

城數馬君　本案提出ノ成行ハ、市長ノ說明ニテ粗ボ知ルヲ得タリト雖モ、曩ニ本員ガ質問シタル點ニ對シテハ毫モ答辯アラザリシヲ以テ、重ネテ質問スベシ。市會ガ市設ヲ議決シ、理事者ハ市會ノ議決ニ基キテ政府ニ對シ、交通機關ノ市設ヲ請願シ置キナガラ、其處分ノ未ダ孰レトモ決定セザル今日、更ニ民設願ヲ認許スル如キハ、實ニ無責任ナリト云ハザルベカラズ、市長ハ本案ヲ提出スルニ際シ、前請願書ハ如何ニ處分サレシヤ。

松田市長　未ダ市參事會ノ議決ヲ經タルニアラズト雖モ、其筋ニ於テ本案ノ如キ特別條件ヲ認許シ、出願者ニ之ヲ勵行セシメラルヽナラバ、曩ニ本市ガ提出シタル請願書ヲ取消スベク、若シ否ラザルニ於テハ決シテ願下ヲ爲サヾル見込ナリ。

黑田綱彥君　市長ハ內務次官ヨリ談ゼラレタル結果トシテ、本案ヲ提出スルニ至レリト云ヘリ。然ラバ市長ハ民設三會社ニ對シ大ニ市有說ヲ主張シタルモ、市長ノ主張ハ貫徹セズ、遂ニ一着ヲ輸シ、民設認許ノ已ムヲ得ザルニ至リシモノナリヤ、將タ最初ヨリ民設認許ノ精神ヲ以テ特別條件ヲノミ交涉シタルモノナリヤ、市長ガ合同派ニ對スル交涉ノ模樣ヲ承リタシ。

松田市長　內務次官ノ談示ハ、市長モ三派ニ合同セヨト云フニアラズシテ、三派ト打合セヲ爲シテ條件ヲ定メ得ラルヽヤ、市ノ意向ヲ內申セヨト云フニ在ルナリ。

（此時黑田綱彥君ハ、「市長ノ答辯ハ全然見當違ナリ」ト云ヒ、城數馬君ハ、「故ラ曖昧模糊ノ說明ヲ爲スモノナラン」ト呼ベリ）

村上耕一郎君　理事者ノ答辯要領ヲ得ザルガ、元來本案ハ提出ノ順序ヲ愆リ、未ダ市會ニ發案セラルベキ手續ヲ盡シタルモノニアラズ。何トナレバ城君モ論ゼラレタル如ク、曩ニ本市ノ提出シタル願書ハ今尙ホ內務省ニ存在シ、決シテ却下セラレシニアラズ。故ニ市長ノ盡力ニ依リ、或ハ其許可ヲ得ルニ至ルヤモ知ルベカラザルナリ。然ルニ市會ノ議決ヲ拋擲シテ、更ニ藤田重道等ノ民設願ヲ認許セント欲ス、是レ豈ニ奇異ノ次第ニアラズヤ。（此時議論ヲ差止ムベシト呼ブ者アリ、議長ハ村上君ニ對シ、質問ナラバ單ニ其要領ヲ述ベ、議論ハ之ヲ避クベシト注意セリ）然ラバ議長ノ注意ニ從ヒ、單ニ會社ガ使用セント欲スル原動力ノ如何ナル方式ナルカヲ問フニ止メン。

松田市長　村上君ガ本市ヨリ內務省ヘ提出セシ請願書ハ、未ダ却下セラレズト云ハレタルハ如何ニモ其通リナリ、故ニ余ハ內務省ニ於テモ敢テ本市ノ請願ヲ許可セズト決シタル次第ニ非ズト說明シタルナリ。又原動力ニ就テハ、目下遞信省ニ於テ調査中ノ趣ナルニ依リ、會社ニ使用セシメントスル方式ハ未定ナリ。

須藤時一郎君　本市ガ市內交通機關市營ノ出願前、既ニ電氣鐵道、又ハ電車鐵道等ノ民設願ヲ差出シタルモノアリ、樺山伯內務大臣タリシトキ如何ナル故カ、山ノ手七區ハ何派ニ、下町八區ハ何派ニ許可ヲ與フル等ノ內約ヲ爲シタル由、軌道條例ノ精神ニ背キ、直接利害ノ關係アル市會ノ意見ヲ徵セズシテ、擅ニ內約ヲ結ビタルハ、誠ニ不都合ノ次第ナレドモ、深ク內部ニ立入ルトキハ實ニ云フベカラザル情實ノ其間ニ纏綿セルモノアリ、勢ヒノ止ムベカラザルモノアルニ因レルモノナラン歟。伯既ニ內約ス、其命ニ接シタル出願者ハ、蓋シ手ヲ拍テ相慶セシナルベシ。何ゾ圖ラン、事ノ未ダ決行セラレザル前ニ於テ、內閣ノ交迭ヲ見、遂ニ荏苒今日ニ至レリ。然ルニ曩日樺山內相ノ內示ヲ受ケタル出願者ハ、今ヤ三派相合同シテ內示ニ從ヒタル請願ヲ爲シ來リ、本市モ亦頻ニ市營ノ許可ヲ迫レリ。玆ニ至テ內務省ハ、從來ノ行掛上ヨリ市ノ請願ヲ許ス能ハズ、然レバトテ三派ノ出願ヲモ納レ難ク、殆ド板挾ミノ姿トナリテ、其處分ニ窮シ、困惑ノ餘、松田市長ニ向テ、內務省ノ爲メニ俠氣ヲ出シテ之ヲ引受ケタル結果、幾多ノ魂膽、否詮議ヲ遂慮サレタシト依賴シ、市長ハ玆ニ內務省ノ爲メニ俠氣ヲ出シテ之ヲ引受ケタル結果、幾多ノ魂膽、否詮議ヲ遂ゲ、終ニ本案ヲ提出セラレタルモノト推察ス、爾カ心得テ差支ナキヤ。

松田市長　決シテ左樣ノ次第ニアラズ、內務次官ノ談示ハ、從來ノ行掛アルヲ以テ、本市ニモ、他ノ出願人ニモ、容易ニ許可スル運ニ至ラズト云ヘルマデナリ。

吉川仙太郎君　本案ニ對シ市參事會ハ滿場一致ヲ以テ可決セラレシヤ、或ハ又多少ノ反對論者アリシヤ。若シ反對說アリシナラバ、其主張者ヨリ少數意見ノ提出ナカリシヤ。

議長（代理者中島又五郎君）　市參事會ハ、法律上秘密會タリ。故ニ何人ガ如何ナル說ヲ唱ヘシカハ、公會ノ席上ニ於テ明言スベキ限ニアラズ、又左樣ノ事柄ヲ質問スベキモノニモアラザルナリ。

吉川君　然ラバ更ニ別事ヲ問ハン、市區改正ノ設計ニ於テハ、何レノ道路タルヲ問ハズ隨意ニ軌道ヲ敷設セシムルノ趣旨ニアラザルガ如シ、而シテ私設會社ノ三派ヨリ內務大臣ニ差出シタル工事設計明細書ナルモノヲ見ルニ、第一期分ノ敷設トシテ九十二線路ヲ列記セリ。此內ニハ蓋シ市區改正ノ設計ト矛盾スル場所モアランガ、是等ハ市區改正委員會ト交涉セラレシヤ如何。

松田市長　市區改正ト鐵道敷設線路トノ關係ニ就テハ、何レ內務大臣ヨリ市區改正委員會ニ諮問セラルヽナラント考フ。

町田朝太郎君　本市ノ請願ハ容易ニ許可ヲ得難シトノコトナルガ、此上如何ニ盡力スルモ到底好結果ヲ得ベキ見込ナキヤ。

松田市長　樺山伯ガ內務大臣タリシ時、電氣鐵道及ビ電車鐵道ノ敷設出願ニ對スル詮議ハ、如何ノ程度マデ進ミタルヤ、再三之ヲ質問シタル結果、小松原次官ハ、省議粗ボ決定シテ大臣ノ決裁モ濟ミ、既ニ東京府知事ニ示達シタルモノナリ、市ノ出願ニ對シテ容易ニ許可シ難シト云フ所以ノモノハ、畢竟之ガ爲メナリト答ヘラレタリキ。此談話ヲ咀嚼シ來レバ、此儘ニテ好結果ヲ得ルコト容易ニアラズト推察シ得、若シ飽迄市ノ願意ヲ貫カント欲セバ、徒ニ時日ヲ遷延シ、市內交通機關ハ何レノ日ニ施設セラルベキ乎、杳トシテ殆ド豫測ダニスル能ハザルニ至ラン、此ニ於テカ本市ノ公益ニ害ナキ限リハ、職責上亦已ムヲ得ザルモノアリト考ヘ、乃チ本案ヲ提出シタルナリ。

福岡健夏君　本案ハ市ノ利害ニ痛切ナル關係ヲ有シ、近來稀有ノ大問題ナルニ由リ、充分論議ヲ盡シ、然ル後チ可否ノ決定ヲ望ム。去月十八日ノ市會協議會ニ於テ、松田市長ハ內務省ノ模樣ヲ報告シ、東京市ノ出願ニハ許可セラレザルコトニ決定シタリト述ベラレタルニ拘ハラズ、其後本市ノ有志者ガ西鄕內務大臣ニ就テ親シク聞取リタル所ニ依レバ、未ダ不許可ノ詮議ヲ爲シタルコトナシト答ヘラレタリ。本員ハ玆ニ至テ市長ノ言ニ疑ナキ能ハズ。

（此時傍聽人中拍手スルモノアリ、或ハ咳嗽スルモノアリ、又議員中ニモ議論的質問ハ差止ムベシト呼ブモノアリ、或ハ無用々々ト連呼スルモノアリ、議場喧騷シタルヲ以テ、**議長**（代理者中島又五郎君）ハ注意シテ曰ク、傍聽者ハ靜肅ニセラルベシ、若シ喧騷ニ涉リ、議事ノ妨害ヲ爲スモノアラバ、斷然規則ニ據テ退場ヲ命ズベシ。又福岡君ニ注意ス、質問ハ其要領ノミヲ述ベ、議論ニ涉ルコトヲ避ケラルベシト）

議長ノ注意ハ領承セリ、併シ吾々有志者ガ內務省ニ西鄕內相ヲ訪ウテ親シク其意見ヲ叩キシ時、同大臣ハ明カニ市ノ出願ヲ許可セズトノ詮議ヲ爲シタルコトナシト答ヘラレタリ。既ニ此確答ヲ聞ク以上ハ、市長ノ言ヲ疑ハザラント欲スルモ得ベカラザルニアラズヤ。

議長（代理者中島又五郎君）ハ、福岡君ノ質問ハ全ク議論ナリト注意スルヤ。**福岡君**、然ラバ理由ヲ省キ、單ニ質問ノ要旨ヲ述ベン。今日理事者ガ辯明セラレタルハ、其筋ヨリ公文ヲ以テ通知シ來レルモノナリヤト問ヒタルニ對シ。**議長**ヨリ、別ニ公文ノ通知ナシトノ答辯アリタリ。次イデ**久德鉴行君**ヨリ、質問打切ノ動議提出アリ、異議ナク質問ヲ打切リ、左ノ討論アリタリ。

久德鉴行君　余ハ此議案ニハ絕對ニ反對ナリ。其理由ハ深ク論ズル迄モナク、昨年本會ハ、第四十四號及ビ第九

十二號兩案ヲ殆ド滿場一致ヲ以テ可決シ、市街鐵道ハ市自ラ經營スルヲ公益ナリト議定シ、其筋ヘ請願シタルニアラズヤ。余ハ去月十八日ノ協議會ニ缺席シタルガ故ニ、市長ノ辯明ヲ聞カザリシト雖モ、過刻城君モ論ゼラレシ如ク、市會ノ議決ヲ執行スベキ責任ヲ有スル市參事會ガ其筋ヘ提出シタル市ノ請願アルニ拘ハラズ、市會ノ決議トハ正反對ナル民設認許ノ議案ヲ提出セルハ、實ニ奇怪ノ行動ト云ハザルベカラズ。元來本市ハ廣袤數里ニ渉ル大都府ナルニ拘ハラズ、市内交通機關ハ頗ル不完全ニシテ、唯最モ舊式ナル馬車鐵道ノ一アルノミ。而モ其馬車鐵道ガ道路ヲ破壞シテ往來者ニ困難ヲ與ヘ、馬匹ノ糞尿ヲ撒布シテ市民ノ衞生ヲ害スル等ノ弊、擧ゲテ算フベカラズ、此ニ於テカ動力變更ノ議ハ有志ノ間ニ起レリ。刻下唯一ノ交通機關スラ、其不完全ナルコト斯ノ如シ。然レバ利ニ敏キ起業家ハ、早クモ電氣鐵道、電車鐵道、又ハ自動鐵道、其他種々ナル方式ノ鐵道敷設ヲ出願スルモノ甚ダ多ク、内務當局者ノ机上堆ヲ爲セリト聞ク。然ルニ頃日新聞紙ノ傳フル所ニ依レバ、電氣、電車、自動ノ三派合同シテ、更ニ東京市街鐵道會社ヲ發企セリト云ヘリ。然レドモ是等ノ會社ガ如何ニ出願スルモ、内務省ハ決シテ是ニ許可ヲ與フルコトナク、必ズ本市ガ其許可ヲ得、日ナラズシテ之ヲ敷設シ、一ハ以テ市内交通機關ノ完備ヲ計リ、一ハ以テ市行政費ノ幾分ヲ補充スルニ至ルナラント信ジ居タリキ。然ルニ何ゾ圖ラン、曩ニ市設ノ議案ヲ提出シタル市參事會ガ、突然民設議案ヲ提出シテ市會ノ議決ヲ葬リ去ラントスル行動アラントハ。市參事會ノ行爲ニ對シ、余ハ奇異ノ感ニ打タレ、只呆然タラザルヲ得ザルナリ。論者或ハ云ハン、本案ノ如キ特別條件ノ下ニ民設ヲ許シナバ、獨リ交通機關ノ速成ヲ期シ得ルノミナラズ、市ニハ若干ノ收利アリ、是レ實ニ兩全ノ策ナリト。然レドモ本員ハ文字ノ上ニ如何ナル條件ヲ羅列スルモ、毫モ其效ナキヲ信ズルモノナリ。蓋シ他日或ル運動ニ依リ、此條件ヲ變更セシムコトナキヲ保セザレバナリ。見ヨ市設ヲ以テ本市ノ公益ナリトシテ其筋ニ請願シ置キナガラ、今又民設議案ヲ提出スル如キ、轉變反覆極リナキ實例アルニアラズヤ。本市ノ現狀ヲ察スレバ、經費年ヲ逐ウテ增加シ來ルモ、稅源殆ド絕エ、偶〻特別稅ヲ起サント欲スレバ、内務省之ヲ許サズ、今ニ於テ講ズル所ナクンバ、他日本市ハ財政上ニ非常ナル困難ヲ來スヤ必セリ。之ヲ防グノ策ハ唯市自ラ生產的事業ヲ起シ、其收入ヲ以テ政費ヲ補フノ外ナシ。本市ニハ從來生產的事業ハ殆ド皆無ナリ、故ニ市街鐵道ノ如キモノヲ自ラ敷設シ、經營其宜シキヲ失ハズンバ、將來市ノ一大財源トナルベシ。思ウテ玆ニ到レバ、恃ムベカラザル條件ヲ恃ミテ、此有利ナル事業ヲ民設ニ委ヌルハ、實ニ痛惜措ク能ハザルナリ、況ンヤ前後矛盾ノ議決ヲ爲ス如キハ、本員ノ決シテ忍ブ能ハザル所ナルニ於テヲヤ。是レ本案ニ反對スル所以ナリ。

利光鶴松君　當初市有論ヲ唱道シタル本員ガ、今ヤ本案民設ニ同意ヲ表スルハ、一見頗ル奇ナルガ如シト雖モ、持論ノ精神ハ終始一貫毫モ變易セズ、今尙ホ昨ト異ル所ナキナリ。昨年市參事會ヨリ第四十四號議案ノ提出アルヤ、市會ハ殆ド滿場一致ヲ以テ之ヲ可決シタリト雖モ、其精神ニ至テハ蓋シ二個ノ別アリシナラン。其一ハ、單ニ敷設權ノミヲ得、而シテ營業ハ特別條件ノ下ニ民間有志ヲシテ行ハシムベシト云フニ在リ。其二ハ、獨リ權利ヲ得ルノミナラズ、市自ラ之ヲ敷設シ、又自ラ營業ヲ開始スベシト云フニ在リ。當時本會ハ此二點ニ就キ其利害ヲ研究セザリシト雖モ、本員ハ實ニ其第一ノ趣旨、即チ單ニ敷設權ノミヲ得ルノ精神ニテ、原案ニ同意シタルナリ。思フニ本會ノ多數ハ勿論、發案者自ラモ亦敷設權ノミノ許可ヲ得ル精神ナリシハ疑ヲ容レズ。見ヨ第四十四號議案ハ甚ダ簡單ニシテ、原動力ニハ如何ナル方式ヲ採用シ、又起業資金ハ如何ナル方法ニ由テ之ヲ得、營業費及ビ收入額ハ若干ナルベキ乎、是等ノ點ヲ毫モ明示スル所ナク、漠然「東京市交通機關タル市街鐵道ハ、本市ニ於テ敷設スルヲ便利ト認ムルニ付、之カ敷設權ノ許可ヲ其筋ニ請願スルモノトス」ト云フニ過ギザリシニアラズヤ、

當時本市ガ果シテ自ラ營業スル精神アリシナラバ、何故斯ル杜撰ニシテ、而モ漠タルモノヲ提案シタリシヤ、而テ市會ニ於テモ亦議論ナク、此漠タル議案ヲ其儘可決シタル所以ノモノハ、問ハズシテ其意ヲ忖度シ得ベキナリ。爾後內務省ニ於テモ、此漠然タル本市ノ出願ニ對シテ種々質問ヲ爲セリ。此ニ於テカ市參事會ハ一年餘ヲ費シテ、更ニ第九十二號議案ヲ提出シ、本會ノ議決ヲ經テ、其方式、資金、及ビ收支概算等ヲ內務省ニ復申セリト雖モ、元是レ形式ノミ、其精神タル依然敷設權ノミヲ得ルニアリシハ深ク論ズル迄モナキナリ。若シ夫レ當初ヨリ實際市自ラ營業スルノ意ナリシナラバ、本員素ヨリ是ニ反對シタリシナリ。論ジ來レバ、市會ト云ヒ、市參事會ト云ヒ、共ニ敷設權ノミヲ得ルノ精神ナリシコトハ、辯ヲ待タズシテ明ナリ。然ルニ客月十八日ノ協議會ニ於テ市長ヨリ報告アリシ如ク、內務省ハ詮議ノ末、敷設權ノミヲ許可スルコトハ不可能ナリト決定シタル以上ハ、誠ニ已ムヲ得ザルニ依リ、更ニ局面ヲ一變シ、本市自ラ營業スルカ、將タ市ノ公益ヲ害セザル限リハ、特別條件ヲ定メテ民設ニ委スベキカ、其利害得喪ヲ講究シ、以テ其孰レニスルモ交通機關ノ速成ヲ計ラザルベカラズ。本員ハ元來市自ラ營業スルノ弊害多クシテ、利益少ナキヲ信ズルモノナリ。故ニ本員ハ最初ヨリ、市ハ單ニ敷設權ノミヲ得、而シテ其營業ハ或ル條件ノ下ニ民間有志ヲシテ行ハシムルノ持論ナリキ。顧テ歐米諸都市ニ於ケル市街鐵道ノ實況ヲ視ルニ、多クハ民設ニシテ、其市設ニ係ルモノ甚ダ稀ナリ、殊ニ其少數ナル市設鐵道スラ「グラスゴー」ヲ除クノ外ハ、概シテ結果不良ナリトス。官衙、公署ノ營業ニ利益ナキハ、歐米ト雖モ尙且ツ然リ、況ンヤ官尊民卑ノ弊末ダ全ク蟬脫セザル我國ニ於テヲヤ。若シ夫レ市自ラ市街鐵道ヲ敷設シ、市吏員ヲシテ營業ノ局ニ當ラシメンカ、毫モ其利益ナクシテ、獨リ弊害ノミ多ク、到底失敗ニ歸スベキハ炳焉トシテ明カナリ。何ヲ以テ市設營業ハ弊害多クシテ、利益ナシト謂フ乎。請フ一例ヲ擧ゲテ其然ル所以ヲ辯ゼン、見ヨ水道吏員ノ暴慢無禮ヲ、彼等ハ引用者ノ居宅ニ來リテ曾テ帽ヲ脫スルノ禮ダニ爲サズ、甚シキハ土足ノ儘昇降シ、或ハ家人ヲ叱咤スル等、其倨傲暴慢ハ沙汰ノ限リト云フベシ。斯ル弊害ハ、獨リ水道技師ニ於テノミ然ルニ非ラズ、東海道其他ノ官設鐵道局員ガ乘客ニ對スルノ不深切ハ、普ク世人ノ知ル所ナリ、畢竟彼等ノ頭腦未ダ全ク官尊民卑ノ弊ヲ脫却セザルノ致ス所トス。是レニ由リテ之ヲ觀ルニ、市街鐵道ノ如キ停車場ナク、昇降隨意ノモノニシテ市吏員ノ取扱フ所トナラバ、途中停車ヲ求ムルモノアルモ、面倒ト考レバ、是レニ耳ヲ貸サヾルノミナラズ、馬車鐵道ノ現狀ニ依テ考フルニ、乘客ノ多數ハ下層ノ市民、若クハ老幼婦女子ナルベキヲ以テ、一層所謂役人風ヲ吹カセ、不深切ノ限ヲ盡スベキハ、前陳水道吏員、又ハ官設鐵道局員等ノ例ニ照シテ推察シ得ラルベク、且ツ午前八時ニ出頭シ、午後四時ニ退散スト云フガ如キ有樣ニテハ、到底滿足ノ結果ヲ得ル能ハザルヤ辯ヲ待タザルベシ。是レ本員ガ、市設ハ弊害多クシテ、利益少ナシト云フ所以ナリ。然ラバ市街鐵道ヲ如何ニスベキカト云ハヾ、余ハ本案ノ如ク特別條件ノ下ニ民設ヲ許可シ、一方ニ於テハ公納金ヲ得、他方ニ於テハ交通機關ノ速成ヲ計ルノ最モ得策ナルヲ信ズルナリ。殊ニ本案ノ條件ハ、寬嚴能ク其中ヲ得、而シテ充分ニ市ノ利益ヲ保有セリ。之ヲ歐米諸國ニ於ケル民設市街鐵道ニ對スル條件ト對照スルニ、大ニ優ル所アルモ、毫モ劣レル點ナク、一、二ノ條項ヲ除クノ外ハ、近來珍シキ完全ノ調査ナリ。依テ本員ハ當初ノ精神ヲ守持シテ、斯案ノ大體ニ贊成シ、民設ヲ可トスルモノナリ。上來述ブル所ハ、本員ガ今日ニ至テ俄ニ持說ヲ變ジタルニアラザルコトヲ言明シ、併セテ民設ノ市ニ利益アリテ、而モ速成ヲ期スルニ最モ捷徑ナル所以ヲ辯ジタルモノナリ。終ニ臨ミ更ニ一言セン、昨今或ル魂膽ヨリ民設ヲ非トシ、是ニ對シテ誹毀讒謗ヲ逞ウスルモノアリ、俗人ハ之ニ惑ヒ、過テ市有論ヲ歡迎スト雖モ、深ク本市ノ利害ヲ考慮セバ、原案ノ相當ナルコト言ヲ待タザルナリ。心ニ民設ヲ可トスルモ、區民ノ說ニ制セラ

レテ自論ヲ曲ゲ、强ヒテ市有ヲ唱フル如キ薄志弱行ノ議員ハ、當市會ニハ是レナキ事、本員ノ信ジテ疑ハザル所ナリ。

峰尾勝春君　本問題ハ、新聞ニ、演說ニ、既ニ論ジ盡サレタルモノナルヲ以テ、議員各自ノ考案モ確定シ居レルナラン。仍テ本員ハ玆ニ討議終結ノ動議ヲ提出ス。

長谷川深造君　利光君ハ永々シク論ゼラレタルガ、之ヲ要約スレバ、曩ニ市有論ヲ唱道シ、今日民設論ニ贊成スルハ、奇ナルガ如シト雖モ、變說ニ非ズトノ分疏的演說ヲ試ミラレタルニ過ギザルガ、市有ヲ可トシ、民說ヲ是トスルハ、各自ノ意見ニシテ、素ヨリ他ノ干涉スベキ限リニアラズト雖モ、誤レル點ハ之ヲ正サヾルベカラズ。利光君ガ第四十四號議案ハ、方式、資金、及ビ收支豫算ノ記載ナク、頗ル杜撰ヲ極メタルモノナルニ、市會ハ此杜撰ヲ咎メズ、其儘之ヲ議決セシハ、議政、行政兩者共、單ニ敷設權ノミヲ得ルノ精神ニシテ、其他ハ深ク顧ミル必要ナキガ故ナリシト論ゼラレタルモ、第四十四號議案ヲ杜撰ナリト云ヘル說コソ却テ杜撰ナレ。利光君ハ彼ノ議案ニ如何ナル但書アリシヤヲ知ラザリシカ、同案中ニハ「敷設方法及採用スベキ方式等ハ、目下調査中ニ屬スルヲ以テ、追テ之ヲ議決シ、其筋ヘ追申スルモノトス」ト明ニ記載アリタルコトヲ余ハ記憶ス。故ニ第四十四號議案ハ決シテ杜撰ノ議案ニアラズ、唯其當時ニ於テハ調査結了セザリシニ依リ、他日本會ノ決議ヲ經、其筋ヘ追申スベシト云フニ在リテ、當初ヨリ本市自營ノ精神ナリシ事ハ、明晰一點ノ疑ナシ、之ヲ正誤ノ第一トス。次ニ市參事會ハ四十四號議案提出後一年有餘ヲ經テ、漸ク九十二號議案ヲ提出シ、玆ニ初メテ方式、資金等ノ議決ヲ經タリト云ハルヽモ、是レ亦頗ル杜撰ノ論ナリ。（此時傍聽席騷擾シ、長谷川君ノ辯論殆ド聽取シ難シ、議長勵聲之ヲ制止ス）利光君ハ第四十四號議案提出後、第九十二號議案提出マデニハ一年有餘ヲ經過シタリト云フト雖モ、市參事會ガ第四十四號議案ヲ提出シタルハ昨年六月ニシテ、市會ガ之ヲ議決シタルハ八月ナリ。而シテ第九十二號議案ハ同年十一月ニ提出アリシニアラズヤ、然ラバ其間提出ニ於テ六個月、議決ニ於テ四個月ヲ隔ツルニ過ギズ、之ヲ以テ一年有餘ト云ヘルハ、杜撰モ亦甚シカラズヤ、之ヲ正誤ノ第二トス。次ハ正誤ニアラズシテ、採決ノ場合ニ於ケル注意ナリ。利光、吉田ノ兩君ハ市街鐵道特許請願ノ出願人タルコトヲ取消シタル旨、野中萬助外二名ヨリ市參事會ニ屆出デタリト云フト雖モ、夫等ハ內務省ヨリ通知アルニアラザレバ效力ナキモノナリ、依テ市制第四十三條ノ規定ニ基キ、吉田君及ビ利光君ハ、決議ノ數ニ加ハラザルヲ當然トス。

中島行孝君　市街鐵道ヲ市設ト爲スノ相當ナル理由ニ就イテハ、他ノ諸君ヨリ詳細陳述アリタルヲ以テ、余ハ其點ヲ深ク論議セズ、唯本件ノ如キ重大ナル事柄ニ對シ、僅々一個年前ニ議決シタルモノヲ突然飜シ、今ヤ全ク正反對ノ民設願ヲ認許セント欲スルハ、餘リニ無責任極マリタル行動ニシテ、誰カ之ヲ痛嘆セザランヤ。若シ夫レ本會ノ決議ニシテ斯ノ如ク動搖常ナカラシメンカ、本市ノ進步モ發達モ到底期スル能ハザルベシ。諸君冀クハ本市將來ノ財政ハ如何ナルベキカヲ想察シ、飽迄前決議通リ實施セラレンコトヲ切望シテ已マズ。

此時**横山富次郎君**ハ、峰尾君ノ動議ニ贊成シテ、討論終結ヲ希望シ。議長ハ討論終結ノ動議ニ就テ採決セントスルヤ。**長谷川深造君**ハ、採決ニ先ダチ、吉田君及ビ利光君ヲ退席セシメラレタシト求メ。**横山君**ハ、出願人タルコトヲ取消シタル以上ハ退席ノ必要ナシト駁シ。**松田市長**ハ、先刻ノ報告ニ遺漏アリ、利光君ハ出願人總代ノ外、更ニ出願人タルコトヲモ取消シタル旨、同君ヨリ內務大臣ニ屆出デタル趣市長ヘモ屆出デアリタリト告ゲシニ、長谷川君ヨリ其屆書ノ朗讀方希望アリシヲ以テ、市長ハ之ヲ朗讀セリ。

取消願

明治年間　第貳章　明治三十二年　第貳拾壹節　市內交通機關問題

自分儀東京市街鐵道布設特許ノ儀ヲ内務大臣ニ請願仕置候處、都合有之發起人タルコトヲ取消仕候ニ付、此段上申ニ及ヒ候也。

明治三十二年十月十七日

東京市深川區富川町七番地　利光鶴松

東京市長松田秀雄殿

長谷川君、只今市長ノ朗讀サレタルハ利光君ダケノモノニシテ、吉田君ノモノハ之ナキガ如シ。而シテ利光君ノ屆書ニハ、奥書モナク、毫モ方式ヲ具備セズ、故ニ本員ハ之ヲ無效ト認ム。星君ハ、吉田利光兩君ニシテ既ニ出願人タルコトヲ取消シ、其旨公然屆出デタル以上ハ、市制第四十三條ニ拘束セラレテ退席スルノ必要ナシト云ハルヽモ、本員ハ其屆出デタル手續ニ缺クル所アルヲ以テ、之ヲ有效ト認ムベカラズ、從テ兩君ハ決議ノ數ニ加ハルベキモノニ非ラズト信ズ。冀クハ之ガ可否ヲ議場ニ諮ハレンコトヲト望ムヤ。（此時星亨君「左樣ノ事柄ヲ衆議ニ諮フ必要ナシ、議長限リニテ解決ヲ與ヘラルベシ」ト叫ベリ）**村上耕一郎君**ハ、長谷川君ノ說ニ贊成セリ。（此時利光鶴松君ハ「會社法ノ一篇ヲ通讀シタルモノナラバ、予ノ資格ニ就テ今更議論スベキ筈ナシ、長谷川君ノ說ハ殆ド三百的ノ嫌アリ」ト叫ビ、長谷川君ハ、「手續ニ缺クル所アル屆書ヲ以テ有效ナリト主張スル利光君コソ、是レ則チ三百的ナリ」ト酬イ、或ハ枝葉ノ議論ヲ差止ムベシト叫ブモノアリ、議場騷然）**中島議長**ハ、靜肅ニ論議セラルベシ。議長ノ許可ヲ受ケズ、隨意ニ發言セラルヽコトハ斷ジテ之ヲ禁ズベシト注意シタル後、當事者タル利光君ニ對シテ別ニ意見ナキヤト問ヘリ。仍テ**利光君**ハ辯明シテ曰ク、余ハ既ニ市街鐵道敷設出願人タルコトヲ取消シ、其旨公然當局者ニ屆置キタリ。故ニ市制第四十三條ノ拘束ヲ受クベキ理由ナキヲ確信シテ疑ハズト。**中島議長**、余モ亦退席ノ謂レナキヲ信ズルモノナルモ、既ニ異議者アル以上ハ採決セザルヲ得ズトテ、之ヲ採決シタルニ、長谷川君ノ異議ハ、贊成者少數ニテ消滅シ、次イデ峰尾君ノ討論終結ノ動議ヲ採決シタルニ、多數ニテ討論終結ニ決セリ。斯テ第二讀會ヲ開クベキヤ否ヤニ就テ、議長ハ、無記名投票ヲ以テセント告グルヤ、**吉川仙太郎君**ハ記名投票ヲ望ミタルガ、採決ノ結果、記名投票說ハ少數ニテ消滅シ、無記名投票ヲ行フ。出席總數議長ヲ除キ五十七名、開票ノ結果左ノ如シ。

第二讀會ヲ開ク可シトスルモノ　三十八票

第二讀會ヲ開ク可カラズトスルモノ　十八票

無效（白紙）　一票

即チ第二讀會ヲ開クコトニ決シ、逐條審議ニ入リテ、第二項ノ原動力、第三項ノ公納金、第十項ノ買收價額、第十一項ノ資本額等ニ就テ議論アリタリ、其經過左ノ如シ。

橋本好正君　本市ニハ原動力ノ壓搾空氣式ナルト、蓄電池式ナルト、將タ架空單線電氣式ナルトヲ問ハズ、其方式ニ對シテ之ヲ許否スルノ權ナキハ勿論ノコトヽ考フ。就テハ本項第二號ノ精神ハ唯市ノ認諾ヲ受ケシムル迄ニテ、素ヨリ許可ヲ請ハシムルノ意ニアラズト信ズルガ如何。又其承認ヲ受ケシムル時機如何。之ヲ再言スレバ、内務省ハ出願前ニ市ノ承認ヲ請ハシムルノ意ナリヤ。

松田市長　前者ニ對シテハ、決シテ許可ノ意ニアラズ。又後者ニ對シテハ、内務省ヘ出願前本市ノ承認ヲ受ケシムルノ意ナリ。

橋本君　然ラバ「前項何レノ方式ヲ使用スル場合ト雖モ、東京市ノ承認ヲ受クヘシ」ト云ヘル規定ハ、全ク無用ノ

文字ナルヲ以テ削除スルヲ可トス。何トナレバ本市ハ原動力ニ就テ之ヲ許否スルノ權利ナキモノナルガ故ニ、假令本市ガ甲式ヲ以テ是ナリトスルモ、其認可權ヲ有スル內務省ガ若シ乙式ヲ可トスル場合ハ、市ノ承認ハ全ク無效ニ歸スベケレバナリ。論者或ハ云ハン、東京市街鐵道會社ガ萬一其出願セル如ク、架空單線電氣式ヲ用フルトキハ、流電漏洩ノ爲メ、本市ノ一大財產タル水道鐵管ニ危害ヲ加フルノ虞ナシト云フベカラズ、故ニ第二號ノ規定ハ必ラズ之ヲ存置シテ、市ニ充分ナル方式認定權ヲ掌握セシメザルベカラズト。然レドモ現制度ニ於テ市ニ是等ノ認可權ナキコトハ、前既ニ論ズル如クナルヲ以テ、虛心ニ考ヘ來レバ、本規定タル何等ノ效力ナク、唯是レ一片ノ空文ニ過ギザルヲ知ラン。又架空單線電氣式ハ水道鐵管ニ危害ヲ加フベシトノ憂虞ハ、但書ニ於テ「流電漏洩ノ豫防設備充分ナル場合ニ限ル」トノ規定アルヲ以テ、聊カモ憂フルニ足ラザルナリ、況ヤ從來ノ慣例ニ從ヒ、內務省ハ動力ニ關シ、本會ノ意見ヲ徵セラルベキハ勿論ナルニ於テヲヤ。仍テ玆ニ第二號削除說ヲ提出ス。

長谷川深造君　橋本君ハ本項第二號ノ規定ヲ以テ何等ノ效ナク、唯是レ一片ノ空文ニ過ギズト云ハルヽモ、自分ノ見ル所ハ全ク之ト正反對ニシテ、此規定タル實ニ本案特別條件ノ骨髓ナリト信ズルモノナリ。請フ現在ノ馬車鐵道ヲ見ヨ、彼レハ公道專用ノ特許ヲ得、市ニ負フ所ノ德義輕カラザルニ拘ハラズ、其私利ヲ計ルニ汲々トシテ毫モ公益ヲ顧ミズ、往々我儘勝手ノ擧動ヲ爲スモ、之ヲ如何トモスル能ハザルモノハ何ゾヤ、要スルニ許可條件ノ不完全ナルニ職由セズンバアラズ。今ヤ市街鐵道モ亦將ニ公道ヲ專用セントス、吾人ハ宜シク前者ニ鑑ミテ、後者ノ條件ヲ嚴正ナラシムベキナリ。萬一過テ此規定ヲ削除センカ、本案特別條件ハ全ク骨拔鰌ト化シ了ランノミ。仍テ本市將來ノ利益ヲ保維スル爲メ、原案通可決セラレンコトヲ望ム。

秋虎太郎君　內務省ハ出願者ニ許可ヲ與フル前、其原動力ニ關シ必ラズ本會ニ諮問セラルベキヤ。

松田市長　原動力ニ就テハ世論頗ル喧シク、其筋ニ於テモ既ニ委員ヲ設ケテ專ラ是レガ調査中ナリト聞ク。當局者用意ノ深キコト斯ノ如クナルヨリ察スレバ、內務省ニ於テモ多分本會ヘ諮問シ、本市ノ意見ヲ徵セラルヽナラント考フ。

橋本君　長谷川君ハ余ノ削除說ニ對シテ反對セラルト雖モ、其理由ニ至テハ聊モ感ズベキモノナシ。元來動力選定ノ如キハ、內務省ノ行政處分權內ニ屬スルモノナリ。然ラバ則チ許可權ナキ本市ガ如何ニ承認ヲ與フルモ、內務省ニシテ之ニ同意セザレバ、何等ノ效ナキコト言ヲ待タザルベシ。是レ本員ガ無用ノ文字ト爲シ、削除說ヲ提出セシ所以ナリ。

斯テ採決ノ結果、第二號ハ之ヲ削除スルニ決セリ。次ギニ第三項公納金ニ就イテ、丸山名政君竝ニ高山權次郎君ヨリ、左ノ如ク修正意見提出アリタリ。

丸山名政君　第三項ノ規定ハ特別條件中主要ノモノニシテ、吾人ノ最モ留意スベキ要點ナラン。余ハ本案ヲ領收シ反覆之ヲ熟讀シタル結果、原案ノ規定タル殆ド會社ニ私擅ヲ許スト一般ニシテ、百弊是ヨリ生ジ、本市ハ到底所期ノ公納金ヲ得ル能ハザルニ至ランコトヲ發見セリ。見ヨ國ノ經濟ハ嚴格ナル會計法ノ下ニ取扱ハレ、其監督機關トシテ會計檢査院ヲ設ケ、毫厘ノ微ト雖モ違法ノ支出ヲ許サズ、其監査ノ峻嚴ナルハ實ニ意想外ナルニ拘ハラズ、尙且ツ往々支出上ニ弊害アルハ吾人ノ聞知スル所ニアラズヤ。仍テ考フルニ營利會社ノ財務ニ向テ收支ノ正否ヲ監査スル如キハ、到底不能ノ業タリ。若シ會社ガ市ニ對スル公納金ヲ少ナカラシメント欲シ、若クハ全ク納メザランコトヲ企テ、其帳簿上ニ於テ、或ハ石炭代ヲ增加シ、或ハ線路車體等ノ維持費ヲ多額ナラシメ、由テ以テ表面純益ノ少ナキヲ裝ヒ、而シテ後七分ノ配當ヲ爲シ、更ニ法定積立金、準備金、及ビ後半季繰越金等ヲ控除シ

タランニハ、之ヲ如何ニスベキカ、市ハ唯指ヲ銜ヘテ呆然タルノ外ナキニ至ラン。是レ余ガ本項規定ノ寧ロ徒爾ニ屬シ、市ニ寸益ナクシテ百弊ノ生ジ易キヲ虞ル、所以ナリ。蓋シ萬般ノ事物ニハ心ズ利弊相伴フモノナレバ、本案公納金徴收ニ就テモ、寸害ナクシテ尋益ヲ得ルノ方法ハ、到底之ヲ見出ス能ハズ、唯其弊害ヲ少ナクシ、而シテ利益ノ多キヲ選ブニ在ルノミ。此ニ於テ本員ハ熟慮ノ末、原案ノ方法ヲ根柢ヨリ變更シ、總收入ヲ準トシテ公納金ノ歩合ヲ定ムル外ナキヲ認メタリ、其修正案ハ左ノ如シ。

（註、前掲議案中、圏點ヲ附シ、市會ノ修正トシテ掲ゲタルヲ以テ、之ヲ略ス）

右修案斯ノ如クセバ、大ナル弊害ナク、而シテ本市ハ所期ノ公納金ヲ得ベキナリ。尚ホ一言スベシ、此修正案ハ曩ニ特許出願人ヨリ申出デタル公納金歩金ニ對シ、市參事會ニ於テ一應調査ノ上否決シタルモノヲ其儘提出シタリ。尤市參事會ノ取調ハ一日一哩ノ平均收入貳百圓以上ト云フニ止メアルモ、本員ハ之ニ「貳百圓以上貳百貳拾五圓未滿、百分ノ八」「貳百貳拾五圓以上貳百五拾圓未滿、百分ノ九」「貳百五拾圓以上百分ノ拾」ノ三項ヲ補足シタリ。

高山權次郎君　本員モ修正說ヲ提出スベシ。出願人ノ申出ニ依レバ、第一期線トシテ二百哩ヲ敷設シ、其工事ハ向フ五箇年ヲ以テ完成スベシト云ヘリ。然レドモ市區改正ノ關係上ヨリ考察スレバ、此申出デタル全ク空想ニシテ、二百哩ハ愚カ、百哩、否五十哩ト雖モ容易ニ敷設シ難キハ、何人ト雖モ之ヲ疑ハザルベシ。本員ハ先ヅ二、三十哩位ニ止マルベシト思惟ス。見ヨ東京馬車鐵道會社ハ明治十五年ノ設立ニ係リ、爾來十有八年ヲ經過スト雖モ、軌道延長ハ十五哩四十二鎖ヲ出デザルニアラズヤ。其然ル所以ノモノハ、會社ガ利益薄キ線路ハ之ヲ避ケテ敷設セザルコトモ一因ナルベシト雖モ、要スルニ市區改正事業ノ遲緩其最大原因タラズンバアラズ、左レバ本案市街鐵道ノ敷設モ、本市ガ五箇年間ニ道路ノ改正ヲ完成セザレバ、到底所期ノ年限ニ二百哩ヲ敷設シ得ザルハ論ズルマデモナシ。斯ク考ヘ來レバ、市街鐵道ノ敷設タル、先ヅ當分ハ二三十哩ニ過ギザルナラン歟。果シテ然ラバ、市ノ徴收スル公納金ハ頗ル些少ナルノミナラズ、一日一哩平均收入四五拾圓位ニテハ、其一歲ノ總收入額モ推シテ知ルベク、此内ヨリ營業費ヲ引去リ、且ツ七分ノ配當ヲ爲シ、尚法定積立金、準備金、及ビ後半季繰越金等ヲ除カバ、剩ス所絶無ニシテ、市ハ毫厘ダモ得ル所ナキニ至ラン。今本員ノ計算スル所ヲ以テスルニ、徴收方法ハ原案通トシ、而シテ其軌道延長ヲ假ニ馬車鐵道ト同ジク十五哩ト爲シ、一日一哩平均七拾五圓ノ收入アル場合ニ至リ、初メテ公納金ヲ得ベシ。然レドモ「殘額三分ノ一」位ノ歩合ニテハ、市ニ何等ノ益スル所ナキハ明白ナルヲ以テ、殘額拾分ノ四ト修正スルヲ可トス、然ル時ハ凡ソ貳萬七千餘圓ヲ收納シ得ベシ。斯ノ如クシテ月ヲ累ネ、年ヲ積マバ、軌道ノ延長スルニ從ヒ會社ノ所得ヲ增加シ、公納金モ亦自然ニ多額トナリ、遂ニ市ノ好財源トナルニ至ラン。會社ニハ多數ノ株主アリテ、其監視ノ嚴ナル會計檢査院ノ右ニ出デ、厘毛ノ微ト雖モ斷ジテ不正ノ支出ヲ許サズ、故ニ丸山君ノ如ク會社ノ奸手段ヲ恐レテ修正ヲ加ヘントスルハ、理由ナキ說ナリ。尚丸山君ニ問フ、敷設軌道ヲ現在ノ馬車鐵道ト同ジク十五哩トスルトキハ、年收幾許トナルベキヤ。

丸山君　高山君ノ說ハ、市ニ對シテ親切ナルガ如クニシテ、而モ親切ナラザルモノナリ。何トナレバ原案ノ方法ニテハ、一日一哩ノ平均收入七拾五圓ニ達セザレバ、市ハ公納金ヲ得ル能ハザルモ、本員ノ修正說ニ依ルトキハ、四拾圓ノ時ニ於テ既ニ百分ノ一ヲ徴收シ、七拾五圓ノ場合ニハ百分ノ三ヲ收納シ得ベケレバナリ。又軌道二百哩ニ對スル調査ハ爲シタルモ、十五哩トシテノ調査ハ爲サヾリキ。

高山君　哩數ヲ多カラシムレバ、從テ公納金額モ多カルベキハ固ヨリ當然ナリ。故ニ初メヨリ軌道ヲ二百哩ト爲

シテ計算スルトキハ、公納金額モ亦數拾萬圓ニ達シ、市ノ取得莫大ナルベキハ論ヲ待タズト雖モ、是レ唯算盤上ノ空數ノミ。市區改正ノ現狀ヨリ察スレバ五箇年ヲ以テ二百哩ヲ敷設シ了ルガ如キハ、到底思ヒモ寄ラザルコトニテ、多ク見積リテ二三十哩ヲ出デザルベク、當分ハ先ヅ十五哩前後ニ過ギザルナラン歟。此ノ故ニ先刻ノ如キ質問ヲ爲シタルナリ、然レドモ其調査ナカリシトノ事ナレバ止ムヲ得ザルニ付、更ニ問ハン一日一哩平均七拾五圓ノ收入アル場合、十哩ニ對スル公納金何程トナルヤ。

次イデ**中島行孝君**ヨリ、本案ハ本市ニ取リテ重要ノ案件ナレバ、委員ヲ設ケテ充分調査ヲ遂ゲント欲ストテ、委員設置ノ動議ヲ提出シ。**星亨君**ハ、丸山君ノ修正說ニ贊成シ。採決ノ結果、委員設置ノ動議ハ贊成者少數ニテ消滅シ、多數ヲ以テ丸山君ノ修正意見通可決セリ。次ニ第十項ノ買收價額ニ關シ、**橋本好正君**ハ、「時價」ト云ヘル文字ノ意義ニ就キ理事者ニ質シタルニ。**松田市長**、時價トハ、市價ノ意ナリト答フルヤ。**橋本君**ハ、然ラバ修正說ヲ提出セン。凡ソ契約書又ハ本案條件ノ如キモノハ努メテ意義ヲ明瞭ニシ、他日ニ紛紜ナカラシメンコトヲ期セザルベカラズ。今「時價」ナル文字ヲ見ルニ、其意味甚ダ漠然タルモノニテ、解釋ノ如何ニ由リ、意外ノ支障ヲ生ズルノ虞ナシトセズ。故ニ之ヲ「相當價額」ト修正スベシト。**小川義春君**之ヲ駁シテ曰ク、余ハ必ズシモ橋本君ノ意見ニ反對スルモノニアラザルモ、「時價」ナル文字ト云ヒ、「相當價額」ナル文字ト云ヒ、之ヲ解釋スレバ其意味同一ニシテ、要スルニ「時ノ相場ヲ標準トシ是ニ適當スル價ヒ」ト云フニ過ギザルナリ。然ラバ則チ故ラ修正ヲ加フル價値ナク、寧ロ原案通ヲ可トスト。然ルニ採決ノ結果、多數ヲ以テ橋本君ノ意見通修正可決セリ。第十一項ノ資本額ニ關シ、**須藤時一郎君**ヨリ、公納金ヲ總收入ノ割合ニ依ルコト、決シタル以上ハ、資本ニ關スル規定ヲ設ケ置ク必要ナシトテ、削除說ノ提出アリ。**渡瀨寅次郎君**ハ、原案ニ贊成シ。**吉田幸作君**ハ、第三項ノ修正ニ伴フ自然ノ結果ナリトテ、削除說ニ贊成シ、採決ノ結果、多數ヲ以テ削除ニ決セリ。

▽**市内交通機關速成ニ關スル建議**　市街鐵道敷設條件ニ關スル第九十三號議案議決後、十二月二十一日ノ會議ニ於テ、**利光鶴松君**ハ、口頭ニテ左ノ建議ヲ提出セリ。

市内交通機關ノ速成ハ何人モ冀望セザルハナク、本會ガ當初市自ラ敷設權ヲ獲得スベシトノ決議ヲ爲シタルニ拘ハラズ、其後之ヲ變更シ、民設ヲ可決スルニ至リタルハ、畢竟該機關ノ速成ヲ望メバナリ。然ルニ内務省ハ荏苒時日ヲ經過シ、未ダ其敷設ヲ認可セザルハ市民ノ不幸甚ダ大ナルモノアルノミナラズ、本會ガ前議ヲ更メタル素志ニモ反スルナリ。聞クガ如クンバ、頃日市街鐵道市有論者ハ請願書ヲ衆議院ニ提出シ、現任市長、助役ヲ退職セシメ、尙市會ノ解散ヲ求メタリト云フ。其理由ハ最モ奇怪ニシテ、市長、助役ハ、賄賂ノ爲メニ市街鐵道民設議案ヲ發シ、市會モ亦賄賂ニ依テ之ヲ可決シタリト云フニアル由。其誣罔ヲ極メタル亂暴ノ所行ニハ實ニ驚クノ外ナク、常識ヲ備フルモノヽ言動トハ認メ難キモ、兎ニ角斯ル書面ノ衆議院ニ出デシハ事實ナリ。且ツ貴族院竝ニ内務省ニモ同樣ノ請願書ヲ提出シタリト聞ク。吾々ハ市會ノ體面ヲ保ツ上ニ於テ之ヲ默過スル能ハズ。依テ此際委員七名ヲ設ケ、内務省ニ向テハ市内交通機關ニ就テノ成行ヲ問ヒ、併テ其速成ヲ促シ、貴衆兩院ニ對シテハ請願書ノ虛妄ナルヲ辯明シテ、其却下ヲ勸告セント欲ス。

今井兼輔、**星亨**ノ兩君ハ本建議ニ贊成シ、且ツ委員ノ議長指名ヲ望ミ。**利光君**ハ、議長指名ニハ異議ナキモ、議員中ニハ本會ノ決議ニ背キ、市有論ヲ唱ヘテ反對運動ヲ爲シツヽアル者ナキヲ保セザルニ依リ、議長ノ指名ニ注意ヲ望ムト述べ、採決ノ結果、多數ニテ利光君ノ建議ヲ可決セリ。仍テ議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

高橋庄之助　今井兼輔　青木庄太郎　利光鶴松　松崎權四郎

橋本好正　後藤亮之助

越エテ三十三年七月五日ノ會議ニ於テ、議長(議長代理者中島又五郎君)ヨリ、市街鐵道株式會社ニ對シ、去ル六月許可ニナリタルヲ以テ、市内交通機關速成ニ關スル委員ハ、其任務自然消滅ニ歸シタル旨報告アリタリ。

第貳拾貳節　市會議員半數改選

明治三十二年六月ニ行ハレタル市會議員半數改選ノ結果、議員ノ異動左ノ如シ。

區名	級別	退任者	當選者	留任者
麹町	一	元田肇	星亨	橋本好正
同	二	末吉忠晴	末吉忠晴	
同	三	高山權次郎	高山權次郎	
神田	一	太田直次	吉田幸作	加藤佐兵衛
同	二		宮島新七	鈴木善四郎
同	三	五味卯三郎	太田直次	
日本橋	一		丸山名政	横山富次郎
同	二	西澤善七	西澤善七	城數馬
同	三	長谷川深造	長谷川深造	藤田藤一郎
京橋	一	中澤彦吉	中澤彦吉	稲田政吉
同	二	後藤亮之助	後藤亮之助	
同	三		中島又五郎	
芝	一	曲木如長	野々山幸吉	田中新兵衛
同	二	木村莊平	木村莊平	
同	三	中鉢美明	中鉢美明	町田朝太郎
麻布	一	杉田武	多羅尾光應	
同	二			今井兼輔
同	三			黑田綱彦
赤坂	一			安川繁茂
同	二			河原伊平
同	三	細井榮三郎	渡瀨寅次郎	
四谷	一			小川義春
同	二			今井勝平
同	三			石川顯一郎
牛込	一			中島行孝
同	二	柿沼長豐	宮川鐵次郎	峰尾勝春

同　三　子爵小笠原壽長　子爵小笠原壽長
小石川　一　内山平三郎　鹽島仁吉
同　二
同　三
本郷　一
同　二　關幸太郎　吉川仙太郎
同　三　秋虎太郎　秋虎太郎
下谷　一　長谷川泰
同　二　千澤專助
同　三　杉原榮三郎　杉原榮三郎
浅草　一　須藤時一郎　須藤時一郎
同　二　今井喜八　今井喜八
同　三
本所　一　伊東勅典　青木庄太郎
同　二　山本新平　山本新平
同　三　大貫實　福岡健良

磯部武者五郎
石井義正
伴親光
高橋庄之助
村上耕一郎
松崎權四郎
石垣元七
江崎禮二
立田彰信
久徳猶行

深川　一　名子新七　名子新七
同　二　利光鶴松

第貳拾參節　議長及議長代理者選擧

明治三十二年六月市會議員半數改選ノ結果、議長及議長代理者共ニ退任シタルヲ以テ、六月十五日半數改選後ノ初會議ニ於テ、年長者末吉忠晴君ヲ假議長ニ推シ、議事ニ入ルニ先ダチ、議長及議長代理者ノ選擧ヲ行ヒタル結果左ノ如シ。（五票以下略ス）

議長（當選）五十五票　須藤時一郎
議長代理者（當選）三十票　中島又五郎
（次點）二十四票　城數馬

第貳拾四節　養育院感化部新設

養育院收容兒童中、不良性ヲ有スル者ト然ラザル者トヲ同居セシムルコトハ弊害アルニ因リ、明治三十一年四月二十九日ノ會議ニ於テ、第三十一號議案ヲ以テ感化部新設準備費金千貳百參拾貳圓追加豫算ノ提出アリ、市會ハ滿場異議ナク原案通可決シタルヲ以テ、爾來理事者ハ寄附募集ニ著手シタルモ、三十二年六月ニ至リ豫定ノ金額ニ達セザリ

キ。然レドモ豫定金額ニ達スルヲ俟ツハ、徒ラニ事業遷延ノ虞アルニヨリ、醵金中ヨリ豫定人員ノ一半ヲ收容スル目的ニテ新築工事ニ着手スル事トシ、第五十二號議案ヲ以テ金七千七百六拾參圓拾四錢參厘ヲ追加豫算トシテ計上、六月十九日ノ會議ニ提出アリ、市會ハ**村上耕一郎君**ノ動議ニ依リ、議長指名三名ノ委員ニ調査ヲ附託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

太田直次　青木庄太郎　村上耕一郎

委員ハ**村上耕一郎君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末六月二十八日ノ會議ニ於テ**村上委員長**ヨリ、井戸二箇所ヲ一箇所トシ、其他ハ見積單價ヲ減ジ、豫算額ヲ六千參百五拾七圓七拾錢六厘ニ減ジタル旨報告アリ、市會ハ異議ナク、委員會ノ報告通可決セリ。

第貳拾五節　淺草公園番外煉瓦建仲店明渡請求訴訟

七月十八日ノ會議ニ於テ、市參事會ヨリ左ノ議案提出アリタリ。

第六十六號

訴訟提起ノ件

淺草公園第二區番外煉瓦仲店貸渡期限ハ本年六月三十日ノ處、未タ明渡サヽルニ付、右借家人松坂重次外十二名ニ對シ訴訟ヲ提起スルモノトス。

說明　淺草公園第二區番外仲店煉瓦建物ハ、公園ノ風致ヲ損スルノミナラス、山門火災ノ因由トナルノ虞アルニ付、本年六月三十日限リ、即チ滿期ノ際建物取崩ノ豫定ナリシトコロ、借家人家屋明渡ニ應セサルヲ以テ、本案ヲ提出ス

本案ニ對シ、劈頭**後藤亮之助君**反對シテ曰ク、期限後僅ニ拾八日ヲ經過シタルニ過ギズ、然ルニ早クモ借家人ニ對シ家屋明渡ノ訴訟ヲ提起スルハ如何ニモ苛酷ニ失スルヲ以テ、向フ二ケ月間ノ猶豫ヲ與フベシト。**江崎禮二君**ハ理事者ニ問ウテ曰ク、借家人ヨリ期限後延期ノ申出デハナカリシヤ、又市役所ハ今日迄借家人ニ對シ如何ナル手續ヲ爲シタリヤト。之ニ對シ**朝倉助役**ハ答ヘテ曰ク、借家人ハ千日ノ猶豫ヲ申請シタルニ因リ、市參事會ハ之ヲ却下シ、淺草區長ヲシテ再三立退ノ請求ヲ爲サシメタルモ、之ニ應ゼザルヲ以テ、已ムヲ得ズ本案ヲ提出シタルナリト。次イデ**江崎君**ハ、一度二ケ月ノ猶豫ヲ與フルニ於テハ、爾後一年、二年ノ歳月ヲ經過スルモ到底明渡サヽルベシ、故ニ訴訟ヲ提起スルモ亦已ムヲ得ザルベシ、況ンヤ店舗ニシテ住居ノ家屋ニアラザルヲヤトテ後藤君ノ意見ニ反對シ。**中鉢美明君**ハ、明渡豫告ノ期間ヲ訊シタルニ。**朝倉助役**ハ、六月三十日ノ期限滿了ハ、貸渡契約書ニ明記シアルモ、尙念ノ爲メ去ル四月初旬區長ヲ經テ示達シ置キタリト答ヘ。採決ノ結果、猶豫說ハ少數ニテ消滅シ、原案通可決セリ。

附記　右訴訟ハ訴狀ニ「原告東京市參事會東京市長松田秀雄」ト書シタルハ異式ナリトノ理由ニテ敗訴ノ判決ヲ受ケタル爲メ、更メテ「原告東京市」ノ名ヲ以テ訴訟ヲ提起シタルニ、被告ハ防訴抗辯ヲ提出シ、原告ハ同一ノ目的物ニ付同一ノ訴訟ヲ起セルノミナラズ、原告敗訴ノ判決ニ對シ未ダ訴訟費用ノ支拂ヲ爲サズシテ本訴ヲ提起シタルニ付、前訴訟費用未濟ノ防訴抗辯ヲ爲スト申立テ。東京市ハ前ノ訴ハ東京市參事會原告タリ、本訴ノ原告ハ東京市ニシテ、原告異レリ、假ニ同一原告トスルモ、被告代理人ヨリ訴訟費用ハ請求セズトノ申立テアルヲ以テ、訴訟費用ハ未拂ニアラズト申立テタルガ。十一月三十日東京區裁判所ハ、原告第一ノ抗辯ハ前訴ト本訴トハ原告異

レリト云フニアレドモ、前訴ハ東京市參事會ガ東京市ヲ代表シテ原告トナリ、本訴ハ東京市ノ法定代理人タル東京市長ガ原告ニシテ、其ノ原告ガ東京市長ナルコトハ論ヲ俟タズ、仍テ前ノ訴ト本訴トハ原告ガ異レリトノ抗辯ハ理由ナキモノトス。第二ノ抗辯、前訴訟費用ハ未濟ニアラズト云フモ、訴訟代理人ハ特別ノ委任アルニアラザレバ訴訟物ヲ拋棄スル權ナキ規定ナレバ、被告代理人ガ訴訟費用ヲ請求セズト申出デ之ヲ拋棄シタリトテ、被告ガ拋棄シタルモノト云フヲ得ズトノ理由ニテ、東京市タル原告ノ訴ヲ却下ストノ判決ヲナセリ、市參事會ハ此ノ判決ニ服スル能ハズトテ、十二月二十一日ノ會議ニ於テ左ノ議案ヲ提出シ、市會ハ異議ナク之ヲ可決セリ。（第參章明治三十三年第五節參照）

第百十四號

控訴提起ノ件

淺草公園第二區番外煉瓦仲店借家人松坂重次外十一名ニ係ル家屋明渡訴訟第一審東京區裁判所ノ判決ハ不法ナルヲ以テ控訴スルモノトス

第貳拾六節　社寺ニ準ズベキモノニ對シ市稅免除ノ件

第八十七號

市稅賦課除外ノ件

宗教ノ用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ、市制第九十七條第一項第二號ノ社寺ニ準シ市稅ヲ賦課セサルモノトス。

十月二十日ノ第一讀會ニ於テ、助役**浦田治平君**ハ提案ノ理由ヲ說明シテ曰ク、純然タル神社佛閣ハ市制第九十七條ニ由リ免稅シタルモ、今ヤ改正條約實施ノ結果、內地雜居ノ曉ハ基督教會堂等モ亦免稅ノ部類ニ編入スルヲ穩當ナラント考フルモ、何分市制ノ上ニ明文ナキガ故ニ、監督官廳トモ打合セタル上、本案ヲ提出シタルナリ。要スルニ神道ト云ヒ、佛教ト云ヒ、基督教ト云ヒ、其宗旨ノ如何ニ拘ラズ、祭典、法要、其他布教專用ノ建物ハ、皆市制第九十七條第一項第二號ノ社寺ニ準ジテ免稅セント欲スル精神ナリト。**宮川鐵次郎君**、本案ハ事件ノ重大ナルニ似ズ、文章頗ル簡單ニシテ、爲メニ了解シ得ザルモノアリ、要スルニ理事者ハ市制上ノ「社寺」ナル文字ヲ以テ廣義ニ解釋セラルヽヤ、將タ狹義ニ解釋セラルヽヤト質問シ。**浦田助役**ハ、廣義ニ解釋スルカ、將タ狹義ニ解釋スルカハ問題ナルガ、本案ハ一週一回若クハ二回說教所ニ充テ、平素ハ住居其他ノ用ニ供スル類ハ課稅スル見込ナリト答ヘ。**杉原榮三郎君**ハ、法律上ニ關スル問題ナルヲ以テ議長指名五名ノ委員ニ調査ヲ附託スベシトノ動議ヲ提出シ、**磯部武者五郎君**ハ、布教用ノ建物ニモ教會所、又ハ說教所等種々ナル名稱アリ、若シ是等ヲ免稅部類ニ編入シナバ、普通住家ニ一週一二度信者ノ集會スル場所ニ於テ、濫リニ教會所又ハ說教所等ノ表札ヲ揭ゲ、脫稅ヲ計ルノ弊害ヲ生ズルニ至ラン、是レニ對シテ方策アリヤト質シ。**宮川君**モ更ニ理事者ニ對シ、「社寺」ナル文字ヲ理事者ハ廣義ニ解釋セント欲スルモノヽ如シ、併シナガラ彼ノ「社寺」トハ神社佛閣ヲ指スモノニテ、他ノ布教所等ヲ包含スルモノニアラザルハ論ヲ待タズ、然ルニ市會ガ濫リニ法文ヲ廣義ニ解釋シ、基督教會堂、又ハ說教所等ノ類ヲ悉ク社寺ト同視シテ市稅ヲ免除スルガ如キハ、自治團體ガ法律ノ追加ヲ爲スニ等シク、甚ダ穩カナラズト論ジ。**小笠原壽長君**ハ、本案ハ「宗教云々」トノミアリテ、甚ダ漠然タルガ、如何ナル種類ノモノヲ指セルヤト質シタルニ。**浦田助役**ハ、宗教トハ讀デ字ノ如シト答フル外ナシト

述ブルヤ。小笠原君、理事者ノ説明ハ甚ダ不親切ナリ、余ハ最早理事者ニハ質問セザルベシトテ、杉原君ノ委員設置説ニ賛成シ。黒田綱彦君ハ、小笠原君ニ對スル理事者ノ答辯ハ實ニ不親切極マレルモノト云ハザルベカラズ、本員モ理事者ニ質問セン、理事者ハ如何ナルモノヲ以テ布教ノ場所ト爲スヤ、其免税セント欲スル種類ヲ擧ゲテ明答ヲ請フト迫レリ。玆ニ於テ浦田助役ハ、本案ニ於テ免税ヲ與ヘント欲スルモノハ、概要左ノ如シト答ヘタリ。

一、基督教會堂ニシテ、説教ノミヲ行フ場所。

二、基督教會堂ニシテ、説教及婚姻、葬儀等一切ヲ行フ場所。

三、神社ニアラズシテ、神道教會所ノ類。

四、寺院ニアラズシテ、佛法教會所、及堂宇ノ類。

黒田君、理事者ノ説明ニテハ未ダ了解シ難シトテ、委員設置説ニ賛成セリ。斯テ採決ノ結果、多數ニテ杉原君ノ動議ヲ可決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク指名セリ。

黒田綱彦　今井喜八　中鉢美明　丸山名政　磯部武者五郎

委員ハ黒田綱彦君ヲ委員長ニ推シテ審査中、翌三十三年九月二十四日ニ至リ、理事者ハ同案ヲ撤回シタルヲ以テ、委員ハ自然解任トナレリ。

第貳拾七節　市參事會員辭職問題

議案第九十三號（第參節參照）市街鐵道敷設條件中公納金ニ關スル率ニ對シ、十月十九日市會ハ是レニ修正ヲ加ヘテ市參事會ニ送付スルヤ、市參事會ニ於テハ之ヲ不當トナシ、再議ニ附スベシトノ議論アリタルモ、結局再議ニ附セザリシ結果、市參事會員中、立田彰信、澁澤榮一、田口卯吉、鈴木信任ノ四君ハ左ノ如ク、辭表ヲ提出セリ。

辭職屆書

本年十月十九日東京市會ノ市街鐵道ニ關スル決議ハ大ニ本市ノ利益ヲ殺キ、之ヲ會社ニ與ヘ候モノト認メ候ニ付、市參事會員トシテ其事ニ從フニ忍ヒス候間、辭職仕候。依ッテ此段御屆申上候也。

明治三十二年十一月十五日

拙者共儀

東京市參事會

東京市長松田秀雄殿

田口卯吉

鈴木信仁

辭表

拙者義追々老軀且持病多ニ付、市參事會員辭任仕度、此段御屆申上候也。

明治三十二年十一月十五日

東京市參事會員

東京市長松田秀雄殿

立田彰信

辭任ニ付屆

拙者義都合有之市參事會員辭任致候間、此段及御屆候也。

明治三十二年十一月十六日

東京市參事會

東京市長松田秀雄殿

澁澤榮一

十一月二十二日ノ會議ニ於テ、**峰尾勝春君**ハ市長ニ對シ、田口、鈴木兩君ノ辭職屆ハ文字甚ダ穩カナラズ、市長ハ本人ニ對シテ一應ノ注意ヲ爲シタリヤ否ヤト問ヒ。**松田市長**ハ、好意上注意スル所アリシモ、其儘提出ヲ望ムトノコトナリシヲ以テ、之ヲ本會ヘ送付シタリト答フ。**城數馬君**ハ、辭表ニ穩ナラザル文字アリトノ說アルモ、畢竟自己ノ意見ヲ記載シタルニ過ギズト考フ、聞ク所ニ依レバ、市參事會ニ於テモ市會ノ議決ヲ以テ本市ノ利益ニアラズト決議シタルコトアル由、事實果シテ然リヤト質シ。**松田市長**ハ、其決議ハアリシモ、市參事會ハ秘密會ナルヲ以テ、其詳細ハ公會ノ席上ニ於テハ陳述シ難シト答フ。**青木庄太郎君**ハ、其ハ一二ノ發議ニ止マリシモノナリヤ、將タ多數ヲ以テ本市ノ不利益ト決定シタルモノナリヤト問ヒ。**松田市長**ハ、市參事會ハ計算上市ノ損失ト認メシモノナリト明答ヲ避ケタリ。**小川義春君**ハ、田口君等ハ要スルニ自己ノ意志ヲ表明シタルニ過ギザルヲ以テ、之ヲ不都合ト爲スベカラズ、故ニ宜ク直ニ承認ヲ與フベシト述べ。**横山富次郎君**ハ、總テノ辭表ヲ一括シテ同時ニ問題トスルトキハ、議論錯綜シテ議事ノ進行ヲ妨グル虞アルヲ以テ、先ヅ澁澤、立田兩君ノ辭表ニ就イテ當否ヲ決定スベシト議長ニ望ミ。**星亨君**ハ、余ハ就任日淺ク未ダ前例ヲ知ラズト雖モ、市制ノ上ヨリ考フレバ、市會議員ノ如キ、又ハ市參事會員ノ如キ、苟モ名譽職ニ在ルモノハ、其職ヲ辭スルニ當リ何人ノ許可ヲモ受クルノ要ナク、唯一片ノ辭任屆ヲ差出セバ足レリト信ズ、然ラバ則チ本會ガ澁澤君等ノ辭職ニ對シ、之ヲ許否セントスルハ越權ノ行爲ナリ、議長ハ果シテ何事ヲ問題ニ供セラレントスルモノナリヤト質シ。**議長**(代理者中島又五郎君)ハ、本會ハ素ヨリ名譽職ノ辭職ヲ許否スル權ナシ、唯辭職ノ理由ガ果シテ市制第八條ノ明文ニ該當スルヤ否ヤヲ議決シ、且ツ其情狀ニ依リ、或ル期間公民權ヲ停止シ、若クハ市費ヲ增課スル等、適法ノ制裁ヲモ加フベキヤ否ヤヲ議決スルニ過ギザルナリト告グ。**村上耕一郎君**ハ、市街鐵道ニ關スル本會ノ議決ニ對シ、市參事會ニ於テモ市ノ利益ヲ害スルモノト認ムルコトニ議決シタリト云ヘバ、田口、鈴木兩君ノ辭職ノ理由タル固ヨリ正當ニシテ、非難スベキ廉ナシ、故ニ市制第八條第二項第六號ニ據リ、直ニ承認スベシト述べ。**星君**ハ、立田君ガ辭職ノ理由ハ明白ナルモ、澁澤君ハ都合之レアリトテ其理由稍ミ漠然タル嫌ナキニアラズ、併シナガラ同君ガ多年市參事會員トシテ本市ノ爲メニ盡力サレタルハ明白ノ事實ナルヲ以テ、此點ヨリ考察セバ、一概ニ理由ナシト云フベカラズ、依テ本員ハ立田、澁澤兩君ノ辭職ノ理由ニ對シ、別段異議ナシト雖モ、田口、鈴木兩君ノ辭表ニ就テハ、大ニ意見アリ。然レドモ之ヲ論ズレバ議事錯綜シ、採決上ニモ混雜ヲ來スヤ必セリ。依テ一名宛取極メテハ如何ト議長ニ諮リ、議長ハ之ヲ容レ、先ヅ立田君次ニ澁澤君ノ辭職理由ノ正當ナルヤ否ヤヲ諮リタルニ兩君ノ辭職ハ、共ニ異議ナク之ヲ承認セリ。**峰尾君**ハ、松田市長ハ先刻無雜作ニ市街鐵道ニ關スル市會ノ決議ハ本市ノ利益ニアラズト市參事會ニ於テ議決シタリト答ヘラレタルモ、本員ノ聞ク所ニ據レバ、單ニ一二會員ノ發議ニ止マルモノヽ如シ、事實果シテ如何ト問ヒ。**松田市長**ハ、市參事會ハ元來秘密會ナルヲ以テ、其議事ハ公會ノ席上ニ於テ詳述セントスル場合ニハ、先ヅ以テ市參事會ノ議決ヲ經ザルベカラザルガ故ニ、先刻城君ノ質問ニ對シテハ、單ニ其要旨ヲ述ベタルモノニシテ、市參事會ニ於テハ、計算上市會ノ修正セラレタル公納金額ハ原案額ヨリモ減少シ、市ノ損失ナリ

ト議決シタルニ相違ナク、決シテ一二會員ノ提議ニ止マルモノニアラズト答辯スルヤ。**星君**ハ、市長ノ說明ニハ何等カノ行違ヒアルナラン、市制第六十四條ニ市參事會ハ市會ノ議決ヲ執行スベシトノ明文アルニアラズヤ、左レバ其執行上ニ就テ種々ノ取調ヲ爲スコトアルハ勿論ナルモ、其他ニ議決ノ出來得ベキ筈ナシ、頃日市參事會ニ於テ彼ノ市街鐵道ニ關スル市會ノ議決ヲ執行スルニ際シ、一二ノ會員ハ再議說ヲ唱ヘタリシモ、多數會員ハ之ニ反シ、市會ノ修正ヲ以テ毫モ市ノ公益ヲ害スルモノニアラズト認メタリ、從テ再議說モ消滅シ、彼ノ議決ハ既ニ內務省ヘ進達セリト聞ク、事實斯ノ如クナル以上ハ、市長ノ說明ハ何等カノ問違ヒナラント述べ。**江崎禮二君**ハ、枝葉ノ詮議ニ時間ヲ空費セズ、田口、鈴木兩君ノ辭職ハ正當ノ理由アリヤ否ヤ、市制第八條第三項ノ制裁ヲ加フベキヤ否ヤヲ審議スベシト促シ。**松田市長**ハ、余ノ答辯ヲ間違ナリトスル以上ハ一言セザルヲ得ズ、如何ニモ市參事會評議ノ結果ハ、**星君**ノ云ハルヽ如ク市ノ公益ヲ害スルモノニアラズ、從テ再議ヲ求ムルノ必要ナシト決定シタルニ相違ナキモ、其決定ヲ爲ス迄ニ種々ノ議論ヲ生ジ、計算上市會ノ修正ヲ以テ本市ノ利益ニアラズト決定シタルハ事實ナリ、是レ先刻城君ノ質問ニ對シテ簡單ニ答ヘタル所ナリト辯明シ。**秋虎太郎君**ハ、田口、鈴木兩君ノ辭表提出ハ、蓋シ市街鐵道特許條件中公納金徵收方法ニ關シ意見ヲ異ニシタルニ因ルモノナルベシト考ヘラル、田口、鈴木ノ兩君等ハ、市會ノ修正ト市參事會ノ提案トハ非常ノ差違ヲ生ジ、本市ノ收入ヲ減ズルコト少ナカラザルヲ以テ市ノ利益ヲ害スルモノトナシ、市會ニ向テ再議ヲ求ムベシトノ意見ヲ提出シタルモ、多數ノ否決スル所トナリシ爲メ、斷然意ヲ決シ辭職スルニ至リタルモノナリト聞ク。辭表中「本市ノ利益ヲ殺キ之ヲ會社ニ與フ」ト云ヘル文字ヲ咎メ、市會ヲ侮辱セシカノ如キ見解ヲ下シ、懲罰的意味ヲ以テ市制第八條ニ該當セザル辭職ト爲シ、制裁ヲ加フベシトノ動議ヲ提出スル者アルヤモ知ルベカラズト雖モ、鈴木氏ハ既ニ六年以上名譽職ヲ擔任シタルモノナルヲ以テ、法律上制裁ヲ加フル能ハズ、然ラバ獨リ田口氏ノミ罰センカ、同一ノ理由、而モ一紙ニ連署セシ二名ノ辭職者ニ對シ、一方ハ之ヲ寬裕シ、他ノ一方ノミ之ヲ罰スルハ、偏頗ノ誹ヲ免カレザルノミナラズ、條理ノ上ヨリ云フモ左樣ノ議決ハ出來難シ、今ヤ田口鈴木兩氏ガ、自己ノ所信ヲ披撫シ、其容レラレザルヲ見テ決然辭職シタル快擧ハ、毫モ非難スベキ點ナシト承認說ヲ主張シ。**横山富次郎君**ハ、兩氏ノ辭表中「東京市會ノ市街鐵道ニ關スル決議ハ、本市ノ利益ヲ殺キ云々」ト明記シタルハ、取モ直サズ市會ヲ蔑視シ、合議制度ノ德義ヲ滅却シタル行動ト云ハザルヲ得ズ、何爲ゾ之ヲ是認セラルベキ、併シナガラ雅量ヲ以テ深ク之ヲ咎メズ、單ニ本辭表ノ理由ハ不當ナリト議決スルニ止メ置クベシト說キ。**城君**ハ、議政者タル市會議員ニシテ自說ノ行ハレザルヲ理由トシ、其職ヲ辭スル如キハ左袒スル能ハザルモ、行政者タル市參事會員ハ之ニ反シ、市會ノ議決ヲ執行スベキ責任ヲ有スルガ故ニ、自己ノ所信ニ反スル議決ニ就テハ、到底執行ノ責ニ任ズルコト能ハズ、玆ニ於テカ硬直ノ士ハ自ラ其職ヲ去ルノ止ムヲ得ザルニ至レルナリ、左レバ田口、鈴木ノ兩君ガ自己ノ所信ヲ主張シテ其行ハレザルヲ見ルヤ、直ニ辭表ヲ提出シ、決然其職ヲ退キタルハ、誠ニ能ク自己ノ責任ヲ知レル行動ト云ハザルベカラズ、去就進退ノ明白ナル斯ノ如クニシテ、始メテ帝都ノ市參事會員タルニ耻ヂズト謂フベシト論ジ。**石垣元七君**ハ、市參事會員モ亦純然タル合議體ナリ、左レバ市會議員ガ自論ノ敗レタルヲ理由トシテ其職ヲ辭スルコトノ不當ナル以上ハ、市參事會員ト雖モ自說ノ行ハレザルヲ理由トシテ辭職スルモ亦不當ナル事言ヲ俟タズトテ、横山君ノ說ニ贊成シ。**星君**ハ、辭職ハ各自ノ隨意ナリト雖モ、其辭表ニ市會ヲ侮辱シタル文字ヲ用ヒタルハ甚ダ不當ナリ、飜テ客月十八日ニ於ケル本會ノ議決ヲ見ルニ、要ハ交通機關ノ速成ヲ計リ、併セテ市ニ一大財源ヲ得ント欲スルモノニシテ、市制第六十四條第二項ノ權限ヲ越エザルハ勿論、毫モ法律命令ニ背カズ、又公衆ノ利益ヲモ害セズ、實ニ一點無瑕ノ議決タリ、宜ナルカナ市參事會モ亦二三異論者アリシニ拘ハラズ、多數ハ市會ノ議決ニ同意ヲ表シ、其議決ハ內務省ニ進達

セラレタルナリ。議政、行政二局ノ意思斯ク相一致シ、事既ニ執行セラレタルノ曉ニ至ルモ、田口、鈴木兩氏ハ尙頑然自論ヲ主張シテ合議制度ノ德義ヲ守ラズ、飽迄多數ニ反對セントス。洵ニ驚キ入リタル言動ト云フベシ、思フニ兩氏モ議決ノ神聖ナルコトハ熟知セルナラン、辭表ノ文字ハ亂暴ノ極ナリ、斷ジテ甘受スベカラズ、願クハ議決ノ神聖ヲ擁護シ、本會ノ威信ヲ失墜スル勿レト說キ。**長谷川深造君**ハ、田口、鈴木兩氏ガ決然退職セラレタルハ其人ニ取リテ誠ニ潔キコトナランモ、市會ヨリ之ヲ見ル時ハ到底默過スル能ハズトテ、横山君ノ說ニ同意シ。**城君**ハ、田口氏等ガ差出セル辭職ノ理由ヲ不當トセバ、從テ市參事會ノ議決モ不當トセザルヲ得ズ、更ニ一歩ヲ進メテ田口氏等ニ制裁ヲ加ヘンカ、市參事會員全體ニ對シテモ亦制裁ヲ加ヘザルベカラズ、反對論者ハ果シテ此決心アリヤ否ヤト論ジ。**江崎禮二君**ハ、問題ハ左迄六ケ敷ク論ズル價値ナシ、要スルニ自說ノ行ハレザルニ癇癪ヲ起シテ職ヲ辭スト云フニ過ギザレバ、唯其理由ヲ不當ナリト議決シ置ケバ足レリト說ケリ。斯テ横山君ノ說ヲ採決シタルニ、二十對二十八ノ多數ニテ横山君ノ意見通リ、田口、鈴木兩君ノ辭職ハ正當ノ理由ナキモノト決定セリ。此時**長谷川深造君**ハ、理由ハ不當ナリト決定シタルモ、兩氏ノ辭職ハ大ニ恕スベキ事情アルヲ以テ、制裁ヲ加ヘザルコトヽ爲スベシトノ動議ヲ提出シタルガ。**青木庄太郎君**ハ、既ニ辭職ノ理由ヲ以テ不當トシタル以上ハ、之ニ制裁ヲ加ヘザルベカラズ、然ラザレバ空砲ト一般、只聲ノ大ナルノミニシテ殆ド無效ノ決議トナルベシ。故ニ此際委員ヲ設ケテ、彼等ニ加フベキ制裁ノ程度ヲ調査セシムベシト說キ。**星君**ハ、市制第八條第三項ニハ「スルコトヲ得」ト規定セリ。故ニ制裁ヲ加フルモ將タ加ヘザルモ本會ノ隨意ナルガ、自分ハ處分上ニ關シテハ別ニ議決ヲ欲セザル考ナリト述ブルヤ、滿場異議ナク、星君ノ意見通可決セリ。右可決スルヤ、**横山富次郎君**ハ、希望ヲ一言シタシトテ、左ノ如ク述ベタリ。

曩ニ市會ガ市街鐵道ニ對スル特別條件ヲ議スルニ方リ、公納金ハ總收入ヲ標準トシテ徵收スル方市ニ利益ナリトテ、委員會ノ修正說ヲ可決シタリ。余ハ、其議決ノ過ラザルヲ信ズルモノナルガ、市參事會員中田口、鈴木ノ兩氏ハ、純益標準說ヲ唱ヘ、再議說ヲ提出シタルモ、贊成者少數ニテ消滅シタルヲ以テ、主唱者兩氏ハ勿論、澁澤、立田二氏ノ辭職ヲモ見ルニ至レリ。然ルニ其同論者タリシ芳野、安川兩氏ガ、尙市參事會員トシテ其職ニ在ルハ怪訝ニ堪ヘザルナリ。蓋シ兩氏モ必ラズ此際處決セラルヽコトナルベシトハ信ズルモ、一言所思ヲ述ベ置カント欲ス。

次イデ**利光鶴松君**ハ、口頭ヲ以テ左ノ如ク緊急動議ヲ提出セリ。

田口氏ハ學者トシテ其名天下ニ知ラレ、殊ニ市行政ノ樞軸タル市參事會員ノ一人タリシニ拘ハラズ、本會多數ノ議決ニ反對シ、濫ニ再議說ヲ唱ヘテ平地ニ波瀾ヲ起サントシ、其策敗ルヽヤ、同論者タル鈴木氏ト共ニ執拗ニモ更ニ手段ヲ施シ、濫ニ再議說ヲ唱ヘテ平地ニ波瀾ヲ起サントシ、其策敗ルヽヤ、同論者タル鈴木氏ト共ニ執拗ニモトヲ企テタリ。然シナガラ其ノ企畫全ク水泡ニ歸シタルヲ以テ、勢ヒ退職ノ已ムナキニ至リ、辭表ヲ提出セリト雖モ、尙改悛ノ意ナク、故ラ侮辱ノ文字ヲ臚列シテ、吾々ノ感情ヲ激セシメ、以テ議場ニ紛擾ヲ釀サントスリ、然レドモ本會ハ冷然トシテ單ニ辭職ノ理由ヲ不當ナリト議決シ去レリ。思フニ氏等ノ計策再ビ畵餅ニ歸シタルヲ悔イ居ルナラン歟。抑ミ再議ナルモノハ已ムヲ得ズ執行スル所ノ非常權ニシテ、公納金徵收方法ノ如キ些些タル事ニ濫用スベキモノニアラズ、況ンヤ公納金ノ多少ハ畢竟各人ノ憶測ヨリ生ズル計算ニ過ギズ、斯ノ如キ茫漠タル計算上ノ異見ニ關シ、敢テ政治上ノ公德ヲ無視シ、不法ニモ非常權ヲ行使セントスルハ、亂暴ノ極ト云ハズシテ何ゾヤ。田口、鈴木氏等ガ市參事會ニ於テ不法ノ議論ヲ唱ヘタルハ上述ノ如クナルガ、是ニ同意ヲ表シタル會員四名アリ、其主唱者二名及ビ同論者タル立田、澁澤兩氏ハ辭職セラレ、殘ル所ハ芳野、安川兩氏ナリ。此

兩氏モ亦必ラズ他ノ四氏ト共ニ處決セラルヽコトヽ、信ジタリシニ、何ゾ圖ラン、安川氏ハ平然トシテ當議席ニ列シ、殊ニ田口氏等ノ辭職ニ關スル決議ノ數ニ加ハレリ、是レ豈ニ常識アルモノヽ行動ナランヤ。吾人ハ到底安川氏等ノ如キ人々ト和衷協同シテ、本市ノ福利ヲ企圖スル能ハズ。然リト雖モ市會ノ議決ヲ以テ公然辭職勸告モ爲シ難キニ依リ、已ムナク市長ニ向テ安川氏等ニ辭職勸告アランコトヲ請求ス。

此時**安川繁成君**發言ヲ求メテ曰ク、本員ハ赤坂區ノ人々ヨリ今暫ク就職ヲ請フトノ依賴ヲ受ケ、已ムヲ得ズ其儘經過シ來レルモノトス。仍テ利光君ヨリ市長ニ請求セラルヽ迄モナク、本員ハ玆ニ改メテ申告セン。乃チ議長ニ對シテハ市會議員、市長ニ對シテハ市參事會員ヲ辭スベシト。斯ク言ヒ終ハリテ安川君ハ直チニ退席セリ。次イデ**長谷川深造君**ハ、公會ノ席上ニ於テ同僚ニ辭職ヲ勸告ストハ、平素愼重ナル行動ヲ執ラルヽ利光君ニモ似合ハシカラザル行動ナリ。又安川君モ元來持重ノ人ナルニ拘ハラズ、一遍ノ勸告ニ逢フヤ、直ニ辭職ノ口頭屆出デヲ爲スガ如キハ、誠ニ輕率ノ次第ニシテ、兩君ノ行動ハ共ニ本員ノ取ラザル所ナリ。兎ニ角口頭辭職ハ前例ナキノミナラズ、公職ヲ辭スルニハ相當ノ方式アルベキ筈ナルヲ以テ、安川君ガ卒爾タル口頭辭職ハ承認スベキニ非ズト論ジ。**石垣元七君**モ、市會議員ガ自說ノ行ハレザルノ故ヲ以テ其職ヲ辭セザルベカラザル理由ナク、市參事會員モ亦其說行ハレザリシトテ、退職セザルベカラザル理由ナシ、從テ辭職ヲ勸告スルノ甚ダ穩當ナラザルヲ認ムトテ長谷川君ノ意見ニ同意シ。**峰尾勝春君**ハ、安川君ノ辭職ヲ悅ブモノナリトテ、議長及ビ市長ニ對シ、速ニ書面ヲ差出スヤウ本人ヘ督促セラレタシト望ミ。**横山富次郎君**ハ、安川君ガ高踏勇退セラレタルハ稱贊ニ値ス。長谷川君ハ公職ヲ辭スルニハ方式アリト論ゼラレタルモ、公會ノ席上ニ於テ自ラ其意志ヲ發表スル以上ハ、故ラ書面ヲ要セズ、口頭辭職ヲ以テ余ハ當然有效ト信ズルモノナルヲ以テ、直ニ承認スベキモノナリト說キ。**太田直次君**ハ、公會ノ席上ニ於テ公然同僚ニ辭職ヲ勸告シ、被勸告者亦之ニ應ジテ直ニ辭職ヲ申出デ、斷然其席ヲ去ル如キ、共ニ穩當ナラザル言動ト云フベシ。本問題ニ就イテ尙ホ論議セント欲セバ、徒ニ感情ノ衝突ヲ來シ、面白カラザル結果ヲ生ズル虞アルヲ以テ、祕密會ヲ開クベシト提議シ。**星君**ハ、利光君ノ動議ニ對スル贊否ノ議決ハ延期スベシトノ動議ヲ提出セリ。次イデ**利光君**ハ釋明シテ曰ク、本會ノナシタル議決ノ神聖ヲ保タント欲スル熱心ノ餘リ、言辭或ハ過激ニ涉リシヤモ知ルベカラズト雖モ、要スルニ安川君ノ如キ市會ノ議決ニ反對シ、其執行ヲ妨害スル人物ハ、市參事會員タラザランコトヲ望ムニ在リト。斯テ星君ノ動議ニ就テ採決シタルニ、多數ニテ星君ノ意見通延期ニ決セリ。

附記　十二月五日ノ會議ニ於テ、安川繁成君ヨリ更メテ左ノ如ク市參事會員辭任ノ屆出デアリタル旨報告アリ、市會ハ異議ナク之ヲ承認セリ。

退職屆

拙者義本月二十二日東京市會議場ニ於テ、名譽職參事會員ヲ辭職スル旨口頭ヲ以テ及申告置候得共、更ニ書面ヲ以テ及御屆候也。

明治三十二年十一月二十九日

東京市參事會

東京市長松田秀雄殿

安川繁成

第貳拾八節　水道改良事業

▽**水道工事落成式擧行費用支出ノ件**　十月二十日附ヲ以テ、市參事會ヨリ左ノ議案提出アリタリ。

水改第三百十九號

水道改良費中豫備費支出ノ件

一金壹萬五千圓也

右自明治二十六年度至明治三十二年度水道改良費中豫備費ヨリ支出スルモノトス

說明　改良水道工事ハ略ホ落成セシヲ以テ、來ル十一月下旬ヲ期シ、淀橋工場ニ於テ落成式ヲ擧行スルモノトス。

市會ハ十一月二十二日ノ會議ニ上程、**松田市長**ハ、說明中落成式ハ十一月下旬ニ擧行ストアルモ、十二月初旬トナルヤモ計リ難シトシテ諒解ヲ求メタルニ、異議ナク原案通可決セリ。

（附記）落成式ハ、十二月十七日淀橋工場ニ於テ擧行セリ。

▽**市外給水問題**　十一月二十日附ヲ以テ市參事會ヨリ提出ノ市外給水ニ關スル左記議案ヲ十二月五日ノ會議ニ上程セリ。

水改第三百二十三號

市外ニ對スル給水ノ件

市外ニ於ケル官公署、學校、病院、其他公共團體ニシテ、本市水道給水ヲ引用セントスル者アルトキハ、左ノ條件ヲ以テ給水スルコトアルヘシ。

一、市外ニ對スル給水ハ、總テ本市內ニ施行スル給水規則ニ準シテ給水スヘシ。

二、給水ハ豫メ其一ケ年間ノ水量ヲ定メテ供給スヘシ。

三、給水期限ハ五ケ年ヲ一期トシ之ヲ許可スト雖モ、本市ノ都合ニ依リ隨時給水量ヲ制限シ、又ハ一時之ヲ停止シ、或ハ全ク其給水ヲ廢止スルコトアルヘシ。

四、給水ハ總テ計量法ニ依ルモノトス。

五、給水料ハ、一立方「メートル」ニ付金五錢トス。

六、特ニ敷設スル水道鐵管、給水管用具ノ代金、及ヒ工費竝ニ試驗檢査費、出張員ノ旅費日當ハ、引用者ノ負擔トス。

劈頭ニ於テ**小川義春君**、本案ハ將來ニ少カラザル關係ヲ有スルモノナルガ故ニ、議長指名五名ノ委員ヲ設置シ、充分調査セシメラレンコトヲ望ムトノ動議ヲ提出シ、異議ナク之ヲ可決シタルヲ以テ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

久德猶行　小川義春　山本新平　磯部武者五郎　河原伊平

委員ハ**久德猶行君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、本案ヲ否決スル事ニ決シタル旨、十二月二十一日ノ會議ニ報告シ、且ツ**久德委員長**ハ、改良水道ハ僅ニ功ヲ終ヘタルノミニシテ、其給水未ダ市內ニ普及セザル今日、市外ニ向テ給水シタランニハ、他日如何ナル支障アルヤモ知ルベカラザルヲ以テ、目下ノ所市外給水ヲ不可ナリトシ本案ヲ否決シタルナリト說明シ。**橫山富次郎君**ハ、絕對ニ市外給水ヲ非トスル精神ナリヤ、或ハ他日市內給水ノ模樣ニ由リ、水量上支障ナキ限リ市外給水案ヲ提出セシムルノ意ナリヤト質シタルニ對シ。**久德委員長**ハ是ニ答ヘテ曰ク、委員會ノ否決シタル精神ハ、市內給水ノ普ネカラザル以前ニ於テ市外ニ給水スルハ宜シカラズトノ單純ナル理由ナリト。次イデ左ノ贊否ノ兩論アリタリ。

長谷川深造君　赤十字社所在地ハ市外ニ屬スト雖モ、同社ノ如キ　畏キ邊ノ保護ノ下ニ在リテ、國家ト特種ノ關

係アルモノニハ其需メニ應ズルヲ可トス、若シ他日水量不足ヲ生ズル等ノ場合ニ遭遇セバ、本案第三項ノ規定ニ從ヒ、一時其給水ヲ停止シ、又ハ全然廢止スルモ可ナリ、依テ余ハ原案ノ可決ヲ望ム。

小川義春君　水道改良事業ハ、本市民百五十萬人ニ給水シ得ルノ設計ニシテ、此ノ設計ニ基ク給水量ニハ限リアリ、然ルニ三十一年末ノ人口ハ百四十三萬七千餘ニシテ、年々四五萬人ヲ增加スルノ勢ヒナルヲ以テ、百五十萬人ニ達スルハ目睫ノ間ニ在リ。本員ハ將來人口益〻增加ノ結果、今日ノ設計ニテハ横濱市ノ轍ヲ履ミ、斷水若クハ制限給水ヲ爲スノ不幸ヲ釀スコトナキヤヲ憂慮シテ已マザルモノナリ。故ニ本案ノ如ク市內給水普ネカラザル今日ニ於テ、市外ニ給水セバ、他日市內引用者ノ增加ニ對シ、如何ニシテ其需要ニ應ズベキカ、思テ茲ニ到レバ到底本案ニ贊成スル能ハズ。要スルニ本員ハ絕對的ニ本案ノ廢案ヲ主張スルモノニアラズシテ、市內給水ノ普及ヲ俟チ、水量ニ餘剩アラバ、市外ノ給水ニ應ズルモ可ナリ、唯今日ハ其時機ニ非ズトノ意ナリ。

高橋庄之助君　單ニ市外ト云ヘバ、其範圍廣ク、從テ之ニ供給スル水量モ多額ナルガ如ク聞ユルモ、本案ニハ「市外ニ於ケル官公署、學校、病院、其他公共團體」ト明記シ、以テ一個人又ハ私立會社等ノ需メニ應ゼザル意ヲ明ニセリ。故ニ本案實施ノ曉ト雖モ、其供給水量ハ差シタルモノニアラズ、況ンヤ第三項ノ如キ規定アルニ於テヲヤ。仍テ本員ハ原案ニ贊成ス。

横山富次郎君　本案ノ可否ヲ決スルニハ須ラク自他ノ區別ヲ明カニスルヲ要ス。猥リニ市外ノ需要ニ應ゼンカ、一人四立方尺ニシテ百五十萬人ニ供給スベキ水量ハ忽チ缺乏シテ、他日市內ノ需要ニ應ズルコト能ハザル不都合ヲ生ズベシ。故ニ先ヅ市內給水ノ普及ヲ待チ、然ル後チ市外ノ需メニ應ズルヲ相當ト認ム。自己ノ給水未ダ普ネカラザル今日、他方ノ需要ニ應ズルハ、自他ノ區別ヲ紊リ、水道改良ノ本旨ニ背反スルノ甚シキモノトス。依テ本員ハ否決說ニ贊成ス。

黑田綱彥君　本員ハ原案ニ贊成ナリ。其理由ハ第一、本案中ニハ赤十字社ヲ包含スルハ勿論ナルガ、同社ハ其筋ニ於テ特別ノ取扱ヲ爲シ、中外有志者亦爭ウテ資ヲ寄セ、其偉業ヲ助ケツヽアルヲ以テ、本市モ亦特種ノ便宜ヲ與フルハ當然ナリト信ズ。第二、赤十字社入院患者ノ多クハ市ノ住民ナリ、故ニ本市ガ同社ニ特種ノ便ヲ與フルハ、市民ニ盡スモノト云ハザルヲ得ズ。第三、横山君ハ自他ノ區別ヲ明ニセヨト云ハルヽガ、本案條件第三項ノ如キ規定アルハ、即チ自他ノ區別ヲ明カニセル所以ナリ。第四、小川君等ハ市內給水ノ普及ヲ待チテ然ル後、市外ノ需メニ應ズベシト云ハルヽモ、市內需要者何萬ニ達スルヲ以テ普及ト認メラルヽヤ。統計ノ示ス所、人口ノ增加每歲萬ヲ以テ算フルノ勢ナルニ依リ、市內給水ノ普及ヲ待ツモ到底其期ナカルベシ。故ニ市內給水ノ普及ヲ待チテ市外ノ需メニ應ズベシトハ一ノ遁辭ニシテ、恐ク市外給水ヲ絕對ニ非トスルナラン。以上ノ諸點ニ就キ諸君ノ孰慮ヲ望ムト共ニ、本員ハ原案ノ可決ヲ希望スルモノナリ。

磯部武者五郎君　本員ハ調査委員ノ一人ナルガ、本員一個ノ考ヘハ海軍造兵廠若クハ赤十字社ノ如キモノニ對シテマデ、一切給水スベカラズトノ意ニアラズ、市參事會ヨリ是等ニ對スル給水案ノ提出アラバ、相當ノ考慮ヲ爲サント欲ス。

浦田助役　調査委員ノ意見ノ如ク若シ本案ヲ否決シ、一切市外給水ヲ許サヾルトキハ、本市養育院及ビ廣尾病院ノ如キ郡部境域ニ建設スルモノニハ給水ヲ爲シ得ザルノ不便ヲ生ゼン、參考ノ爲メ一言ス。

峰尾勝春君　郡部ニ在ル官衙、公署、學校、病院ノ如キ其數僅少ナルヲ以テ、是等ノ需メニ應ジタリトテ、市內給水上ニハ聊カモ支障ナカルベシト考ヘラルヽヲ以テ、原案ヲ可トス。

斯テ第一讀會ヲ終ヘ、第二讀會ニ入リテ、**長谷川深造君**ノ發議ニ依リ、第二讀會ヲ省略シテ直チニ第三讀會ヲ開ク事ニ決スルヤ、**丸山名政君**ハ、市外ト雖モ、官衙、公署、學校、病院ニ限リ給水スルヲ可トス、依テ「其他公共團體」ノ六字ヲ削除スベシトノ修正說ヲ提出シ。**小川義春君**ハ、第一讀會ニ於ケルト同一ノ理由ヲ以テ、廢案說ヲ强調シ。**峰尾勝春君**ハ、豫定栓數六萬個ノ內、今日迄ニ据附ケタルモノ漸ク一萬二千個ニ過ギズ、即チ豫定ノ五分ノ一ヲ出デザルニ依リ、市外ニ給水スルモ小川君ノ心配サルヽガ如キ事ハ萬ナカルベシト辯ジ。**小川君**ハ峰尾君ノ說ヲ駁シテ曰ク、目下ノ狀況ヲ以テ將來上水ヲ引用スルモノナキガ如ク考フルハ謬見ナリト。斯テ採決ノ結果、否決說ハ少數ニテ倒レ、丸山君ノ修正說モ亦タ成立セズ、原案通可決セリ。

第貳拾九節　山田收入役ニ謝狀贈呈

東京市收入役山田忠兵衞君ヨリ九月二十三日附ヲ以テ、病苦其職ニ堪ヘ難シトノ理由ニテ退職ノ申出アリタル旨、市參事會ヨリ同月二十一日ノ會議ニ報告アルヤ、**星亨君**ハ建議シテ曰ク、山田君ハ收入役勤務中、精勵克ク其任務ヲ盡サレ、功勞尠カラザルニ依リ、本會ノ議決ヲ以テ謝狀ヲ贈呈セント欲ス。而シテ文案ハ議長ニ一任シタシト。滿場異議ナク直チニ之ヲ可決セリ。仍テ議長須藤時一郎君ハ、議長代理者中島又五郎君ト協議ノ上、山田君ニ贈ルベキ謝狀ヲ左ノ如ク起草シタル旨、同日ノ會議ニ報告セリ。

拜啓、東京市會ハ貴下カ本市收入役退職ノ報ニ接シ、深ク之ヲ惜ムト共ニ、滿場一致ノ決議ヲ以テ、御就職中ノ功勞尠ナカラサルコトヲ感謝致候。敬具

明治三十二年十二月二十二日

東京市會議長　須藤時一郎

山田忠兵衞殿

第參拾節　東京府市部會ノ議決問題

東京府市部會議決ノ件ニ關シ意見書提出ノ爲メ、至急市會開會相成度候也。

明治三十二年十二月二十六日

東京市會議長須藤時一郎殿

星亨　外十四名

市會ハ右請求ニ依リ十二月二十九日開會、横山富次郎君ノ請求ニ依リ、議長(代理者中島又五郎君)ハ書記ヲシテ左ノ意見書ヲ朗讀セシメタリ。

東京府市部會決議ニ對スル意見書

右提出候也

明治三十二年十二月二十六日

東京市會議長須藤時一郎、本市會ノ決議ニ依リ意見書ヲ提出ス。

政府ハ本年三月府縣制ヲ發布シテ、地方自治團結ノ基礎ヲ確立シ、東京府會ハ新タニ成立シテ、本年十二月ヲ以テ開會シタリ。玆ヲ以テ我東京市民ハ、切ニ地方政務ノ改善ヲ期セリ。

然ルニ本年十二月十五日、東京府市部會ハ將ニ散會セントスルニ當リ、咄嗟ノ際、審査熟議ヲ經ズシテ、濫リニ口ヲ公益ニ藉リ、我東京市政ヲ批議スルモ、其記スル所無實虛構、殆ント常識ヲ以テ判斷シ易カラサルモノアリ。是レ某等東京市公益ノ爲メ、緘默スルコト能ハサル所以ナリ。

曩キニ兵庫縣下ニ於テ「ペスト」病發生スルヤ、本市ハ直チニ吏員ヲ特派シ、之レカ實況ヲ調査シ、專ラ豫防ノ準備ニ着手セリ。而シテ該病流行ノ兆アルヤ、直チニ「ペスト」病豫防事務所ヲ開始シ、各區ニ之レカ支所ヲ置キ、

提出者

星亨　横山富次郎
長谷川深造　小笠原壽長
藤田藤一郎　多羅尾光應
今井喜八　峰尾勝春
利光鶴松　松崎權四郎
江崎禮二　末吉忠晴
後藤亮之助　中島又五郎
高山權次郎

當局ノ吏員ハ夙夜奮勉之レカ事務ニ鞅掌ス。某等常ニ其勤勉忠實ナルコトヲ賞贊セリ。又拾數年來各家ニ堆積セル塵芥大掃除ヲ爲スノ必要ヲ感シタルモ、之ヲ漸次實行スルトキハ、爲メニ時日ヲ遷延スルコトヲ恐レ、一擧之ヲ掃蕩セントシ、市内凡ソ三十萬戸ノ内、二十六萬余戸ノ塵芥ヲ數日ニシテ掃蕩センコトヲ期セリ。然ルニ各區舟車等ノ供給意ノ如クナラサリシヲ以テ、一時塵芥ノ堆積スルコトアリシモ、是レ臨機ノ處分トシテ止ムヲ得サルニ出テ、敢テ間然スル處ナキヲ信ス。士木行政ノ如キ、固ヨリ特別市制廢止後漸ク一年ナラントシテ、之レヲ有形的ニ表示スルノ容易ナラサルコトハ、府ニ屬スル土木行政ノ實況ニ徵シ、閣下ノ熟知セラルヽ處ナラン。然レトモ本市ハ爾後新ニ吏員ヲ加フルコト數十人、經費ヲ增スコト數萬圓、某等ハ明カニ改善ノ實效アルコトヲ認識セリ。又道路改築ノ如キハ本市百年ノ大計ニシテ、固ヨリ短月日ノ間ニ其奏效ヲ見ルコト難シ、況ンヤ歐米都市ニ行ハルヽ改築道路ヲ起工セントスルニハ、數千萬圓ノ經費ヲ要シ、且ツ市區改正完成ノ上、道路幅員ヲ擴張シタル後ニアラサレハ、到底之レカ起工ヲ爲スコト能ハス、是レヲ以テ之レカ方法ハ專ラ調査中ニ屬セリ。而シテ目下ノ急ニ應スルカ爲メ、本年ヨリ五箇年繼續事業トシテ百萬圓ノ經費ヲ投シ、道路改善ヲ擧行シ、漸次改築ノ實蹟ヲ顯ハセリ。其他教育、衞生等、本市カ改善ヲ行ヒ、又ハ計畫中ニ屬スル事業ハ、枚擧ニ遑アラス。而シテ市會ハ、常ニ是等事業ノ督勵ヲ怠ラス、是レ閣下ノ詳悉セラルヽ處ナリ。然ルニ東京府市部會ハ、市政ノ實況ヲ調査セス、事業ノ一般ヲモ窺フコト能ハスシテ、濫リニ市政ノ良否ヲ議セントス。是レ實ニ審議熟慮ヲ經サルノ失態ト言フモ過言ニアラサルヘシ。

本市會ハ東京市民ノ爲メ、東京府市部會ノ輕擧ヲ慨歎セスンハアラス。幸ニ東京府知事閣下ハ、法律上府政ヲ統轄スルノ職權ヲ有セラルヽカ故、東京市部會ノ斯ル行動ヲ再ヒセサル樣誘掖セラレンコトヲ希望ス。

右本市公益ニ關スル事項ニ付、市制第三十三條ニ依リ、意見書ヲ提出候也。

明治三十二年　月　日

東京府知事宛

東京市會議長

横山富次郎君ハ、市會開會請求者ヲ代表シテ、意見書提出ノ理由ヲ左ノ如ク述ベタリ。

東京府會市部會ノ爲シタル決議ノ精神ハ、第一、本市多年ノ宿望タル特別市制ノ廢止ハ、今ヤ全ク其目的ヲ達シ、既ニ普通市制ノ支配スル所トナリ、自治ノ機關備ハレリト雖モ、治績毫モ擧ラズ、殊ニ道路、橋梁ノ廢頽最モ甚シ。第二、大阪、神戸等ニ於テ黑死病流行ニ際シ、本市ハ之ガ豫防ノ爲メ、各區ニ向テ大掃除ヲ施行シタリ。其事素ヨリ不可ナルニアラズト雖モ、之ガ爲メニ生ジタル塵埃ノ始末ニ至リテハ、甚ダ不整理ヲ極ムト云フニ外ナラズシテ、此二點ニ對シ、東京府知事ニ於テ充分監督アランコトヲ望ムト云フニ在リ。然レドモ右ハ咄嗟ノ間ニ決議シタルモノニシテ、事實齟齬セルモノアルニ因リ、市會議員及ビ市參事會員タル者、一言ノ辯疏ナカルヘカラズ、抑〻本市ノ土木行政ハ特別市制廢止後漸ク一年ニ垂タル短時日ニシテ、此間ニ於テ實績ヲ表現スルコト固ヨリ容易ナラザルモ、本市ハ爾來新ニ吏員ヲ增加シ、且ツ普通經費以外ニ七八萬圓ヲ支出シテ、砂利道路ノ大修繕ニ着手シタリ。而モ道路ニ對スル苦情喧シカリシヲ以テ、更ニ歐米ノ都市ニ行ハルヽ改築道路ノ例ヲモ取調ベタルガ、如何ニセン之ヲ實施セント欲セバ、數千萬圓ノ經費ヲ要スルノミナラズ、市區改正事業完成シ道路ノ幅員等モ定リタル後ニアラザレバ到底起工スル能ハザルモノアルニ因リ、取敢ヘズ刻下ノ急ニ應ズル爲メ、本年ヨリ五箇年繼續事業トシテ百萬圓ノ經費ヲ投ジ、今ヤ現ニ割栗道路ノ築造中ナリトス。又橋梁ニ就テハ、既ニ新

橋ノ改築ヲ竣ヘ、江戸橋、兩國橋、京橋等ノ如キ、其大破ニ至ラザルニ先ダチ目下改造着手中ニ屬ス。本市ガ土木事業ニ鋭意シ、其改善ヲ圖リツヽアル事斯ノ如シ。然ルニ市部會ハ毫モ市政ノ實況ヲ調査セズ、事業ノ一般ヲモ窺フコトスラ爲サズシテ、濫リニ市行政ノ良否ヲ議セントス、是レ實ニ審議熟慮ヲ經ザルノ失態ト言フモ、敢テ過言ニアラザルベシ。又曩ニ兵庫縣下ニ於テ黑死病ノ發生スルヤ、本市ハ特ニ吏員ヲ派遣シテ之レガ實況ヲ調査セシメ、專ラ豫防準備ニ着手シ、尙該病蔓延ノ兆アルヤ、市參事會ハ直ニ委員ヲ設ケテ、其豫防事務所ヲ開始シ、各區ニモ之レガ支所ヲ置キ、當該吏員ハ、夙夜孜々トシテ其事務ニ鞅掌セリ。而シテ十數年來各戸ニ堆積セル塵芥處分ノ必要ヲ感ジ、之ヲ漸次ニ實行スルトキハ徒ラニ時日ヲ遷延スルコトヲ虞レ、市內幾十萬戸ニ對シ、數日間ニシテ一擧ニ之ヲ撤去センコトヲ期セリ。然レドモ各區共ニ舟車等ノ供給意ノ如クナラザリシヲ以テ、一時其塵芥ヲ各戸ノ門前又ハ店頭ニ堆積シ、爲メニ市民ニ迷惑ヲ感ゼシメシコトアリシモ、是レ臨機ノ處分トシテ洵ニ止ムヲ得ザルニ出デ、決シテ怠慢ヨリ生ジタル結果ニアラズ。見ヨ「ベスト」病豫防方法トシテハ、現ニ本日モ第百十八號議案ヲ提出シテ、鼠買上費ノ支出ヲ求メ居ルニアラズヤ。本市ガ市行政ノ爲メ焦心苦慮シツヽアルコト斯クノ如クナルニモ拘ラズ、市部會ハ本月十五日散會セントスル際ニ於テ、審査熟議ヲ經ズ、濫リニ口ヲ公益ニ藉リ、以テ輕忽ニモ咄嗟ノ間ニ市政ヲ批議ス。殊ニ其記スル所無實虛構、殆ド常識ヲ以テ判斷シ易カラザルモノアルニ至リテハ、市會ノ上ニ立ツ市部會ノ行動ト認ムルヲ得ザルト共ニ、吾々ハ市民ノ爲メ、市部會ノ輕擧ヲ慨歎セズンバアラザルナリ。是レ此意見書ヲ提出スルノ已ムヲ得ザル所以ナリ。

次イデ**長谷川深造君**ハ、府會市部會ノ決議ハ、市政ヲ批議シ、市會ヲ侮辱シタルモノナリ。見ヨ其決議書中ニ「直言スルノ市會アルモ、其市會ニ於テハ未ダ機會ヲ得ザルニヤ、之ガ發言アルヲ聞カズ云々」ト記載シアリ、豈ニ杜撰モ

亦甚シカラズヤ。當市會ハ道路橋梁等ニ關シ、從來理事者ニ質問ヲ爲シ、又ハ注意ヲ與ヘタルコト一再ニシテ止ラズ。殊ニ今回問題ノ塵芥掃除ニ就テハ、其當時杉原榮三郎君ヨリ理事者ニ注意ヲ與ヘ、理事者ハ之ニ對シ、既ニ取調ベ居ルモ尙充分留意スベキ旨答辯アリシ程ニテ、市會ハ常ニ其職責ヲ曠クシタルコトナシ。然ルニ何事ゾ、市部會ハ濫リニ斯ル字句ヲ羅列シテ、市行政ノ良否ヲ論ズルトハ。市行政ノ良否ヲ云々スルニ先チ、東京府ノ事業ニ屬スル向島及ビ新宿等ノ道路ノ廢頽ヲ見ヨ。又櫻田門外ノ石垣ハ崩壞セルモ、未ダ是レガ修築ヲ爲サヾルニアラズヤ。市部會ガ自己ノ曠職ヲ顧ミズシテ、徒ニ東京市ノ失政ヲ批議スルハ、其常識ヲ疑ハザルヲ得ズトテ、意見書提出ノ建議ニ贊成シ。**城數馬君**ハ、市部會決議ノ精神ハ、市行政ノ失態ヲ論ジタルニ止マルモノナリヤ、將タ又直接市會ヲ攻擊シタルモノナリヤ、先ヅ以テ此點ヲ講究セザル可ラズ。蓋シ長谷川君ノ言ハレタル「直言スルノ市會アルモ、其市會ニ於テハ未ダ機會ヲ得ザルニヤ云々」ト云ヘル一點ニ就テハ、稍〻市會ヲ攻擊シタルモノヽ如ク思ハルヽモ、此ハ筆勢ノ餘力玆ニ及ビタル迄ニシテ、直接市會ニ攻擊ヲ加ヘタルモノトハ認メ難シ。果シテ然ラバ該決議ノ精神ハ、市行政ノ失態ヲ批議シタルニ過ギズ。若シ市行政ニ失態アリトセバ、其責市會ニアリヤ、又理事者ニアリヤ。本員ハ理事者ノ責任ナリト斷言スルヲ憚ラズ、何トナレバ議案ハ市會之ヲ議決スルモ、其發案及ビ執行權ハ共ニ理事者ニアルガ故ニ、其執行上ノ失態ニ付テハ、理事者ニ於テ之ガ責任ヲ負フコト當然ナレバナリ。斯ク論ジ來レバ、市部會ノ謂フ所假令事實ニ違ヘル點アリトスルモ、其ハ市會ノ關スル所ニアラザルヲ以テ、今日市政ノ當否ヲ議決シテ、此意見書ヲ提出スルハ、暗ニ理事者ヲ辯護スル事トナルベシ。本員ハ當市會ガ此ノ如キ意見書ヲ提出シテ、市長ナリ市參事會ナリヲ辯護スルノ必要ヲ認ムル能ハズ。要スルニ市部會ハ府縣制ノ規定ニ從テ自己ノ信ズル所ヲ具申シ、府知事ハ市部會ノ決議ノ有無ニ關セズ、市ニ對シ監督權ヲ有スルモノナルニ由リ、市部會ノ議決ガ府知事ニ提出アラバ、府知事ハ必ラズ當ニ審査ヲ遂ゲ、相當ノ處分ヲ爲スベシ。然レドモ本員ハ未ダ市部會ノ決議ニ關シ、府知事ヨリ市ヘ何等ノ申越シアリシヲモ聞カズ、然ルニ市會ハ何ヲ苦ミテ此ノ如キ意見書ノ提出ヲ爲サントハスル。內心疚シカラザル以上ハ、毫モ之ガ必要ヲ認メザルニアラズヤ。市行政上果シテ失態アリヤ否ヤト云フ本員一個ノ觀察ニ就テハ、今玆ニ辯ヲ費セズ。他ヨリ何等ノ申越モナキニ拘ハラズ、市會ガ斯樣ノ意見書ヲ提出スルハ、却テ失態ヲ掩フノ疑ヒヲ抱カシムルニ至ラントテ反對シ。**高橋庄之助君**ハ、市部會ノ決議ハ市政全般ニ涉リ居ルモ、悉ク無實虛構ナリ、左レバ理事者ハ理事者トシテ相當ノ辯明アルナランガ、市會ハ又市會ノ權能內ニ於テ事理ヲ明白ニセザルベカラズ。若シ夫レ此儘ニ默過セン乎、百五十萬ノ市民中、或ハ之ヲ事實ト誤認スルモノナキヲ保セズ、少クモ市部會議員ノ多數ハ、決議書記載ノ事柄ヲ眞實ト認メ居ルナラン。故ニ本會ガ市制第三十三條ニ據リテ此意見書ヲ提出スルハ、固ヨリ當然ナリ。殊ニ意見書ノ本文ニ記載セル「斯ル行動ヲ再ヒセサル樣誘掖云々」ノ如キハ、最モ妙味アル文章ナルヲ以テ、一字一句ノ修正ナク可決サレタシト望ミ。**秋虎太郎君**ハ、假令ヒ市部會ノ決議輕擧ナリトスルモ、市行政上ニ失態ナクンバ、理事者ガ之ヲ辯疏セバ則チ可ナリ。何ヲ苦ミテ市會自ラ進ンデ寃ヲ雪クノ要ヤアラント、建議ニ反對シ。**太田直次君**ハ、市部會ノ決議文ヲ一讀スレバ、市會ヲ誹議シタルモノナルコト明白ナリ。換言スレバ、市部會ハ市會ヲ「野呂間」ト評シタルモノナリ。然リ而シテ市部會議決ノ如キ虛構無實ヲ社會ニ發表スルハ、則チ公益ヲ害スルモノト言ハザルベカラズトテ、意見書提出ニ贊成シ。**後藤亮之助君**モ、「直言スルノ市會アルモ、發言アルヲ聞カス云々」ハ、是レ即チ市會ニ其人ナシト云ヘル意タルコト疑フベカラザルナリトテ、是レ亦意見書提出ニ贊成シ、採決ノ結果、多數ニテ意見書ヲ可決シ、即日議長ヨリ市參事會市長ニ對シ東京府知事ヘ進達方ヲ請求セリ。

附記　明治三十二年十二月十五日東京府會市部會ニ於テ議決シタル意見書ハ、左如シ。

意見書

東京府市部會議長角田眞平、謹ミテ東京府知事閣下ニ告白ス。

抑モ我東京市ノ行政タルヤ、先ニ特別市制ヲ施行セラレ、爲メニ自治制ノ完全セサルモノアリシカ、當時市民ハ勿論、市會議員、市參事會員タリシ人々ハ、極メテ之カ不都合ヲ鳴ラシ、特別市制ヲ除クニアラサレハ、市ノ行政ハ全ク擧ラスト論シ、爾來數年、漸ク其冀望ヲ達シ、全ク普通市政ノ支配ヲ受クルコトトハナレリ。玆ニ於テ我々市民ハ、當初豫期ノ如ク日々月々駸々市行政ノ擧カルヘキヲ信シタルニ、何ソ計ラン却テ其成績不良ヲ來タシ、其數枚擧ニ遑アラス、殊ニ道路橋梁ノ如キ最モ甚シトス。就中昨今市民ノ恐怖ヲ懷ク彼ノ黑死病ノ流行ニ於テハ、各區ニ向テ一大掃除ヲ施行セラレ、各戸ニ就テ之カ施行ヲ督勵ス。是レ衞生上然ルヘキ事トハ信スレトモ、如何セン其大掃除ヨリ生スル塵埃ノ始末ニ至リテハ、誠ニ不整理極レリト云フヘシ。現ニ各區ノ道路ヲ見ヨ、不潔極マル塵埃ハ、各家ノ門前、各戸ノ店頭ニ積テ山ヲ爲シ、從テ出セハ、從テ積ミ、此ノ實狀恰モ道路ニ「ペスト」微菌ヲ散在セシムルノ感アリ、市民ノ恐怖亦想フニ餘リアリ。而シテ此レカ運搬取片付ノ任タルヤ、專ラ市役所ノ所管ニ屬シ、各人ノ自由ヲ許サス。夫レ東京市ノ市稅ニ於ケル、頃者著シク其增加ヲ來スモ、吾篤實ナル市民ハ、何ノ苦狀ナク其徵收ニ應スルニモ拘ラス、此事業ノ緩慢ニシテ、事ノ敏速ヲ來タサヽルハ何ソヤ、一ニ之ヲ市長ノ失政ト謂フモ敢テ過言ニアラサルヘシ。元來市政ノ失體ニ付テハ、之レヲ直言スルノ市會アルモ、其市會ニ於テハ未タ機會ヲ得サルニヤ、之レカ發言アルヲ聞カス。我東京府市部會ハ、市民ノ爲メ慨嘆ニ堪ヘサル處ナリ。幸ニ東京府知事閣下ハ、法律上市行政ヲ監督スルノ權能ヲ有セラルヽヲ以テ、此際道路、橋梁、塵芥等ニ關シテハ、特ニ速カニ職權上市長ニ對シ、充分ノ監督アランコトヲ請求ス。

右公益ニ關スル事件ト信スルニ因リ、府縣制第四十四條ニ基キ、市部會ノ決議ヲ以テ意見書ヲ提出ス。

明治三十二年十二月十五日

東京府市部會議長　角田眞平

東京府知事男爵千家尊福殿

第參拾壹節　市會議員異動

半數改選以外、明治三十二年中ニ於ケル市會議員ノ異動左ノ如シ。

選擧區	氏名	年月日	摘要
京橋區	鳥海清左衞門	明治三十二年二月十四日	辭職
神田區	金田傳兵衞	明治三十二年四月四日	辭職
日本橋區	小川三千三	明治三十二年五月十二日	死亡
本所區	立田彰信	明治三十二年十一月十五日	辭職
赤坂區	安川繁成	明治三十二年十一月二十二日(口頭申立)二十五日(書面提出)	辭職
淺草區	石垣元七	明治三十二年十二月二十二日	失格(市收入役就任)
麴町區	末吉忠晴	明治三十二年一月二十七日	補欠
神田區	加藤佐兵衞	明治三十二年一月二十七日	補缺
日本橋區	西澤善七	明治三十二年一月二十七日	補缺
麻布區	黑田綱彥	明治三十二年一月二十七日	補缺
牛込區	子爵小笠原壽長	明治三十二年一月二十七日	補缺
小石川區	石井義正	明治三十二年一月二十七日	補缺

本郷區　伴親光　明治三十二年二月十五日　補缺
下谷區　杉原榮三郎　明治三十二年四月七日　補缺

第參章　明治三十三年

第壹節　議長及議長代理者選擧

明治三十三年一月十六日本年最初ノ市會ヲ開キ、市制ニ據ル議長及ビ議長代理者ノ改選ヲ行フ、其結果左ノ如シ。

議　長（當選）（三十一點）　中島又五郎
同　（次點）（十八點）　須藤時一郎
議長代理者（當選）（四十七點）　橋本好正

第貳節　水道改良事業

▽共用栓設置及鐵管敷設工事　改良水道敷設ニ伴ヒ、公衆ノ便益ヲ計ル爲メ、市街ノ交通頻繁ナル場所及ビ引用ノ資力ナキ者ニ對シ、市費ヲ以テ市設共用栓千五百個設置ニ要スル、七萬五千圓ノ追加豫算ヲ水改第三百三十二號案トシテ、一月十六日ノ會議ニ提出シ、五名ノ調査員員ニ附託スルコトヽナリシガ、同委員ノ決定ニ先チ、二月五日ノ會議ニ於テ、水改第三百三十三號案ヲ以テ、水道鐵管敷設工事ハ、略ホ竣工シタルモ、尙ホ第二ノ擴張工事ヲ必要トシ、六拾五萬五百六拾九圓參拾參錢ノ追加豫算ヲ提出シタルニ對シ、十五名ノ調査委員ヲ設置スルト共ニ、前記共用栓設

置豫算ノ調査モ、併セテ附託スル事トナレリ。尚ホ同日ノ會議ニ於テハ、利光鶴松外二名ノ深川區選出市會議員ニ依ツテ提出サレタル「深川全區ニ水道布設ノ計畫ヲ立テ急速實施センコトヲ望ムノ建議」ヲ可決セシガ、右委員ハ左ノ如ク議長ヨリ指名サレタリ。

今井喜八　藤田藤一郎　鈴木善四郎　木村莊平　今泉勝平
石井義正　中澤彦吉　名子新七　中島行孝　多羅尾光應
青木庄太郎　橋本好正　村上耕一郎　河原伊平　伴親光

委員ハ**石井義正君**ヲ委員長ニ推シ、調査ノ結果、三月五日ノ會議ニ於テ報告書ヲ提出シ且ツ**石井委員長**ヨリ水改第三百三十二號ノ共用栓設置ノ豫算案ハ、委員ニ於テ原案ヲ可決セル旨ノ報告アリテ、異議ナク決定、次ニ水改第三百三十三號ノ鐵管敷設擴張工事ニ關シ、調査委員**石井義正君**ハ、委員中ニハ敷設ノ擴張ヲ希望セシ向アリシモ、金額ニ制限アリテ、如何トモスル能ハザルガ故ニ、原案ヲ可決セリ。然レドモ各區ノ希望モアルコトナラント考フルニ依リ、當局者ニ於テ、努メテ市全般ニ便利ヲ與ヘラレンコトヲ望ムトノ報告アリ、**黒田綱彦君**、麻布區ニ於ケル敷設場所ハ何處ナリヤト問ヒ、**石井君**及ビ**今井喜八君**ハ、其區ノ委員ニ圖面ヲ廻付シ置キタレバ、夫レニ就テ一覽ヲ望ムト述ベ、**黒田君**ハ、何區ハ何千間ト、委員ニ於テ決定サレタル事項ハ、最早動カスコト能ハザルモノナリヤト問ヒ、**今井君**、本案金額ノ範圍内ニ於テ、線路ノ變更ヲ當局者ニ請求スルコトヲ得ベシト答ヘ、**黒田君**ハ、本案參考書ニ、何區何間トアルノミニテ場所ノ詳細ハ不明ナリヤト質シ、**助役浦田治平君**、鐵管ノ噸數ヲ算出スルニ當リ、場所ヲ豫定シタルモノアルモ、決シテ確定シタルニアラズ、故ニ實施ノ際、甲ノ線路ヲ乙ニ換ヘ、乙ノ線路ヲ丙ニ變スルコトアルベシト說明ス、**黒田君**ハ、然ラバ布設線路確定ノ時ハ、各區ヘ諮問スルノ意ナルヤト質問シ、**浦田助役**、开ハ不可能ナリト思惟スト答フルヤ、**黒田君**ハ、番外ノ說明ト委員報告トハ相違スル所アルガ如シ、孰レヲ信ズベキカ惑ナキ能ハズト云ヘバ、委員ノ一人**橋本好正君**、委員ハ此案ヲ議スルニ當リ、參考トシテ圖面ヲ閲覽セシモ、其豫定線路ニ就テハ、種々ナル議論ヲ生ジ、殊ニ深川區ハ從來飲料水ニ欠乏ヲ告グルノ土地ナルニ依リ、斯ル少許ノ敷設ニテハ、普ク區民ニ供給シ難シトノ故ヲ以テ增設ヲ希望シ、其他ノ區ニアリテモ、區全體ニ關スル事柄ナレバ、輕々シク決スルコト能ハザルニ依リ、區ノ協議會ヲ開キ、其決定後ニ本案ヲ決スベシトノ說アリ、又金額ト線路トヲ區別シテ議決スベシトノ議論モアリタレドモ、線路ヲ豫定セザレバ、鐵管ノ大小ヲ定メ、又其噸數ヲ算出スル能ハズ、斯クテハ鐵管注文上頗ル差支アリ、且ツ各區會ニ協議スルトキハ、種々ノ希望出デ、如何トモスル能ハザルニ至ラントテ、結局經費上技術上差障ナキ限リハ、豫定線ヲ變更シ得ルモノト爲シ、第二擴張ハ、經費ニ限リアルヲ以テ玆ニ止メ、他日財源ヲ求メタル後チ、第三第四ト順次擴張スルコトニ決シタリ。**黒田君**、委員會ハ圖面ヲ是認シテ少シモ修正セザリシヤト問ヒ、**橋本君**、前述ノ理由ニ依リ、原案ニ据置キタリト答ヘ、**星亨君**、圖面ハ參考トシテ提出シタルモノナレバ、圖面ニ關係ナク決スベシト述ベ、**議長中島又五郎君**、圖面ハ參考ニ止ムルモノトスルモ、鐵管敷設ノ間數ハ如何ト問フヤ、**星君**ハ、間數ハ原案通リニテ可ナルモ、委員ノ閲覽シタル圖面ハ、本會ノ議定スベキ限リニアラズト云フ意ナリト述ベ、橋本君モ同一意見ナリトテ、異議ナク原案ニ決定シタリ。

▽神田上水ノ廢止及延期　改良水道ノ給水普及ト共ニ、在來上水ノ內、神田上水ノ廢止案ヲ、三月二十九日ノ會議ニ提出セリ。

在來上水ノ內給水廢止ノ件

本郷、神田、日本橋、京橋ノ四區及麹町區ノ一部（大手町一、二丁目、道三町、鐵瓶町）ハ明治三十三年六月三十日限リ在來上水ノ給水

ヲ廢止ス

但廢止後掛ケ樋ハ取毀チ石緣桝ハ緣石ヲ掘取ノ上埋立他ハ現在ノ儘拋棄スルモノトス

右朗讀終ルヤ、**利光鶴松君**及ビ**長谷川深造君**ハ、深川邊ノ居住者ノ飲料水ニ差支ナキヤヲ問ヒ、**市長松田秀雄君**、**助役浦田治平君**交々起ツテ、本案ハ神田上水ヲ廢止スルモノナルガ故ニ、比丘尼橋際及ビ螺殼町等ノ水汲場ハ、無論廢滅ニ歸スルモ、尙錢瓶橋際ニ玉川上水ノ吐口アルヲ以テ、深川區ノ給水ニ差支ナク、又神田上水ハ斷水スルモ、玉川上水ハ當分通水スルヲ以テ更ニ差支ナシト辯明シ、**杉原榮三郎君**ヨリ委員三名ヲ設ケ調査報告ヲ決スベシトノ發議アリテ贊成者アリシガ、**宮川鐵次郎君**ハ、本案舊水道廢止ノ四區內ニテ、未ダ新水道ヲ引用セザルモノ何軒位アルヤトノ質問ヲ爲シ、浦田助役ハ、即答シ難キモ、新水道ノ引用者二萬戸程アル內、日本橋區ハ八十戸位ナルベキカ、他ハ確ト判明セズ、實ハ理事者モ此斷水ニハ大ニ躊躇スル所アリシガ、如何セン樋桝ノ腐朽甚シク、到底今日ノ儘ニ拋棄シ置キ難キ場所多キガ故ニ、旁々以テ廢水斷行ヲ決定シ、本案ヲ提出スルニ至リシ旨ヲ辯明シ、委員說ヲ會議ニ諮リタルニ、杉原君ノ說ハ少數ニテ消滅シ、多數ヲ以テ原案ニ決定ス。然ルニ改良水道ノ給水請求ヲ爲スモノ豫定ニ達セザル爲メ、六月三十日限リ廢止スルニ於テハ、在來上水使用者ノ不便尠カラザルヲ以テ、十一月三十日迄延期スベク、第八十四號案ヲ以テ、六月二十二日ノ會議ニ提出シ可決トナレリ。

▽**水道共用栓規則**　改良水道ノ普及ト共ニ、途上ノ公衆竝給水裝置ヲ爲スコト能ハザル者ノ爲メニ、市設共用栓設置ニ付キ、之レガ規則設定ニ關スル水改第三百五十七號案ヲ、九月二十四日ノ會議ニ提出セルニ、原案贊成アリシモ、斯波厚、山本新平、須藤時一郎三君ヨリ質問出デ、市長松田秀雄君ヨリ、夫々答辯セルガ、結局委員五名ヲ設置スルコトヽナリ、議長ハ左ノ如ク委員ヲ指名セリ。

斯波厚　後藤亮之助　中鉢美明　青木庄太郎　丸山名政

委員ハ**後藤亮之助君**ヲ委員長ニ推シ、調査ノ結果、左ノ如ク修正スルコトニ決シ、十月九日ノ會議ニ之ガ意見書ヲ提出セリ。

東京市水道共用栓規則（|ハ削除　○ヲ付セルハ修正）

第一條　本市ハ公共ノ必要ニ應シ市內樞要ノ場所ニ市設共用栓ヲ設置ス

第二條　左ニ揭クル者ハ市設共用栓ヲ使用スルコトヲ得

一　途上ノ公衆給水裝置ヲ爲スコト能ハサル者

二　給水裝置ヲ設クルコト能ハサル者途上ノ公衆

第三條　市設共用栓ハ水料ヲ徵收セス但前條第二號ニ該當スル者ハ（此限ニアラス）水料ヲ徵收セス

第四條　第二條第二號ニ該當スル者ニシテ市設共用栓ヲ使用セントスルトキハ其地主若クハ家主ヲ總代トシ所轄區長ノ證明ヲ受ケ東京市役所水道部ヘ請求スヘシ

但地主若クハ家主數人アルトキハ其一人ヲ總代人トスヘシ

第五條　前條ノ總代人ハ水料ノ納付其他請求及使用ニ關スル一切ノ事項ハ其地主若クハ家主之ヲ取扱フヘシ此場合ニ於テハ地主又ハ家主ハ其使用ニ關スル責任ヲ負擔スルモノトス

地主若クハ家主數人アルトキハ連帶ニテ其責任ヲ負擔スルモノトス

第六條　本市水道給水規則中本則ニ抵觸セサル條項ハ總テ之ヲ市設共用栓ニ準用ス

斯クテ**後藤委員長**ハ、委員ノ意見ヲ報道スベシト前提シ、左ノ如ク述ベタリ。

原案ノ精神ハ、途上ノ公衆ヲ除クノ外、苟モ市設共用栓ヲ使用スルモノニハ、總テ水料ヲ徴收スル方針ノ由、又地主家主等ノ責任ハ、唯使用冀望者ニ代リ、水道部ニ請求スルノミナラズ、若シ其使用者ニ於テ、水料ヲ滯納スル場合ハ、代テ之ヲ納付セシムルニ在ル趣ナリ。果シテ然ラバ原案ノ條文ニテハ明晰ヲ缺キ、夫等ノ意味ヲ了解スル能ハザルノミナラズ、第二條ノ如キハ、全ク主客顚倒セルヲ以テ、修正ヲ加フルコトニ決議シタリ。序ナガラ一言セン、市設共用栓ハ、總數千五百個ニシテ、其内五百四拾七個ハ、昨日迄ニ設備濟ノ由ニテ、各區ニ配置スル員數モ、取調ベ置キタルモ、錯綜ヲ來タスノ虞レアルガ故ニ、質問ヲ待ツテ答辯セン。

黑田綱彦君ハ、委員ノ修正サレタル條文ニハ異議ナキモ、規則ノ體裁上ヨリ條項ノ繰替ヲ望ム。即チ第三條ヲ第五條トシ、從テ條文中ニ、「前條」トアルヲ「第二條」ト改メ、而シテ第四條ヲ第三條ニ、第五條ヲ第四條ニ繰上ゲントストノ修正意見ヲ述べ、**山本新平君**ハ、本案共用栓ハ、何戸共同シテ使用スルモ、其水料ニハ異動ナキヤヲ問ヒ、**浦田助役**ハ、普通共用栓水料ハ、一栓ニ付六戸迄、一箇年金八圓ニシテ、以上壹戸ヲ增ス毎ニ金五拾錢ヲ增加スル規定ナリ。故ニ此市設共用栓モ、右規定ニ準據スル考ナルガ、一栓ニ付凡三拾五戸位ハ給水シ得ル見込ナリト答ヘ、**星亨君**ハ黑田君ノ說ニ贊成セントス、理事者ハ差支ナキヤト問ヒ、**松田市長**、更ニ差支ナシト答辯シ、斯クテ調査委員ノ條文修正意見及ビ黑田君ノ條項轉換說ハ異議ナク可決トナレリ。

第參節　芳野世經君功勞決議

名譽職市參事會員芳野世經君ヨリ、一月十七日附ヲ以テ、「都合有之」トノ理由ヲ以テ提出セラレタル辭職屆ハ、二月五日ノ會議ニ於テ朗讀セラレ、其辭職ヲ是認スルコトヽナルヤ、**星亨君**ヨリ、芳野世經君ハ、府會市會其他ノ名譽職員ニ任シ、本市ノ爲メ盡サレタル功勞尠シトセズ、然ルニ今市參事會員ヲ辭セラル、眞ニ惜ムベキナリ、依テ特ニ芳野君ノ東京市ニ對スル功績ヲ多トスルノ決議ヲ爲サントスト發議シ、**黑田綱彦君**、余モ亦之ニ同意セントスルモ、芳野君ハ、市制施行以來十有餘年間、市會議員トナリ、市參事會員トナリ、本市ノ爲メニ盡力スル所尠ナカラザリシヲ以テ、單ニ其功勞ヲ議事錄ニ特筆スルノミナラズ、假令些少ニテモ、物品ヲ贈呈シテ謝意ヲ表セント欲スト述ベタルモ、遂ニ星君ノ說ニ決定シ、左ノ如ク決議セリ。

決　議

芳野世經君ハ市制創施以來各種ノ名譽職ニ任シ本市ノ爲ニ盡瘁セラレシハ深ク之ヲ多トス今ヤ辭表ヲ呈出シ以テ退職セラル本會ハ之ヲ惜ムト共ニ君カ多年ノ功勞ヲ錄シ聊カ感謝ノ意ヲ表ス

明治三十三年二月五日

東京市會

第四節　特別稅設定

二月五日會議ヲ開キ、特別稅設定ニ關シ、左ノ提案ヲ爲セリ。

第三號

特別稅設定ノ件

第一條　本市ニ左ノ特別税ヲ設定ス

一　取引所税
一　鐵道馬車税
一　電柱税
一　瓦斯税
一　船車税

第二條　取引所税ハ其純益額百分ノ三ヲ年税トシテ取引所ニ賦課ス

第三條　鐵道馬車税ハ一ヶ年ノ總收入ヲ標準トシ左ノ割合ニ據リ鐵道馬車營業者ニ賦課ス

一　軌道一日一哩平均收入　四拾圓以上五拾圓未滿ナルトキ　營業總收入　百分ノ一
一　同　五拾圓以上七拾五圓未滿ナルトキ　同　百分ノ二
一　同　七拾五圓以上百圓未滿ナルトキ　同　百分ノ三
一　同　百圓以上百貳拾五圓未滿ナルトキ　同　百分ノ四
一　同　百貳拾五圓以上百五拾圓未滿ナルトキ　同　百分ノ五
一　同　百五拾圓以上百七拾五圓未滿ナルトキ　同　百分ノ六
一　同　百七拾五圓以上貳百圓未滿ナルトキ　同　百分ノ七
一　同　貳百圓以上貳百貳拾五圓未滿ナルトキ　同　百分ノ八
一　同　貳百貳拾五圓以上貳百五拾圓未滿ナルトキ　同　百分ノ九
一　同　貳百五拾圓以上ナルトキ　同　百分ノ十

第四條　電柱税ハ市内ニ建設スル電柱一本ニ付年税金七拾錢ヲ電燈營業者ニ賦課ス

第五條　瓦斯税ハ市内ニ布設スル四吋以上ノ瓦斯管口徑一吋ニ對シ延長一間毎ニ金壹厘五毛ヲ瓦斯營業者ニ賦課ス

第六條　船車税ハ左ノ標準ニ據リ船舶及車輛所有者ニ賦課ス

一　日本形船（五十石以上）　壹石ニ付　年税金壹錢五厘
一　（蒸）汽船及達摩船　壹噸ニ付　同　拾錢
一　西洋形帆前船　壹噸ニ付　同　八錢
一　河川ヲ航行スル汽船、西洋形客船、西洋形機械船　一噸ニ付　同　壹圓
一　荷積馬車牛車　一輛ニ付　同　四輪車拾圓　二輪車八圓
一　荷積大車　同　參圓
一　荷積小車　同　壹圓
一　營業及自用馬車（鐵道馬車ヲ除ク）　同　二頭立參拾圓　一頭立貳拾圓
一　自用人力車　同　二人乘六圓　一人乘四圓
一　自轉車　同　貳圓

第七條　第二條ノ利益金第三條ノ總收入ニ對スル特別税ハ前年度ニ據リ之ヲ賦課ス其利益金ナキモノ又ハ新タニ營業ヲ爲シタルモノハ豫算額ニ由ル

市長松田秀雄君ハ提案ノ理由ヲ說明シテ曰ク、特別稅設定ノコトタル、既ニ去ル三十一年中、第七十三號議案（第一卷第十章第八節參照）ヲ提出シテ、本會ノ贊同ヲ經、其筋ニ對シ認可申請ヲナシタルモ、步一稅、其他ノ事項ニ付、種々議論ヲ生ジ、遂ニ許可ノ指令ニ接スル能ハズ、爾來許可ヲ得ル見込ナキモノヲ申請センヨリモ、寧ロ特別稅其物ノ設定ヲ思ヒ止マラント欲セシガ、如何セン他ニ適當ナル收入ノ途ナク、一方支出ハ年々增加スルノミナラズ、最近汚物掃除法ノ發布セラレントスルアリテ、市費ノ嵩ムコト夥シ。殊ニ本會ヨリハ道路改正ノ聲頻ナルノミナラズ市區改正ノ速成ヲ要求スルノ聲モ亦頗ル高シ、而モ之ニ充當スベキ費用ノ出所ナシ。此ニ於テ、市民ノ迷惑ヲ思ハザルニハアラザルモ、勢ヒ止ムヲ得ズト認メ、今又曩ノ第七十三號議案ト大同小異ノ本案ヲ提出スルニ至レリ、其筋ニ於テモ、本市財政ノ事情ハ粗ボ承知セル容子ナルニ依リ、具ニ陳情シナバ、大體同意セラルベシト思惟ス、故ニ本案ハ第四號議案（後出）ト共ニ即時議決アランコトヲ希望スト。之レニ對シ**久德鉴行**君ハ、松田市長說明ノ如ク、本市ガ財源ニ苦メルハ事實ナリ、去リナガラ新稅ヲ起スニハ最モ愼重ヲ要ストテ、七名ノ委員設置ヲ發議シ、**中島行孝**君、亦タ濫リニ即決シテ前年ノ如キ不結果ヲ來セバ、市會ノ體面ニモ關スルニ依リ、鄭重ニ調査シタル上、議決スルニ如カズトテ贊成ス、**鹽島仁吉**君ヨリ、從來府縣ニ於テ負擔シ來リシ監獄費ハ、國庫支辨ニ移リ、本年十月ヨリ實施セラルヽ爲メ、東京府モ府稅三十萬圓餘ヲ減ズベケレバ、本案特別稅設定ヲ見合セ、而シテ普通市稅ノ課率ヲ高ムル樣、其筋ノ許可ヲ得レバ事足ルベシト思惟スルモ、理事者ノ見込如何、又タ課稅ノ標準ト爲シタル船舶ノ噸數ハ、登簿噸數ナルヤ將タ總噸數ナルヤト說明ヲ求メ、**黑田綱彥**君ハ、參考書ニ就テ見レバ、本案特別稅設定ノ爲メ、拾七萬圓餘徵收シ得ラルヽ計算ナルガ、抑此新稅ヲ起ス所以ノモノハ、單ニ從來ノ課稅ニテハ不足ナリトノ理由ナルカ、或ハ新事業開始ノ爲メニハ、今後此位ノ費額入用ノ見込アルニ依ルカ如何ト質問シ、**松田市長**ハ、監獄費ハ府稅ニ屬シ、等シク市民ノ負擔ナリト雖モ、當市會ニハ直接ノ關係ナシ、從テ府廳ニ於テハ豫算更正ノ手續ニ及ブベキモ、其ハ當席ヨリ辯明スルヲ得ズ、又船舶噸數ハ登簿噸數ナリ、次ニ三十三年度ノ豫算案ハ未ダ本會ニ提出ノ運ニ至ラザレドモ、理事者ノ取調ベタル所ニ據レバ、普通市稅ハ孰レモ大ニ增加シ居レリ、尤モ營業稅附加ノ如キ、制限額百分ノ五十迄ニハ達シ居ラザルモ、右制限額ノ內ニハ、區費ヲモ包含セル解釋ナルヲ以テ、百分ノ十以內ハ區費徵收ノ途ニ備ヘ置カザルベカラズ。既ニ百分ノ十以內ヲ區ニ於テ課稅スルモノトセバ、本會ノ議定ヲ經ル稅率ノ極點ハ、百分ノ四十ト見做サヾルベカラズ。然ルニ三十三年度ノ稅率ハ業ニ已ニ百分ノ四十トナリ、最早課稅ノ餘地ヲ存セズ、此上ハ家屋稅ニ賦課スルノ外ナキモ、是迚年々增加シ來リ、三十三年度ノ徵收額ハ壹個八錢五厘程ニ上リ、殆ド前年度ノ倍額トナリタレバ、此上增徵スルハ容易ノ業ニアラズ。要スルニ是迄ハ普通市稅ヲ課スルニ、多少ノ餘裕アリシモ、今ヤ殆ド其餘地ナク、他ニ事業ヲ起サント欲セバ、尙更特別稅ヲ起スノ外術ナシ、是レ本案提出ノ止ムヲ得ザルニ出タル次第ナリト辯明セシニ、**黑田君**ハ、重ネテ此特別稅ハ新事業ヲ起ス爲メニ設定スルモノナリヤ否ヤノ說明ヲ望ミ、**松田市長**ハ、今日迄ノ普通市稅ニテハ、通常事業スラ支フルニ足ラズシテ、現ニ參拾萬圓程ノ借入金ヲ爲セリ。故ニ新事業ヲ起スニハ、尙更不足ナリ、換言スレバ實際借入金アル程ニシテ、現在事業費スラ不足ヲ告ゲ居ルノ有樣ナルニ依リ、今後汚物掃除法下水法等ヲ發布セラルヽニ至ラバ、一層不足額ヲ增スコト言ヲ俟タザル所ナル旨ヲ力說シ、**橫山富次郎**君ハ委員說ニ反對シ、一昨年特別稅設定案ノ本會ヘ提出セラレタルハ、其當時道路修築及ビ赤痢豫防等ノ爲メ、拾七八萬圓ノ經費ヲ要セシニ由ル。然ルニ特別稅ハ其筋ノ許可ナク、從テ右費用ハ自然借越トナリタルノミナラズ、其後諸種ノ事業ニ伴ヒ、借入金大ニ增加シ、此際特別稅ヲ設定スルニ非ザレバ、如何トモスル能ハズ、況ヤ汚物掃除法發布ノ曉ハ、市ノ負擔一層重キヲ加フルニ於テオヤ、其課目課率ニ就テハ、既ニ諸君ニ定見アルナラントテ、即決ヲ主張シ、採決ノ結果、委員

說ハ少數ニテ消滅セリ。

斯クテ第二讀會ニ於テハ逐條審議ヲ行ヒ、第四條ノ電柱税ニ就キ、**今井喜八君**ヨリ課率ノ質問出デタルニ對シ、**浦田助役**ハ、此前ハ電柱壹本ニ付八拾錢ト修正セルヲ、今回ハ夫ヨリ拾錢ヲ減ジタリト答ヘ、第五條ノ瓦斯税ニハ**黑田君**ヨリ、本條ニ「四吋以上ノ瓦斯管」トアルガ故、四吋以下ノモノニハ課税セザルコト明カナルガ、其理由如何トノ質問アリ、**浦田助役**ハ、四吋以下ノ管ハ多ク一個人ノ邸宅ニ引込アルモノナルヲ以テ、課税セザル精神ナリト答フルヤ、**黑田君**ハ、然ラバ邸宅ニ引込メル管ト雖モ、四吋以上ナラバ課税スルヤト問ヒ、**浦田助役**然リト答フ、次ニ第六條船車税ニ入リ、質問竝ニ税率ニ對シ、種々修正意見出タリ、即チ

青木庄太郎君ノ第四號中「河川ヲ航行スル汽船、西洋形客船、西洋形機械船」ノ年税壹圓ヲ五拾錢ニ減ズル說、

山本新平君ノ第四號中「河川ヲ航行スル汽船」ノ一廉ヲ第二號中ヘ編入スル說、

山本新平君ノ荷積小車ノ年税ヲ五拾錢ニ減ズル說、

黑田綱彥君ノ荷積馬車牛車中四輪車ノ年税ヲ拾貳圓トスル說、

アリシモ、孰レモ採決ノ結果少數ニテ消滅シ、原案ニ決定ス。次ニ第七條ニ對シ**宮川鐵次郎君**ヨリ、事業年度及ビ利益ナキ會社ノ課税ニ關スル質問出デ、**浦田助役**ハ、會社ノ決算期タル區々ニシテ曆年ニモ據ラズ、又政府ノ會計年度ニモ據ラズ、前半期ヲ五月六月若クハ七月トスルモノアリ、後半期ヲ十一月十二月若クハ一月トスルモノアリテ一定セザルガ故ニ、乃チ各會社ノ營業年度ト云フノ意味ニテ、「事業年度」ト認メタルナリ、又利益金ナキモノ云々トアルハ、要スルニ主任者ガ豫算編製ニ着手スル時期ハ至テ早キガ故ニ、其當時ニ在テハ、未ダ會社ノ利益判然セザルモノアルベシトノ考ヨリ、斯クハ規定シタルナリト答ヘ、**宮川君**ハ、然ラバ如何ニ特別税ノ豫算ヲ議スルモ、實際利益ナキ會社アレバ、之ヲ徵收セザルヤ如何ト質シ、**浦田助役**ハ、本案ニ於テ利益ヲ目的トシ課税スルモノハ、取引所ト鐵道馬車ノ二者アルノミ、故ニ利益ナキ場合ハ、事實上之アルマジト答ヘ、**黑田君**亦タ此七條ハ、特別税賦課法ナルヤ將タ又豫算編製法ナリヤト說明ヲ求メ、浦田助役トノ間ニ質問應答ヲ重ヌル所アリシモ、答辯更ニ要領ヲ得ズト稱ヘシガ

宮川鐵次郎君ノ本條全文ヲ「第二條ノ利益金第三條ノ總收入金額ハ毎事業年度ノ損益計算書ヲ調査シ市參事會之ヲ決定ス」トスル修正說、

小川義春君ノ本條中「其利益金ナキモノ云々」以下ヲ削除シ「事業年度ニ據リ之ヲ賦課ス」トスル修正說、

ハ採決ノ結果、孰レモ少數ニテ消滅、原案ニ決定シ第三讀會ニ入ル、此時**黑田綱彥君**ハ、第二讀會ノ場合心付カザリシガ、第六條ヲ見ルニ、其第二號ニハ「蒸汽船」トアリ、而シテ第四號ニハ單ニ「汽船」トアリ、是ハ一方ニ於テ「蒸」ノ字ヲ削ルカ又ハ一方ニ「蒸」ノ字ヲ加フルカ、孰レトモ同文ト爲ス方可ナラン、又第七條ニ「第二條ノ利益金第三條ノ總收入ハ前年ノ事業年度ニ據リ之ヲ賦課ス」トアルハ文章甚ダ奇ニシテ、何人ヲシテ讀マシムルモ、「利益金ヲ賦課シ又ハ總收入ヲ賦課ス」ト解釋スルニ相違ナカラン、故ニ條文ノ意味ヲ明瞭ナラシムル爲メ「總收入」ノ下ヘ「ニ對スル特別税ノ」七字ヲ挿入セント欲ストノ修正意見ヲ述ベ、異議ナク黑田君ノ意見通リ修正スルコトニ決シ、第三號案ノ確定ヲ告ゲタリ。

▽歩一税設定ノ件　次ニ歩一税設定ニ關スル議案ヲ朗讀ス。

第四號　歩一税設定ノ件

第一條　本市内ニ於テ土地建物ノ買受讓受ヲ爲シタルモノハ其價格百分ノ一ヲ歩一税トシテ賦課ス

但シ法定ノ家督相續ニ依リ土地建物ヲ取得シタルモノハ此限ニアラス

第二條　歩一税ハ所有權移轉ノ際其收得者ニ賦課ス

右ニ對シ**小川義春君**ハ、前年本會ノ決議シタル特別税案ガ、其筋ニ於テ許可セラレザリシハ、種々ノ事情アルベシト雖モ、就中歩一税ニ異論アリシガ爲メナリト聞ク、然ルニ今又斯案ヲ決議シ、再ヒ許可ヲ得ザルコトアランカ、實ニ本會ノ面目ニ關ス、想フニ理事者ガ本案ヲ提出セラルヽニハ其筋ノ内意ヲ承合サレシナラン。故ニ差支ナキ限リハ說明ヲ望ムト述べ、**松田市長**ハ、憂慮ハ至極尤ナリ、如何ニモ歩一税ニ就テハ、其筋ニ於テモ十分詮議セラルヽコトヽ想ヘリ、而シテ政府ノ意向如何ハ、今玆ニ明言スルヲ得ズト雖モ、理事者ガ三號案ト四號案トヲ、各別ニ提出シタル意味ヲ咀嚼シ、推察アランコトヲ望ム旨ヲ答辯シ、第一條但書ヲ削除スベシトノ修正意見及ビ同但書ノ場合ハ普通ノ半額ヲ徵收スベシトノ修正意見アリタルモ、贊成者ナキ爲メ問題トナラズ、簡易法ヲ以テ原案ニ確定ス。

▽特別税ニ關スル議決更正　前項二月五日議決ニ係ル特別税設定ノ件ハ、其筋ヘ許可申請中ノ處、訂正方ノ申渡シアリタレバ、七月三十日ノ會議ニ、第百號案トシテ、左ノ更正方ヲ提出セリ。

第三號　決議更正ノ件

明治三十三年二月五日議決第三號（特別税設定ノ件）中第二條第五條第七條ヲ更正シ及第八條以下ヲ追加スルモノトス

第二條　取引所税ハ一箇年ノ總收入百分ノ一半ヲ年税トシテ取引所ニ賦課ス

第五條　瓦斯管税ハ市内ニ布設スル四吋以上ノ瓦斯管口徑平方一吋ニ對シ延長一間毎ニ金壹錢五毛ヲ瓦斯營業者ニ賦課ス

第七條　第二條第三條ノ總收入ニ對スル特別税ハ前年ノ事業年度ニ據リ之ヲ賦課ス

第八條　取引所税、鐵道馬車税電柱税瓦斯管税ノ賦課ヲ受クヘキ營業者ニシテ其前年ノ事業年度ノ利益金ガ其資本金ニ對シテ一箇年百分ノ六ニ達セサルトキハ本税ヲ賦課セス

第九條　新ニ前條ノ營業ヲ爲シタルモノニハ其營業開始ノ翌年ヨリ本税ヲ賦課ス

▽特別税ニ關スル市條例設定　其後特別税ノ設定ハ、其筋ノ許可アリタルヲ以テ、賦課徵收上規定ノ必要アリトシ、十月九日ノ會議ニ左記議案ヲ提出シタリ。

第百十七號

特別税ニ關スル市條例設定ノ件

本市特別税ニ關スル規則左ノ通設定スルモノトス

特別税ニ關スル規則

第一條　特別税ハ一箇年ヲ二期ニ區分シ左ノ期間ニ於テ之ヲ徵收ス

前半期　五月一日ヨリ六月十五日迄

後半期　十一月一日ヨリ十二月十五日迄

第二條　電柱税、瓦斯管税、船車税ハ毎年四月一日及十月一日現在ノ電柱數、瓦斯管延長間數、船車ヲ標準トシ其營業者及所有者ニ賦課ス

第三條　特別税ノ賦課ヲ受クヘキ營業者及物件所有者ハ左ノ區別ニ據リ所轄區長ニ屆出ヘシ

一　取引所營業者ハ毎月四月十五日限リ前年度ノ資本金額、總收入金額及利益金額

一　鐵道馬車營業者ハ毎年四月十五日限リ前年度ノ資本金額、總收入金額、利益金額及道路ニ敷設シタル軌道

ノ延長哩數

一　電燈營業者ハ毎年四月十五日及十月十五日限リ四月一日、十月一日現在ノ電柱數

一　瓦斯營業者ハ毎年四月十五日及十月十五日限リ四月一日、十月一日現在ノ四吋以上ノ瓦斯管ヲ各口徑ノ種類ニ區別シタル延長間數

一　船舶ノ所有者ハ其所有權ヲ獲得シ又ハ市外ヨリ轉入シタル日ヨリ七日以内ニ其種類及登簿噸數若クハ石數

一　車輛ノ所有者ハ其所有權ヲ獲得シ又ハ市外ヨリ轉入シタル日ヨリ七日以内ニ其種類及員數

第四條　前條ノ營業者及物件所有者ニシテ營業權及所有權ノ移轉其他ノ異動アリタルトキハ直ニ所轄區長ニ屆出ヘシ

附　則

第五條　特別税ハ明治三十三年度ニ限リ半箇年分ヲ徴收ス

第六條　本則施行ノ際特別税ノ賦課ヲ受クヘキ營業者及物件所有者ハ第三條ノ規程ニ準據シ明治三十三年　月　日限リ所轄區長ニ屆出ヘシ

本案ニ關シ**助役浦田治平君**、斯案ハ本年二月五日決議ヲ經タル、第三號議案竝七月三十日更正議決ヲ得タル、第百號議案ニ基キ、特別税ノ賦課徴收方法ヲ規定セント欲スルモノニテ、其精神ハ既定ノ二議案ト大差ナク、唯異ル所ハ三十三年度ニ限リ、下半季ヨリ徴收スルノ一事ナリトス、是レ内務大臣ノ認可遲延セル結果ニシテ、誠ニ已ムヲ得ザルニ出ヅル旨ヲ説明シ、異議ナク全部原案ニ決定ス。

第五節　訴訟及和解

▽**淺草公園煉瓦仲店家屋明渡請求ノ件**　前年來係爭中ナリシ淺草公園番外煉瓦仲店家屋明渡請求控訴事件（第二章第貳拾五節參照）ハ、三十三年二月六日東京地方裁判所ニ於テ、缺席判決アリタルヲ、東京市ヨリ故障ヲ申立テ、辯論ノ結果、更ニ三月六日「明治三十三年二月六日ノ缺席判決ヲ廢棄ス」「原判決ヲ廢棄ス」「控訴人ノ訴ハ却下ス」「訴訟費用ハ第一、二審共控訴人ノ負擔トス」トノ判決アリタリ。其概要ハ、東京市ハ前訴訟費用ノ防訴抗辯ノ理由ナキ事、及ビ三十二年七月十日、市會ノ議決ニ基キ、提起シタル訴訟ハ、一旦敗訴ニ歸シタルモ、本訴ハ該議決ノ實行ナレバ、被控訴人等ノ主張スル如ク、時々本訴提起ニ關シテ、市會ノ議決ヲ要スヘキ理由ナシ、又東京市參事會ガ、東京市ヲ代表シテ訴ヲ提起スルニハ、議決ヲ要スベキモノニアラザレバ、本訴提起ニ關シ、東京市參事會ハ、議決シタルコトナシトテ證據書類ヲ提出シ、被控訴人ハ本訴提起ニ關シ、市會ノ議決ヲ爲サズ、三十二年七月十日ノ決議ニ基キテ、本訴ヲ提起シタルハ不適法ノ訴ナルコト、及ビ市參事會ガ、市ヲ代表シテ訴訟ヲ爲スニハ、市參事會ノ議決ヲ以テセザルベカラザルニ拘ラズ、本訴ハ東京市長ガ、單獨ニ訴訟ヲ提起シタルモノニシテ、東京市參事會ノ議決ニ基キタルモノニ非ズ、從テ不適法ナリト主張セリ、之ニ對シテ、東京地方裁判所ガ與ヘタル判決ノ理由ハ左ノ如シ。

市カ訴訟ヲ爲スニ當リテハ市參事會カ之ヲ代表シテ爲スヘキコトハ市町村制第六十四條第二項第七ニ規定スル所ナリ而シテ市參事會ハ合議體ノ官府ナレハ市ヲ代表シテ訴訟ヲ爲スニハ其議決ニ基カサルヲ得ス然ルニ本件記錄中東京市參事會カ東京市ヲ代表シテ本訴ヲ提起スヘキコトヲ議決シタル事實ヲ看ルヘキナキノミナラス控訴人ハ

本訴提起ニ關シ東京市參事會ハ其議決ヲ爲シタルコトナシト陳述スルヲ以テ東京市參事會ハ本訴提起ノ議決ヲ爲サヽリシモノト認定スヘク從テ本訴ハ東京市ノ代表機關タル東京市參事會カ提起ノ手續ヲ爲シタルモノト爲スヲ得サルヲ以テ本訴ハ適法ノ起訴ナキモノトス

茲ニ於テ、東京市ハ五月二十五日ノ會議ニ對シ、第六十號案ヲ以テ上告提起ノ件ヲ提出シ、「淺草公園第二區番外煉瓦仲店借家人細野磯吉外二名ニ係ル、家屋明渡訴訟第二審東京地方裁判所ノ判決ハ不法ナルヲ以テ上告スルモノトス」トノ議決ヲ爲シタリ。

▽訴訟和解ノ建議　尙右上告提起ヲ議決シタル、五月二十五日ノ市會ニ於テハ、休憩後橋本好正、利光鶴松兩君ヨリ、中鉢美明君外十三名ノ贊成ヲ以テ、左ノ建議ヲ提出セリ。

淺草公園第二區番外煉瓦仲店取拂請求ノ訴訟ニ關スル和解ノ建議

淺草公園第二區番外煉瓦仲店十三戸ハ從來池田治三郎外十二名ヘ貸與シアリシカ明治三十二年三月十八日ノ市會ニ於テ該十三戸ノ內東側五戸西側四戸ヲ取拂ヒ殘リ西側四戸ハ借用人ヨリ一旦家屋ヲ明渡サシメ更ニ貸與スルコトニ決議セリ而シテ市參事會ハ此決議ヲ執行スルニ當リ借家人ハ異議ヲ唱ヒ任意明渡ヲ爲サヽルカ爲メ不得止訴訟ヲ提起スルニ至レリ爾來原被告互ニ勝敗アリテ今日ニ至ルマテ未タ訴訟ノ確定セサルノミナラス其目的ヲ達センニハ今後尙ホ幾多ノ歲月ヲ要スヘキヤモ知ルヘカラス抑市會カ曩ニ此決議ヲ爲シタル所以ノモノハ唯々公園ノ風致ヲ害シ又火災延燒ノ虞アリトスルニ在リ然ルニ實地ノ狀況ヲ觀察スルニ東側五戸ヲ取拂フトキハ稍ヤ公園ノ風致ヲ添ユルノ觀アリト雖モ西側四戸ノ取拂ニ至リテハ敢テ公園ノ風致ニ關係ヲ及ホサヽルノミナラス火災豫防ノ點ニ至リテモ亦タ目下其必要ヲ見サルナリ而シテ之ヲ存置スルニ於テハ公園ノ收入ニ多少ノ增額アリテ市ハ其利益ヲ受ケ住居人ハ從來ノ惡感情ヲ解キ甘シテ市ノ命令ニ服從セン是レ所謂惡シキ和解ト雖モ勝訴ニ優ルトノ格言ニ適スルモノナリ因テ東側五戸ノ取拂ハ前決議ノ通リトシ西側八戸ニ對シテハ左ノ條件ヲ以テ和解ヲ爲スハ彼我ノ利益ナリト信ス依テ市參事會ハ之カ調査ヲ遂ケ速カニ發案アランコトヲ望ム

和解條件

第一　西側四戸ハ存置スルコト

第二　右四戸ト既ニ存置スヘキ四戸ハ他仲店同樣ノ貸料ヲ以テ在來ノ借用人ニ貸與スルコト

橋本好正君ハ提出者ノ一人トシテ、建議ノ理由ヲ陳述スベシト前提シ、元來本件ハ、昨年第十三號議案ヲ提出セラレタルニ原因ス、（第二章第拾五節參照）當時本會ハ委員ヲ設ケ、審議ノ末、東側五戸ト西側八戸ノ內四戸ヲ取拂ヒ、而シテ殘リ四戸ハ借用人ヨリ一旦家屋ヲ明渡サシメ、更ニ同人等ヘ貸與スル事ニ決定シ、市參事會ハ此決議ニ基キ、借家人ニ明渡ヲ通達シタルニ、彼等ハ言ヲ左右ニ託シ、容易ニ明渡サズ、此ニ於テ遂ニ事ヲ法廷ニ爭フノ止ムヲ得ザルニ至レリ。爾來原被互ニ勝敗アリ、未ダ確定セズト雖モ、結局本市ノ勝訴ニ歸スルヤ論ヲ待タズ、去リナガラ其終局ヲ見ルニハ、尙ホ幾多ノ歲月ヲ經過セザルベカラズ、殊ニ本件ノ如キ性質ノモノハ、被告ノ行爲如何ニ依リ、二三年位引キ延シ得ベキコトハ、本員職務上ニ於テ之ヲ知悉ス、誠ニ原告タルモノヽ困難ヲ感ズル所ナリ。是レ本員等ガ和解ヲ利トシテ、本建議ヲ提出シタル所以ナリ、抑モ市會ガ該取拂ヒヲ決議シタル所以ノモノハ、公園ノ風致ヲ保有シ、仁王門ノ火災ヲ豫防スト云フノ二點ニ外ナラズ、然ルニ東側五戸ノ取拂ハ或ハ公園ニ風致ヲ添フベシト雖モ、西側四戸ノ取拂ニ至リテハ、更ニ益スル所ナシ、此番外煉瓦家タル、十數年前、個人ガ或條件ノ下ニ、特許ヲ得テ建設シタルモノニ係リ、爾後十年經過ノ後本市ヘ獻納シタルモノナリ、故ニ特許十年間ハ、賃料モ半額ニシテ、參圓五

拾錢ニ過キザリシガ、市ヘ献納後ハ他ノ仲店同様トナリ、從前ノ倍額トナルベシ。今本建議ニ於テ存置セントスル、西側四戸ニ對スル賃料ヲ積算スルニ、一戸一箇月七圓トスレバ、月額貳拾八圓ニシテ、一箇年ニハ參百參拾六圓ノ收入アリ、被告等ハ賃料ノ增額スルヲモ厭ハズ、自ラ進ンデ市參事會ニ和解ヲ申込ミタル由ナレバ、此機ヲ逸セズ、建議ニ載スル所ノ二條件ヲ附シテ和解スベシ、爾カスルトキハ、彼等モ安ジテ營業スルト共ニ、惡感情ヲ去リ、市モ亦タ收入增加ノ利益ヲ得、相互ノ便益此上ナカラン。而シテ建議可決ノ上ハ、市參事會ハ速ニ調査ヲ遂ゲ、發案アランコトヲ望ムト述べ、**星亨君**ハ此條件ヲ以テ被告ハ必ラズ和解ヲ承諾スルヤ、又西側四戸ハ市ニ引上グル意見ナルヤヲ建議者ニ質問シ、**橋本君**ハ必ラズ承諾スルコト、確信シテ疑ハズ、又西側四戸ハ一旦明渡サシメ、然ル後チ更ニ現居住人ニ貸與スルノ意ナリト答フ。**横山富次郎君**ハ、風致ノ點ニ何等ノ關係ナク、況ンヤ之ガ存否ハ、市ノ收入上二千圓以上ノ得失アルオヤトテ、建議ニ贊意ヲ表シ、**星君**ハ、今ヤ市參事會ニ於テ其決議執行ノ手續中ナルニ關ハラズ、原告タル本市自ラ和解ヲ申込ムハ、市會ノ體面ニ關スルコト大ナリ、依ツテ熟考ノ爲メ、延期ノ動議ヲ提出スト述ブルヤ、贊成者アリ、然ルニ**横山君**ハ、即決ヲ主張セシガ、**星君**、更ニ和解ノ申込及ビ條件ニ關シ、番外ノ說明ヲ求ム、茲ニ於テ、**助役朝倉外茂鐵君**、和解ノ書面ハ既ニ被告等ヨリ差出シタルモ、未ダ市參事會ヘ提出スルノ運ビニ至ラズ、書面ノ趣旨ハ粗ボ橋本好正君陳述ノ如クニシテ、西側ハ從來ノ通リ之ヲ存置シ、在來ノ借用人十二名ニ貸與セラレタシト云フニアリ、但シ在來借用人ハ十三名ナルモ、其内一名ハ取拂ヲ承諾シタルニ依リ、十二名トハナリタルナリト答ヘ、**利光鶴松君**ハ、延期說ヲ反駁シ、**後藤亮之助君**、亦即決ヲ主張ス、茲ニ於テ議長中島又五郎君、延期說ニ就キ採決シタルニ、起立少數ニテ消滅ニ歸セシカバ、**星君**、然ラバ反對論ヲ提出スベシトテ、建議者ハ、唯若干ノ收益アルガ故ニ和解ヲ爲スト云フニ過ギズシテ、其理由薄弱ナルノミナラズ、前後矛盾シテ一向論理ノ立タザルニ驚ク、市ノ收益ヲ圖ラン爲メ、西側ノ四戸ヲ存ストナラバ、何故東側五戸モ亦タ之ヲ存置セザルヤ、又反對論者ハ前例アルヲ以テ、和解シタリトテ本市ノ體面ニ關セズト云フモ、惡例ハ斷然之ヲ改ムベキナリ、加之建議者ハ此新訴訟ヲ以テ、結局市ノ勝利ニ歸スルヤ必セリト云ヘリ。然ラバ進ンデ訴訟ヲ繼續シ市ノ權利ヲ保維セザルベカラザル筈ナルニ、過刻六十號議案ヲ以テ、上告提起ノコトヲ議決シナガラ、其終局ヲ見ルニハ尙ホ幾多ノ日子ヲ要ストノ謂レナキ理由ヲ以テ、原告自ラ和解セントス。何ゾ其レ議論ノ奇異ナルヤ、果シテ必勝ノ見込アリトセバ、吾ヨリ進ンデ和解ヲ求ムルノ要ナシ、然ラザレバ、本市ニ於テ將來訴訟ヲ起スニ際シ、對手者ハ努メテ日子ノ經過ヲ謀リ、市ヲシテ和解ヲ申込マシムルノ手段ヲ講ズルノ弊ヲ生ズベシ、是レ市自カラ求メテ世人ノ輕侮ヲ招キ、體面ヲ失墜スルモノナリ、論ジテ茲ニ至レバ、本建議ハ、事小ナリト雖モ、將來市ノ威信ニ關スルコト實ニ大ナリ、豈ニ忽諸ニ附スベケンヤ、是レ本員ガ建議ニ反對スル所以ナリ。尙ホ被告ヨリ市參事會ヘ和解ノ願書差出シタリト云ハレシモ、本員ハ現ニ參事會員ナルニ拘ハラズ、未ダ其願書ヲ見ズ、殊ニ朝倉助役ハ、被告十三人中、一人ハ願書ニ連署セズト說明セリ。然ラバ其一人ハ果シテ和解ニ同意ナルヤ如何ヲ知ルコト能ハズ、或ハ二重ノ訴訟ヲ起サヾルベカラザル場合ニ立至ルヤモ計リ難シ、以上ノ理由ナルヲ以テ、旁々本案ノ否決ヲ望ムト述べ、**小笠原壽長君**ハ、被告ヨリ差出シタル書面ニハ、東側ノ五戸ヲ取拂フモ、西側ノ四戸ヲ存スレバ、和解スベシトノ明文アリヤヲ問ヒ、**朝倉助役**ハ、願書ハ去ル二十二日附ヲ以テ差出シタリ、然ドモ自分ハ今日始メテ一覽セシ次第ナレバ、未ダ市參事會ヘ提出スルノ運ビニ至ラザリシ旨ヲ答辯シ、**松長光吉君**ハ、和解ハ、原告即チ市ヨリ申込ムモノナリヤヲ問ヒ、**橋本君**ヨリ、然ラザルヲ聞キタル後チ、然ラバ建議ニ贊成ナリ。被告ヨリ和解ヲ請求シ來レル以上ハ、宜シク溫厚ノ態度ヲ持シ、請願ヲ容ルヽコソ、則チ本市ノ面目ナルベシト述べ、**橋本君**、亦タ**星君**ノ反對說ニ一應辯明ヲ爲シ、**小川義春君**ハ、**星君**ノ廢案說ニ

賛成意見ヲ述ベシガ、建議ニ就テ採決ヲ爲シタルニ、起立多數ナリシヲ以テ、星君ノ廢案說ハ、自ラ消滅ニ歸シ、建議案ハ可決トナレリ。

▽**和解條件ノ修正**　市會ノ建議ニ基キ、六月二十二日ノ會議ニ左ノ議案提出アリタリ。

第八十六號

淺草公園番外煉瓦仲店ニ關スル訴訟和解ノ件

淺草公園第二區番外煉瓦仲店明渡ノ件目下爭訴中ノ處今回借家人池田治三郎外十二名ヨリ別紙ノ通リ願出タリ依テ曩ニ存置決定ノ四戸ノ外更ニ西側四戸ヲ加ヘ併セテ八戸ヲ存置スルコトヽシ左記ノ條件ヲ以テ和解スルモノトス。

一　東側五戸ハ速カニ明渡スヘキコト

一　西側八戸ハ現借家人八名ニ對シ繼續貸渡ヲ許可スルコト

一　(原案)三十二年七月以降ノ借家料ハ從前ノ借家料ニ依リ願意許可ノ日ヨリ十日以內ニ納付スヘキコト

(修正)三十二年七月以降ノ借家料ハ普通仲店ト同一タルヘキコト。但從前ノ借家料ハ願意許可ノ日ヨリ十日以內ニ納付スヘキコト

一　(削除)今後ノ借家料ハ普通仲店ト同一タルヘキコト

一　初回ノ貸渡期限ヲ明治三十三年十二月三十一日迄トシ次回ヨリ他仲店ト同一三箇年ヲ以テ一期トスルコト

一　繼續貸渡ノ契約ハ仲店貸渡期則ニ據リ個々ニ締結スヘキコト

一　訴訟費用ハ各自ノ負擔タルヘキコト

一　(追加)本件ニ關スル契約ハ公正證書ヲ用フルコト

右議題ニ供スルヤ**星亨君**ハ、三十二年六月三十日ノ貸渡契約滿期後ニ於ケル契約ノ有無及ビ訴訟提起前借家人ヨリ、普通仲店ト同一賃料ニテ、繼續借用ノ願出アリシ事實如何ヲ質問シ、助役**朝倉外茂鐵君**ハ、滿期後ハ直チニ返納スル筈ナルヲ以テ、別段何等ノ契約ヲ爲サヾリキ。又普通賃料ニテ繼續借用ノ出願アリシモ、其願書ハ當時既ニ返付セリト答ヘシカバ、**星君**、然ラバ三十二年七月以降ハ他ノ仲店同樣、普通家賃ヲ徵收スベキ筈ナルニ、本案條件第三項ニ「七月以降ノ借家料ハ、從前ノ借家料ニ依リ云々」ト記載シ、矢張リ半額ト爲サントスルハ何故ナルカ、又明渡期限後即チ昨年七月一日ヨリ、今日迄ノ借家料ハ幾何ナリヤト問ヒ、**朝倉助役**ハ、至極尤ノ次第ナルモ、和解ヲ爲スニハ、自己ノ意見ノミヲ主張セズ、互ニ讓步スルヲ穩當ト認メタルノミナラズ、其訴訟中ニ係ル家賃ハ、矢張前賃料ニ由ルヲ相當ト信ジ、乃チ「從前ノ借家料ニ依リ云々」トハ記載シタルナリ、敢テ深キ理由アルニアラズ、又此十三戸ニ對スル、昨年七月以降ノ借家料ヲ積算スルニ、普通賃料ナラバ、千百七拾八圓貳拾參錢ナレドモ、其半額トセバ五百八拾九圓拾壹錢五厘トナルト答ヘシニ、**星君**、修正說ヲ提出スベシトテ、和解條件第三項ヲ「三十二年七月以降ノ借家料ハ、普通仲店ト同一タルヘキ事」ト更ムル意見ヲ述ベ、**横山富次郎君**ハ、斯ル些細ノ事柄ニ關シ、星君ノ如キ堂々タル大家ノ彼是論ゼラルヽハ、所謂割雞牛刀ニシテ、其大人氣ナキヲ惜ムトテ修正說ニ反對シ、**高橋庄之助君**ハ星君ノ修正說ニ賛成意見ヲ述ベ、**松長光吉君**、亦星君ノ說ヲ至當ト考フルガ、殊ニ借家人等ハ、曩ニ普通仲店同樣、全部ノ賃料ヲ以テ繼續借用シタキ旨、出願セシコトモ之レアリトノ由ナレバ、旁々今日ハ此議事ヲ延期シ、一應理事者ヨリ交渉ヲ試ミテハ如何トテ、番外ノ意見ヲ問ヒ、**朝倉助役**ハ、交渉ヲ試ムルモ、果シテ之ニ應ズルヤ否ヤ懸念ニ堪ヘズト答ヘ、**橋本君**ハ、星君ガ、金額ノ多寡ニ關セズ、市ノ伸張シ得ベキ權利ハ之ヲ伸張スベシト論ゼラレシハ、一應尤ナルモ、和解ヲ爲スニハ讓步セザルベカラズ、本員ハ和解ヲ欲スルノ情切ナルニヨリ原案ノ可決ヲ望ムト說キ、

星君ハ、市ガ自己ノ主張ヲ抛チ、西側全部ヲ存シテ之ヲ貸與セントス。是レ豈異數ノ讓歩ニアラズヤ、彼等若シ之ニ滿足セズンバ、其曲彼ニ在リ、我レ如何ニ穩和ヲ望ムトハ云ヘ、凡ユル主張ヲ抛棄スル如キ、降伏的和解ヲ爲スベカラズ、尙ホ最後ニ問ハン、本契約ハ公正證書トナシ爲スノ意ナリヤ、**朝倉助役**、本案契約ハ公正證書トナスヤ否ヤハ、未ダ確定セザルモ、成ルベクハ公正證書トナシ、他日紛紜ナキ樣致度キ考ナリト答辯セルニ、**星君**ハ、斯ル曖昧ノ答辯ニハ滿足スル能ハズ、仍テ此條件中ニ「本件ニ關スル契約ハ公正證書ヲ用フル事」トノ明文ヲ揭ゲント欲スト述ベタルニ贊成者アリ、議長**中島又五郎君**、星君ハ、木案條件第三項ヲ「三十二年七月以降ノ借家料ハ普通仲店ト同一タルヘキ事」ト修正スル意見ヲ提出セラレ、既ニ贊成者アリテ問題トナリシガ、右修正ノ結果トシテ、「從前云々」以下ヲ但書ト爲シ、其文言ヲ「但從前ノ借家料ハ願意許可ノ日ヨリ十日以內ニ納付スヘキコト」ト更メザルヲ得ズト考フルガ如何ト諮リ、**星君**、其ノ通リナリト答ヘ、採決ノ結果、和解條件第三項ニ對スル星亨君ノ修正說竝ニ契約ハ公正證書ヲ用フベシトノ一項ヲ加フベシトスル同君ノ說ハ、何レモ多數ヲ以テ可決トナリ、其他ハ原案通リニ決ス。

第六節　東京市明治三十三年度歲入出總豫算

▽普通會計ニ屬スル豫算

明治三十三年度歲入出總計豫算

歲入出	原案額	委員會修正額	市會決定額
歲入	一、八三六、四一六・八〇七円	一、八一三、九九〇・六四九円	委員會報告通
歲出 經常費	一、三三一、三七七・二一二	一、三〇八、九七九・〇五四	委員會報告通
歲出 臨時費	五〇五、〇三九・五九五	五〇五、〇一一・五九五	委員會報告通
歲出 合計	一、八三六、四一六・八〇七	一、八一三、九九〇・六四九	委員會報告通

本案ハ三月十四日ノ會議ニ提出、第一讀會ニ於テ、**後藤亮之助君**ノ動議ニ依リ、議長指名、九名ノ委員ニ付託スベシト提議スルヤ、**城數馬君**、本豫算案ニ對シ、前年度豫算トノ比較增減表ヲ添付セザル理由如何ト問ヒ。市長**松田秀雄君**、添付スル筈ナリシモ、訂正ヲ要スル箇所アリテ、印刷間ニ合ハザリシナリ。兩三日中ニ回付スベシト答ヘ。**小川義春君**、總豫算案ハ、愼重審議ノ要アルニ拘ラズ、年度ヲ餘スコト、僅々二週日ヲ出デザル今日ニ至リ、初メテ發案サレタルハ甚ダシキ遲延ト云ハザルベカラズ。市制第百七條ヲ見ルニ「市參事會ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得ベキ金額ヲ見積リ、年度前二箇月ヲ限リ歲入出豫算表ヲ調製スベシ」トアリ、本條ノ精神ハ、素ヨリ理事者ノ熟知セラルヽ所ナラン。然ルニ本案ノ如キ大增加ヲ來シタル豫算ナルニモ拘ラズ、年度切迫ノ今日ニ當リテ發案ストハ何事ゾヤ。吾々ハ斯ル短日月ノ間ニ於テ、到底充分ナル調査ヲ遂グルコト能ハズ。回顧スレバ、特別市制ノ時代ニ在リテスラ、未ダ嘗テ今日ノ如ク遲延シタル前例ナシ。賢明ナル市參事會員諸君ハ、爾今幸ニ注意セラレ、充分調査ノ餘裕ヲ與ヘラレンコト本年度豫算ハ、トヲ望ムト述ブルヤ、**松田市長**、議案ノ提出ハ、一日モ早カランコトヲ欲シタルモ、多額ノ增加ヲ來シタル結果、市參事會員ニ於テ、愼重審議、反覆調査ヲ試ミツヽアリシ爲メ、意外ニ多クノ日子ヲ費シ、斯クハ遲延スルノ餘儀ナキニ至レルナリ。請フ幸ニ之ヲ諒セヨト答ヘ、**峰尾勝春君**ハ、小川君ヨリ特別市制時代ニ於テスラ、今回ノ如ク議案ノ提出遲延シタルコトナシ、故ニ市參事會員ノ猛省ヲ促ストノ注意アリ。實ハ本員モ市參事會員ナレドモ、昨年ハ如何ナリシゾ、現ニ經常費ノ一部ヲ四五月ニ至リテ議決シタルニ非ラズヤ、冀クハ注意者

自身モ亦充分注意アランコトヲ望ムト論駁スルヤ、**小川君**、四五月ニ至リテ經常費ヲ議決シタリトハ、余ノ全ク記憶ニ存セザルトコロナリ、宜シク實例ヲ擧ゲテ說明アランコトヲ望ムト述ブ。此時**町田朝太郎君**、本案ニ就テハ、別段說明ナキヤト問ヒ、**松田市長**、昨年ハ細井君ヨリ請求アリシニ依リ說明シタルガ、今年モ亦請求アラバ陳述スベシト答フ。**浦田助役**、本案ハ委員付託トナルナラン、故ニ詳細ハ委員會ニ於テ陳述スベキモ、唯一言歲出第一款市役所費中俸給ノ項ニ於テ技師三名トアルヲ一名增加シ、四名トナサンコトヲ切望ス。又第六款土木費中道路費ニ於テ、掃除費ノ全部ハ削除ヲ要ス、右ハ汚物掃除規則議決ノ結果ニ依ル。〔此時說明ハ委員會ニ於テスベシト呼ブ者多ク、助役ハ演說ヲ中止セリ〕玆ニ於テ**中島議長**ハ、後藤君ノ委員說ニ對シ、異議ナキヲ以テ、別ニ表決ヲ要セズ、委員ヲ設置スルコトニ決スベシト述べ、左ノ如ク委員ヲ選定シタリ。

後藤亮之助　高橋庄之助　杉原榮三郎　伴親光　松崎權四郎
鈴木善四郎　藤田藤一郎　木村莊平　青木庄太郎

委員ハ**後藤亮之助君**ヲ委員長ニ推シ、種々調査ノ結果、歲出經常費中、第一款市役所費、第二款區役所費、第三款會議費、第六款土木費、第十款街燈費、竝ニ歲出臨時費第一款土木費等ニ修正ヲ加ヘ、更ニ歲入第十三款市稅中、家屋稅附加稅一個ニ付八錢五厘ヲ、八錢三厘ニ減ジタル結果、總額ニ於テ貳萬貳千餘圓ヲ減ジ、歲入出ヲ前表ノ如ク修正シタル旨、三月二十八日ノ會議ニ報告シタルニ、**渡瀨實次郎君**ハ、委員會ニ於テ修正シタル、區書記月俸平均額拾九圓ニ對シ、物價騰貴ノ折柄、更ニ壹圓ヲ追加シラ貳拾圓トナサントストノ修正說ヲ提出シ、城數馬君、野々山幸吉君等ノ贊成說アリタルモ、採決ノ結果、委員會修正通可決。次ニ**後藤委員長**ヨリ、市會書記ハ、素ヨリ市吏員ナリト考フレドモ、其身分取扱方ニ就テハ、何等ノ規定ナク、從テ俸給額ニモ一定ノ標準ナシ。斯クテハ將來退隱料等ヲ受クル場合ニ於テ、差支ヲ生ズルコトアルベシ。依テ議長ハ、市長ト打合ノ上、市役所事務員ト同一ニ取扱フコト、ナセリ。其結果、委員ハ第一項俸給中書記長ヲ削除シ、次ノ書記員數ヲ五名トシ、月俸平均額ヲ前年度通參拾圓トナシ、同時ニ雇員月俸ヲ拾五圓ト修正セリ。次ニ第二項雜給中、議員實費辨償額ヲ百圓減ジタルハ、附記ノ旅費ヲ削リ、而シテ別ニ目ヲ設ケテ現ハセシ爲ナリト報告スルヤ、**松田市長**ハ、唯今委員ノ報告ニ依レバ、新ニ旅費ノ一項目ヲ設ケタリトノコトナルモ、市會ニ於テ目ヲ新設スルコトハ、發案手續上及ビ將來ノ慣例ヨリ見ルモ如何アラント思惟ス。萬一書記ノ旅費支出上支障アラバ、隨時請求ニ應ジ、豫備費ヨリ支出スルモ可ナリ。依テ議員實費辨償額ハ、原案ノ儘議決アランコトヲ望ムト述べ、**後藤委員長**、書記ノ議員隨行ニ當リ、旅費ノ豫算ナキ爲メ、已ムナク書記之ヲ自辨シ又ハ議員各自出金シテ其旅費ヲ補フコトアルヲ以テ、特ニ修正ヲ加ヘタリ、他意アルニアラズト辯明シ。**黑田綱彥君**ハ、松田市長ノ所謂發案手續ノ問題ハ、換言スレバ、市參事會ノ發案權侵害ヲ恐ルヽモノヽ如キモ、余ハ全ク別個ノ理由ヲ以テ原案ヲ可トスルモノナリ。元來議員旅費ナルモノハ、市制第七十五條ノ實費辨償中ニ屬スルモノナルガ故ニ、委員會ニ於テ實費辨償金ト旅費トヲ各別トナセシハ、法律ノ精神ニ悖ルナラン、是レ原案ヲ可トスル所以ナリト主張シ、**小笠原壽長君**ハ、書記長ノ名目存置說ヲ述べ、**後藤委員長**及ビ委員**高橋庄之助君**ハ、書記長ヲ廢止スルノ意ニアラズシテ、書記五名中ニ包含スルモノナリト說明シタルニ、**今井喜八君**ハ、書記中ニ包含セシ書記長ニハ二級俸ヲ給スル由ナルモ、斯クテハ現在給料ヨリ減ズルコトヽナルベシ、如何ト問フ。**後藤委員長**、然リ、聊カ減俸トナルナリト答フレバ、**今井君**ハ、本年度ハ區長區書記其他ノ給料大概增額セルニ拘ラズ、市會書記長ニ限リ、減額スルハ不公平ナルヲ以テ、名目丈ヲ削除スルコトヽシ、金額ハ原案書記長ノ額ヲ其儘、書記月俸額ニ組込マレンコトヲ望ムト述ブルヤ、宮川鐵次郎君ノ贊成アリ、**中島議長**、採決ヲ宣シタルニ委員修正說ニ對スル贊成者少數ニテ消滅ニ歸シ

タリ。茲ニ於テ議長ハ、今井君ニ對シテ金額ヲ如何ニ修正セントスル見込ナルヤヲ問ヒタルニ、**今井君**ハ原案書記長俸給年額八百四拾圓ヲ、書記俸給年額千貳百圓ニ加ヘ、計貳千四拾圓トスルニ在リト答フ。**中島議長**ハ、今井君ノ意見ノ如クセバ、金額ニ不足ヲ生ズ、其邊ノ見解如何ト質シ、**今井君**ハ、數字ハ後刻算出スベシト述ベテ一旦休憩ス。再開後**今井君**ハ、休憩中委員諸君ヨリ親シク修正ノ内容ヲ聞糺シテ、諒解スル所アリ、依ツテ本修正意見ヲ撤回シ、第三讀會ニ至リ、委員ノ修正ニ復活スルノ動議ヲ提出スベシトテ之ヲ打切リタルガ、**高橋庄之助君**ハ、松田市長ハ、旅費ノ項ニ對スル委員ノ修正ヲ非ナリトシ、市會ニ法律上發案權ナキヲ以テ、新ニ旅費ノ目ヲ設クル如キハ、市參事會ノ權限ヲ侵害スルノ嫌ヒアリト云ハレシモ、吾々委員ハ、全ク原案ニアラザルモノヲ編入セシニアラズ、單ニ議員實費辨償額中ノ一種目ヲ割テ此ニ掲ゲ、而シテ此附記種目「議員竝書記」ノ五文字ヲ加ヘシ迄ニテ、金額ハ原案ノ儘ニ据置キタルモノナリ、若シ此修正ヲ以テ市參事會ノ權限ヲ侵スモノトセバ、三十一年度豫算審議ノ際、理事者ガ第七號議案ニ於テ三十一、二兩年度ノ繼續事業トシテ三原橋及ビ一ノ橋ヲ鐵橋ニ架換ヘントスルノ意見ニ反對シ、本會ハ之ヲ削除シテ第六號議案ノ通常橋梁費中ニ編入セシノミナラズ、全然設計ヲ變更シテ、土橋ト決議セシガ如キハ、正シク市參事會ノ權限ヲ侵セルモノト云ハザルヲ得ズ、然ルニ今日ノ市長ハ、當時議員トシテ列席セシモ、何等ノ發言ナカリシニ拘ラズ、今ヤ前日ノ態度ニ反シ、發案權ヲ云々セラルヽハ不思議ト謂フ可シ、吾々ノ意見ハ決シテ新タナルモノヲ挿入セシニアラズ、正ニ議案ノ修正ナレバ、法律上何等支障ナキヲ信ズ。仍テ滿場ノ同意ヲ請フト述ベ、**久我懋正君**ハ、議員ト書記トハ其性質ヲ異ニスルモノナルニ拘ラズ、同費目中ニ其旅費ヲ混記スルガ如キハ、事ノ亂雜ヲ惹起スルノ基ナルヲ以テ、本員ハ原案ニ贊成スト說キ、**黑田君**ハ市制第七十五條ニ「名譽職ハ法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外、職務取扱ノ爲ニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得」トアリ、故ニ實費辨償ナルモノハ、之ヲ受クルモ受ケザルモ議員ノ任意トス、然ルニ委員修正ノ如クナストキハ、旅費ニ限リ實費辨償ノ性質ヲ失ヒ、議員ハ必ズ旅費ヲ受ケザルベカラザルコトヽナリ、市制ノ精神ニ悖ルベシ。元來車馬賃ト云ヒ、旅費ト云ヒ、其名ハ異ナルモ、其實ハ同一ニシテ、唯出張地ノ管内外ニ由テ支給額ニ差違アルヨリ、便宜上其名稱ヲ區別スルノミ、等シク實費辨償金ニ相違ナキガ故、本員ハ原案ヲ以テ相當ナリト信ズルナリト述ベタルニ對シ、**松田市長**ハ、金額ノ上ニ左迄ノ關係モナキ事柄ニ對シ、度々起ツテ陳辯スルハ好マザルコトナルモ、尙ホ一言シテ原案ノ通過ヲ望マントス。總テ豫算ニハ款項目ノ別アリテ、甲ニ不足ヲ生ジ、乙ニ剩餘アルモ、一々市會ノ議決ヲ求ムルニアラザレバ流用スル能ハズ、其市參事會限リニテ流用シ得ルモノハ、僅カニ附記欄内ノ種目ニ過ギズ。斯クノ如ク、行政部ニ於テ最モ鄭重ニ取扱ヒ、叨リニ費目ヲ增加シテ支出上ノ便宜ヲ計ルガ如キハ、深ク愼ミ居ルニ拘ラズ、議政部自ラ原案外ノ費目ヲ新設セラルヽハ發案ノ順序ニ於テ如何アルベキカ。又高橋庄之助君ハ、三十一年度ノ橋梁費ニ對スル本會決議ノ例ヲ擧ゲテ論ゼラレシガ、從前ニ在テハ一二ノ變例ナキニアラザルベシ。去リナガラ市役所設置後、即チ三十二年度以來ハ費目新設ニ最モ注意シ、專ラ整理中ナルニ依リ、冀クハ原案ノ儘通過アランコトヲ望ムト述ベ、**中島議長**ハ、先ヅ議員實費辨償費ニ關スル委員修正說ニ就キ、採決シタルニ、少數ニテ消滅シ、其手當ニ關スル委員ノ修正說ハ多數ニテ通過シ、斯クテ第三讀會ニ入リ、歲入出全部ヲ議題ニ供シタルニ、**高橋君**ヨリ第三款第一項中市會書記俸給ノ件ハ、第二讀會ニ於テ、委員ノ修正ハ消滅ニ歸セシガ、今更メテ委員ヨリ報告アリシ如ク、修正スルノ說ヲ提出ス。而シテ其理由ハ、第二讀會ニ於テ述ベタルガ故ニ、茲ニハ之ヲ省略スト述ブルヤ、後藤亮之助、今井兼輔、杉原榮三郎、長谷川深造、今井喜八ノ五君之ニ贊成シ、中島議長採決ノ結果、多數ニテ通過シ、茲ニ第六號議案全部ヲ議了シテ散會セリ。

▽特別會計ニ屬スル豫算

水道歳入出豫算

歳入	二八、〇五七・五五五円
歳出	二四、九八二・五〇六
歳入出差引殘金	三、〇七五・〇四九

但水道準備金ニ編入スルモノトス。

三月十四日ノ會議ニ於テ、今井喜八君ノ動議ニ依リ、議長指名五名ノ委員ニ調査ヲ付託スルニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

西澤善七　名子新七　宮島新七　鹽島仁吉　多羅尾光應

委員ハ西澤善七君ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、原案通リ可決シタル旨、三月二十九日ノ會議ニ報告アリ、市會ハ、滿場異議ナク、委員會ノ報告通リ可決セリ。

公園歳入出豫算

	原案額	委員會修正額	市會決定額
歳入	八五、二六〇・六三三円	四三、五六一・七四六円	五六、五四六・五四六円
歳出	五八、〇五四・一四一	四一、六九八・八八七	二八、七一四・〇八七
歳入出差引殘金	二七、二〇六・四九二		

三月十四日ノ會議ニ於テ村上耕一郎君ノ動議ニ依リ議長指名五名ノ委員ニ調査ヲ付託スルコトヽシ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

今井喜八　中澤彦吉　町田朝太郎　渡瀨寅次郎　田中新兵衛

委員ハ今井喜八君ヲ委員長ニ推シ、審査ノ結果、前表ノ如ク修正スルニ決シ、其旨三月二十九日ノ會議ニ報告シタルガ、其際今井委員長ハ左ノ如ク說明セリ。

樹木培養費ノ附記ニ於テ、樹木植繼ヲ百五拾本此金額百五拾圓ニ增加セシハ、家屋取拂ヒノ場所アルヲ以テ、原案見積數ニテハ過少ナリト認メタルニ由ル、又道路橋梁費ノ附記ニ於テ、敷石修繕ヲ一坪當リ貳拾壹圓此金額四百貳拾圓ニ減ジタルハ原案ノ見積ヲ以テ適當ト認メタルガ故ナリ、次ニ雜費中瓦斯街燈ヲ十基增加セシハ、家屋取拂ノ場所アルニ由ル、又家屋移轉料及ビ樹木石類其他同上ノ二廉ニ減額ヲ加ヘシハ、原案者ノ見込ミタル水族館前通リノ家屋ヲ取拂ヒテ之ヲ廣場トナシ、又二天門外竝區役所前ノ家屋ヲ取拂ヒ、此所ニ車馬置場ヲ新設スルニ在ルモ、本員ハ意見ヲ異ニシ、水族館前通リノ建物ヲ强テ取拂ハズ、改築ヲ命ジナバ可ナリ、又二天門外モ敢テ取拂フノ必要ナシト信ジ、委員會ニ於テ、此事ヲ主張セシガ、遂ニ成立セズ、右二箇所共、其多數ヲ以テ原案通リ取拂フコトニ決定セリ、然レドモ區役所前ノ分ニ至ツテハ、幸ヒ空地モアルガ故ニ、原案ノ如ク廣ク取拂ハザルモ支障ナシト認メ、公園事務所寄リノ家屋移轉ヲ見合セタルガ爲メナリ、次ニ塵芥取捨費ヲ削除セシハ、汚物掃除規則設定ノ結果ナルヲ以テ、此點承知アリタシ。

玆ニ於テ、青木庄太郎君ハ敷石ニ就テ、長谷川深造君及ビ丸山名政君ハ、空地借用地問題ニ就テ、何レモ今井委員長トノ間ニ質疑應答アリ、町田朝太郎君ハ、委員ノ一人トシテ、委員長ノ報告ヲ補足スベシトテ、理事者ハ、淺草區役所前ニ車置場新設ノ必要ヲ感ジ、其敷地ニ充テンガ爲メ、空地ノ返還ヲ命ジ、尙ホ家屋ヲ取拂ハシメントスルノ計畫

ヲ樹テ、玆ニ其經費ヲ求メラレタリ、委員ハ大體同意ヲ表セリト雖モ、其家屋取拂ハ原案ノ如ク廣キヲ要セズト認メタリ、何トナレバ現ニ二天門脇ニモ車置場ヲ新設スルコトヽナリツヽアルノミナラズ、他日第六區内ニモ亦是非トモ一箇所設ケザルヲ得ズ、左スレバ區役所前ノ分ハ左迄廣キヲ要セザルヲ以テナリ、是レ委員ガ修正ヲ加ヘタル理由ノ梗概ナリトスト述ベ、**長谷川君**ハ、空地ノ返還ヲ命ジ、而シテ其返還セシメタル場所ヘ、一方ノ建物ヲ移轉セシムル見込ミニアラザルナキカト問ヒ、**朝倉助役**ハ、空地ハ車置場ニ使用スル見込ミニシテ、家屋ヲ移轉スル意ニハアラザルナリト答ヘ、更ニ**高山權次郎君**ハ、車置場トシテハ、原案設計ニテモ尚且ツ狹隘ヲ感ズ、然ルニ委員意見ノ如ク減縮スルトキハ如何トモスル能ハザルニ至ルベシ、因テ原案ニ贊成スト述ベ、**青木君**ハ、現在ノ代書屋ト五色ト稱スル料理店ヲ其裏手ニ移轉セシメ、其跡地ヲ車置場トナスベシト述ベタルモ、贊成者ナク、結局第一目乃至第十目ハ調査委員意見通リ決定。第十一目雜費中、家屋移轉料及樹木石類移轉料ニ對スル委員ノ修正ハ起立少數ニテ成立セズ、原案ニ決定。其他ノ瓦斯街燈及塵芥取捨費ハ委員意見通リニ決定シタリ。又第二項芝公園費ニ於テハ、委員ガ溝渠費ヲ貳千九拾五圓拾錢四厘ニ增加シタルハ、下水新設線ヲ延長スルノ必要ヲ認メ、石造下水ヲ陶管半圓下水ニ變更シ、御成門ハ修繕ノ序ヲ以テ銀杏坂下靈廟脇ニ移轉保存スルモノトシ、種目ヲ「御成門及土塀移轉修繕」ト修正シテ、金額ヲ九百五圓ニ、又人止柵小破修繕費ハ百圓ニ增加セシモ、人止鐵鎖ハ、風致上之ヲ削除シ、又瓦斯街燈二十基ヲ增加シテ九十二基トナシ、金額ヲ修正セル旨報告シテ、異議ナク可決。第四項深川公園費ニ於テハ、委員ハ池緣ニ危險ヲ防グ爲メ鐵鎖新設ノ必要トシテ、四百參拾參圓四拾四錢ノ計上ヲ認メ、又雜費ヲ千六百七拾八圓ニ減ジタルモ、右ハ原案者ガ八幡ノ西側ト南側トノ一部ヲ取拂フ豫定ナリシガ如キモ、委員ハ本年度ニ於テ、西側ノ取拂ヒヲ見合セ、南側ハ原案ヨリモ取拂區域ヲ增加スルコトヽ爲シ、差引此減少ヲ見ルニ至リタルモノナリト報告シ、**長谷川君**ハ、人止鐵鎖新設ニ關シ、不動堂ノ僧侶ヨリ何カ依賴ヲ受ケシモノナラント反對セシモ、**青木君**ノ委員說贊成論アリテ、結局委員報告通リ決定。第十三項市經濟編入金ニ於テ、**今井委員長**ヨリ、委員ハ本項金額ヲ前年度通リ貳千圓ニ減ズル意見ナリシモ、昨日(三月二十八日)第六號議案(東京市明治三十三年度歲入出豫算)ニ於テ、此受入ヲ壹萬參千九百七拾五圓ニ決定シタルニ依リ、最早原案金額ニ據置クノ外ナシト雖モ、明年度ヨリハ之ヲ例トセザル樣望ミ置ク旨ヲ一言シ、**町田君**ハ、決定ノ上ハ敢テ固執スルコトヲ爲サヾルベシ、去リナガラ特別會計ヨリ斯ル巨額ノ補助費ヲ支出スルハ如何アルベキ、本員ハ之ヲ以テ特別經濟ノ基礎ヲ亂スモノト信ズ、浦田助役ハ、過日ノ委員會席上、本年度ハ市費大ニ嵩ミ、已ムヲ得ズ公園費ヨリ多額ノ補助ヲ爲スコトヽセシモ、之ヲ將來ノ例ト爲スガ如キコトナシト言明シタリ、本員ハ是非該答辯ノ事實ニ現ハレンコトヲ注意シ置クベシト述ベテ、第三讀會ニ入リ、**青木君**ヨリ、淺草公園内ニ新設ノ車置場ハ、二箇所共原案通リ決定セシガ、其内區役所前ノ分ハ、二讀會ニ於テ本員ガ縷々陳述セシガ如キ實況ナルノミナラズ、公園事務所ノ構内ヲ貸與スルコトヽセバ、五色ナル料理店ノ方ハ移轉料ヲ要セザルコトヽナルニ依リ、此場合ニ就テハ是非第二讀會ニ於ケル自說ノ成立センコトヲ望ムト述ベタルニ對シ、成規ノ贊成者アリテ問題トナリタルモ、採決ノ結果、少數ニテ消滅シ、委員長報告通リ可決シタリ。

墓地歲入出豫算

歲入出	原案額	委員會修正額	市會決定額
歲入	一二、二六四・九二八円	一二、三〇〇・一七八円	委員會報告通
歲出	一〇、一二五・九七〇	原案通	委員會報告通
歲入出差引殘金	二、一三八・九五八	二、一七四・二〇八	委員會報告通

但殘金ハ墓地準備金ニ編入スルモノトス。

三月五日ノ會議ニ於テ**村上耕一郎君**ノ動議ニ依リ、議長指名五名ノ委員ニ調査ヲ付託スルコトヽシ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

礦部武者五郎　名子新七　田中新兵衛　河原伊平　村上耕一郎

委員ハ**礦部武者五郎君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ結果、前項ノ如ク決定シタル旨、三月十四日ノ會議ニ報告シ、滿場異議ナク委員會ノ報告通リ可決シタリ。

養育院歳入出豫算

歳入		三五、七四四・二六八円
歳出		三四、七〇七・三〇一
歳入出差引殘金		一、〇三六・九六七
内		
基本財産ニ編入		九二一・五一二円
感化部基本財産ニ編入		一一五・四五五

三月五日ノ會議ニ於テ滿場異議ナク、原案通リ可決セリ。

基本財産河岸地歳入出豫算

歳入	一九六、四〇六・〇二六円
歳出	三〇、一五四・二七五
歳入出差引殘金	一六六、二五一・七五一

殘金ハ市區改正費ヘ編入。

三月五日ノ會議ニ於テ、滿場異議ナク原案通可決セリ。

市區改正歳入出豫算

歳入	四九六、五八二・六〇二円
歳出	四九六、五八二・六〇二

三月五日ノ會議ニ於テ**今井喜八君**ノ動議ニ依リ、議長指名五名ノ委員ニ調査ヲ付託スルコトヽシ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

今井喜八　宮川鐵次郎　高橋庄之助　青木庄太郎　野々山幸吉

委員ハ**今井喜八君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ結果、三月二十九日ノ會議ニ於テ、**今井委員長**ヨリ左ノ如ク委員會ノ經過ヲ報告セリ。

本案中最モ議論ノ多カリシハ、三番町道路取擴費ナリキ、其要旨ハ、貴族院ニ於テ、東京市區改正條例中改正法律案ヲ否決シタルハ、同院議員ガ、左迄市區改正ノ必要ヲ感ゼザルニ因ルモノナラン、殊ニ貴族院議員ハ多ク山手ニ居住シ、而シテ市區改正事業ハ、比較的下町ヨリモ山ノ手ノ方進捗シ、差當リ急施ヲ要スベキ場所ナシ、殊ニ三番町道路ノ如キハ、之ヲ他年ニ讓ルモ更ニ差支ナキヲ以テ、旁々削除スベシト云フニ在リキ。去リ乍ラ現狀視察ノ結果、直路線改正ノ必要ヲ認メタルガ故ニ、將來ハ下町ノ改正今少シク行屆ク迄、山ノ手ノ着手ヲ見合ハス精神ヲ以テ原案ニ可決シタリ。次ニ富島町下水新設費中、歩車道境界下水ハ、從來ノ分ヨリ大ニ改良シタル設計ノ由ナレドモ、該下水續キハ既ニ從來ノ仕樣ニテ出來濟ナルノミナラズ、保存上ニ於テハ左迄著シキ差支ナキ趣ニ付、旁以テ從來ノ仕樣、即チ次ノ下谷坂本町等ノ分ト同樣ト爲スモノトシテ、壹間當リヲ拾壹圓九拾錢トナシ、其金額ヲ七百七拾參圓五拾錢ニ減ジタリ、又深川東森下町下水新設費中、地先石造ノ壹間當リヲ五圓五拾錢、

汚水桝ヲ貳拾五圓ニ減ジタルハ、何レモ見積額ヲ過當ト認メタルガ爲ナリ、更ニ豫備費ヲ壹萬參千百壹圓九錢壹厘ト修正シタルハ溝渠費ニ於テ減ジタル金參百四拾圓六拾六錢ヲ加ヘタルナリ。但シ此等修正ノ結果ハ總額ニ變更ヲ及ボサズ。

此時**稻田政吉君**ハ、市區改正ニ關シ考フル所アルヲ以テ一言スベシトテ、左ノ如ク述ベタリ。

貴族院ハ先般東京市區改正條例改正法律案ヲ否決シタリ、而モ其理由ハ現行條例ニ「參拾萬圓ヨリ少カラズ五拾萬圓ヨリ多カラザルモノトス」トアルヲ「百萬圓ヨリ少カラザルモノトス」ト改正シ、最高額ニ制限ヲ置カザルトキハ、濫リニ徵收スルノ憂ヒナキ能ハズト云フニ在リ、去リナガラ東京市會ト云ヒ、市參事會ト云ヒ、決シテ貴族院ノ憂フルガ如キ愚ヲ學ブモノニアラズ、況ヤ市區改正ニ關スル收支豫算ハ、內務大藏兩大臣ノ認可ヲ受ケザルベカラザルニ於テオヤ、左レバ市ノ當局者ガ、如何ニ亂暴ノ課稅ヲ爲サント欲スルモ、主務省ニ於テ認可セズンバ、如何トモスル能ハザルナリ、論ジテ玆ニ至レバ、貴族院ノ議決タル、實ニ市區改正ノ何タルヲ辨ヘザルノミナラズ、同事業上ニ一大妨害ヲ與ヘタルモノニシテ、洵ニ遺憾ノ極ト謂フ可シ、顧ミレバ物價ハ年々暴騰ノ傾向アルニ依リ、現行條例ノ儘ニテハ、到底充分ノ改正ヲ施行スル能ハズ、況ヤ最高五拾萬圓ノ收入アルモ、水道公債償還基金其他ノ雜支出ニ多額ヲ要シ、實際事業費ニ充ツルモノハ、僅々拾五六萬圓ニ過ギザルニ於テヲヤ、因テ次期帝國議會ニハ、是非トモ條例改正案ノ通過スル樣、本會諸君モ充分盡瘁セラレタシ。

次ニ**宮川鐵次郎君**ハ、今井委員長ノ報告中、山ノ手ノ市區改正ハ、當分之ヲ見合ハスベシト云ヘル一事ハ、或委員一箇ノ議論ニ過ギズシテ、委員會ノ決議ニ非ラザルベシト述べ、**小笠原壽長君**ハ、貴族院ニ於テ、東京市區改正法律案ヲ否決シタルハ、洵ニ遺憾ナリト考フルモ、之レガ爲メ山ノ手ノ市區改正ヲ後廻シト爲スベシト云フ委員長ノ報告ハ無法ト云ハザルヲ得ズトテ取消ヲ望ミタルガ、**中島議長**ハ、右ハ一ノ希望ニ過ギズト認メ居ル旨ヲ告ゲ、委員ノ意見通リ歲入出全部ヲ決定セリ。

養育院感化部創立費歲入出豫算

歲入	五、六二九・九五〇円
歲出	八八七・〇〇〇
歲入出差引殘金	四、七四二・九五〇

殘金ハ感化部創立費翌年度ニ繰越シ。

三月五日ノ會議ニ於テ、滿場異議ナク原案通可決セリ。

改良水道歲入出豫算

歲入出	原案額	委員會修正額	市會決定額
歲入	一七一、六二二・三八〇円	一五六、六二二・三八〇円	委員會報告通
歲出經常費	一七一、六二二・三八〇	一五六、六二二・三八〇	委員會報告通

公債償還金歲入出豫算

歲入出	原案額	委員會修正額	市會決定額
歲入	二、四七八、五一〇・六八七円	二、四七八、五一〇・六八七円	委員會報告通
歲出經常費	八五四、六三七・三八〇	八三九、六三七・三八〇	委員會報告通
歲入出差引殘金	一、六三八、八七三・三〇七	一、六三八、八七三・三〇七	委員會報告通

三月十四日ノ會議ニ於テ改良水道豫算及ビ公債償還豫算ノ調査ヲ議長指名五名ノ同一委員ニ付託スルコトヽシ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

黒田綱彦　小川義春　吉田幸作　中鉢美明　宮川鐵次郎

委員ハ**黒田綱彦君**ヲ委員長ニ推シ審査ノ結果、前表ノ如ク修正スルニ決シ、其旨三月二十九日ノ會議ニ報告シテ可決確定セリ。

第七節　汚物掃除問題

▽**汚物掃除請負人及取扱場購買ノ件**　汚物掃除法ハ帝國議會ヲ通過シ、之レガ實施ノ近キニアルヲ以テ、準備ノ爲メ第十九號案ヲ以テ汚物掃除ニ關スル俸給其他ヲ合セ、八萬四千六百六十六圓ヲ支出スル三十三年度追加豫算竝ニ第二十號案ヲ以テ、汚物掃除規則第二十一號案ヲ以テ、汚物掃除請負人指名入札ノ件、第二十二號案ヲ以テ汚物取扱場購買ノ件等ヲ、三月五日ノ會議ニ提出セリ。第二十號案ノ汚物掃除規則外二案ハ、五名ノ同一委員ニ調査ヲ付託セラレ、第十九號案ノ汚物掃除費ノ追加豫算ハ、**長谷川泰君**ヨリ、第二十號案ノ汚物掃除規則ト關聯スレバ、同一委員ニ付託ノ發議アリ、**須藤時一郎君**ハ、三十三年度總豫算ノ未ダ提出セラレザルニ、早クモ追加豫算ヲ提出シタルハ、杜撰モ亦甚ダシトテ撤回ヲ求メタルニ、議長**中島又五郎君**ハ、暴ニ三十三年度總豫算ノ提出アリタルモ、當局者ハ調査ノ都合アリトシテ、一ト先ヅ撤回セラレタル旨ヲ告ゲ、市長**松田秀雄君**ハ、過日帝國議會ニ於テ議定セル汚物掃除法ハ、近日發布セラルベク、其實施期ハ四月一日ノ由ナレバ、今ヨリ之ガ準備ヲ爲サヾルベカラズ、故ニ本案ハ到底撤回スル能ハザルナリト辯明シ、**須藤時一郎君**ハ、理事者ガ撤回スル能ハズト云フヲ聞テ益々奇怪ニ堪ヘズ、何トナレバ、汚物掃除法未ダ發布ヲ見ルニ至ラズ、從テ吾々ハ如何ナル程度迄、ソノ義務ヲ負ハザルベカラザルカヲモ知ラザル今日ニ於テ、早計ニモ其經費ヲ議スルガ如キ不法背理ノ議會、天下何處ニカアル、思ハザルモ亦甚シキニアラズヤ、本員ハ徒ニ番外ヲ攻擊スルモノニアラズ、要ハ唯總豫算案ト共ニ提出セラレナバ可ナリト云フニアルノミト陳ベ、**松田市長**、汚物ノ掃除ハ、法律ノ發布如何ニ係ハラズ、四月一日ヨリ實施セント欲ス、諸君ノ知レル如ク、彼ノ猛烈ナル「ペスト」ハ、既ニ內地ニ侵襲シ來リ、今ヤ吾人ヲ恐怖セシメツヽアリ、況ンヤ盛夏ノ候ニ至テハ、每年虎烈刺、赤痢等ノ患者ヲ生ゼザルハナキニ於テオヤ、之ガ豫防策トシテハ、第一ニ汚物ノ掃除ヲ要ス、殊ニ其筋ヨリ傳聞スル所ニ依レバ、汚物掃除法モ近日發布セラルベシト云フ、是レ本案ノ即決ヲ望ミ、急速準備ニ着手セント欲スル所以ナリト辯明ス、**城數馬君**モ亦、本豫算ナクシテ追加豫算ヲ議セントスルハ、所謂倒行逆施ニシテ、秩序ノ紊亂是ヨリ甚シキハナカルベシトテ廢案ヲ主張シ、**今井喜八君**ノ委員付託意見、**丸山名政君**ノ廢案說贊成、**後藤亮之助君**ノ延期說、**黒田綱彦君**ノ今日審議スルハ尙早ナリトノ意見等續出シタル結果、採決シタルニ、多數ヲ以テ委員付託說ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

長谷川泰　利光鶴松　多羅尾光應　青木庄太郎　石川義正

▽**汚物掃除規則改正ノ件**　委員ハ**長谷川泰君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、第二十號汚物掃除規則第一條ニ修正ヲ加ヘタル意見報告書ヲ三月十四日ノ會議ニ提出セリ、即チ左ノ如シ。

汚物掃除規則

第一章　掃除方法

第一條　汚物ハ左ノ區別ニ依リ市費ヲ以テ之ヲ掃除ス

一　各戸汚物場　毎六日以内一回

(修正追加)但土地ノ狀況其他ノ原由ニ依リ必要ナル場合ニ於テハ毎月若クハ隔日一回トス

二　廣場、車道、橋梁、共同物揚場、地先下水等ニ於ケル汚物　毎二日以内一回

(修正追加)三　魚鳥及青物市場　毎日一回

第二條　汚物ハ第二章ノ規定ニ從ヒ請負人ヲシテ掃除セシムルモノトス

第三條　此規則ニ於テ汚物ト稱スルハ塵芥、塵芥ニ混同スル淤泥、魚鳥獸ノ骨腸野菜ノ斷片瓦礫竹木其他一切ノ不潔物ヲ云フ

第四條　汚物掃除ハ主務吏員ヲ派出シ之レヲ監視スヘシ

第五條　第一條ノ期日ヲ過クルモ汚物ヲ掃除セサルトキハ主務吏員又ハ市役所若クハ所轄區役所ヘ申出ツヘシ

第二章　掃除請負方法

第六條　汚物掃除請負人ハ第一章ノ規定ニ遵ヒ塵芥其他一切ノ汚物ヲ掃除シ尙汚物場ノ附近ハ清潔ニ掃除スヘシ

第七條　汚物堆積不潔ヲ極メ又ハ掃除不充分ナルトキハ定規ノ外臨時掃除ヲ命スヘシ

請負人ニ於テ前項ノ掃除ヲ怠ルトキハ他人ニ命シ之ヲ掃除セシメ其費用ヲ辨償セシムヘシ

第八條　汚物運搬ニ要スル器具ハ總テ請負人ノ自辨タルヘシ

第九條　請負人ハ市役所ノ指揮ニ依リ一定ノ服裝ヲ爲シタル掃除人夫ヲ使用スヘシ

第十條　請負人ハ請負ヲ命セラレタル日ヨリ十日以内ニ汚物掃除ニ要スル人夫竝船車ノ員數船ノ定繫所等ヲ定メ市役所ノ認可ヲ受クヘシ其變更ヲ要スルトキ亦同シ

第十一條　汚物取扱所ハ煉瓦又ハ石造若クハ木造トシ汚臭等ノ漏溢セサル樣建築シ市役所ノ檢査ヲ受クヘシ

第十二條　汚物取扱場ハ東京市内又ハ接續郡村ニ於テ三十ケ所ヲ建設スルモノトス

但事情ニ依リ市役所ノ許可ヲ得テ特ニ增設スルコトヲ得ヘシ

第十三條　汚物運搬車ハ臭氣汚汁ノ漏溢セサル爲メ覆蓋アル箱ヲ附着スヘシ

第十四條　汚物ヲ汚物取扱場外ニ於テ撰分シ又ハ河中等ニ投棄ス可カラス

第十五條　汚物取扱場ニ汚物堆積シ公害アリト認ムルトキハ臨時處置セシムルコトアルヘシ

第十六條　請負人及掃除人夫ハ名義ノ如何ニ係ハラス各戸ノ汚物ヲ掃除スルカ爲メ各戸ヨリ金品ヲ受クヘカラス

第十七條　暴風雨其他天災ノ爲メ規定ノ掃除ヲ爲シ難キトキハ其事由ヲ具シ主務吏員ノ許可ヲ受ク可シ

前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ其事故ノ止ミタル翌日相當ノ人夫ヲ出シ之レカ掃除ヲ爲スヘシ

第十八條　請負人ハ毎日所轄區役所ヘ出頭シ主務吏員ノ指揮ヲ受クヘシ

第十九條　汚物掃除費ハ一ケ年ヲ四期ニ分チ三ケ月毎ニ之レヲ下附ス

請負金額ハ汚物場ノ增減アルモ之レヲ變更セス

但情況ニ依リ三ケ月以内ト雖モ之ヲ下附スルコトアルヘシ

第二十條　請負人ハ身許保證金トシテ請負金額ノ十分ノ一ヲ納付スヘシ

第二十一條　請負人此規則ニ違背シタルトキハ期限内ト雖トモ其請負ヲ取消シ且ツ身許保證金ノ全部又ハ幾部ヲ沒收スヘシ

但情狀ニ依リ單ニ身許保證金ノ幾部ヲ沒收スルコトアルヘシ

第二十二條　請負人請負ヲ命セラレタルトキハ直ニ左ノ樣式ニ依リ請負證ニ身許保證金ヲ添ヘ差出ス可シ

第二十三條　請負年限ハ會計年度ニ依リ滿一ヶ年間之レヲ命ス

但掃除ノ成績良好ナルトキハ期限滿了後更ニ之レヲ繼續セシムルコトアルヘシ

第二十四條　本則ニ依リ命令スル建築物其他ノ事項ニシテ警察上ノ取締規定アルモノハ各其所轄警察官署ノ認可ヲ要スルモノトス

附　則

第二十五條　本規則ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス（請負證樣式略ス）

本案ニ關シ、委員長**長谷川泰君**ハ左ノ如ク說明セリ。

本案審議ニ先チ、參考ノ爲メ橫濱市ニ出張シ、尋デ神田、本所、深川、日本橋、京橋等ノ各區ヲ巡廻シ、親シク實況ヲ視察シタル末、第一條第一號ニ「但土地ノ狀況其他ノ原因ニ依リ必要ナル場合ニ於テハ每日若クハ隔日一回トス」ノ但書ヲ加ヘ、又同條第二號ノ次ヘ「三、魚鳥及青物市場、每日一回」ノ一行ヲ加ヘタリ、其理由ヲ簡單ニ陳述センニ、浦田助役、槇田衞生課長ハ、委員會ニ於テ、假令本事業ヲ請負ニ付シ、嚴ニ之ヲ督勵スト雖、各戸ノ掃除ハ、實際六日ニ一回ヨリ多クハ、爲スコト能ハザルナラント說明セラレタリ、然レドモ委員ノ見ル所ヲ以テスレバ、第十九號議案ニ示スガ如ク、請負金額ハ七萬六千九百貳拾六圓ノ巨額ナルヲ以テ、人家稀薄ナル場末ノ地ハ兎ニ角、其稠密ナル場所ニ對シテハ、必ラズ每日若クハ隔日一回掃除セシメザルベカラズ、彼ノ橫濱市ヲ見ヨ、其掃除費一戸平均二十二錢九厘ナルニ拘ラズ、現ニ每日掃除シ居ルニアラズヤ、然ラバ即チ本市ノ豫算タル一戸平均二十九錢餘ニ當ルヲ以テ、人家稠密ノ場所其他市場等ニ對シ、每日若クハ隔日之ガ掃除ヲナサシムルハ、決シテ難事ニアラズ、現ニ委員ガ實見シタル神田、日本橋、京橋區ニ於ケル四箇所ノ魚鳥及ビ青物市場ハ、必ズ一日一回宛掃除シツヽアリ、而シテ其費用ハ平均一日二十八錢餘ナリト云フ、委員ノ修正ハ單ニ空想ヨリ出デシニアラズシテ、悉ク現場取調ノ結果、實際ニ準據セルモノナリ。

右ノ說明ニ對シ**宮川鐵次郎君**ハ、委員ハ第二條以下總テ原案ヲ可決セリト雖モ、汚物掃除法施行規則第五條ニハ「……塵芥ハ可成之ヲ燒却スヘシ」トアルニ拘ラズ、本案ニハ右ニ關スル規定ナキガ如シ、萬一惡疫流行ノ場合ハ、汚物ノ處置ヲ如何ニスル考ナリヤト問ヒ、**長谷川君**ヨリ、必要ノ場合ニ際會セバ、勿論燒却セシムル考ナリト答辯セシカバ**宮川君**ハ、本案掃除規則ニ燒却ノ明文ナキガ故ニ、恐ラクハ命令スルコト能ハザルベシ、故ニ第二讀會ニ入リテ修正說ヲ提出セント述ブルヤ、**峰尾勝春君**ハ、汚物燒却ニ就テハ、先ヅ其場所ヲ設ケザルベカラズ、而モ之ガ設置ニ就テハ、其構造不完全ナルモノニテモ尙器具費等ヲ合セテ一箇所一萬二三千圓ヲ要シ、更ニ完全ナル獨逸式器具ヲ設備シ、構造ヲ堅牢ナラシムレバ、少ナクモ八萬三四千圓ヲ要スベク、其他ノ雜費ヲ合算セバ、恐ラクハ十萬圓ヲ超過スベシ、是レ豈容易ノ業ナランヤ、故ニ實施期日前ニ迫レル今日、兎ニ角原案ニ據置キ、他日必要ノ場合ニ遭遇セバ其際燒却方法ヲ講ズルモ敢テ晩キニアラザルベシト說キ、**今井喜八君**ハ、第十九號議案ノ汚物掃除費ハ戸數ニ據リテ打算セルヤ、又山ノ手ト下町トハ掃除回數ニ差違アルベシ、如何ト質問シ、**浦田助役**ハ、汚物掃除ニ使用スル人夫ハ、一日總計五百四十六人半ニシテ、一日一人ノ受持戸數、山ノ手ニ於テ凡ソ百戸、下町ニ於テ約百五十戸ナリ、而シテ其賃錢ハ一人一日四十錢トシテ之ヲ算出セリ、掃除回數ノ六日トハ、最長期ヲ示シタルモノニシテ、魚市場ノ如キ特別ナル場所ニ對シテハ、每日若クハ兩三日每ニ一回、必ズ之ガ掃除ヲナサシムル考ナリト答ヘシニゾ、**今井君**ヨリ、

塵芥ハ悉ク燒捨テザルモ、中ニハ肥料ニ供シテ差支ナキモノモアル由ナレバ、「毎六日以内」トアルヲ「毎四日以内」ト修正スベシトノ意見ヲ提出シ、**浦田助役**ハ、參考迄ニ申述ベン、最初巡視員ハ、一區三人總計四十五人ノ見込ナリシガ、其後汚物掃除法、同施行規則並掃除監視吏員ノ組織權限ニ關スル規則等發布セラレタル結果、掃除監督長、掃除監督、掃除巡視等ヲ設置セザルベカラズ。而シテ其定員ハ、警視總監ト東京府知事トニ於テ定メラルヽコトヽナレリ。聞ク所ニ依レバ、府知事ノ腹案ニカヽル巡視員ハ、頗ル多人數ナル由、然ラバ自然掃除モ行屆クベキヲ以テ、故ラニ「毎四日以内」トセザルモ可ナランカ、兎ニ角經費上ニモ少ナカラザル關係ヲ有スルヲ以テ、差支ナキ限リハ原案ニ据置カレタシト希望シタリ。

此時**杉原榮三郎君**ヨリ、讀會ヲ省略シ、簡易法ニ依リ採決アリタシト發議シテ贊成者アリ、**高橋庄之助君**ハ、屎尿ハ本案ヨリ之ヲ除外セリトノコトナルガ其處分如何ト質問シ、**浦田助役**ハ、屎尿處分ハ施行規則第二十二條ニアリト答ヘ、**今井君**ハ、本員ノ修正說ニ對シテ、理事者ノ辯明アルモ、原案ノ如ク「六日以内一回」トスルトキハ、狡猾ナル請負人ハ、必ズ六日目ニ一回形式上ノ掃除ヲ爲スニ止マリ、市内ノ清潔ハ得テ望ムベカラズ、是レ即チ「四日以内一回」ト修正ヲ加ヘントスル所以ナリト力說シ、後藤亮之助君ノ贊助アリ。**長谷川君**ハ、委員ガ第一條第一項ニ但書ヲ加ヘシハ、則チ今井君ト同一ノ精神ヨリ出デタルモノニシテ、人家稠密ノ場所及ビ裏家等ハ、毎日若クハ隔日ニ掃除セシムルノ意ニ外ナラズ、理事者ガ莫大ノ經費ヲ支出シナガラ、六日ニ一回ノ外掃除シ得ズト爲スハ不親切極マレリト謂フベシト叫ベバ、**星亨君**ハ、果シテ然ルヤ否ヤヲ問ヒ、**浦田助役**ノ辯明アリ。茲ニ於テ**星君**ハ、更ニ「六日以内ニ一回」ノ文字中ニハ、毎日一回ノ意モ包含シ居ルモノナルヤヲ質問シ、**浦田助役**ハ、然リト答ヘテ後、右ハ必ズシモ全市ヲ通ジテ毎日一回トノ意ニ非ズ、場所ニ依リテハ五六日ニ一回、又ハ三四日ニ一回ノ所モ之レアルナラン、要スルニ限度ヲ六日トシテ、其範圍ニ於テ土地ノ狀況ヲ參酌シ、毎日掃除セシムル考ナリ、若シ夫レ、全市ヲ通ジテ、毎日悉ク掃除ヲナサシメンカ、第十九號議案ノ衞生費ハ、之ヲ六倍セザル可カラザルニ至ルベシト說明シ、**高山權次郎君**ハ、現在ノ請負ハ三日毎ニ一回ノ約束ナリ、然ルニ本案ノ如ク、五六日毎ニ一回トスルニ於テハ、却テ不潔ヲ來スノ基ナルヲ以テ、今井喜八君ノ所謂毎四日ニ一回トナスノ說ニ贊成スト述ベ、**星君**ハ、理事者ノ云フガ如ク、「毎六日以内一回」トハ、六日目毎ニ一回ノ意ニアラザルハ明白ナリ、故ニ今井君ガ此「以内」ナル文字ヲ玩味セラレナバ、自ラ修正ノ無用ナルコトヲ知ルニ至ルベシ、何トナレバ六日以内ト特定スレバ、理事者ニ於テ、實地調査ノ上、場所ヲ指定シテ、毎日掃除セシムルコトモ可能ナルベク、二日三日四日五日モ亦皆此文字中ニ包含シ、施行上ノ便宜少ナカラザレバナリ、若シ假リニ「毎四日以内一回」ト修正センカ、實際六日毎ニ一回施行セバ足ルベキ場所モ、是非四日ニ一回掃除セザル可カラザルニ至リ、勞費ヲ徒消スルコトヽナラントテ原案ニ贊成セリ。

斯クテ採決ニ入リ、第一條ハ委員ノ修正意見ニ決シ、「毎六日以内」トアルヲ、「毎四日以内一回」トスル今井喜八君ノ修正說ハ少數ニテ消滅シ、原案ニ決ス。次ニ第二條以下ニ對シテハ**宮川君**ヨリ、第十四條ニ「但燒棄ヲ命ズルコトアルベシ」トノ但書ヲ挿入スルノ說出デ、**高橋君**ハ、燒棄ヲ命ズルノ必要アル場合ハ尋常一樣ノ時ニアラズシテ惡疫流行ノ如キ特種ノ場合ナルベシ、之ヲ以テ一概ニ理由ナキ說トハ認ムル能ハザルモ、去リトテ、燒却場ノ設置ヲ請負人ノ負擔ト爲サン乎、第十九號議案ノ請負金額ハ、非常ニ之ヲ增額セザルベカラズ、若シ又本市自ラ之ヲ施設セン乎、其經費幾萬圓ヲ要スルヤヲ考慮セザルヲ得ズ、故ニ今日ハ兎ニ角本案ヲ可決シ、他日必要ノ場合ニ臨マバ、市參事會ヨリ發案シ、改メテ本會ノ協贊ヲ求ムルコト、ナスベシト述ベ、**杉原君**ハ、右ノ說ニハ贊成ナルモ、第十四條ニ但書ヲ加フルハ面白カラザルヲ以テ、第十五條中「汚物堆積シ」ノ下ヘ其他ノ二字ヲ加フル修正說ヲ提出スベシト述ベ、贊成者ア

リ、**高橋君**ハ、第十五條ニ「臨時處置セシムルコトアルベシ」トノ明文アルヲ以テ、宮川君ノ說ハ、全ク無用ナリト反對シ、**峰尾勝春君**モ亦、現下燒却ノ設備ナシトスレバ、如何ニ修正スルモ燒却ノ途ナカルベシ、況ヤ臨時處分法ハ第十五條ニ規定シタルヲヤトテ原案ヲ可トスル意見ヲ述べ、採決ニ移リ第十五條中「汚物堆積シ」ノ下ヘ、其他ノ二字ヲ加フベシトノ杉原君ノ說ハ、起立少數ニテ消滅シ、第二條以下全部原案ニ決定シタリ。

▽**汚物掃除請負入札ノ件**　同日ノ會議ニ於テ更ニ左記汚物掃除請負人指名入札ノ件ヲ上程シタリ。

第二十一號議案

汚物掃除請負人指名入札ノ件

本市汚物掃除規則第二條ニ依リ命ズル請負人ハ身元確實ナル者ヲ選定シ指名ヲ以テ入札セシメ又ハ隨意契約ヲ爲スコトヲ得

本案ニ關シ、委員長**長谷川泰君**ハ、委員會ニ於テハ、原案ヲ可決セシガ、併シ理事者ノ說明ニ依レバ、凡ソ全市ヲ六區位ニ區別シテ、請負ニ附シタシトノ希望ナルガ如キモ、委員ハ一區ニ付少クモ請負者二名トナシタキ希望ヲ有スト報告シ、**高橋庄之助君**ヨリ、身元ノ確實ナリヤ否ヤハ、何ヲ標準トスルヤトノ質問出デ、**浦田助役**ハ、直接國稅二十圓以上ヲ納ムル程度ノ者トナス見込ナリト答ヘ、**今井喜八君**ハ、掃除請負ニ就テハ、激シキ運動モアリトノコトナルガ、競爭入札請負ヲ可トスルナラバ、隨意契約ノ文字ヲ削除スベシトノ修正說ヲ稱ヘ、贊成者アリシモ採決ノ結果、起立少數ニテ消滅シ、原案ニ決定ス。

次ニ左ノ議案ヲ上程セリ。

第二十二號案

汚物取扱場購買ノ件

本市汚物掃除規則第十一條ニ依リ請負者ニ於テ建造セシ汚物取扱場ハ請負契約期限滿了ノ際時價ヲ以テ之ヲ市ニ購買スルモノトス

但シ請負契約ヲ繼續シタル場合ハ其最終ノ日ニ於テ之ヲ購買ス

右ニ關シ調査委員ノ原案ヲ相當ナリト認ムル意見報告書ハ滿場異議ナク、簡易法ヲ以テ可決セリ。

次ニ上程セラレタル第十九號案ノ東京市明治三十三年度歲出追加總計豫算ニ關スル調査委員ノ意見報告書ニ關シ、委員長**長谷川泰君**ヨリ、委員ハ總計ニ於テ、五千六百圓ヲ增額セリ、其理由ハ巡視員ノ數過少ナルガ爲メ、三十名ヲ增員シ、俸給ニ於テ四千參百貳拾圓、被服費ニ於テ八百四拾圓ヲ增加セル旨報告シ、贊成者アリ、**横山富次郎君**ハ、巡視員增加ノ理由ヲ質問シ、**長谷川君**ヨリ、魚鳥青物市場竝ニ裏店等ハ巡視ヲ嚴ニシ、清潔ヲ保タシメンガ爲メナリト辯明スルヤ、**横山君**更ニ兩廳ニ於テモ異議ナキヤヲ問ヒ、**浦田助役**ハ、公然照會シ來リタルニハアラザルモ、府知事ニ於テハ、可成多人數ヲ希望シツヽアリ、然モ七十五名ハ、一區五名ニ相當スルヲ以テ、此位ナラバ多分異議ナカルベシト思惟セラルト答ヘ、**今井君**ハ掃除費ヲ三分シテ其二ヲ存シ、而シテ其一ヲ減ゼントス、其ハ先刻述ブルガ如ク、六日ニ一回ノ掃除ヲ更メ、四日以內ニ一回必ラズ施行センコトヲ望ムモノナリトノ修正說ヲ述ベシカバ、**星君**ハ、原案ハ六日ニ一回ノ豫算ナレバ、度數ヲ增スニ從ヒ、經費ヲ增加セザルベカラザルハ理ノ當然ナリ、然ルニ今井君ハ、却テ經費ヲ減ゼントス、何カ誤解セシニハアラザルナキカ、兎ニ角本會ノ意見トシテ、此ノ豫算ヲ以テ三日ニ一回掃除セシムルモノトシ、其意ヲ以テ當事者ニ盡力ヲ求ムル方可ナリト述べ、**峰尾君**ハ星君ノ說タル行政者トシテハ尙可ナランモ、立法部ニ於テハ、左樣ノ決議ヲ爲スベキモノニアラズト信ズト述ブルヤ、**星君**ハ、要スルニ本會ノ

意見ハ斯ノ如シト記錄ノ上ニ存シ置ク迄ナリ、左スレバ理事者ニ於テモ、實施ニ臨ミ、必ズ注意スルコト、信ズト答ヘ、異議ナク星君ノ說ハ可決トナリ、汚物掃除ニ關スル豫算ハ、委員會修正通決定シタリ。

今左ニ豫算ノ內譯竝ニ修正ノ結果ヲ揭載スベシ。

	原案額	委員會修正額	市會決定額
第一款市役所費			
第一項俸給	七、七四〇・〇〇〇円	一二、九〇〇・〇〇〇円	委員會報告通
第二項雜給	六、四八〇・〇〇〇	一〇、八〇〇・〇〇〇	委員會報告通
第七款衞生費	一二、六〇〇・〇〇〇	二、一〇〇・〇〇〇	委員會報告通
第十一項汚物掃除費	七六、九二六・〇〇〇	七六、九二六・〇〇〇	委員會報告通
(一)掃除費	七六、九二六・〇〇〇	七六、九二六・〇〇〇	委員會報告通
合計	八四、六六六・〇〇〇	八九、八二六・〇〇〇	委員會報告通

▽掃除監督員ノ費用ニ關スル件　汚物掃除實施ニ伴フ、監督員ノ俸給及ビ被服費等支出ノ爲メ、第二十七號案ヲ以テ四千五百六拾七圓九拾錢ノ追加豫算ヲ、三月二十八日ノ會議ニ提出セルガ、同日ノ會議ニ於テハ、劈頭**渡瀨寅次郎君**ヨリ、汚物掃除ノ件ニ就テハ、前回ノ會議ニ於テ理事者ニ注意ヲ促シ、少クモ一區一名宛ノ請負者ヲ設ケラレ度旨、陳述シ置キタルニ、新聞紙ノ報告スル所ニ依レバ、隨意契約ヲ以テ、僅々三名ニ請負ヲ命ジタリト云フ、果シテ事實ナリトセバ、斯ル少數者ニ請負ヲ命ジタル理由如何ト質問シ、**松田市長**ハ、前回汚物掃除請負ノ件ニ關シ、注意ヲ與ヘラレタル事ハ承知シ居レリ、去リナガラ從來ノ請負人ハ、其數多キニ失シ、中ニハ資力充分ナラザルモノアリ、從テ掃除方法モ一定セズ、往々ニシテ塵芥ノ堆積ヲ見ルガ如キ不都合アルヲ以テ、新法實施ヲ機トシ、斷然舊慣ヲ改ムルコトヽナセリ、故ニ指名入札トスルトキハ、資產アリ信用アルモノヲ得ルニ難ク、掃除方法ヲ改良スルコトモ亦覺束ナキガ故ニ、市參事會ハ、審議ノ末三名ヲ拔擢シ、之ニ隨意契約ヲ以テ請負ヲ命ジタリト辯明セシカバ、**渡瀨君**ハ本會ノ議決ハ指名入札ニ附スルモ、將タ隨意契約ト爲スモ、市參事會ニ一任シタルモノナレバ、此點ニ就テ何等異議ヲ挾マズト雖モ、橫濱ノ如キ小市ニ於テスラ、掃除請負者ハ三名ナルニ、本市ノ如キ大都會ニシテ僅々三名ニ請負ヲ命ジタルハ如何ナル考ナルカ、前回ニモ述ベタルガ如ク、少クトモ一區一名即チ拾五名位ニ命ズルニアラザレバ、到底滿足ナル成績ヲ擧グル能ハザルベシト信ズ、余ハ後日ノ爲メ、特ニ之ヲ一言シ置クト述ブル所アリ、議長**中島又五郎君**ハ、市長ヨリ急施ヲ要スル趣ニテ請求ノ次第モアレバ、第二十七號ヲ直ニ議題ニ供スル旨ヲ告ゲ、議案朗讀後、**須藤時一郎君**ヨリ、本案但書中ニ、歲入ハ「特別稅ヲ以テ之ニ充ツ」トアリ、右ハ既ニ內務省ヨリ認許ヲ得タルモノナリヤト質問シ、**松田市長**ハ未ダ許可ノ指令ニ接セズト答ヘ、次イデ**浦田助役**ハ、前回議決ノ汚物掃除規則ト同ジク、來月一日ヨリ施行ヲ要スルニ付、至急議決アランコトヲ望ム、尙序ナガラ本案ノ要旨ヲ說明スベシ、東京府知事ハ去ル十六日府令第二十五號ヲ以テ、本年法律第五十一號汚物掃除法第五條ニ基キ、本市ノ巡視吏員定員及ビ月給額等ヲ示サレタリ、其明文ニ據レバ、監督長一人參拾五圓以上百圓以下、監督十五人一人拾五圓以上五拾圓以下、巡視百五十人一人九圓以上拾五圓以下トアリ、若シ一時ニ定員ヲ置キ難キ事情アルトキハ、警視總監東京府知事ノ認可ヲ受ケ、監督ハ五人以上、巡視ハ七十四人以上迄三ヶ年ヲ限リ許可ストアリ、故ニ先ヅ其範圍內ニ於テ施行スルノ考ヲ以テ、差當リ巡視ハ七十五人ヲ置キ、監督長及ビ監督ハ府令通リ設クルコトヽセリト述ベ、**城數馬君**ノ質問ニ對シテハ、**松田市長**ヨリ、特別稅ノ許可ヲ得ザルトキハ、豫備費ヨリ支出スル見込ナリト答辯シ、異議ナク原案ニ決定セリ。

▽**汚物掃除請負者ニ對スル非難**　汚物掃除法ハ、三月法律第三十一號ヲ以テ發布セラレタルヲ以テ、市會ノ議決ヲ經タル汚物掃除規則ハ、三月三十日市告示第二十八號ヲ以テ告示シ、四月一日ヨリ之ヲ實施シタルガ、五月一日ノ會議ニ於テ、劈頭**杉原榮三郎君**ハ、汚物掃除ノ現狀ニ就キ、當局者ニ注意ヲ促サントテ、實施一ケ月後ノ今日、未ダ一回ダモ掃除セザル所アリ、其不都合ナルハ素ヨリ論ナキ所ナルモ、時々人夫等ニ注意ヲ與ヘタルニ拘ラズ、更ニ之ヲ聞入レズ、暫ラクシテ掃除ニ來ル場所アルモ、塵芥取片付ノ亂暴ナル眞ニ言語ニ絶シ、其一半以上ハ之ヲ路上ニ撒布スルノミナラズ、數時間ノ長キニ亘リ、塵芥堆積セル車輛ヲ商家ノ店前ニ放置シ、恬トシテ顧ミザルガ如キ、其不取締ニシテ不親切ナル殆ンド言語ニ絶スルモノアリ、本員ハ監督、巡視等ガ、果シテ實際ニ職務ヲ執リツヽアルヤ否ヤニ就テ多大ノ疑問ヲ有ストテ監督勵行ヲ理事者ニ望ミ、**久我懋正君**ハ、注意位ニテ其功ヲ見ルコト不可能ナルベシ、優柔不斷、事ニ堪ユル能ハザル理事者ニ向テハ、最早望ヲ屬スル能ハズ、此際委員ヲ選定シテ充分ナル調査ヲ遂ゲ、理事者ヲシテ大ニ掃除ノ實ヲ擧ゲシメント欲ス、斯ノ如クニシテ、尙且ツ爲ス所ナクンバ、斷乎トシテ處決スル所アランノミトテ調査委員說ヲ主張シ、**黑田綱彥君**ハ、又麻布區ニ於ケル實例ヲ擧ゲ、且ツ掃除請負ノコトタル、第十九號案（汚物掃除費豫算）決議當時、渡瀨君ノ如キハ、出來得ル限リ請負人ノ數ヲ多カラシメ、少クトモ一區一名ト爲スベシトノ注意ヲスラ與ヘタルニ拘ラズ、理事者ハ僅々三名ニ之ヲ請負ハシメ、遂ニ今日ノ如キ失態ヲ演ズルニ至レリ、市長ハ將來如何ナル方法ヲ以テ掃除ノ實ヲ擧ゲントスルヤト明答ヲ求メタルニ對シ、**松田市長**ハ、此等ノ注意意見、質問等ニ對シ、先ヅ最初ヨリノ成行ヲ述ブベシトテ左ノ如ク說ケリ。

本市ハ他ノ小都市ト異ナリ、土地廣濶、戶口亦頗ル多キヲ以テ、塵芥掃除ヲ行フノ容易ナラザルハ、何人モ諒知スル所ナラン、回顧スレバ一昨年特別市制ノ廢止セラルヽヤ、余ハ偶々市參事會ニアリ、大ニ市行政ノ刷新ヲ計ルノ必要ヲ認メ、先ヅ第一ニ市內ノ淸潔ヲ期スベク、塵芥掃除ヲ市役所直轄事業ト爲スノ詮議ヲ爲セシガ、所要經費頗ル大ニシテ、遂ニ之ガ實施ヲ見ルニ至ラズシテ止メリ、然ルニ政府ハ第十四議會ニ於テ、突如トシテ汚物掃除法案ヲ提出シタリ、余ハ代議士タル資格ニ於テ、同法案ノ配付ヲ受ケ、直チニ之ヲ一讀シテ、其本市ニ施行スルノ甚ダ難キヲ痛感シ、衆議院ニ於テ左ノ如ク論難シタリ、曰ク汚物掃除法案可決ノ曉、地方ノ小都市ニ之ヲ施行スルハ敢テ難シトセザルベキモ、東京市ノ如キ三十餘萬ノ戶數ヲ有スル大都會ニ對シ、四月一日ヨリ實施セントスルハ不可能事タルヲ免レズ、何トナレバ東京市ノ塵芥掃除タル、祖先以來之ヲ世襲ノ事業トナスモノ數十名ニ達ス、故ニ今一朝ニシテ數百年ノ習慣ヲ打破シ、直チニ之ヲ市ノ事業ト爲サンニハ、相當ノ準備ヲ要シ、而モ其準備ニハ莫大ノ經費ト幾多ノ日子トヲ要ス、從テ來四月一日ヨリ之ヲ施行セントスルガ如キハ、事實上不可能ノ事ニ屬スト、然ルニ議會ハ遂ニ斯案ヲ可決シ、三月六日法律第三十一號ヲ以テ之ヲ發布シタリ、事茲ニ至レバ假令完全ニ實施スル能ハズト知リツヽモ、法律ハ遵守セザルベカラザルニ由リ、止ムヲ得ズ本會ノ決議ヲ求メタル末、三名ニ對シテ其掃除請負ヲ命ジタリ、一口ニ汚物掃除ト云ヘバ、甚ダ簡單ナルモ、其事柄ニ至リテハ眞ニ容易ノ業ニアラズ、殊ニ創始ノ際ナレバ、黑田君ノ云ハルヽ如キ不行屆モアリシナラン、既ニ本日モ直接請負人ヲ召喚シテ、嚴ニ之ヲ詰責シタリ、從來汚物掃除請負ヲ營業トスルモノ約七八十名ヲ算シタルガ、彼等ハ突然一法律ノ下ニ其業ヲ失ヒ新タニ同業者ノ出現シタルコトヽテ、其間面白カラザル感情ヲ抱クニ至リタルハ、所謂商賣敵ニシテ人情ノ免カルヽ能ハザル所ナリ、且ツ新請負業者ハ相當ノ資力ヲ有スト雖モ、舊營業者全體ニ下請負ヲ爲サシムルコト能ハズ、故ニ其內ヨリ自己ノ信用スルモノヲ選拔シ、之ニ下請ケヲ命ゼショリ、其選ニ漏レタルモノハ勢ヒ嫉視反目スルニ至リ、玆ニ種々ノ衝突ヲ生ジ、爲メニ掃除不行屆トナリ、遂ニ世ノ物議ヲ招キシノミ

ナラズ、四月一日ヨリ新法ノ實施ヲ見ルヤ、舊營業人ハ將來ノ見込ナキヲ見越シ、自然怠慢ニ流レ易ク、場所ニ依リテハ三月上旬頃ヨリ掃除ヲナサズ、故ニ新法實施當時ノ如キハ汚物ノ堆積甚ダシカリシヤニ聞及ベリ。加之四月一日後ハ、生憎ノ雨天續ニテ掃除上頗ル困難ヲ極メタリト云フ、併シナガラ理事者ハ事情ニ籍口シテ監督ヲ怠ルコトナク、請負業者モ亦自己ノ信用ヲ保持スル必要上、必死ノ努力ヲ盡シツヽアリ、殊ニ五、六、七、八ノ四ケ月間ハ、掃除上最モ困難ナル時期ニシテ、掃除其モノヽ効果最モ大ナル時期ナルヲ以テ此機ヲ逸セズ、一層監督ヲ勵行セント欲ス、且ツ又市内各自ノ塵芥容器ハ、概ネ不完全ナルガ故ニ、市費ヲ以テ調製シ、各戸ニ之ヲ貸與シナバ如何等ノ問題モ目下考案中ニ屬ス、要スルニ今日迄掃除ノ不充分ナリシハ、法律實施ノ期早キニ失シ、準備ノ完カラザリシト、新舊請負業者ノ感情、尚ホ融和スルニ至ラザリシ等其主因ヲ成セリ、是等ノ點ハ切ニ推察ヲ望ム。

以上ノ説明ニ對シ、**渡瀨寅次郎君**ハ、汚物掃除請負ニ關シ、本員ヨリ先キニ注意スル所アリシニ拘ラズ、理事者ハ毫モ之ヲ容レズ、僅々三名ニ請負ヲ命ジタル結果、今日ノ如キ大失能ヲ見ルニ至リタルハ、誠ニ遺憾ノ極ト云フベシ、唯今松田市長ハ、汚物掃除ト云ヘバ簡單ナルモ、事業其ノモノハ容易ニアラズト云ヘリ、是レ理事者ハ不容易ノ文字ニ籍口シ、最初ヨリ規定ノ如ク實施スル能ハザルコトヲ豫期シタルモノヽ如シ、宜ナルカナ汚物掃除規則ニハ「毎六日以内一回」ノ明文アルニ係ラズ、四月一日以來、一回ダモ掃除ニ來タラザル場所アリ、ソノ結果、滿都ノ塵芥到ル處ニ堆積シ、苦情百出ノ現狀ニ在リ、而モ尚之ガ處分ヲ勵行セザルハ、最初ヨリ實施難ヲ豫期スル所アリシ故ナルベシ、然レドモ今將ニ夏季ニ入ラントシ、各自攝生ニ留意スルノ時ナリ、況ンヤ大阪ノ黑死病益猖獗ヲ極メ、本市モ亦汲々トシテ之ガ豫防ニ從事シツヽアルニ於テオヤ、此際汚物ノ掃除ヲ怠ランカ、病毒其間隙ニ乘ジテ侵來シ、如何ナル慘狀ヲ呈スルヤモ未ダ知ルベカラズ、是レ本員ガ一日モ速カニ塵芥掃除ノ徹底ヲ切望シテ止マザル所以ナリトテ、毎日使役スル掃除人夫數竝赤坂區ノ配置數ヲ質問セリ。

之ニ對シ、**松田市長**ハ、至極尤ノ質問ナリ、此際ハ一刻モ猶豫セズ、臨機ノ處置ニ出デザルベカラズ、即チ如何ナル事情アルモ、堆積スル汚物ハ悉ク取片付ケシムルハ勿論ナレドモ、一々之ヲ河岸迄運搬スルハ容易ニアラザルヲ以テ、一定ノ場所ヲ限リテ汚物ヲ捨テシムル考ナリ、又人夫ノ配置數ハ、區ノ大小ニ依リ相違アルヲ以テ、取調ノ上答辯スベシト述ベ、**黑田君**ハ、松田市長ノ陳述ハ、本員ノ質問ニ對スル答辯ニアラズシテ、請負者ト下請負者トガ反目嫉視シツヽアル事情ヲ臚列セルニ過ギズ、市會ハ規則ノ上ヨリ、一私人間ノ事情ヲ理由トシテ、其失態ヲ看過スベキニアラズトテ過去ノ事柄ハ之ヲ責ムルモ詮ナケレド、將來尚契約ヲ履行セザルトキハ、理事者ハ之ヲ如何ニ處分セントスル乎、又監督巡視等ハ人夫ノ不足ニ苦ミツヽアリヤ、明白ナル答辯ヲ乞フ、此トキ**青木庄太郎君**ヨリ、理事者ニ對シ將來ハ何等假借スル所ナク充分鞭撻實行セシメンコトヲ希望シ、**野々山幸吉君**ハ、市長ノ言ニ依レバ汚物掃除法實施ノ際、舊營業者ノ怠慢ニ由リ、塵芥ノ堆積甚ダシキモノアリタリトノコトナルガ、芝區負擔ノ舊營業者ハ、去ル三月迄忠實ニ其業ニ當リ、極メテ清潔ヲ保チツヽアリシニ拘ラズ、四月一日新法實施以來、塵芥俄カニ山積シテ異臭紛々タル有樣トハナレリ、本員ハ現請負者ガ果シテ信用アリ資力アルモノナリヤ否ヤニ就キ疑ナキ能ハズ、殊ニ市吏員然タル輩ガ、喋々トシテ「掃除屋辯護」ノ語調ヲ弄スルニ至テハ、呆然自失セザルヲ得ズトテ、當局ニ注意ヲ望ミ、**村上耕一郎君**ハ下谷區ニ於ケル塵芥堆積ノ實況ヲ述ベ、此際處置スル所ナクンバ、他日一大紛擾ヲ釀スノ虞アリトテ市長ニ警告シタル後當日ノ議題ニ移レリ。

▽清潔法實施及掃除巡視員增員ノ件　傳染病豫防ノ爲メ、五月五日警視廳令第十七號及ビ東京府知事通達等ニ依